

令和5年度
仙台市
市民センター
事業概要

令和6年9月

仙台市教育委員会

目 次

I 市民センターの概要

1	仙台市市民センター（公民館）の歴史	1
2	市民センター概要	5
3	令和6年度 市民センターの体制	10
4	仙台市市民センターの施設理念と運営方針	11
5	市民センター事業体系	19

II 拠点館事業 令和5年度 市直営事業実績

1	地域づくり支援	21
2	広域規模の学習支援	35
3	人材育成	37
4	ジュニアリーダー	46
5	地域社会教育推進	49
6	学習情報提供	52
7	各区中央市民センター事業	53
8	仙台市公民館運営審議会	56

III 地区館事業 令和5年度 指定管理事業実績

青葉区

青葉区中央市民センター	61
柏木市民センター	63
北山市民センター	65
福沢市民センター	67
旭ヶ丘市民センター	69
三本松市民センター	71
片平市民センター	73
水の森市民センター	75
貝ヶ森市民センター	77
中山市民センター	79
折立市民センター	81
木町通市民センター	83
広瀬市民センター	85
宮城西市民センター	87
大沢市民センター	89
落合市民センター	91
吉成市民センター	93

宮城野区

宮城野区中央市民センター	95
生涯学習支援センター	97
高砂市民センター	98
岩切市民センター	100
鶴ヶ谷市民センター	102
榴ヶ岡市民センター	104
東部市民センター	106
幸町市民センター	108
田子市民センター	110
福室市民センター	112

若林区

若林区中央市民センター	1 1 4
七郷市民センター	1 1 6
荒町市民センター	1 1 8
六郷市民センター	1 2 0
若林市民センター	1 2 2
沖野市民センター	1 2 4

太白区

太白区中央市民センター	1 2 6
生出市民センター	1 2 8
中田市民センター	1 3 0
西多賀市民センター	1 3 2
八本松市民センター	1 3 4
八木山市民センター	1 3 6
山田市民センター	1 3 8
茂庭台市民センター	1 4 0
東中田市民センター	1 4 2
柳生市民センター	1 4 4
富沢市民センター	1 4 6
秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター	1 4 8

泉区

泉区中央市民センター	1 5 0
根白石市民センター	1 5 2
南光台市民センター	1 5 4
黒松市民センター	1 5 6
将監市民センター	1 5 8
加茂市民センター	1 6 0
高森市民センター	1 6 2
松陵市民センター	1 6 4
寺岡市民センター	1 6 6
長命ヶ丘市民センター	1 6 8
松森市民センター	1 7 0
桂市民センター	1 7 2
南中山市民センター	1 7 4

IV 資料

1 市民センターの予算	1 7 7
2 令和5年度 市民センター職員数	1 7 8
3 令和5年度 主催講座の事業別実施状況	1 8 0
4 主催事業参加者数推移	1 8 4
5 市民センター利用者数推移	1 8 6
6 仙台市市民センター条例・施行規則	1 8 8

令和5年度仙台市市民センター事業概要は
市民センターのホームページでもご覧いただけます

I 市民センターの概要

1 仙台市市民センター（公民館）の歴史

昭和 21 年、在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」が設立された後、昭和 24 年の社会教育法施行に合わせた「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂（現市民会館）内に仙台市公民館が誕生した。

以後、館数を増やしながら、社会教育施設として、市民の学習意欲に応える種々の事業を実施するとともに、市民が自主的に学習活動を行う場の提供を行っている。

平成元年には、教育委員会所管の公民館と市民局所管の地区市民センターを相互に併設して名称を「市民センター・公民館」とし、政令指定都市移行に伴って各区に拠点館を置いた。さらに、翌平成 2 年度に、「仙台市市民センター条例」を新たに制定し、施設名称を「市民センター」に統一した。

平成 3 年度、財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託し、平成 13 年度には、市民センターの業務再編により市職員を各区拠点館に集中配置して、地区館の生涯学習事業を財団法人仙台ひと・まち交流財団（平成 13 年度に地域振興公社から名称変更）に委託した。平成 16 年度からは、指定管理者制度導入に伴い、同財団（平成 23 年 4 月に公益財団法人化）を指定管理者とし、以降、指定を更新・継続して現在に至っている。

平成 23 年 5 月 1 日には、地域政策と教育行政の円滑な推進を図るため、教育局の第二種公所であった各区拠点館を区役所組織に移管し、各区の第二種公所として位置付けた。

平成 24 年 8 月 28 日に宮城野区中央市民センターが新設され、市民センターは、概ね中学校区毎に 60 館設置されている。

平成 26 年度から、中央市民センターの人材育成機能等を強化し、本市の生涯学習支援体制を充実するとともに、名称を生涯学習支援センターに変更した。

年 月	摘 要	館 数
昭和 21 年 10 月	在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」設立	
昭和 24 年 6 月	「社会教育法」制定	
昭和 24 年 8 月	「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂（現市民会館）内に「仙台市公民館」誕生	1 館
昭和 25 年 12 月	仙台市教育委員会発足 仙台市公民館運営審議会設置	
昭和 27 年 6 月	「仙台市社会教育委員の設置に関する条例」制定	
昭和 31 年 4 月	生出村が仙台市に合併したことに伴い、「生出村公民館」を「生出分館」に改称	1 館 1 分館
昭和 42 年 4 月	「生出分館」が移転し、「生出公民館」に名称を変更	2 館
昭和 42 年 10 月	「仙台市公民館条例」を新たに制定（旧条例は廃止）、貸室の有料化 「長町公民館」開館	3 館
昭和 43 年 11 月	「高砂公民館」開館	4 館
昭和 44 年 10 月	「中田公民館」開館	5 館

年 月	摘 要	館 数
昭和 46 年 8 月	公会堂解体・市民会館建設に伴い、「仙台市公民館」が東二番丁の「市民教養センター」に移転	
昭和 48 年 3 月	「仙台市公民館」を「中央公民館」に改称	
昭和 56 年 12 月	「岩切公民館」開館	6 館
昭和 58 年 3 月	「中央公民館」を現在地（仙台駅東口「パルシティ仙台」内）に新築移転し、宮城野通図書館（現・榴岡図書館）と共に開館	
昭和 58 年 4 月	「七郷公民館」開館	7 館
昭和 61 年 3 月	東二番丁小学校改築に伴う「市民教養センター」の廃止	
昭和 61 年 7 月	「中央公民館柏木分館」開館	7 館 1 分館
昭和 62 年 11 月	宮城町合併に伴い、公民館 9 館、分館 1 館となる (※) 宮城・宮城西	9 館 1 分館
昭和 63 年 1 月	「中央公民館一番町分館」開館	9 館 2 分館
昭和 63 年 3 月	秋保町、泉市の合併に伴い、公民館 18 館、分館 2 館となる (※) 泉・南光台・加茂・将監・根白石・秋保・馬場・湯元・八乙女	18 館 2 分館
平成元年 4 月	教育委員会所管の「公民館（18 館 2 分館）」と市民局所管の「地区市民センター（15 館）」が相互に併設され、新たに開館した 3 館を含めて施設の名称を「〇〇市民センター・公民館」の二枚看板とする 政令指定都市移行に伴い 5 区 38 館制をとり、各区に拠点館を設置 青 葉 区：「一番町公民館」 宮城野区：「中央公民館」 若 林 区：「七郷公民館」 太 白 区：「中田公民館」 泉 区：「泉公民館」 ・名称変更：柏木・一番町（分館から公民館へ名称変更） ・新 設：片平・東中田・高森 ・市民会館の一部として開館していたものに併設：榴ヶ岡 ・市民センターに併設 鶴ヶ谷・東部・北山・福沢・旭ヶ丘・三本松・荒町・ 南小泉・六郷・西多賀・八本松・八木山・山田・茂庭台	38 館
平成 2 年 3 月	「仙台市市民センター条例」を新たに制定。	
平成 2 年 4 月	名称を「市民センター」に統一し、施設を教育委員会が所管する公民館として位置づけ、施設の使用許可を区長に委任、施設管理の総括を市民局、維持管理を区長に補助執行させる 「松陵市民センター」開館	39 館
平成 2 年 5 月	「大沢市民センター」開館	40 館
平成 2 年 9 月	「水の森市民センター」開館	41 館

年 月	摘 要	館数
平成 3 年 4 月	財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託、「若林市民センター」「沖野市民センター」「寺岡市民センター」開館	44 館
平成 3 年 6 月	「宮城市民センター」の名称を変更し、広瀬文化センター内に「広瀬市民センター」が開館	
平成 5 年 4 月	「幸町市民センター」「貝ヶ森市民センター」「長命ヶ丘市民センター」開館	47 館
平成 5 年 9 月	「南小泉市民センター」の名称を変更し、若林区文化センター内に若林区の拠点館「若林区中央市民センター」として開館	
平成 6 年 4 月	「落合市民センター」開館	48 館
平成 6 年 11 月	「せんだいLLプラン 21 仙台市生涯学習基本構想」策定	
平成 7 年 4 月	「中山市民センター」開館	49 館
平成 7 年 5 月	「折立市民センター」開館	50 館
平成 8 年 4 月	「吉成市民センター」開館	51 館
平成 9 年 4 月	「柳生市民センター」開館	52 館
平成 11 年 6 月	「長町市民センター」の名称を変更し、太白区文化センター内に太白区の拠点館「太白区中央市民センター」として開館	52 館
平成 11 年 8 月	「田子市民センター」開館	53 館
平成 12 年 1 月	「松森市民センター」開館	54 館
平成 13 年 1 月	「仙台まなびの杜（仙台市教育ビジョン）」策定（平成 13 年～22 年）	
平成 13 年 4 月	市民センターの業務再編により、市職員を各区拠点館に集中配置、地区館の生涯学習事業を「仙台ひと・まち交流財団」に委託	
平成 13 年 9 月	「市民センター運営方針」を定める	
平成 13 年 11 月	「富沢市民センター」開館	55 館
平成 13 年 12 月	「桂市民センター」開館	56 館
平成 15 年 3 月	「福室市民センター」開館	57 館
平成 15 年 11 月	仙台市市民利用施設予約システムの導入 「南中山市民センター」開館	58 館
平成 16 年 4 月	指定管理者制度導入に伴い、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（3 年間） 「木町通市民センター」開館	59 館
平成 19 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 19 年 10 月	仙台市公民館運営審議会より「市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて」（答申）を受ける。	

年 月	摘 要	館 数
平成 20 年 12 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」策定	
平成 21 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 23 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間） ※平成 23 年 4 月 1 日より「財団法人仙台ひと・まち交流財団」から「公益財団法人仙台ひと・まち交流財団」に変更	
平成 23 年 5 月	各区中央市民センターを教育局から各区役所区民部の公所として組織変更し、業務を各区長の補助執行とする。 宮城野区の拠点館機能を教育局中央市民センターから分離し、宮城野区中央市民センターが新設されるまでの間、宮城野区区民部に「市民センター事業推進室」を設置	
平成 24 年 8 月	「宮城野区中央市民センター」開館 宮城野区拠点館である「宮城野区市民センター事業推進室」の名称を「宮城野区中央市民センター」に変更 「榴ヶ岡市民センター」を廃止 「榴ヶ岡市民センター榴岡公園軽体育館」の名称を「榴ヶ岡市民センター」に変更	60 館
平成 25 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
平成 26 年 4 月	中央市民センターの人材育成機能等を強化し、生涯学習支援体制の充実を図るとともに、名称を生涯学習支援センターに変更 「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定	
平成 30 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
令和元年 10 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定	
令和 5 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	

2 市民センター概要

(令和6年8月1日現在)

(1) 市民センターの概要

市民センターは概ね中学校区毎に設置されており、その総数は現在 60 館となっている。
市民センターの種類は次のとおりである。

① 生涯学習支援センター

本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全ての市民センターを統括する市民センターで、1 館設置されている。なお、地区市民センター機能も併設されている。

② 区中央市民センター

その所在する区の区域内を主たる対象区域として事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援する市民センターで、各区に 1 館ずつ、計 5 館設置されている。なお、各区とも地区市民センター機能が併設されている。

③ 地区市民センター

生涯学習支援センター及び区中央市民センター以外の市民センターで、54 館設置されている。

(2) 市民センターの施設概要

① 生涯学習支援センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
生涯学習 支援	宮城野区 榴岡四丁目 1 番 8 号	295-0403 295-0810	昭和 58 年 2 月 28 日	3,367.52 4,064.32	会議室、セミナー室(4)、和室、音楽室(2)、創作室(2)、体育館、トレーニング室、ミーティング室	図書館

② 区中央市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
青葉区 中央	青葉区 一番町二丁目 1 番 4 号	223-2516 261-3251	昭和 62 年 12 月 15 日	7,148.85 2,311.55	ホール、小ホール(2)、会議室(5)、和室、調理実習室、音楽室、市民活動室	小学校・コミュニティ防災センター
宮城野区 中央	宮城野区 五輪二丁目 12 番 70 号	791-7015 295-2337	平成 24 年 7 月 13 日	12,626.18 3,075.46	会議室(4)、和室(2)、調理実習室、音楽室、創作室、体育館、市民活動室、親子室、娯楽室、資料室	文化センター・児童館・図書館・情報センター
若林区 中央	若林区 南小泉一丁目 1 番 1 号	282-1173 282-1180	平成 5 年 3 月	11,842.43 515.21	会議室(2)、和室(3)、セミナー室(2)、市民活動室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター・図書館・情報センター
(若林区 中央 別棟)	若林区 保春院前丁 3 番地の 1		平成 29 年 6 月 30 日	3,291.14 1,507.98	会議室(2)、和室、調理実習室、創作室、ホール	児童館・子育てふれあいプラザ・社会福祉協議会若林事務所

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
太白区 中央	太白区 長町五丁目 3番2号	304-2741 304-2526	平成 11 年 3 月 31 日	9,684.57 2,311.68	会議室(5)、和室(2)、調理実 習室、音楽室、創作室、体 育館	文化センター・ 図書館・児童 館・情報センタ ー
泉区 中央	泉区 市名坂字東裏 53 番地の 1	372-8101 372-2447	平成 15 年 11 月 14 日	3,035.78 2,138.54	会議室(3)、和室(2)、調理実 習室、研修室、音楽室、創 作室、親子室、娯楽室、市 民活動室、ホール、泉・ふる さと生活ギャラリー	コミュニティ防 災センター

③ 地区市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
柏木	青葉区 柏木三丁目 3 番 1 号	233-8066 233-8484	平成 10 年 4 月 1 日	2,822.73 1,315.20	会議室、和室(2)、ホール、 市民活動室、資料室	コミュニティ防 災センター
北山	青葉区 新坂町 8 番 4 号	272-1020 272-1036	平成 22 年 11 月 16 日	2,071.54 1,406.43	会議室(3)、和室(4)、調理実 習室、娯楽室、トレーニング 室、親子室、資料室、図書 室	
福沢	青葉区 福沢町 9 番 9 号	223-9095 213-1647	昭和 59 年 6 月 9 日	3,205.75 1,998.46	会議室(3)、和室(3)、視聴覚 室、調理実習室、遊戯室、 図書室、娯楽室、体育館	コミュニティ防 災センター
旭ヶ丘	青葉区 旭ヶ丘三丁目 25 番 15 号	271-4729 271-7984	昭和 60 年 6 月 15 日	3,128.66 2,044.91	展示ホール(2)、ホール(2)、 会議室(3)	旭ヶ丘バス乗 継ターミナル
三本松	青葉区 堤町三丁目 23 番 1 号	274-3955 234-5355	昭和 62 年 3 月 31 日	4,861.02 1,499.07	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、体育館、遊戯 室、図書室	コミュニティ防 災センター
片平	青葉区 米ヶ袋一丁目 1 番 35 号	227-5333 268-0234	平成元年 3 月 15 日	2,500.03 1,850.75	会議室(2)、会議室兼調理実 習室、和室(3)、体育館、娯 楽室、広瀬川自然展示コー ナー	児童館・コミュニ ティ防災センタ ー
水の森	青葉区 水の森四丁目 1 番 1 号	277-2711 277-8863	平成 2 年 8 月 30 日	11,317.60 1,651.23	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(3)、体育館、親子 室	児童館・コミュニ ティ防災センタ ー・温水プール
貝ヶ森	青葉区 貝ヶ森一丁目 4 番 6 号	279-6320 279-6704	平成 5 年 4 月 26 日	3,669.11 1,405.84	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、資料室、親子 室、ホール	児童館
中山	青葉区 中山三丁目 13 番 1 号	279-9216 719-2150	平成 7 年 3 月 31 日	4,047.48 1,387.31	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、資料室、親子 室、ホール、市民活動室	児童館・老人憩 の家・コミュニ ティ防災センタ ー
折立	青葉区 折立三丁目 20 番 1 号	226-1226 226-2660	平成 7 年 5 月 30 日	2,843.36 1,623.89	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、資料室	児童館・コミュニ ティ防災センタ ー
木町通	青葉区 木町通一丁目 7 番 36 号	711-2561 212-4330	平成 16 年 2 月 27 日	10,480.00 2,892.34	会議室(2)、和室(2)、調理実 習室、娯楽室、親子室、市 民活動室、ホール	小学校・児童 館・コミュニ ティ防災センタ ー

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
広瀬	青葉区 下愛子字 観音堂 5 番地	392-8405 392-8410	平成 3 年 3 月 31 日	6,746.77 786.54	会議室、セミナー室(2)、和室(2)、創作室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター・図書館
宮城西	青葉区 熊ヶ根字石積 47 番地	393-2829 393-2491	平成 24 年 5 月 18 日	3,274.47 1,484.56	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	コミュニティ防災センター
大沢	青葉区 芋沢字要害 65 番地	394-6891 394-6439	平成 2 年 5 月 24 日	6,318.73 1,124.14	会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館	児童館・コミュニティ防災センター
落合	青葉区 落合二丁目 15 番 15 号	392-7301 392-6737	平成 6 年 3 月 31 日	4,078.96 1,248.45	会議室兼調理実習室、和室(2)、娯楽室、図書室、親子室、ホール	コミュニティ防災センター
吉成	青葉区 国見ヶ丘二丁目 2 番地の 1	279-2033 279-9431	平成 8 年 4 月 26 日	3,300.76 1,412.34	会議室、会議室兼調理実習室、和室、親子室、ホール、資料室	児童館・コミュニティ防災センター
高砂	宮城野区 高砂一丁目 24 番地の 9	258-1010 259-7577	平成 6 年 3 月 30 日	10,000.02 1,736.16	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、親子室、ホール、資料室	児童館・コミュニティ防災センター・老人福祉センター・地域包括支援センター・保健センター
岩切	宮城野区 岩切字三所南 88 番地の 2	255-7728 255-2075	昭和 56 年 12 月 15 日	4,789.09 2,060.91	講義室、研修室(2)、和室(2)、調理実習室、視聴覚室、創作室、体育館、図書室、交流室、親子室、資料室	保健センター・老人憩の家・コミュニティ防災センター・証明発行センター
鶴ヶ谷	宮城野区 鶴ヶ谷二丁目 1 番地の 7	251-1562 251-1564	平成 28 年 2 月 19 日	3,291.14 1,763.95	会議室(3)、和室、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室、図書室	コミュニティ防災センター
榴ヶ岡	宮城野区 五輪一丁目 3 番 1 号	299-5666 299-5690	平成元年 4 月 26 日	963.40 1,005.33	和室(2)、ミーティングルーム(2)、休憩室、体育館	
東部	宮城野区 平成一丁目 3 番 27 号	237-0092 235-7634	昭和 58 年 4 月 8 日	1,795.57 1,269.64	会議室、和室(3)、調理実習室、娯楽室、体育館	児童館
幸町	宮城野区 幸町三丁目 13 番 13 号	291-8651 291-8561	平成 5 年 3 月 31 日	3,838.08 1,575.40	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、親子室、資料室、ホール	児童館・コミュニティ防災センター
田子	宮城野区 田子二丁目 4 番 25 号	254-2721 254-2722	平成 11 年 8 月 5 日	2,877.76 1,709.53	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室	児童館・コミュニティ防災センター
福室	宮城野区 福室五丁目 9 番 36 号	786-3540 388-6320	平成 15 年 1 月 10 日	4,747.25 1,956.70	ホール、会議室(2)、和室(2)、調理実習室、市民活動室、娯楽室、親子室	児童館・コミュニティ防災センター
七郷	若林区 荒井三丁目 7 番地の 2	288-8700 288-2340	昭和 58 年 3 月 7 日	5,674.00 1,986.39	会議室、研修室(2)、和室(3)、調理実習室、視聴覚室、創作室、体育館、市民活動室	児童館・保健センター・コミュニティ防災センター・証明発行センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
荒町	若林区 荒町 86 番地の 2	266-3790 266-5436	平成 21 年 11 月 27 日	1,430.29 2,234.78	会議室(3)、和室(2)、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室	児童館・コミュニティ防災センター
六郷	若林区 今泉一丁目 3 番 19 号	289-5127 289-6359	昭和 56 年 12 月 15 日	4,354.80 1,744.15	会議室(3)、和室(3)、調理実習室、娯楽室、市民活動室、体育館	児童館・保健センター・証明発行センター
若林	若林区 若林三丁目 15 番 20 号	282-4541 282-2637	平成 3 年 4 月 29 日	3,048.00 1,453.22	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、資料室、親子室、ホール	児童館・コミュニティ防災センター
沖野	若林区 沖野七丁目 34 番 43 号	282-4571 285-4681	平成 3 年 3 月 30 日	6,151.42 1,468.25	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、親子室、資料室、ホール	児童館・老人福祉センター・デイサービスセンター
生出	太白区 茂庭二丁目 8 番地の 1	281-2040 281-4319	昭和 55 年 3 月 31 日	4,253.24 955.78	講義室(2)、和室、図書室、調理実習室、体育館	診療所・保健センター・証明発行センター
中田	太白区 中田四丁目 1 番 5 号	241-1459 242-2535	昭和 56 年 3 月 20 日	3,217.97 1,801.97	講義室、研修室(2)、和室(2)、調理実習室、視聴覚室、図書室、体育館	コミュニティ防災センター・証明発行センター・図書館サービスポット
西多賀	太白区 西多賀三丁目 6 番 8 号	244-6721 244-0524	平成 30 年 10 月 15 日	2,940.37 1,530.61	会議室(3)、会議室兼調理実習室、和室、ホール、市民活動室	児童館
八本松	太白区 八本松二丁目 4 番 20 号	246-2426 246-9023	昭和 60 年 5 月 12 日	3,606.73 1,495.44	会議室兼調理実習室、会議室、和室(2)、体育館、市民活動室	児童館・太白図書館分室・コミュニティ防災センター
八木山	太白区 八木山本町 一丁目 43 番地	228-1190 228-1689	昭和 62 年 2 月 10 日	4,005.53 2,599.94	会議室、会議室兼調理実習室、研修室(3)、和室(2)、体育館、遊戯室、娯楽室、図書室、市民活動室	コミュニティ防災センター・適応指導教室「杜のひろば・八木山」
山田	太白区 山田北前町 13 番 1 号	244-0213 244-1843	昭和 62 年 4 月 17 日	4,434.93 1,496.88	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、遊戯室、娯楽室、図書室	コミュニティ防災センター
茂庭台	太白区 茂庭台四丁目 1 番 10 号	281-3293 281-4349	昭和 63 年 3 月 31 日	9,803.90 1,346.59	会議室、和室(2)、会議室兼調理実習室、娯楽室、体育館	児童館・コミュニティ防災センター
東中田	太白区 四郎丸字吹上 51 番地	242-1185 242-7053	平成元年 3 月 5 日	5,516.21 1,429.19	会議室、和室(2)、娯楽室、体育館、会議室兼調理実習室	児童館・保健センター・コミュニティ防災センター
柳生	太白区 柳生七丁目 20 番地の 7	306-6750 306-7081	平成 9 年 3 月 31 日	2,879.16 1,454.61	会議室、和室(2)、ホール、資料室、親子室、会議室兼調理実習室	児童館・コミュニティ防災センター
富沢	太白区 富沢南一丁目 18 番地の 10	244-3977 307-5101	平成 13 年 11 月 22 日	4,068.46 1,839.30	会議室(2)、和室(2)、ホール、調理実習室、娯楽室、親子室、図書室、市民活動室	コミュニティ防災センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(m ²)	主要施設	併設施設
秋保	太白区 秋保町長袋 字大原 44 番地の 1	399-2316 399-2394	平成 25 年 3 月 29 日	5,281.64 1,643.03	研修室、図書室、和室(2)、 会議室(2)、ホール、調理実 習室、親子室、市民活動 室、資料室	
馬場	太白区 秋保町馬場 字竹林 45 番地の 1	399-2745 -	昭和 52 年 3 月 31 日	3,185.42 734.20	会議室、調理実習室、体育 館、図書室兼談話室	
湯元	太白区秋保 町湯向 2 番地 の 20	398-2720 398-2789	昭和 54 年 3 月 31 日	1,846.47 844.98	集会室、会議室、視聴覚 室、調理実習室、和室	
根白石	泉区 根白石字 杉下前 24 番地	379-2108 376-5769	昭和 63 年 3 月 31 日	5,839.66 1,911.53	会議室(2)、ホール、工作 室、和室、調理実習室	泉図書館分 室、証明発行セ ンター
南光台	泉区 南光台七丁目 1 番 30 号	253-1023 253-1024	平成 27 年 2 月 13 日	2,829.02 1,750.15	会議室(4)、和室、調理実習 室、ホール、親子室、市民活 動室	泉図書館分 室、コミュニティ 防災センター・ 証明発行センタ ー
黒松	泉区 黒松一丁目 33 番 40 号	234-5346 219-2038	平成 4 年 10 月 20 日	5,264.63 1,491.48	ホール、研修室(2)、多目的 室、和室、調理実習室	泉図書館分室
将監	泉区 将監八丁目 1 番 18 号	372-0923 374-8704	令和 4 年 3 月 28 日	4,859.12 1,648.41	和室、研修室(3)、調理実習 室、ホール、市民活動室、市 民交流スペース	老人憩の家、 児童センター
加茂	泉区 加茂四丁目 2 番地	378-2970 377-4565	昭和 58 年 4 月 1 日	4,471.52 2,127.06	会議室、和室、研修室(2)、 調理実習室、体育館、談話 室、市民活動室	泉図書館分室
高森	泉区 高森六丁目 1 番地の 2	378-9950 378-9969	平成元年 3 月 20 日	3,000.12 1,499.93	研修室(3)、和室、調理実習 室、音楽室、工作室、ホー ル、市民活動室	泉図書館分室
松陵	泉区 松陵五丁目 20 番地の 2	375-8101 375-6101	平成 2 年 3 月 10 日	2,806.93 1,498.49	研修室(3)、工作室、調理実 習室、和室、託児室、ホール	泉図書館分室
寺岡	泉区 寺岡二丁目 14 番地の 4	378-4490 378-4534	平成 3 年 3 月 10 日	2,665.42 1,481.22	研修室(3)、和室、調理実習 室、トレーニング室、ホー ル、市民活動室	泉図書館分室
長命ヶ丘	泉区 長命ヶ丘 二丁目 14 番地の 15	377-3504 377-3508	平成 5 年 4 月 27 日	2,885.07 1,496.35	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、娯楽室、親子 室、ホール	泉図書館分室
松森	泉区 松森字城前 9 番地の 2	776-9510 776-9512	平成 11 年 12 月 10 日	4,000.50 1,870.33	会議室、和室(2)、調理実習 室、工作室、ホール、娯楽 室、図書室、親子室、市民 活動室	コミュニティ防 災センター
桂	泉区 桂三丁目 19 番地の 1	375-0550 771-5931	平成 13 年 12 月 4 日	7,759.48 2,268.05	会議室(2)、和室(2)、創作 室、調理実習室、娯楽室、 親子室、市民活動室、ホー ル	児童センター・ コミュニティ防 災センター
南中山	泉区 南中山二丁目 24 番地の 12	379-4780 348-4340	平成 15 年 11 月 13 日	5,718.56 1,579.66	会議室(2)、和室(3)、調理実 習室、研修室、親子室、市 民活動室、図書室、体育館	コミュニティ防 災センター

3 令和6年度 市民センターの体制

(令和6年4月1日現在)

市拠点館

生涯学習支援センター

- 市の全域を主たる対象区域としてその事業を行う。
- 全ての市民センターを統括する。

区拠点館

青葉区中央
市民センター

宮城野区中央
市民センター

若林区中央
市民センター

太白区中央
市民センター

泉区中央
市民センター

- 所在する区の区域内を主たる対象区域としてその事業を行う。
- 区域内に所在する地区市民センターを支援する。

地区館

〔青葉区〕

柏木市民センター
北山市民センター
福沢市民センター
旭ヶ丘市民センター
三本松市民センター
片平市民センター
水の森市民センター
貝ヶ森市民センター
中山市民センター
折立市民センター
木町通市民センター
広瀬市民センター
宮城西市民センター
大沢市民センター
落合市民センター
吉成市民センター

〔宮城野区〕

高砂市民センター
岩切市民センター
鶴ヶ谷市民センター
榴ヶ岡市民センター
東部市民センター
幸町市民センター
田子市民センター
福室市民センター

〔若林区〕

七郷市民センター
荒町市民センター
六郷市民センター
若林市民センター
沖野市民センター

〔太白区〕

生出市民センター
中田市民センター
西多賀市民センター
八本松市民センター
八木山市民センター
山田市民センター
茂庭台市民センター
東中田市民センター
柳生市民センター
富沢市民センター
秋保市民センター
馬場市民センター
湯元市民センター

〔泉区〕

根白石市民センター
南光台市民センター
黒松市民センター
将監市民センター
加茂市民センター
高森市民センター
松陵市民センター
寺岡市民センター
長命ヶ丘市民センター
松森市民センター
桂市民センター
南中山市民センター

※仙台市内の市民センター 60 館（青葉区 17 館、宮城野区 10 館、若林区 6 館、太白区 14 館、泉区 13 館）

※市拠点館及び区拠点館については、地区館としての機能も有している。

※地区館の業務（生涯学習事業、施設の使用許可等）は、指定管理者（公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団）が行っている。

4 仙台市市民センターの施設理念と運営方針

(令和元年 10 月改定)

はじめに

仙台市公民館運営審議会からの答申を基に、平成 20 年 12 月に「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を策定し、5 年経過した平成 25 年度に見直しを行い、平成 23 年 3 月の東日本大震災、同年 5 月の社会教育施設としての役割を堅持した上での区中央市民センターの区役所移管、平成 26 年度の生涯学習支援センターとしての機能強化等を踏まえ、平成 26 年 4 月に改定を行ったところである。

改定以降、本市では、教育の振興に関する施策の大綱（平成 27 年 12 月）等が、そして、本市教育委員会では第 2 期仙台市教育振興基本計画（平成 29 年 1 月）等がそれぞれ策定されたところであり、市民センターにおいては、これら計画等を踏まえた事業の企画・実施等が行われているところである。

また、仙台市震災復興計画（平成 23～27 年度）の計画期間が終了する中、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例（平成 27 年 7 月施行）、仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例（平成 28 年 4 月施行）、仙台市いじめの防止等に関する条例（平成 31 年 4 月施行）等の制定、平成 31 年 4 月の区役所まちづくり推進部の新設など、市民センターをとりまく情勢が変化しているところである。

こうした中、改定後 5 年を目途とした見直しを行うため、平成 29 年 11 月に仙台市公民館運営審議会に「「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し（第二次）のあり方について」諮問を行った。

審議会においては、市拠点館である教育局生涯学習支援センターの「学びのまち・仙台市民カレッジ事業」及び「学びを支える人材育成推進事業」の事業評価を行い、答申検討の一助にいただきながら、「拠点館の役割の再検討及び記載の明確化」、「『震災を踏まえた市民センターの役割と取組』及び『市民センターの施設管理の運営方針』の記載事項の内容・構成の再検討」を中心に協議いただいた。

事業視察も含め、合計 13 回、約 1 年半にわたる審議会の成果として、令和元年 7 月に『仙台市市民センターの施設理念と運営方針』の見直し（第二次）のあり方について」の答申がまとめられ、見直しに係る意見や SDG s とのつながりを意識すること等の提言をいただいた。

上記答申における意見等を受け、併せてこの 5 年間の社会情勢、教育環境の変化を踏まえ、このたび、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定するものである。

※SDG s（2030 年に向けて世界が合意した 17 の「持続可能な開発目標」のうち右記の 3 目標を表記した。



仙台市市民センターの施設理念



市民センターとは、次の3つの機能が一体となって運営される社会教育施設である。

- 1 市民の学びのプロセスに沿った学習支援のための諸機能を有し、あらゆるライフステージに応じた市民一人ひとりの学びを総合的に支援する、市民との協働による市民本位の生涯学習の支援拠点としての機能
- 2 子どもから高齢者までのあらゆる市民が集い交流し、多様な市民による様々な活動が主体的に行えるよう支援する場や機能を持った市民のための市民が主役の交流拠点としての機能
- 3 学びを通して地域の人と人をつなぎ、住みよいまちづくりにつながる人づくりを行う地域づくりの拠点としての機能

仙台市市民センター事業の運営方針



1. 市民センター事業の目的

1) 市民センター全体の事業目的

市民センターは、それぞれの地域での市民ニーズに応じた多様な事業を実施することにより、市民一人ひとりの主体的な生涯学習活動が充実し、その活動をきっかけとして仲間が集い、交流が生まれ、その相互の交流を通して住みよい地域づくりにつながる自治活動が活発になるなど、それぞれの地域社会のより良い形成に寄与する“人づくり”を目指す。

【重点方針】

- ・全ての市民センター事業は、この目的に向かって計画性を持って実施する。
- ・実際の事業の企画・実施にあたり、職員は「きっかけ」「仕掛け」「働きかけ」といった社会教育的関わりを常に意識し、市民の主体的な「学び」を支え、市民と協働して事業に取り組む。
- ・職員はこのような目的が達成されているかどうかを自己点検・評価するとともに、市民・地域住民による評価を受け、事業の改善に絶えず努める。
- ・東日本大震災での経験を踏まえるとともに、震災からの復興を見据え、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図る。

2) 拠点館事業の主要な目的

拠点館事業の主要な目的は、本市における、あらゆる市民のライフステージごとの学習ニーズに対応した、多様な生涯学習事業の計画的かつ体系的な推進である。さらには、指定管理者制度の下で事業を受注している地区館（地区市民センター）に対して、市拠点館（生涯学習支援センター）はその果たすべき業務の目的・目標を設定するとともに、区拠点館（区中央市民センター）は定期的に事業を評価し必要な助言を行うなど、発注者としての地区館事業へのマネジメントを行い社会教育施設としての質の確保を図ることである。

【重点方針】

- ・ 拠点館は、体系化された事業計画と社会教育の専門性を持って、市民センター事業全体の質を維持し高めるものとする。
- ・ 拠点館職員は常に専門性の維持・向上に努め、地域課題を踏まえた調査研究事業の充実と地区館支援のための環境整備に重点的に取り組むものとする。

3) 地区館事業の主要な目的

地区館事業の主要な目的は、地域を基盤とし、地域づくりにつながる人づくりを行うことであり、市民一人ひとりが「出会い・ふれあい・学びあう」ことでつながり、さらには市民自ら地域課題に向き合い住み良いまちづくりに協働して取り組むことができるように支援することである。

【重点方針】

- ・ 地区館は“地域づくりの拠点”としての機能を果たすことを重点目標とし、地域のコーディネーターの役割を担うものとする。
- ・ 地域の連帯感を高め豊かな地域社会を創るために、地域における市民の主体的で多様な生涯学習活動を支援し、質・量ともに充実するものとする。

2 市民センターの役割

1) 市拠点館（生涯学習支援センター）の基本的な役割

(1) 市民センターにおける生涯学習事業体系の策定と行動計画の立案、及び全市にわたる生涯学習事業の推進

本市における生涯学習に関わる機関・団体との役割分担を踏まえ、学校教育や関係局・区役所とも連携しながら、市民センターが担うべき生涯学習事業体系を策定し、事業目標を定めた行動計画にしたがって本市の生涯学習事業を着実に推進する。併せて、人材育成にかかる事業を中心とした生涯学習事業を総合的・体系的に実施する。

(2) 生涯学習推進のための専門性の向上

少子高齢化・国際化・情報化、男女共同参画、多様性配慮などの現代的な課題、SDGsや本市が抱える諸課題への先進的な取組み、及び市民のライフステージごとの多様な学習ニーズの把握と効果的なプログラムづくり等の調査・研究を推進するとともに、その成果を地区館等へ還元する。

また、東日本大震災を機に生じた地域社会のあり方、大規模自然災害の備え、エネ

ルギー問題等の社会的課題や社会からの要請に対応する取組についての調査・研究を推進する。

(3) 市民一人ひとりのニーズに対応した生涯学習支援体制の充実

〔学習活動のネットワーク化とリーダー等の養成〕

市民相互の学習活動やそのネットワーク化を支援するとともに、学習リーダーや学習ボランティアを養成し、その活動を推進する。

〔生涯学習に関する関係機関等との連携・協力の推進〕

生涯学習について、小学校、中学校、高等学校、大学等、市民活動団体等関係機関・団体との連携・協力を推進する。

〔生涯学習情報の計画的体系的な収集と提供〕

計画的で体系的な生涯学習情報の収集と提供を行い、生涯学習相談事業の充実を図る。

(4) 指定管理者制度下での指定管理業務のマネジメントの推進

市民センターの指定管理業務を統括する立場から、地区館業務の目的とそのため
の事業の目標及びその要求水準の考え方を明確にし、地区館ごとに事業を評価でき
る体制を構築する。

(5) 職員の育成

〔職員研修の体系化と専門研修の充実〕

初任者・中堅者・館長などに対する経験や役割に応じた体系的な研修や、社会
教育を担当する職員としての専門性を高める研修の充実を図る。

〔職員への助言及び支援体制づくり〕

事業が具体的な目標のもとに計画的に推進できるよう、事業を担当する職員へ
の専門的な助言や支援のための体制づくりに努める。

2) 区拠点館（区中央市民センター）の基本的な役割

(1) 区内の生涯学習事業の推進

〔区内の生涯学習事業の推進と地域リーダーの発掘・育成〕

地域の諸団体や学校等、区役所関係課、区内地区館などとの連携を図り地域課
題に取り組むことで、区内の生涯学習事業を推進するとともに、区内の地域リー
ダーの発掘・育成に努める。

〔区内の市民の学習・グループ活動への支援〕

区内の生涯学習活動を幅広く支援するため、生涯学習情報の収集と提供及び相
談事業を充実させるとともに、活動する市民・団体等のグループ化やネットワー
ク化への支援に努める。

(2) 区内地区館事業への支援

〔関係諸団体との連携の推進〕

地域団体、NPO・ボランティア団体等の民間諸団体や、区役所関係課等の行
政機関、小学校、中学校、高等学校等の教育機関との連携によって地区館事業が
活発に展開されるよう、地区館を積極的に支援する。

特に、地域課題の把握とその対応等に向け、区役所関係課と地区館とが連携して取り組み、市民協働による地域づくりが推進されるよう支援する。

〔家庭及び地域での教育力向上、ジュニアリーダーの育成支援〕

地域での子育て支援や子どもが育つ環境づくりのために、地域団体、民間諸団体、区役所関係課等、学校等、嘱託社会教育主事研究協議会支部等と連携し、地区館において、家庭及び地域社会の教育力の向上に資する取り組みとジュニアリーダーの育成支援が十分に行われるようともに取り組む。

〔地区館職員の育成〕

定期的な連絡会の開催や、区内地区館が連携して進める事業の支援など、地区館職員の育成が図られ、かつ効果的な事業が推進されるよう働きかけを行う。

(3) 指定管理者制度下での区内地区館業務のマネジメントの推進

地区館業務の目的、各事業の目標及び要求水準をもとに、それぞれの地域ニーズを地区館職員と共有し、より効果的な事業の実施に向けた助言等を行うとともに、事業の結果についての的確な評価を行うことで、地区館事業の質・量の充実に努める。

3) 地区館（地区市民センター）の基本的な役割

【取組指針】

社会教育施設としての地区館に求められる下記の機能は、相互に関連を持ちながら総合的に発揮されなければならない。それにより、これまで市民センターに関心のなかった人々が、地区館事業に様々な形で関わることができ、地区館が多くの市民の参画を得ながら地域づくりの拠点として活発に機能することになる。

また、地区館の職員は、区拠点館の支援を受けつつ、地域に積極的に出向きながら、これらの機能が総合的に発揮されるよう「きっかけ」をつくり、「仕掛け」「働きかけ」を行い、地域住民や地域の諸団体等と協働して事業を展開していくものとする。

(1) 地域住民本位の生涯学習拠点機能

〔学習ニーズ・地域課題を踏まえた特色ある事業の実施〕

地域住民を対象にしたアンケート調査や事業運営懇話会、日々の地域情報の収集などを通して地域住民の学習ニーズと地域課題を把握し、目標を明確にした上で特色ある事業を実施する。

〔事業の魅力づくりと参加しやすい条件づくり〕

事業の企画にあたっては「学びを通じての人と人とのつながり」を基本方針とし、地域住民が楽しく参加したくなるような工夫（魅力づくり）や参加しやすい条件を整えるよう努める。

〔市民参画の推進と市民の活動の育成支援〕

市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動、ボランティアやジュニアリーダーの育成支援に取り組む。

(2) 地域の交流・拠点機能

〔地域住民の交流の場、子どもたちの交流の場の確保〕

多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。

特に、地域の中で見守られ育まれるべき次代を担う子どもたちのための子育て支援と青少年の交流の場、地域住民と児童生徒との交流の場の確保に配慮する。

〔様々な地域ネットワークの拠点機能＝プラットフォームの確保〕

地域にある様々な団体、NPO、ボランティア等が共通の地域課題のもとに集まれるネットワークの拠点としての機能を持つ、プラットフォームを確保するよう努める。

(3) 地域のコミュニティづくり機能

〔コミュニティ意識の醸成〕

地域住民と協働し、地域の歴史・自然・行事などの地域資源を活かした地域文化の継承と創造の事業に継続的に取り組むとともに、地域の魅力と課題の発見を通して、多くの地域住民が地域と関わるができるよう積極的に働きかけ、地域住民のコミュニティ意識の醸成を図る。

〔地域活動を担う人材の育成〕

地域課題を踏まえ、地域の諸団体や学校等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、青少年を含め幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。

〔地区館事業に市民が主体的に関わる仕組みづくり〕

地域に根差した地区館事業を市民と協働で推進するために、地域住民が地区館事業に主体的に関わる仕組み（地域住民による地区館ごとの運営協議会等）を創り活かす。

(4) 地域のコーディネート機能

〔地域にある機関・団体等のネットワーク化の支援〕

町内会・PTA・商店街等の地域団体、NPO等の民間諸団体、学校等の教育機関や区役所等の行政機関等と連携し、地域住民とともに地域課題に取り組むためのネットワークが構築されるよう支援する。

〔地域と行政機関との仲介・調整〕

“地域の声”を施策や事業につなげるために、地域の諸団体等と行政機関等との仲介及び調整の窓口機能を担う。

(5) 地域の情報ステーション機能

〔地域の資源等の保管と公開〕

地域にある様々な資源（歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等）などに関する情報を多様な媒体に整理・保管し、地域住民が必要に応じて閲覧し活用できる仕組みを整える。

〔生涯学習情報・地域情報の収集と提供〕

地域内の学校や社会教育施設、区役所などの行政機関からのお知らせや催し情報のほか、地域団体や各種サークル、NPOなどからの活動情報や募集情報などを随時収集・整理し、適時、地域住民に提供する。

1) 市民サービスの向上

- (1) 利用者の立場に立ったサービスを行う。
- (2) 利用者の安全安心の確保に積極的に取り組む。
- (3) 利用者のプライバシーを保護するよう十分配慮する。

2) 市民交流スペースの確保とオープンスペースの活用

市民の誰もが気軽に立ち寄り、交流のできる場と機能を確保する。

地区館のオープンスペース等に関しては、地域住民にとって魅力ある場となるよう、地域住民の意向を十分に踏まえた各館独自のルール及び運営体制を設けるなど、その利用を促進する。

3) 地域住民等との顔の見える関係づくり

地区館は、地域づくりの拠点としての機能を踏まえ、施設管理における日常の様々な場面において、地域住民や地域団体等との顔の見える関係をつくり、信頼され、信頼に応える運営を行う。

震災を踏まえた市民センターの役割と取組

未曾有の被害をもたらした平成 23 年 3 月の東日本大震災により、大きな被害を受け、建替えを余儀なくされた市民センターがあった一方で、地域住民の避難所となった市民センターも数多くあった。市民センターは、住民に身近な施設として住民の安全を守る役割などを担ったところである。

そして、これまで市民センターにおいては、この震災を踏まえ、震災復興や地域の防災・減災に資する事業、地域の絆を深める事業等に取り組んできたところである。

現在、地域においては、平時から地域団体や住民等が連携しながら、地域における防災体制を構築するなどの安全・安心な地域づくりが求められていることから、災害・防災等に関する知識を深め、防災・減災意識の向上を図るとともに、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図ることが重要となっている。

1) 災害時における役割

現行の仙台市地域防災計画において、市民センターは、必要に応じて開設される補助避難所に、高砂市民センターは指定避難所に位置づけられており、食料、飲料水等の物資が備蓄されている。

災害時において避難所となる市民センターは、地域防災計画等に基づき、住民等の安全を守るとともに、多様な視点に立ち、求められる配慮を適切に行いながら、避難所の運営に協力し支える役割を担うこととなる。住民に身近で信頼される施設として、災害対応力の向上に努め、災害時における役割を十分に果たしていくものとする。

2) 地域の防災体制づくりへの支援

市民センターは、これまで培ってきた小学校、中学校、高等学校及び地域団体等とのネットワークを活かしながら、地域のコミュニティづくり機能やコーディネート機能等を十分に発揮し、防災訓練等も含め、地域の防災体制づくりに資する取組を行うとともに、地域主体の復興まちづくりにおいても、市民センターとしての役割を果たしていくものとする。

3) 震災を踏まえた講座等の実施

地域の生涯学習の拠点として、地域の防災・減災に資する講座等を積極的に開催するとともに、震災の経験や教訓、地域の歴史や文化等を広く発信していく。この場合において、次世代への継承、担い手の育成に向け重点的に取り組むものとする。

(付記)

「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」は、改定から5年間を目途に見直しを行う。

5 市民センター事業体系

<目的別分類>

大分類	中分類	事業内容(例)
01 市民が様々な課題に応じて学べるようになる	01 市民がライフステージに応じた課題について学べるようになる	インリーダー研修会 職場体験学習・社会教育実習等の受入 若者と地域住民との交流を深める事業 家庭教育に関する講座 健康づくりに関する講座 老壮大学 自然・教養・文化に関する講座 地域資源を活用した講座
	02 市民が、時代に応じた新しい課題について学べるようになる	学び直しに関わる講座 国際化時代に対応した講座 情報化時代に対応した講座 防災・減災に関する講座 環境保全に関する講座 男女共同参画に関する講座 子育て支援に関する講座 高齢化社会に対応した講座 福祉に関する講座 ボランティア・奉仕活動に関する講座
02 市民が、学習に必要な情報を得ることで、主体的に学べるようになる	01 市民が、市民センターで学習相談・情報提供を受けられるようになる	学習(地域)情報の収集 学習(地域)情報の提供・相談 サークル活動支援
	02 市民が、市民センターの講座情報をいつでも得られるようになる	市民センターだより・講座レポートの発行 生涯学習情報誌の発行 ホームページによる学習情報の発信
03 市民が学んだ成果を地域に生かせるようになる	01 市民が、生涯学習ボランティアとして活動できるようになる	ジュニアリーダーの育成支援 ボランティア養成講座 ボランティア活動の支援
	02 市民が、自らの知識や経験を生涯学習事業に生かせるようになる	市民による地域情報の発信 市民が企画・運営する講座の実施 生涯学習事業の企画の公募
04 市民が、地域で学びの活動を広げようになる	01 学校、地域、市民活動団体が、地域活動を通して、連携できるようになる	学校と連携した事業 学校支援地域本部と連携した事業 地域の団体と連携した事業 学びのコミュニティづくり推進事業
	02 市民が、自らの学習活動を生かして、地域づくり・人づくりに参加できるようになる	まちづくりに参加する事業 地域間交流事業
	03 市民が、地域の人やほかの団体と交流できるようになる	市民センターまつり 市民の学習発表会 市民交流事業
05 市民が、質の高い市民センター事業を受けられるようにする	01 市民の意見が市民センターの運営に反映できるようにする	事業運営懇話会等 市民ニーズ・地域課題の把握 地域の各種団体と行政・専門機関との仲介・調整

＜分野別区分＞

区 分	定 義
家庭教育推進事業	子育て世代が育児や家庭生活について学び、親子のふれあいを深めることをねらいとする。 (例) 子育て講座／食育講座／子育てサロン／おはなし会 など
青少年健全育成事業	青少年がさまざまな体験を通じて学ぶ力を身に付けることによって心身の健やかな成長を培い、仲間づくりや親子・異世代の交流を図ることをねらいとする。 (例) ジュニアリーダーと遊ぼう／インリーダー研修／体験講座 など
成人学習振興事業	幅広い教養を身に付け、さまざまな課題を学習する機会を提供するとともに、共通の課題や関心を持つ市民(受講者)相互の仲間づくりや交流を図ることをねらいとする。 (例) 健康講座／市民企画講座 など
高齢者学習振興事業	長寿社会の中で、高齢者が学習を通じた仲間づくりや交流によって、生きがいを持って社会生活を送ることができるようになることをねらいとする。 (例) 老壮大学／高齢者の健康講座 など
地域社会教育推進事業	市民や地域の団体等がイベントや体験活動などを通して、地域住民との交流や地域活動の推進を図ることをねらいとする。 (例) 市民センターまつり／事業運営懇話会／防犯／防災減災関連事業 など
民間指導者育成事業	自らの学習成果や経験を生涯学習ボランティアとして社会に生かす意欲のある人材を養成し、その活動を支援することをねらいとする。 (例) ジュニアリーダー育成支援／ボランティア養成 など
学習情報提供・相談事業	地域の資源(歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等)などの情報を収集し、地域住民の活動に活用できるようにするとともに、市民からの問い合わせに対し、サークル活動や学習情報、講師情報など、生涯学習に必要な情報を提供する。 (例) 学習情報提供・相談／サークル活動支援／サークル体験／ 市民センターだより発行／学習・人材情報収集

Ⅱ 拠点館事業

令和5年度 市直営事業実績

1 地域づくり支援

市民自ら地域課題に向き合い、住み良いまちづくりにともに取り組むことができるよう、地域の身近な社会教育施設として、多様な学習の機会を創出するとともに、市民の主体的な学びを支援し、学びを通じた人づくりに取り組んでいる。

(1) 若者社会参画型学習推進事業

若者が地域づくり活動への参加や様々な人々との学び合いを通じて、身近な地域をより良くすることへの意識を高め、自発的・主体的に活動することを学ぶ事業である。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	14	138	60	大学生
宮城野区	15	90	0	高校生
若林区	18	108	170	大学生・高校生
太白区	25	31	223	大学生・高校生
泉区	5	48	0	大学生

① 若者によるまちづくり実践塾

＜青葉区中央市民センター＞

若者自身が地域課題を発見し、その調査・分析を行い、自分たちの取り組みを発信することで、「若者がまちづくりに関わっていく」という事業のねらいを達成することができるように取り組んできた。

令和5年度は、青葉区中心部の史跡や店舗を取り上げた「アオバ散策マップ」の作成、マップを活用した市民対象イベントの企画・実施を通して、若者視点による青葉区の魅力を広く市民に発信することができた。イベントはアーケードを中心としたクイズラリー形式であり、参加者にとっては青葉区中心部の新たな魅力に気付くきっかけとなったと考える。本事業を通して仙台市や青葉区について改めて知ることができたとの振り返りが見られた。取材やイベントでの参加者との交流など様々な人との出会いも多く、コミュニケーション力の向上がうかがえる。

② まいぷろ・Miyagino Young PROgram

＜宮城野区中央市民センター＞

令和5年度は、仙台市内にある地域の魅力を取材し、Web記事の制作・発表を通じて、①様々な人々と協働し、身近な地域をより良くすることへの関心を高めること、②社会・地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人づくりを行うことを目標に取り組んだ。

若者が興味・関心を持ったラジオ放送局、リサイクル工場、保護猫シェルター、復興タクシー、笹かま館の取材を自ら行い、住民参加型ニュースサイト「TOHOKU360」と連携し、Web記事を作成した。これらの活動を通じて、自らの思いを表現する力やコミュニケーション

ョン力が養われたほか、地域の活動に触れることにより地域への理解が深まったことで、自分たちなりの地域貢献のあり方について考える機会となり、参加者の視野や関心に広がりが生まれた。

③ 仙白園プロジェクト・人

＜若林区中央市民センター＞

大学生を中心とした概ね 20 代の受講者が、地域のために何ができるかを考えながら、地域を活性化させる活動を行っている。

これまで地域の方々と続けてきた仙白園と名付けた畑での活動を発展させ、令和 5 年度は子ども参画型事業の参加者も栽培活動に加わった。若者の発案から、子どもたちに対して体験活動の場を提供できたこと、異年齢交流を促進させることができたことなどの成果があった。

また、住民参画・問題解決型学習推進事業との連携も行い、六郷東部地区で震災復興に関わる「わたしのふるさとプロジェクト」が主催する事業に、ボランティアとして参加した。

さらに、令和 4 年度に実施した地域イベントを土台として、荒町・七郷地区で地域イベントを実施した。荒町地区では 9 月に親子の交流と、国際理解をテーマにした「モルック大会 in 荒町元気広場」、七郷地区では 12 月に児童の表現力や自己肯定感の向上をテーマにした「モザイクアート体験会 in 七郷市民センター」を実施した。企画・広報・運営等を若者が担うことで、若者の企画力や行動力を磨く場になったことに加え、様々な地域住民をつなぐきっかけとなる場にすることができた。

④ 仙台学生ネットワーク事業「つながりんぐ」

＜太白区中央市民センター＞

地域や地区市民センターから「学生と連絡を取りたいがどうしたらいいかわからない」、また、学生からは「社会貢献したいが窓口がわからない」等の意見を受けて、本事業を平成 26 年に立ち上げ、活動する学生のネットワークを「つながりんぐ」と名付けて活動をスタートした。

令和 5 年度も「つながりんぐ」の主力メンバーである東北工業大学環境サークル「たんぽぽ」の学生を中心に活動した。①「自主企画プロジェクト」②FM たいはくラジオプロジェクト③交流フェスタ（市民センター祭り）プロジェクトの 3 つのプロジェクトを立ち上げ、長町エリアの活性化を目指して活動に取り組んだ。

「最近の子どもたちは、自然とふれあう機会が少ないのではないか？」という問題意識の下、今年度は「たんぽぽがつなぐ子ども×自然」をテーマに、秋に行われる各種フェスティバルでネイチャークラフトのブースを出展することにした。「子どもたちに自然の魅力を伝えるためにも、まずは自分たちが自然の魅力を体感してこよう！」と株式会社「地域環境計画」の嘉藤氏を講師に迎え、自然の魅力について定期的に学び、8 月にはその集大成となる、「泉ヶ岳で自然の魅力を味わおう」というイベントを自主企画した。木登り体験や沢登りを実施。学生同士の交流を促進しつつ、自然の魅力を体感し、交流フェスタ

日につながる学びの場となった。

交流フェスタプロジェクトでは、「ネイチャークラフト」という自然のものを利用したブースを出展した。また、学生のアイデアを引き出しながら、ネイチャークラフトの内容を工夫できた。さらに、これら「自主企画プロジェクト」「交流フェスタプロジェクト」での体験を中心に、FM たいはくのラジオ番組を通じて、自分たちの感じたことや問題意識を発信することができた。

⑤ ICP イズミ・コミュニティ・プロジェクト

＜泉区中央市民センター＞

泉区内に通学している大学生を中心とした受講生が地域の現状や課題について考え、学生の自由な発想で地域創造に向けて取り組みたいことを企画し、実施する事業を行った。

令和5年度は、東北学院大学移転に伴う若者の減少と世代間交流の希薄化を課題として、「魅力 UP で人が集まる活発なまち！」をテーマに活動した。地域に若者を呼び込むために、泉区の魅力をリサーチし、SNS で情報発信することを目標として、月1回程度の定例会のほか、地域の気になるお店を訪問してインタビューするフィールドワークを3回行った。また、根白石市民センターを訪問して、若い世代の交流と地域コミュニティの活性化を図る事業についての説明を聞いたことや、J:COM 仙台を訪問して、泉中央の飲食店を盛り上げる情報発信をしている「仙台 IZUMI フードリンククラブ」の取組についてお話を聞いたことを通して、自分たちの活動につながる学びを深めた。

受講生は、始めに活動の目的を明確に共有したことで、軸をしっかり持って活動することができた。また、活動する中で、インタビューを通してコミュニケーションの取り方や情報収集等の実践力を磨くことができた。さらに、市民センター訪問を通して、思いを直接伝えて人とつながること、徹底したリサーチ活動、自ら行動することの重要性など、ICP の活動のみならず、今後の人生においても大事な視点を多く学ぶことができた。

⑥ 「若者社会参画型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

(ア) 方向性を確認する会

(R5/4/6(木) 15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 18 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、今年度の実施予定事業についての情報交換や、今後の事業展開の見通しについて意見交換を行った。

(イ) 若者事業参加者交流会

(R5/6/24(土) 13:30～16:30 参加者：各区若者事業参加者、関連団体 13 名)

学びのまち仙台市民カレッジ持続可能な地域づくり講座まちづくりトークセッション「若者がつくる未来の仙台～まちをつくる若者大集合！」(6月24日開催分)を当該事業として位置づけ実施した。

コーディネーターは一般社団法人ワカツク渡辺一馬氏で、学生団体 ari、COLORweb 学生編集部、仙白園プロジェクトの担当者が登壇し、トークセッションを行った。

(2) 住民参画・問題解決型学習推進事業

各区中央市民センターのコーディネートのもと、住民と市民センターの協働により地域課題を発見し、その課題解決への取り組みを学び、実践する事業である。

平成 23 年度から実施しており、地区市民センターとも共催しながら事業を展開している。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	53	244	1,733	折立 43、旭ヶ丘 10
宮城野区	27	130	130	榴ヶ岡 17、高砂 5、 岩切 5
若林区	22	121	666	六郷 14、若林 5 沖野 3
太白区	107	622	4,049	太白区中央 37、山田 26、 茂庭台 10、富沢 22、 八木山 12
泉区	19	59	538	泉区中央 8、根白石 3、 加茂 8

① 地域元気クラブ

＜青葉区中央市民センター＞

受講生が講座を通じて得た学びやネットワークを生かして、地域の資源や人材を活用し、地域活性化のための企画を提案・実践していくことを通し、地域を元気にするノウハウについて学びを深めることができた。企画する事業への参加者が増えたり、学校をはじめとする地域の諸団体と連携する機会が増えたりするなど、地域づくりにつながるネットワークの構築が進んでいる。

台原森林公園をまるごと楽しもう（旭ヶ丘市民センター）では、企画員が季節に応じて変化する台原森林公園について、講話・フィールドワークを通して学んだ。また、学びを深め地域への愛着を育み、環境保護への気持ちを高めることができた。企画員自身が感じた良いところを写真で記録し、マップなどの資料にまとめる作業を行った。

折立素敵物語「ライトアートin折立」（折立市民センター）では、折立小学校、折立幼稚園、折立保育所の子ども達がペットボトルランタンに絵付けし、中学生企画員が、来場する子ども達が楽しむ工夫としてクイズラリーを企画した。地域住民による運営委員のほか、折立小学校 PTA、大学生ボランティアなど総勢約 100 名のスタッフが関わり、回を重ねるごとに地域の盛り上がりが増している。

② 地域の魅力発信プロジェクト

＜宮城野区中央市民センター＞

榴ヶ岡市民センター、高砂市民センター、岩切市民センターと連携しながら、住民がこれまで以上に地域づくりに関心を持ち、地域の課題や将来像を共有できるようにするためのワークショップやフィールドワーク等を展開する講座を行った。

「東口ゆうえんち」（榴ヶ岡市民センター）は、子どもが安全安心に遊ぶことのできる機会や場を提供することを目的に、社会人や大学生のボランティアスタッフが集まって運営している事業である。学校や家庭では体験できない遊びを子どもたちに経験させるため企画員がアイデアを出し合い、令和５年度は、「シャーベットクエスト」「ワンダーめいろうランド」「真冬のおばけやしき」の全３回のイベントを実施した。イベント当日には企画員と子どもたち、また企画員同士での世代間交流が和やかに行われた。

「高砂の魅力再発見プロジェクト」（高砂市民センター）は、被災地として語られることが多くなってしまった高砂地区について、地域住民と共に高砂の魅力を再発見、発信していく事業である。令和５年度は、企画会で地域についての情報交換を行い、実施内容を検討した。企画第１回目として、地域内の神社を管理されている禰宜（ねぎ）から話を聞く「高砂地域の神社のお話」を開催し、30名以上の参加者が地域にある神社の歴史や由来などを学んだ。２回目の企画では、近隣の神社や石碑を見学する街歩きを実施し、地域の歴史について理解を深めた。

「広がれ！スズムシの輪（りーん）」（岩切市民センター）は、仙台市の虫「スズムシ」の普及と、自生できる自然環境の大切さを多くの市民に啓発してきたすずむしの里づくり実行委員会の担い手の育成を目指す事業である。令和５年度はスズムシに興味のある人たちの「つながりづくり」を目指し、スズムシを知り・親しみ・楽しむことを中心に３回の講座を実施した。１回目は企画員自身が講師となり、講話とすずむし室の見学。２回目はさまざまな鳴く虫の特徴や分布変化を映像と音で学習。３回目は「つどい・つながる交流会」として、県外のスズムシ愛好家ともWeb会議を利用して交流した。いずれの講座でも講師と参加者が活発な情報交換を行い、参加者同士の結びつきを強めた。

③ 地域の担い手育成「わかばやしふるさとプロジェクト」

＜若林区中央市民センター＞

各地区館と共催して、地域住民が課題と向き合い解決を目指す取り組みを支援した。

「わたしのふるさとプロジェクト」（六郷市民センター）では、東日本大震災において被災した六郷東部地区の「にぎわい再生」「交流」「再会」「復興の歩みや震災記憶の発信」をテーマに取組を続けている。令和５年度は、７月に東六郷コミュニティ・センターにおいて４年ぶりとなる六郷東部夏まつりを、３月に第９回目となる「ふるさとにつどう鎮魂の花火」を実施した。

「みんなでウェルネス」（若林市民センター）では、参加者のウェルビーイングを目指して体験や学習の機会を設けるとともに、その体験・学習を元にして、地域における様々な活動において重要な担い手として活躍することができるような人材育成を目指した。令和５年度はリース作り、お地蔵さんと文字を描く、お正月飾り作り、染物体験などを実施した。

「集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～」（沖野市民センター）では、沖野東小学校、沖野小学校それぞれのおやじの会と市民センターが共催で、児童向け講座「スポーツ鬼ごっこ大会」「そば打ち体験会」「ドッジビー大会」などの企画・運営を行った。親子同士の交流の場を提供し、地域活性化に繋げることができた。おやじの会メンバーも沢

山の経験を積み、子どもたちが喜ぶ事業を企画・運営する技術を高めた。

④ 太白おとなのチカラ

＜太白区中央市民センター＞

太白区中央市民センター（拠点館）の「太白おやじネットワーク事業」では、太白区内各小中学校に在籍する児童・生徒の保護者を中心に構成する通称「おやじの会」の活動を支援することにより、若い世代の地域づくり活動への参画機会の充実と地域づくり活動の活性化を図る取り組みを進めている。

令和5年度は、太白区内のおやじの会ネットワークと、太白区中央市民センターの共催事業として毎年取り組んでいる、主に小学生を対象としたイベント「長町秋のフェスティバル2023」を開催した。JR長町駅西口広場公園を会場に、ニュースポーツや縁日など、6つのブースを設置して約1,500人の親子に楽しんでもらうことができた。そして、本イベントを開催するための会議や当日の運営などを通して、これまで築いてきた地域ネットワークの関係をさらに深めることができた。

また、区内地区館4館と共催し、地域課題解決につながる活動に取り組んできた。山田市民センターの「楽元の森プロジェクト」、茂庭台市民センターの『『みんなの広場』プロジェクト』、富沢市民センターの「パワフルとみざわネットワーク」は、各地域ごとの地域資源や地域人財を活用し、フェスティバル形式の魅力あるイベントを展開した。今年度新たに共催した八木山市民センターでは、「中1ギャップの解消」を目的とし、八木山中学校区の小学校5校のおやじの会と連携して、「八木山おやじG7」という企画会を行い、9月には縁日的なイベントを実施した。5校から参加した子どもたちをグルーピングし、チーム対抗で得点を競うかたちにしたことで、参加者相互の交流を促進することができた。

⑤ 地域いきいきプロジェクト

＜泉区中央市民センター＞

市民企画会議や複数年事業を中心に支援を行った。主な支援として、企画に関する相談・立案、予算支援、企画サポート、備品等の協力、情報提供、連絡調整を行った。

泉区中央市民センター（地区館）の「まちを知る 七北田を歩く ー地域いきいきプロジェクトー」では、令和2～4年度に開催した「いずみ探訪ー地域案内人養成講座」の受講生から発足した自主活動グループ「七北田探訪会」が案内人となり、七北田・市名坂周辺を歩きながら地域の歴史資源について学ぶとともに、参加者同士の交流を深めた。

根白石市民センターの「かむりの里・子育てプレイス～地域いきいきプロジェクト～」では、子育て世代の企画員が、「走れ！走れ！遊んで学ぼう自転車教室」「化石発掘体験」「クリスマス縁日」など地域課題に対応を踏まえたうえで、地域資源を活用した企画講座の実施を通して、地域の子育て環境の向上につなげた。

加茂市民センターの「寄り合いアップデートラボ」では、地域子ども達のために何かをしたい、力になりたいという思いを持つ若い世代の親達が集い、「加茂フリーマーケット」を開催した。地域団体によるステージ発表も併せて実施し、地域に新たなつながりを創出した。

⑥ 「住民参画・問題解決型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

各区中央市民センターで実施している本事業の担当者を対象とした研修会等を実施し、各区の事業推進を支援した。

(ア) 方向性を確認する会①

(R5/4/6(木)15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 18 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、今年度の実施予定事業についての情報交換や、今後の事業展開の見通しについて意見交換を行った。

(イ) 方向性を確認する会②

(R5/6/8(木)15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 11 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターにおける事業の取り組み状況の報告と今後の予定などの情報の共有を図り、今後の事業展開の参考とするために実施した。

(ウ) パンフレットの発行

市民や関係機関に向け、住民参画・問題解決型学習推進事業の啓発のため、令和 6 年 3 月に発行した。1,500 部作成し、市民向けに市民センター等に配架するとともに、市内各小中学校にも配布した。

(3) 子ども参画型社会創造支援事業

小学校中学年の児童から中学校・高等学校の生徒まで、子どもたちがそれぞれに地域社会の構成員としての意識を育みながら成長していくことを目指し、子どもたち自身が主体的に参画し、子どもならではの役割と可能性を自由に発揮できる事業である。

平成 23 年度から実施しており、各区中央市民センターを中心に、地区市民センターとも共催しながら事業展開を図っている。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	28	156	41	小・中学生、高校生
宮城野区	39	339	400	小・中学生、※大学生
若林区	56	360	70	小・中学生
太白区	20	152	300	小・中学生
泉区	0	0	0	

※宮城野区の大学生はアシスタントとして参加

① 地域盛り上げ隊

＜青葉区中央市民センター＞

2つの地区館と共催で事業を実施している。

木町通市民センターでは、木町通小学校の児童から企画員を募り、「木まちたんけん隊」を実施した。企画員の自己決定の機会を大切にまち歩きを行った。偶然の出会いの中で、お店の歴史や、どのような思いで働いているのか、世間話をするように地域の方と交流することができた。普段は交流することがない方たちと話すことで、自分たちが生活する地域への興味関心が高まった。今後は、小学生目線で発見した地域の新たな側面をまとめ、「子どもマップ」や「地域すごろく」などの制作に取り組んでいく予定である。

中山市民センターでは、仙台青陵中等教育学校の生徒から企画員を募り、地域の小学生を対象とした講座を企画・運営する「青陵プロジェクト in 中山キッズ」を実施した。本事業は、令和3年度まで拠点館が行ってきた「青陵インパクト」を融合・発展させた事業である。地域の小学生を対象に、学校では経験することが難しい体験の場を提供することで、豊かな知識と健やかな育ちを支える一助とするとともに、地域に関心を持ち、地域を支える次世代の人材育成を目指している。

なお、拠点館では、自分の住む地域に愛着を持ち、地域活動に関心を持つきっかけづくりとなることを目指し、区内の小・中学生を対象に「あなたのまちの『未来予想図』」絵画コンクールを実施した。令和5年度は36点が集まった。

② 宮城野区子ども参画プロジェクト

＜宮城野区中央市民センター＞

3つの地区館と共催し、子どもたち目線で地域課題を考えたり、それぞれの地域を盛り上げる企画を提案したりした。子どもたちが地域の市民センターに自分たちの活動拠点を設け、イベント企画や情報収集・発信の活動によって地域とつながり、社会に参画してい

くきっかけづくりとなった。

宮城野区中央市民センター（地区館）では、原町小・宮城野小・東宮城野小児童を対象とした、「キッズもりあげ隊」を実施している。令和５年度は13人で「自分たちの住んでいる街を盛り上げるためにできること」を考え活動した。月1回のペースでイベントの実施やその企画について話し合い、様々な取り組みを地域のために行った。なお、若者同士のつながりや新たな活動の機会づくりのため、毎回、まちづくりや子どもたちの活動に関心のある大学生や専門学校生もスタッフとして参加し、子どもたちの活動支援を行っている。

鶴ヶ谷市民センターでは、鶴ヶ谷中学校と連携し、「チーム『ニコ鶴』プロジェクト」を実施した。生徒有志26名が企画員となり、地域を活性化させるイベント「あつまれ！杜のフェスティバル in 鶴ヶ谷」を企画・運営した。

田子市民センターでは、「田子中生『福田町駅未来構想』」を実施した。この事業では、JR仙石線福田町駅の移設計画に合わせて、田子中学校1年生有志20名が「地域のための駅とはどんなものか」を自分たちなりの視点で考えて、地域の課題や魅力に気付く機会となるようにした。中学生は、ワークショップ形式で地域課題を考えて、4つのグループに分かれてその解決のための考えをまとめ発表した。

③ 若林区子ども参画・ボランティア事業

＜若林区中央市民センター＞

若林区中央市民センター（拠点館）では、チャイルドボランティア「チャボ！」を平成23年度より継続実施している。これは、子どもたちに地域でのボランティア活動の機会を作ったり、子ども自身が「地域のためにできること」を企画・実施する活動をしたりすることで、自分の存在の大切さを実感するとともに、将来、社会・地域にその一員として積極的に関わることができるようにしていく事業である。対象は区内の小学4年生から中学生。地域の団体や施設などの協力を得て、一年を通して月1、2回活動しており、令和５年度は、高齢の方に届ける宅配弁当に添える手紙書き、南小泉児童館の児童を対象としたイベントの企画・実施、地域清掃などの活動を行った。

④ たいはくキッズリーダー育成事業

＜太白区中央市民センター＞

「にしたがキッズ情報局」は、西多賀市民センターとの共催により、近隣小学校3校から参加児童を募集して地域の魅力を取材し、シナリオを作成して、エフエムたいはくのラジオで発信するという事業内容である。令和５年度は「秋保電鉄」について地域の方にお話を聞いたり、現地を取材したりしてラジオ収録するなど、全6回の活動を行った。エフエムたいはくのキッズアナウンサーとして、また、地域のキッズリーダーとして、市民センターを拠点に活動することにより、地域のさまざまな方と交流することができた。また、番組制作を通して、地域の良さを再発見することができ、自分たちの地域をもっと調べて発信したいという意欲につながった。

「ぼくらの長町黄援隊！」は、主に長町エリアの小中学校6校から参加児童を募集し、

仙台 89ERS と協力して地元長町と仙台 89ERS を元気に盛り上げる活動を行う事業内容である。令和 5 年度は、長町商店街の方と交流したいという参加児童・生徒の思いに基づき、地域の洋菓子店やパン店の方を招いて、調理体験をしたり、長町地域の良さについて意見交換したりした。また、長町近隣の商業施設で「黄援隊あそび縁日」を開催し、家族連れの方々が多く参加し、地域を盛り上げることができた。後半の活動は、仙台 89ERS のホームゲーム会場で行い、選手やチームへの黄援メッセージを集めたり、ライブカメラで選手を黄援したり、仙台 89ERS ファンの方々と一丸となって会場を盛り上げることができた。最終回でのアンケートからは「活動を通して、商店街の人やイベントに来た人などとたくさん交流できた」「長町商店街や仙台 89ERS のことが前よりも深く分かった」「人前で積極的に話せるようになった」「もっと地域の方々との交流を深めたい」といった感想が述べられ、関わる力や伝える力、長町を一層盛り上げたいという意欲が高まった様子がうかがえた。

⑤ 子どもまちづくり企画室

＜泉区中央市民センター＞

南光台市民センター「元気なまちづくり応援団Ⅲ」を支援した。管内の各小学校に企画員募集を行ったが、募集が不調であったため、令和 5 年度は、企画会議は行わず、前年度に企画した事業「南光台 FUN タイム～ニュースポーツに挑戦！」を引き続き実施した。この事業の参加者から企画員を募ったが、参加のほとんどが低学年だったため、企画員としての参加希望はなかった。

⑥ 「子ども参画型社会創造支援事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

各区中央市民センターで実施している本事業の担当者を対象とした報告会等を実施し、各区の事業推進を支援した。

(ア) 方向性を確認する会①

(R5/4/6(木) 15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 18 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、年度初めに際し、実施計画をもとに情報交換を行い、今年度の事業展開について見通しを持つことを目的として実施した。

(イ) 方向性を確認する会②

(R5/6/8(木) 15:30～17:15 参加者：各区中央市民センター事業担当者等 11 名)

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に、情報交換と地区市民センターへの事業支援の在り方に関する検討を行うことにより、事業内容をブラッシュアップし、効果的な事業展開を推進することを目的として実施した。

(ウ) リーフレットの発行

地区市民センター及び仙台市内の小中学校に向けて、子ども参画型社会創造支援事業の啓発のため、令和 6 年 3 月に発行した。事業に参加している子どもの声を取り上げるなど、学校教職員など子どもと関わる方々の理解が得られるような内容として 1,900 部作成し、

地区市民センター職員と市内小中学校、高等学校、中等教育学校、各小中学校の PTA に配付した。

(4) 仙台市市民センター 子ども・若者・大人事業成果報告会

＜生涯学習支援センター＞

子ども・若者・大人事業についての理解を深め、自館の事業に生かす視点を育むこと、発表や交流を通じて事業参加者や市民センター職員の意欲の向上を図ることを目的として実施した。生涯学習支援センターを会場に、各市民センターの特色ある取り組み、ステージ発表やポスターの展示、参加者同士の交流を行った。

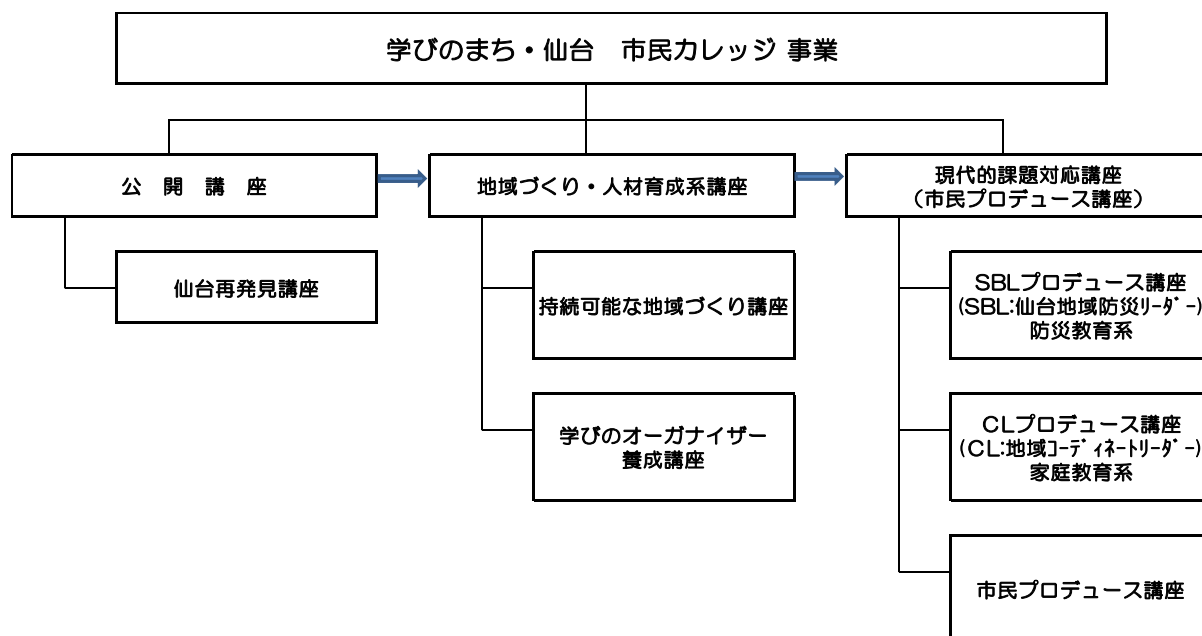
開催日：令和 6 年 1 月 21 日(日)

参加者：市民 95 名 市民センター職員 41 名 行政・教育関係職員 25 名

(5) 学びのまち・仙台 市民カレッジ事業

＜生涯学習支援センター＞

本市における生涯学習の支援拠点として、全市域の市民を対象に、地域資源や地域課題、現代的課題等をテーマに、専門的で質の高い学習の機会を提供することで、地域づくりを牽引する人材の育成を目指すとともに、学習成果が地域や社会に還元されるような仕組みづくりを進める。



① 公開講座

仙台の従来気付かなかった側面を改めて見出すことを共通テーマに、歴史、文化、仙台の原風景等それぞれの専門家による講座を実施した。

【仙台再発見講座 全3回】

回	開催日	概要	受講者
1	5/20(土) 14:00～16:00	講話「災害を乗り越えてきた仙台・宮城のこれまでとこれから」 作家 熊谷 達也 氏	54
2	6/3(土) 14:00～16:00	講話「女性の武家奉公—仙台藩伊達家を支えた奥女中—」 東北学院大学文学部 教授 菊池 慶子 氏	53
3	6/10(土) 14:00～16:00	講話「多様な国の文化がクロスする仙台のいま」 宮城教育大学教育学部教授 市瀬 智紀 氏	41

② 地域づくり・人材育成系講座

地域づくりに関する専門性を高める学習の場を提供することで、身近な地域をより良くするため主体的に行動するとともに、中核となって地域を支える人材の育成を図る。

(ア) 持続可能な地域づくり講座

持続可能な地域づくりに関する学びを提供することで、受講者が、現代的な課題を受講者自身の事として捉えようとする意識を醸成することをねらいとして実施した。

回	開催日	概 要	受講者
1	6/24(土) 13:30～16:30	トークセッション 『「若者」がつくる未来の仙台～まちをつくる若者大集合!!』 コーディネーター：一般社団法人ワカツク代表理事 渡辺一馬氏 登壇者：学生団体 ari, COLORweb 編集部, 仙白園プロジェクト・人	13
2	7/8(土) 13:30～16:30	トークセッション 『「もったいない」がつくる未来の仙台 ～モノとオモイが循環するまちづくり』 コーディネーター：株式会社 WATARIS 代表取締役 引地恵氏 登壇者：tsugi 主宰 渡辺沙百里氏, フードバンク東北 AGAIN, 中山市民センター 落ち葉堆肥でエコタウン	12

(イ) 学びのオーガナイザー養成講座

地域の活動に参加するために必要なスキルを身に付けるとともに、自分の良さや強みを知り、それらを生かしながら地域で主体的に活動しようとする人材を育成することをねらいとして実施した。

＜講師＞グラフィックテラー株式会社 代表取締役 山崎 史香 氏

回	開催日	概 要	受講者
1	11/30(木) 18:30～20:30	グラレコ初級 入口編 描くと見える世界の入り口	33
2	12/7(木) 18:30～20:30	グラレコ初級 内観編 自分のための可視化・答えを導く可視化	30
3	12/14(木) 18:30～20:30	【共創】チームのための可視化編	21

③ 現代的課題対応講座（市民プロデュース講座）

市民センターの講座等の受講生や市内で活動する団体等が、身近な地域をより良くするために、学びや専門性を生かして講座の企画やコーディネートを行い、他の市民とともに専門的な講話やワークショップから学ぶ。仙台市地域防災リーダー（SBL）、学校支援地域本部のスーパーバイザーやコーディネーター等の地域コーディネーターリーダー（CL）、社会教育実習に参加した大学生有志の企画・運営による講座を実施した。

(ア) SBLプロデュース講座 「防災・減災講座」 5回連続講座

回	開催日	概 要	受講者
1	9/30(土) 14:00～16:00	講話「多文化共生時代の防災について」 (公財) 仙台観光国際協会 菊池 哲佳 氏 せんだい外国人防災リーダー	16
2	10/14(土) 14:00～16:00	講話「思いを伝える防災―漫画で伝えるということ―」 取材漫画家 井上 きみどり 氏	21
3	10/21(土) 14:00～16:00	講話「災害時、あなたと家族の命と健康を守れますか?～高齢者・障害者・子ども・女性などの視点から」 減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 浅野 幸子 氏	18
4	10/28(土) 14:00～16:00	講話「災害医療の基礎知識」 東北大学災害科学国際研究所 准教授 佐々木 宏之 氏	15

(イ) CLプロデュース講座

「子どもとのつき合い方講座～あなたが気付けば子どもとの世界が変わる～」

回	開催日	概 要	受講者
1	11/17(金) 10:00～12:00	明日また行きたくなる学校 ～不登校特例校ろりぽっぷ小学校の取り組みについて～ 高橋 元気 氏 (学校法人ろりぽっぷ学園ろりぽっぷ小学校校長)	15
2	12/1(金) 10:00～12:00	家庭で育むメディア情報リテラシー 寺島 絵里花 氏 (一般社団法人日本メディアリテラシー協会代表理事)	6
3	12/8(金) 10:00～12:00	キャッシュレス時代の金銭教育について 藤井 真由美 氏、高野 斉 氏 (キッズ・マネー・ステーション認定講師)	10

(ウ) 市民プロデュース講座

「せんだい市民カレッジ in ろりぽっぷ小学校～体験しよう新しい学びのカタチ～」

回	開催日	概 要	受講者
1	2/28(水) 14:00～16:00	ろりぽっぷ小学校の見学、教職員との意見交換	4

2 広域規模の学習支援

(1) 高等学校開放講座

＜生涯学習支援センター＞

高等学校の持つ教育機能を生かし、市民の生活上・職業上の専門知識・技能及び一般教養の修得を図る。【昭和 51 年度開始 市立高校 4 校・4 講座、受講者 44 名、延 84 名】

学校名	講座名	内容	実施日	受講者
仙台高校	中止	—	—	—
仙台工業高校	オリジナルルアーの制作	3D CAD、3D プリンタを活用して自分だけのルアーを作る。	8/19(土) 8/26(土)	10
仙台商業高校	表計算入門『エクセル基礎講座』	表計算ソフト「エクセル」の基礎から、表計算・表の作成・関数・グラフの作成等を学ぶ。	11/18(土)～ 11/19(日)	16
仙台大志高校	夏休み理科体験教室	イカの解剖や液体窒素を利用したアイスクリーム作りを体験する。	8/4(金)	8
仙台青陵 中等教育学校	自動で走るロボットを作ろう	レゴ®マインドストームを使って、自走するロボットを作る。	10/7(土) 10/14(土)	10

(2) ミンナシテマザール

＜生涯学習支援センター＞

誰もが、障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会を実現することを目指し、障害者の生涯学習推進事業「障害のある人もない人も共に学ぶ ミンナシテマザール」を令和 5 年度より実施した。

回数	実施日	主な活動内容	参加者
1	6/17(土)	七夕飾り作り（ミンナシテツクール）	24
2	7/1(土)	パラスポーツ体験（ミンナシテスポーツ）	41
3	9/16(土)	まち歩き（ミンナシテアールク。あつ、ここダネ！）	11
4	11/11(土)	手話、ドラムサークル（ミンナシテシュワッチ&ナラース）	18
5	12/16(土)	コミュニティダンス（ミンナシテオドル）	18
6	2/17(土)	影絵（ミンナシテカゲェル）	22

(3) 仙台明治青年大学

＜生涯学習支援センター＞

地区市民センターの老壮大学やシルバーセンターのせんだい豊齢学園等を修了した 61 歳以上の高齢者が「生きがいと自己実現」を図ることを目的として活動している。

主な活動として、学習会では文化・歴史・健康・科学・防災など、幅広いテーマに基づき外部講師を招聘し実施している。また、同期会、クラブ活動、ボランティア活動も盛んに行われており、クラブ活動や個人の日頃の活動の成果を発表する場として、年 1 回大学祭を開催している。大学の運営や行事はホームページにて公開されており、広報活動も積極的に行っている。

本学は昭和 41 年に開設され、令和 6 年度に創立 58 周年を迎える。

(年度別在籍者数の推移)

年 度	R 元	R2	R3	R4	R5
新入生数	68	60	55	43	78
在籍者総数	824	807	800	708	717

(学習会開催状況)

年 度	R 元	R2	R3	R4	R5
実施回数	19	14	19	12	20
延参加者数	11, 593	3, 609	6, 576	5, 587	9, 939

(4) 仙台自主夜間中学

「仙台自主夜間中学」（主催：仙台自主夜間中学（「仙台に夜間中学をつくり育てる会」から令和 3 年 5 月に名称変更））を仙台市教育委員会との共催事業と位置付け、会場の提供、チラシ配布による広報支援等を行った。

第 1・3 水曜日 昼間部開講 24 回（会場：生涯学習支援センター）

第 1・3 水曜日、第 2・4 金曜日 夜間部開講 48 回（会場：生涯学習支援センター）

参加者延数 1,953 人（生徒 848 人 スタッフ 1,010 人 見学等 95 人）

令和 6 年 3 月末実数 生徒 39 人 スタッフ 39 人

3 人材育成

(1) 職員研修（学びを支える人材育成推進事業）

<生涯学習支援センター>

市民センター全 60 館ならびに 19 カ所の社会教育施設等の職員が、生涯学習事業の推進に必要な知識や考え方を深められるようにするとともに、社会の変化や市民ニーズに迅速かつ柔軟に対応しながら、積極的に市民や地域と連携を図ることができる専門性やスキルを身に付けられるようにする。

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員（博物館、科学館、図書館、天文台、大倉ふるさとセンター、オーエンス泉岳自然ふれあい館、仙台ひと・まち交流財団、仙台市市民文化事業団、防災環境都市推進室 震災遺構荒浜小学校） ・関係課職員	◇社会教育施設等新任職員研修【全 1 回】 5/25（木）14:30～17:00 ◎講話「社会教育職員に求められるもの」 東北大学大学院 教育学研究科 准教授 松本 大 氏 ◇社会教育施設等職員資質向上研修【全 3 回】 ＜第 1 回＞ 7/5（金）14:00～17:00 ◎講話「学習支援者としてのあり方」 東北学院大学 教授 原 義彦 氏 ◎グループワーク ＜第 2 回＞ 9/28（木）14:00～17:00 ◎講話「学習支援者としての役割」 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授 佐藤 智子 氏 ＜第 3 回＞ 11/30（木）14:00～17:00 ◎講話「学びのオーガナイザーとしての役割」 文教大学 准教授 青山 鉄兵 氏 ◎グループワーク	53 27 16 12
	・市民センター職員	◇市民センター新任職員研修【全 1 回】 4/20（木）13:30～17:00 ◎講話 1 「市民センターの概要」 尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏 ◎講話 2 「市民センターの概要」 ◎講話 3 「市民参画型事業について」 ◎講話 4 「学校との連携について」 ◎講話 5 「職員研修（学びを支える人材育成推進事業）について」 ◎講話 6 「情報システムについて」	36

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター館長	◇市民センター館長研修【全1回】 8/24（木）14:00～17:00 ◎講話「地域づくりにつながる市民センターの役割」 特定非営利活動法人 教育支援協会 代表理事 吉田 博彦 氏	46
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇現代的課題対応研修【全3回】 ＜第1回＞ 6/23（金）14:00～17:00 ◎講話「障がい者のための生涯学習推進」 NPO 法人 障がい児・者の学びを保障する会 代表理事 大森 梓 氏 他2名 ◎グループワーク	23
		＜第2回＞ 8/1（火）14:30～16:45 ◎講話「やさしい日本語講座」 公益財団法人 仙台観光国際協会（SenTIA） 千田 麻実 氏 ◎グループワーク	31
		＜第3回＞ 2/1（木）14:00～17:00 ◎講話「セクシュアルマイノリティへの理解と生涯学習」 仙台市男女共同参画課 職員 性と人権ネットワーク ESTO 内田 有美 氏 ◎グループワーク	22
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇ファシリテーション研修（基礎編）【全3回】 ＜第1回＞ 7/28（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ファシリテーション入門」 (株)ばとん 代表取締役 遠藤 智栄 氏	12
		＜第2回＞ 8/18（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ワークショップ体験とファシリテーション」 (株)ばとん 代表取締役 遠藤 智栄 氏	12
		＜第3回＞ 9/29（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「会議でのファシリテーション」 (株)ばとん 代表取締役 遠藤 智栄 氏	9

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇講座企画研修（基礎）【全1回】 6/9（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏	8
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇講座企画研修（応用）【全2回】 ＜第1回＞ 9/8（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏	5
		＜第2回＞ 11/8（水）14:00～17:00 ◎ワークショップ（於：仙台市縄文の森広場） 尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏	10
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇現代的課題対応実践研修【全5回】 ＜第1回＞（再掲） 6/28日（金）14:00～17:00 ◎講話「障がい者のための生涯学習推進」 NPO 法人 障がい児・者の学びを保障する会 代表理事 大森 梓 氏 他2名	23
		＜第2回＞ 7月～11月から1回 ◎講座見学「障害のある人もない人も共に学ぶ「ミンナシテマザール」	3
		＜第3回＞ 11/7（火）14:00～17:00 ◎講座企画会議① 講師：NPO 法人 エイブル・アート・ジャパン 代表理事 柴崎 由美子 氏ほか	5
		＜第4回＞ 12/5（火）14:00～17:00 ◎講座企画会議② 講師：NPO 法人 エイブル・アート・ジャパン 代表理事 柴崎 由美子 氏ほか	5
		＜第5回＞ 2/17（土）14:00～16:00 ◎企画講座「ミンナシテマザール」	4
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	◇広報企画研修【全1回】 9/14（木）14:00～17:00 ◎講話とグループワーク 「効果的な情報発信の実践について」 仙台市市民活動サポートセンター 小田嶋 くるみ 氏	12

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
社会教育 研修	・生涯学習支援センター、各区中央市民センター等に所属する社会教育主事等 教育局職員	◇社会教育推進研修【全1回】 6/15（木）14:00～17:00 ◎講話「これからの社会教育主事に求めるもの」 栃木県総合教育センター 生涯学習部長 井上 昌幸 氏 ◎グループワーク	20
社会教育 研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・地域連携担当教員 ・嘱託社会教育主事 ・関係課職員 ・関係教員	◇学校との連携・協働研修【全1回】 10/20（金）14:30～16:45 ◎講話「学校と地域のよりよい姿を求めて」 ～地域みんなで楽しく子育てするには？～ 埼玉県生涯学習推進課 社会教育主事 兼 指導主事 岡田 直人 氏 ◎グループワーク	107
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員 ・希望する市民	◇学びの還元（ボランティア）研修【全1回】 12/7（土）14:00～17:00 ◎講話「外国人支援ボランティアの活動を知る！」 ・仙台観光国際協会国際化事業部 ・多文化共生センター ・外国人支援の会 OASIS ◎体験学習 「多文化共生センター 施設見学」 ◎グループワーク	21

（２）学びの還元（ボランティア）研修 （再掲）

＜生涯学習支援センター＞

「学びのまち・仙台」を支える基盤の充実を目指し、より多くの市民や団体等が、学びの活動に参画できるよう、市民や行政といった立場の違いを越えて理念の共有を図るとともに、ネットワークの構築を進めることを目的として実施した。

※職員研修・発展研修としても位置付ける。

(3) 地域コーディネーターリーダー研修

＜生涯学習支援センター＞

子どもを育む地域力を高める視点に立ち、地域内のコミュニケーションやネットワークの活性化を目指し、地域で核となる人材を育成する事業。実際に地域で活躍している市民（企画員）との協働により研修内容を企画・実施した。

受講対象	概 要	受講者
・学校支援地域本部事業、放課後子ども教室事業、図書室等開放事業、社会学級、学コミ事業の関係者 ・PTA 関係者、学校教員、児童館職員 ・市民センター職員 ・その他	◇第1回「地域コーディネーターリーダー研修会」 9/22（金）13:30～16:30 ◎講話・ワーク 「話し合いの場づくりのヒント」（ワールドカフェ、トークフォークダンス体験） 株式会社ばとん ファシリテーター/まちづくりコーディネーター 遠藤 智栄 氏 ◎助言 利府町文化交流センターリフノス センター長 野澤 令照 氏	34
	◇第2回「地域コーディネーターリーダー研修会」 2/23（土）13:30～16:30 ◎クロストーク 登壇者： ①仙台市立中田小学校 PTA 会長 松田 光太郎 氏 ②仙台市立芦口小学校 おやじの会会長 齋 利親 氏 ③仙台市立大沢中学校 学校支援地域本部 SV 川東 正治 氏 コーディネーター： 仙台市学びの連携推進室 主任指導主事 花海 聡人 氏 ◎助言 利府町文化交流センターリフノス センター長 野澤 令照 氏	41
	※地域コーディネーターリーダー研修会企画員会 研修会の方向性や内容の検討(全6回 延参加者 53名) ①5/18（木）15:00～17:00 ②6/16（金）15:00～17:00 ③9/5（火）15:00～17:00 ④10/17(火) 15:00～17:00 ⑤12/12(火) 15:00～17:00 ⑥3/5（火）15:00～17:00	

(4) ボランティア養成等人材育成事業

① 託児ボランティア養成・活動支援

＜生涯学習支援センター＞

子育て中の保護者が安心して学習できるよう、市民センターでは託児付きの講座を設けている（令和5年度実績：9事業）。

託児は、ボランティアグループによる主体的な運営を基本としている。そのため、託児ボランティアグループの活動を支援するとともに、新たな託児ボランティアの養成のための講座を実施している。

事業名	開催日	内 容	延受講者
託児ボランティア連絡会	5/10(水) 10/27(金) 3/1(金)	市民センターで活動する託児ボランティアグループの代表者等と意見交換を行うため、連絡会を開催した。	38
託児ボランティア養成講座	9/13(水) 9/20(水) 9/27(水) 10/4(水) 10:00～ 11:30	託児ボランティアとしての活動に必要な知識や技術を学ぶ講座（全4回）を実施した。 ①講話「子どもを取り巻く環境①」 落合保育所 保育士 桂 伴子 氏 ②講話「子どもを取り巻く環境②」 支倉保育所 保育士 渡部 愛 氏 ③講話「子どもの病気とけが」 青葉区保健福祉センター 家庭健康課 保健師 一條 梢 氏 ④話し合い・実技等「これからの活動に向けて」 ※ 9/6(水)にオリエンテーションを予定していたが、土砂災害警戒情報が発令されたため、開催を中止した。	51
託児ボランティアフォローアップ研修	10/27(金) 10:00～ 11:30	より質の高い託児室運営のため、託児ボランティアの資質や技術向上に役立つ研修を実施した。 講話「カトリヌ katoriinu の遊びのへや!」 香取 純栄 氏・高橋 桂子 氏	27

【託児ボランティアグループ一覧】（令和6年3月現在）

グループ名	設立年月	主な活動区域（区域以外での活動有り）	会員数
にんじん	S59.7	宮城野区	8
たんぽぽ	H3	太白区	11
アリスの会	H5.7	若林区、宮城野区	3
託児ボランティアグループ てっての会	H6.4	青葉区、泉区、宮城野区	8
クリップ	H9.4	若林区	7
ひまわり	H9.8	青葉区、泉区、宮城野区	7
でんでんむし	H12.3	太白区	9
さくらんぼ	H14.5	青葉区、若林区、泉区	5
ハイジ	H22.4	若林区、宮城野区、青葉区	3
合計 9 グループ / 会員数 61 名			

② 図書ボランティア活動支援

＜生涯学習支援センター＞

31 館の市民センターでは、市民センター併設の図書室等において市民ボランティアの協力により図書の貸し出しや選書等の運営を行っている。

【図書ボランティア一覧】（令和 6 年 3 月現在）

	グループ名	活動館	会員数
1	まったりお茶の間文庫	青葉区中央市民センター	4
2	さくらさくら	北山市民センター	11
3	カンナの会	福沢市民センター	8
4	ぼけっと	三本松市民センター	6
5	片平市民センター・児童館図書ボランティア	片平市民センター	5
6	（グループ名なし）	水の森市民センター	16
7	図書ボランティア「ひまわり」	貝ヶ森市民センター	8
8	（グループ名なし）	中山市民センター	4
9	図書ボランティアコスモス	大沢市民センター	12
10	葉の会	落合市民センター	12
11	たんぽぽ	吉成市民センター	5
12	かすみそう	高砂市民センター	4
13	しおりの会	岩切市民センター	12
14	もくれんの会	鶴ヶ谷市民センター	10
15	芽ぐみ	東部市民センター	4
16	ひまわり	幸町市民センター	3
17	（個人）	田子市民センター	1
18	わかば	荒町市民センター	7
19	（グループ名なし）	生出市民センター	5
20	ブックスフレンド中田	中田市民センター	11
21	（グループ名なし）	西多賀市民センター	3
22	八木山図書ボランティア委員会	八木山市民センター	28
23	図書ボランティア縄文	山田市民センター	12
24	（グループ名なし）	茂庭台市民センター	9
25	（グループ名なし）	東中田市民センター	3
26	ブックポケット	柳生市民センター	13
27	（グループ名なし）	松森市民センター	7
28	富沢市民センター図書室ボランティアの会	富沢市民センター	20
29	図書ボランティア「虹」	南中山市民センター	8
30	（グループ名なし）	七郷市民センター	8
31	（グループ名なし）	沖野市民センター	4
ボランティア数計 263 名			

③ 地域情報発信サポーター養成

<生涯学習支援センター>

地域情報発信サポーターを養成するための講座を行った。

開催日	内 容	受講者
1/13(土) 14:00～17:00	「コピーに学ぶ目をひくメッセージの届け方」 講師：鎌田高広事務所 鎌田 高広 氏	30
1/27(土) 14:00～17:00	「コピーに学ぶ目をひくメッセージの届け方」 講師：鎌田高広事務所 鎌田 高広 氏	25

(5) 実習受入

① 社会教育実習生

5つの大学からの依頼を受け、各大学の社会教育主事資格取得を目指す学生を社会教育実習生として生涯学習支援センター及び各区中央市民センターで受け入れ、公民館（市民センター）の概要や講座の企画立案・実践について指導した。

a. 施設実習 令和5年8月30日（水）～9月2日（土）

b. 講座実習 令和5年9月上旬～12月中旬

実習生 東北学院大学11名、宮城教育大学9名、青山学院大学1名、静岡大学1名
都留文科大学1名

② 大学生施設見学（生涯学習支援センター）

大学の授業の一環として施設見学を受け入れ、市民センター業務について学ぶ機会を提供した。

聖和学園短期大学……35名

③ 児童・生徒の職場体験実習

小学生、中学生、特別支援学校の職場体験実習を受け入れ、市民センター業務について学ぶ機会を提供している。

《生涯学習支援センターの受入実績》

小学校（1校8名）中学校・中等教育学校（2校5名）特別支援学校高等部（1校1名）

【小学校】

仙台市立榴岡小学校（第4学年総合的な学習の時間「弟子入り留学」）……8名

【中学校・中等教育学校】

仙台市立東華中学校……3名

仙台市立田子中学校……2名

【特別支援学校高等部】

仙台市立鶴谷特別支援学校高等部……1名

※各区中央市民センター（拠点館）においても、同様に児童・生徒の職場体験実習を受け入れている。

4 ジュニアリーダー

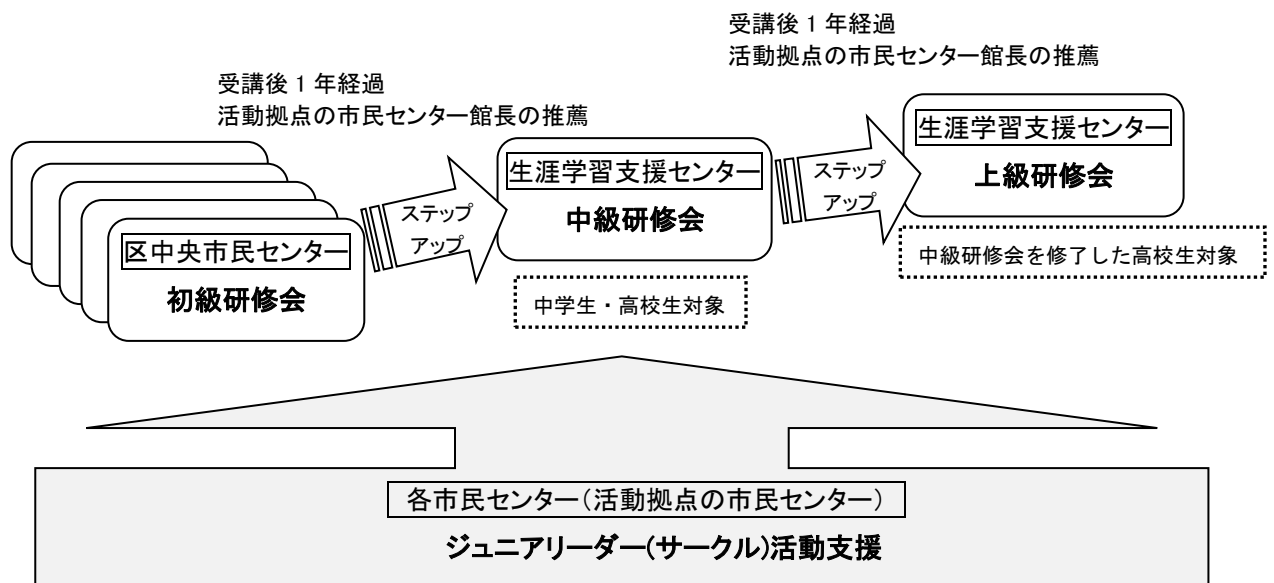
ジュニアリーダー育成・支援

ジュニアリーダーとは、青少年ボランティア活動の一環として、地域の市民センターを拠点とするサークルに所属し活動する中学生・高校生のことであり、地域の子ども会活動のお手伝いや様々なボランティア活動に積極的に取り組んでおり、自身の人格形成にも生かされている。

ジュニアリーダー育成支援は、社会教育における“青少年の健全育成”、また、“学びを通じた人づくり”の一環として位置づけられる重要な事業である。仙台市生涯学習支援センターおよび各区中央市民センターでは、ジュニアリーダーを育成するために、下図の通り段階的に研修会を開き、ジュニアリーダー活動に必要な知識や技能を習得する場を提供している。また、活動拠点となる地区市民センターでは、ジュニアリーダーが幅広い視野や責任を持って地域での活動を行えるよう支援を行っている。

【ジュニアリーダーサークルの主な活動】

- 自主企画(ジュニアと遊ぼう、交流会など)、定例研修会及び連絡会、各種研修会の実施
- 子ども会、市民センター、その他の機関からの要請による活動
 - ・子ども会行事の実施及び企画の補助
 - ・区民まつりへの参加
 - ・市民センター事業への補助
 - ・児童館行事のスタッフ 等



① ジュニアリーダー初級研修会

＜区中央市民センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会支部）

ジュニアリーダー活動の理念に触れ、興味・関心を高めるとともに、現ジュニアリーダーとの親睦を図り、今後の活動への意欲を持たせることを中心にした内容の研修を各区で実施した。対象者は、「新たにジュニアリーダーを志す中学生・高校生」とした。

研修内容：ジュニアリーダーの活動について、子ども会について、安全に活動するために 等

【令和 5 年度実績】

主催館名	開催日	受講者
青葉区中央市民センター	7 月 1 日（土）	15
宮城野区中央市民センター	12 月 9 日（土）	13
若林区中央市民センター	12 月 10 日（日）	30
太白区中央市民センター	7 月 1 日（土）	18
泉区中央市民センター	11 月 18 日（土）	35

② ジュニアリーダー中級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

活動の中心となるジュニアリーダーとして、より専門的な知識と高度な技術の習得を中心とした内容の研修を実施した。対象者は、「初級研修会を受講し、ジュニアリーダーとして活動を行っている中高校生」で、かつ、「子ども対象の要請または定例会やサークル活動に参加した経験があり、活動拠点となる市民センターの館長の推薦を受けた者」とした。

○41 名受講 8 月 2 日（木）、3 日（金） 会場：仙台市生涯学習支援センター

研修内容：今、ジュニアリーダーに必要なものとは？、リーダーとして要請の場で必要な力、子どもを引き付けるコツとは？、要請のプログラムを作成しよう、要請のプログラムを実践しよう 等

③ ジュニアリーダー上級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

青少年のボランティア活動と地域の子どもの会活動の一層の振興を図るために、仙台市ジュニアリーダー全体をまとめ、リードする立場にある高校生ジュニアリーダーの資質向上と技能の研鑽のための研修を行った。

対象者は、「中級研修会を修了し、引き続きジュニアリーダーとして活動している高校生または高校生の年齢に相当する者」、かつ、「活動実績・資質ともに上級リーダーとして適格であり、活動拠点となる市民センターの推薦を受けた者」とした。

本研修会は、ジュニアリーダー活動のスキルアップを中心とした内容で実施した。

○25 名受講 7 月 23 日（土）～24 日（日） 会場：オーエンス泉岳自然ふれあい館

研修内容：上級ジュニアリーダーとしての役割と心構え、子ども会と野外活動について、助言と援助の在り方について、集団運営の在り方について 等

④ ジュニアリーダー実践研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

上級研修会を受講したジュニアリーダーが講師となり、ジュニアリーダーとしてのスキルを伝達する研修会を実施した。併せて、5 区のジュニアリーダーが交流を深め、幅広い視野や責任感を持って地域で活動できるリーダーとしての資質向上・技術向上を図る場とした。対象者は、「仙台市ジュニアリーダー全登録者」である。

○55 名受講 12 月 2・3 日（土・日） 会場：オーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館
 研修内容：コミュニケーション研修、自分らしい表現をできるようになるう 等

【ジュニアリーダーサークル及び活動拠点館一覧】（令和 6 年 3 月現在）

区内連絡会	No	サークル名	登録数	活動拠点館名
青葉区（93 名） 連絡会『星のすなどけい』 （青葉区中央市民センター）	1	MRVC くまっこ	33	広瀬市民センター
	2	かめ吉	10	福沢市民センター
	3	朝実巢あかよばく	8	北山市民センター
	4	Colors	6	旭ヶ丘市民センター
	5	SKY	17	中山市民センター
	6	みずの森一ダー' S	4	水の森市民センター
	7	Blue Leaf Spirits	15	青葉区中央市民センター
宮城野区（58 名） 連絡会『Lovers』 （宮城野区中央市民センター）	1	高砂フレンズクラブ	10	高砂市民センター
	2	岩切ガンキリーズ	9	岩切市民センター
	3	鶴ヶ谷 Yourself	6	鶴ヶ谷市民センター
	4	幸町 Fortune	7	幸町市民センター
	5	With Us 宮城野	26	宮城野区中央市民センター
若林区（67 名） 連絡会『田んぼっ区』 （若林区中央市民センター）	1	郷郷七郷	6	七郷市民センター
	2	六郷村	6	六郷市民センター
	3	ビ野沖ヲ	6	沖野市民センター
	4	JARO	27	若林区中央市民センター
	5	ワンマイル荒町	12	荒町市民センター
	6	若林にゃくりん	10	若林市民センター
太白区（54 名） 連絡会『ANON』 （太白区中央市民センター）	1	なかだかな	3	中田市民センター
	2	おいでもん	5	生出市民センター
	3	ジュニアリーダーサークル Green Powers	0	秋保市民センター
	4	にしたがつつまん	23	西多賀市民センター
	5	ながまっくる	16	太白区中央市民センター
	6	moni-s	7	茂庭台市民センター
泉区（111 名） 連絡会『ざわざわ森』 （泉区中央市民センター）	1	七北田 JL サークルありす	16	泉区中央市民センター
	2	黒松ファミリー	4	黒松市民センター
	3	南光台アドバルーン	7	南光台市民センター
	4	もみの木カリヨン	0	根白石市民センター
	5	向陽台ぱびふぺパレット	0	松陵市民センター
	6	将監くれよん	4	桂市民センター
	7	南中山巣子つぶ	10	南中山市民センター
	8	高森流星サークル	10	高森市民センター
	9	寺岡流星サークル	2	寺岡市民センター
	10	みちのく松陵	11	松陵市民センター
	11	加茂プレゼント	7	加茂市民センター
	12	パズル鶴が丘	2	松森市民センター
	13	根住 s	13	根白石市民センター
	14	AMYY	25	長命ヶ丘市民センター
市全体（383 名／38 サークル） 仙台市連絡会『ずんだ』（生涯学習支援センター）				

5 地域社会教育推進

(1) 学びのコミュニティづくり推進事業

<生涯学習支援センター>

子どもの健やかな育ちを支援するつながりを地域に育てることを目的として、平成 13 年度に事業を開始。

区 分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
委託団体数（うち新規委託団体数）	5(1)	2(0)	1(0)	3(3)	7(3)

《令和 5 年度の委託団体》7 団体

団体名	区	学校区	ねらい・概要	委託状況
幸町おやじの会	宮城野	幸町小	子どもたちに、普段の生活では体験できないことを味わわせること、親子共通の体験を通して、親子のコミュニケーションを図るための一助となることを目指している。	3年目
芦口学コミ推進委員会	太白	芦口小	子どもの健やかな育ちを支援するために、地域の様々な団体が連携し、児童、保護者、住民などを対象とした子供と大人の交流や自然体験などを実施している。	2年目
国見小学校学びのコミュニティ小萩	青葉	国見小	国見小学校支援地域本部さぼーと小萩を中心とした地域の様々な団体が「子どもの笑顔のために」目的意識を共有し、多世代の交流により地域全体で子どもたちを見守り育む環境を目指している。	2年目
新田 SPOT	宮城野	新田小	新田学区を面白くしたい、新たな人と出会いたい、多様な人ともっとつながりたい、という前向きな気持ちをもとに地域全体で学びのコミュニティを形成し、子供たちの健やかな育ちを支援している。	2年目
西中田小学校学びのコミュニティ推進委員会	太白	西中田小	地域で行われる行事等において、参画を希望する子どもたちが企画立案した事業を地域住民とともに遂行することで異世代間の「顔の見える関係づくり」を進め、地域団体が CS の目指す子ども像の実現のため協働して事業に取り組む。	1年目
柳生小おやじの会	太白	柳生小	地域の子どもたちの健全な成長を、大人が積極的に関わっていくこと、地域のコミュニティを推進する役目を担うことをねらいとしている。	1年目
TERAMURA まなこみ	泉	寺岡小	子どもの健やかな育ちを支援するための多様な人間関係を地域に育てる。学校、PTA、町内会等の団体が連携して子どもと大人の交流や自然体験、社会体験の機会を提供するコミュニティづくりを促進させる。	1年目

(2) 学びのコミュニティづくり推進事業支援等 (再掲)

「学びのコミュニティづくり推進事業」の委託団体及び、3年間の委託期間終了後も自主的に事業を実施している団体に対して活動支援を行った。

○実施団体研修会

＜生涯学習支援センター・各区中央市民センター＞

委託期間が終了した後も自立した活動を行っている 29 団体を含めた、事業実施団体連絡会による研修会を開催し、団体相互の情報共有を図った。

※3 人材育成 (3) 地域コーディネーターリーダー研修 第 2 回地域コーディネーターリーダー研修会としても位置付ける。

【委託終了後の事業に対する継続的支援等】

館名・事業名	概 要	実施回数	延参加者
青葉区中央市民センター			
かみすぎねっと	上杉山通小学校区の学校関係団体・地域団体等との連携により、子どもの健やかな育ちに資する事業を実施した。 ・7月27日 第1回幹事会 ・7月22日～23日 学校へ泊まる	1 1	31 27
宮城野区中央市民センター			
榴岡かいわい学びのコミュニティづくり推進事業	仙台駅東口かいわいの幼児、小学生を対象として遊びの広場を提供した。また、地域の住民や中学生、ボランティア等の参加も促し、異世代間の交流を図る。 ・推進委員会（通年） ・12月16日 つつじがおかワイワイ冬まつり	6 1	147 307
若林区中央市民センター			
区内小学校合宿等支援	学びのコミュニティづくり推進事業から続く「通学合宿！連坊！」など区内小学校の合宿等の事業を支援する。 ・実行委員会（7月、9月、12月） ・通学合宿（10月）	3 1	49 49

太白区中央市民センター				
ながまち学びネット	長町中学校区の児童・生徒や保護者、地域住民とともに、子どもたちの健全育成を目的とした参加体験型の活動を行うことを通して、地域のコミュニティ形成と連携した地域づくりを目指す。 ・令和5年8月30日 コアメンバー会議 ・令和5年11月23日 森の響き たき火と星編（地底の森ミュージアムにおける小中学生を対象とした星空観察イベント）	1 1	5 48	
がんばれ秋保っ子	秋保中学校区の各団体と協力して事業を実施することで、地域全体で子どもを育てていくきっかけをつくることを目的とし、事業開催に向けて話し合いを行う。※令和5年度は秋保郷土かるた大会を秋保、湯元、馬場小の三校から参加者を募集し、行った。	0	8	
おいで里ネット	おいで里ネット推進委員会（おいでわいわいサミット）の意向で、小中学生の有志による企画員会議を開催し、企画案を実現させる形でイベントを実施した。 イベント名を「夏のひんやり ドキドキフェスタ」として、流しそうめんやサバイバルゲーム、花火などを楽しむ企画を行った。 【市民企画会議「おいで里ネット委員会」全4回】 令和5年4月20日、6月2日、7月21日、 令和6年3月22日 企画会議 令和5年8月5日 夏のひんやりドキドキフェスタ	4 1	16 62	
泉区中央市民センター				
区内学コミ連絡会	区内で活動している各学コミ団体と情報を共有し、学コミの活動の促進ならびに拡大を図っている。令和3年度からは各団体代表者に電話やメールで近況を確認し泉区HPでの情報共有を行っている。	適宜		
ふれあい学びネットい・ず・み推進委員会	七北田中学校区内の諸団体が連携し、青少年健全育成事業の展開を図るとともに、子どもの居場所づくり事業について協議、企画、実施している。 ・役員会、推進委員会（通年） ・あそびの天国 2024（令和6年2月25日）	15 1	188 210	

6 学習情報提供

(1) 学習情報レファレンスシステム・市民センターホームページの運営等

＜生涯学習支援センター＞

学習情報レファレンスシステムは、市民の学習意欲に応え、的確な情報提供サービスを展開することで、効果的に市民の学習活動を支援するため、生涯学習支援センターと市民センターとをネットワークで結び、生涯学習に関するより新しい情報を提供するとともに、市民の学習相談に応じることを目的に運営している。

平成 26 年 11 月にシステム更新を行い、「市民センターホームページ」と「学習情報データベース」の運用を開始して、生涯学習情報の発信と蓄積を一体的に行うほか、新たなホームページでは、各市民センターの情報を集約・統合して発信する等、市民にとってより検索しやすく、分かりやすいページ構成とした。また、スマートフォン・タブレット等でも閲覧可能なホームページとなっている。

令和 2 年 2 月からは、動画が公開できるよう YouTube 上に「仙台市市民センターチャンネル」を開設し、市民センターホームページに設けたリンクからアクセスして、講座や事業の様子を紹介する動画等を閲覧できるようにした。令和 6 年 3 月末現在、112 本の動画を公開している。

【令和 5 年度 市民センターホームページアクセス件数】

アクセス件数	792,091	一日あたりの閲覧数	2,170
--------	---------	-----------	-------

【市民センターホームページURL <https://www.sendai-shimincenter.jp/>】



2次元コード

(2) 市民センター事業ガイド

＜各区中央市民センター・生涯学習支援センター＞

講座等参加者の募集中、募集予定がある事業について、区ごとにまとめ、毎月 1 回発行して、市民への情報提供を行った。市民センターホームページでも公開している。

(3) 「学都仙台サテライトキャンパス」支援等

＜生涯学習支援センター＞

大学等の高等教育機関の連携組織である「学都仙台コンソーシアム」（平成 18 年設立）のうち「サテライトキャンパス部会」で実施する公開講座「学都仙台サテライトキャンパス」や部会構成校が独自に実施する市民向け公開講座について、市民が円滑に講座を受講できるよう、広報及び情報提供等の支援を行った。

7 各区中央市民センター事業

(1) 嘱託社会教育主事研究協議会区部会との共催事業

嘱託社会教育主事（社会教育主事資格を持ち学校に在籍している教員）研究協議会の各区部会と各区中央市民センターの共催による事業を通して、子ども達の健全育成や地域コミュニティの活性化を図り、地域で子どもを育てる環境づくりを推進した。

館名	内容	実施回数	参加者
青葉区中央市民センター	6月20日 青葉区社会教育推進研修会 7月1日 ジュニアリーダー初級研修会 1月20日～2月17日 インリーダー研修会 11会場	13	376
宮城野区中央市民センター	5月～2月 宮城野区社会教育推進連絡会・事業検討会（4回） 6月27日 宮城野区社会教育推進連絡会研修会 8月2日～18日 インリーダー研修会（8会場） 10月14日 体験活動事業「蒲生干潟生き物観察会」 12月9日 宮城野区ジュニアリーダー初級研修会	15	460
若林区中央市民センター	6月22日 若林区地域学校協働推進会議 10月29日 親子でチャレンジ！若林デイキャンプ 12月10日 ジュニアリーダー初級研修会 2月2・4・17日 インリーダー研修会（5館）	8	376
太白区中央市民センター	6月20日 第1回地域連携ネットワーク会議 6月～1月 太白区内地域連携ネットワーク事業（各中学校区で事業実施） 7月1日 ジュニアリーダー初級研修会 12月9日 インリーダー研修会事前打合せ会 1月～2月 インリーダー研修会 1月23日 第2回地域連携ネットワーク会議	29	828
泉区中央市民センター	5月～2月 泉区社会教育を考える会 6月22日 泉区地域と学校をつなぐ研修会 11月18日 泉区ジュニアリーダー初級研修会 6月～2月 インリーダー研修会 12月9日 第3回みんなでジャンプ！2	25	813

(2) インリーダー研修会

子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学習するための研修会を実施している。

【令和5年度実績】

区	開催状況
青葉区	11 回開催 284 名参加
宮城野区	8 回開催 299 名参加
若林区	5 回開催 200 名参加
太白区	10 回開催 413 名参加
泉区	18 回開催 544 名参加

(3) 生涯学習研究事業

◎事業例 泉区の社会教育を考える会

＜泉区中央市民センター＞（事業検討4回、延参加者：37名）

区内の社会教育について、嘱託社会教育主事研究協議会泉区部会と協働で、既存の事業の見直しや、新たな事業の企画を行った。また、それら事業を実施検証し、泉区の社会教育事業の新たな展開の可能性を探り、活性化につなげた。

(4) その他の主な事業

館名	事業名	内容	開催回数	参加者
青葉区 中央市民 センター	子どものための 日本語講座	日本語を母語としない小学生、中学生に日本語を学習する機会を提供し、充実した学校生活が送れるように支援している。	34	458
	せんだい日本語 講座	在仙の外国人等に、日常生活に必要な日本語習得の機会を提供するとともに、日本の伝統文化に触れ交流する場を設定することで、国際交流や多文化理解を促進している。	675	5,427
宮城野区 中央市民 センター	青空ミーティング事業	地域活性化や地域の新たな人材育成、また、市民センター事業の見える化を図ることをねらいとした事業。宮城野区中央市民センターと宮城野区役所、JR 陸前原ノ町駅に囲まれた芝生広場を活用して、市民企画員と共に企画運営する「青空縁日」を年間3回、宮城野図書館と連携して行う「ぬいぐるみおとまり会」を7月に1回実施した。	12	355
	町の未来をえがこうプロジェクト	小学生が国語科や総合的な学習の時間の授業で考えたまちづくりのアイデアを市民センターや関係団体と協働し実現させる事業である。宮城野小、榴岡小、鶴谷小で実施された。	5	503

若林区 中央市民 センター	まなびごっこ	若林区内で活動する生涯学習指導者ボランティアグループ「まなびごっこ」がこれまでに培った知識や技術を生かして、当センターと共催で、誰でも参加しやすい内容の「小物づくりシリーズ」「歴史講座」等 6 種の講座や教室を開催した。	47	933
太白区 中央市民 センター	長町・あすと長町 地域活性化事業	長町商店街連合会と地域内各企業が共催するイベント「長町秋のフェスティバル 2023」の企画運営等の支援を行った。「スポーツ」や「縁日」をテーマに、主に子どもを対象とした様々な市民参加型の事業を実施した。	7	1,500

8 仙台市公民館運営審議会

社会教育法第29条、仙台市市民センター条例第13条に基づき、市民センターにおける各種の事業の企画実施につき調査審議を行う、本市が設置するすべての市民センターに共通の公民館運営審議会として設置している。

現委員は14人で、任期は令和5年11月1日から令和7年10月31日までの2年間となっている。

【委員名簿】 [令和6年3月31日現在]

氏 名	職業または所属団体
○ 相 澤 雅 子	仙台市立南小泉中学校学校支援地域本部スーパーバイザー
市 瀬 智 紀	宮城教育大学教育学部 教授
伊 藤 美由紀	東北工業大学ライフデザイン学部 准教授
門 脇 佐 知	株式会社ユーメディア執行役員 メディアクリエイション部部長
熊 谷 敬 子	仙台市立岡田小学校 校長
坂 入 幹 雄	仙台市連合町内会長会 庶務理事
佐々木 心	仙台市議会 議員
佐 藤 正 実	風の時編集部 代表
佐 藤 美智子	公募委員
千 田 恵	仙台市社会学級研究会 会長
塚 田 昭 美	地域夢つなぐ実行委員会Wakka 代表
◎ 原 義 彦	東北学院大学地域総合学部 教授
牧 靖 子	マイスクール川平 コーディネーター
三 浦 和 美	東北福祉大学教育学部 教授

◎：会長 ○：副会長 敬称略・50音順

【近年の審議内容(平成15年度～令和5年度)】

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 15 年 10 月 7 日	提言	市民センターにおける子どもの事業のあり方について	1 審議会における検討の過程 2 子どもの事業に取り組む課題と視点 3 ジュニアリーダーの育成と活動支援 4 学社連携・融合事業について 5 学校週 5 日制に対応した事業について
平成 17 年 9 月 12 日	提言	市民センターにおける市民参加と市民協働の推進について	1 市民参加と市民協働の課題 2 市民センター運営における市民参加について 3 市民企画委員によるプログラムづくりについて 4 市民参加を広げる事業活動をめざして
平成 19 年 10 月 30 日	答申	市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて	1 見直しの背景 2 見直しにあたっての考え方 3 市民センターの施設理念と運営方針
平成 21 年 10 月 13 日	報告	審議の経過報告	1 今期審議会のテーマ設定と議論の経緯について 2 経過報告のまとめについて <これまでの審議内容(各委員の意見)の概要> 1 市民センターの区への移管について 2 連携事業の調査からみえてきたもの <市民センターが大切にしてきた社会教育の価値とは> (梨本雄太郎委員) <区行政との「融合」をめぐる> (石井山竜平委員)
平成 22 年 3 月 16 日	意見	「次期行財政改革計画(素案)」に対する意見書	区役所への移管については課題や懸念があることから、それらを解決・解消した上で判断するべきと考える。
平成 22 年 8 月 31 日	提案	市民センターを拠点とした新しいまちづくりの提案ー仙台プランー	<市民センターを拠点とした新しいまちづくり> 1 意識を変える 2 人材発掘・育成とネットワーク化 3 市民の活動の場を生み出し支援する <新しいまちづくりに向けた市民センターの新たな一歩 / 今後の取り組み[提案] / 仙台プラン対応事業案> 1 住民参画・問題解決型学習事業 2 子ども参画型社会創造事業 3 学社連携・既存の事業範囲枠を超えた公共施設の連携事業
平成 23 年 1 月 25 日	意見	「市民センターを生かした地域づくりの推進」に関する意見	1 検討の進め方について 2 組織見直しをめぐる課題について
平成 25 年 5 月 31 日	答申	仙台市市民センター事業の評価のあり方について	1 これまでの経緯 2 評価の現状と基本的な考え方 3 本審議会が実施する外部評価 4 本審議会以外が実施する外部評価 5 まとめ

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 25 年 10 月 26 日	報告	平成 24 年度仙台 市市民センター事 業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果 4 まとめ
平成 25 年 10 月 26 日	意見	仙台市市民センタ ーの施設理念と運 営方針の見直しに 関する意見につい て	1 「仙台市市民センターの施設理念」について 2 「仙台市市民センター事業の運営方針」について 3 「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」につ いて 4 東日本大震災を踏まえた内容の見直しについて 5 その他
平成 26 年 7 月 31 日	報告	平成 25 年度仙台 市市民センター事 業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果 4 まとめ
平成 27 年 8 月 25 日	報告	平成 26 年度仙台 市市民センター事 業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果 4 まとめ
平成 27 年 10 月 17 日	意見	震災を踏まえた今 後の市民センター 事業のあり方等につ いて	1 震災後の取り組みの成果と課題 2 今後の市民センター事業に関する委員の意見
平成 29 年 3 月 23 日	報告	仙台市市民センタ ー事業評価報告書	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果
平成 29 年 10 月 23 日	意見	仙台市市民センタ ー事業評価に関す る意見について	1 事業評価について 2 事業運営懇話会等について
平成 30 年 11 月 8 日	報告	仙台市市民センタ ー事業評価報告	1 評価の目的 2 評価の実施 3 評価の結果

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
令和元年 7月4日	答申	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し(第二次)のあり方について	<見直しのあり方に関する意見> 1 拠点館の役割の再検討及び記載の明確化について 2 「震災を踏まえた市民センターの役割と取組」の記載事項の内容・構成の再検討 3 「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」の記載事項の内容・構成の再検討 4 全体、他の項目への意見等
令和2年 11月5日	意見	今後の市民センター事業に関する意見について	<新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業に関する意見> 1 オンラインと対面(リアル)のバランスについて 2 子どもの育ち・交流・実体験の場となることについて 3 記録を残すことについて 4 グループ討議を踏まえた意見など
令和3年 10月28日	報告	仙台市市民センター事業(子ども参画型社会創造支援事業)調査研究報告書	- I 調査研究について - II 対象事業について - III 調査研究の進め方について - IV 事業評価について - V まとめ
令和5年 8月24日	答申	住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について	1 各事業のこれまでの成果と課題 2 各事業の現状に関する評価 3 今後の展開について

【審議経過】

開催日	会議種別	協議議題
令和5年 5月18日(木)	定例会	協議： (1) 諮問「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」に係る答申作成について
令和5年 7月6日(木)	定例会	協議： (1) 諮問「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」に係る答申作成について
令和5年 8月24日(木)	定例会	答申： 「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」[答申]
		報告： 障害者の生涯学習推進事業「ミンナシテマザール」
令和5年 11月16日(木)	定例会	(1) 会議の公開、非公開について 協議： (2) 議事録及び署名人について (3) 公民館運営審議会定例会の進め方について
		報告： (1) 仙台市公民館運営審議会について (2) 仙台市市民センターの概要について
令和6年 1月25日(木)	定例会	協議： (1) 今期の日程について (2) 今期の審議テーマについて
		報告： (1) 仙台市市民センターの事業の概要について～仙台市 市民センターの施設理念と運営方針から～ (2) 仙台市市民センターの運営について
令和6年 3月14日(木)	定例会	(1) 本日の協議の進め方 (2) 地区市民センター（地区館）事業について 協議： ・大沢市民センター ・八木山市民センター ・加茂市民センター (3) 意見交換

Ⅲ 地区館事業

令和5年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿革〕

青葉区中央市民センターは、昭和40年4月、市立東二番丁小学校に「仙台市市民教養センター」として開設され、昭和61年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和63年1月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館した。平成13年4月、隣接の「アスピア一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高い。また、仙台市の日本語講座が継続的に行われていることから来館する外国人も多く、国際交流の場としても一翼を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	大解剖！映像のチカラ		
参加者	中学生、高校生、大学生、成人	延参加者	31人
開催日	全5回 令和5年5月20日（土）～令和5年9月9日（土）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	情報伝達手段としての映像の需要が増えていることに伴い、若い世代を対象に映像の仕組みや魅力について学びを深め生涯学習に役立てる。また習得した知識を活かして身近なイベントや人などを撮影対象にすることで、コミュニケーションづくりにつなげる。		
概要・成果	映像に関する初歩的なことから技術的なことまで幅広い学びを供し、各自で動画制作作業を行ない、それを発表・講評した。受講者の意欲的な参加の姿勢から、需要の高さがうかがえた。制作過程で、各々が身近なものを撮影対象にすることでそれぞれコミュニケーションが生じていた様子が完成作品から見ることができた。またその作品を講座で発表することで受講者同士でも活発な意見交換が行われ交流が図れた。この技術を生かした地域のお店のPRなど、発展性のあるイメージを持ってもらうことができた。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなの子育て広場	親子を対象に、年齢に合わせた絵本の選び方と読み聞かせ、工作、リトミックとミニコンサート、人形劇鑑賞会、子育て中の保護者を対象にアンガーマネジメントを実施した。	6月17日～2月15日	5	48
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動をより充実させるため、小学5年生代表児童と世話人を対象に、子ども会についての講話と情報交換、レクリエーションなどの実技を行った。	1月27日	1	37
あおちゅう子ども大学	小学校5～6年生を対象として、好奇心や学びたい気持ちに応えるため、知能工学・消防・防災・図書館学の講義や実験・体験・バックヤードツアー等を行い、多くの学ぶ機会を提供した。	7月26日～1月20日	5	33
★小学生の防災減災講座	小学生を対象に、クイズやゲーム等の遊びを通して楽しみながら防災意識の向上を図った。グループ毎に避難経路をシミュレーションして発表し合った。	12月10日	1	5

一番町地域学習	小学生を対象とした歴史学習として、東二番丁小学校では、3つの神社を巡り、地域の歴史への興味関心や愛着を高めた。立町小学校では古い地図を見た後で、まち歩きを行い、変化の様子を学ぶ機会を提供した。	6月2日 12月7日 12月14日	3	106
図書ボランティア連携講座	図書ボランティア「まったりお茶の間文庫」と企画会を行い、大人を対象に絵本の魅力を伝える「香さんチョイス大人のための絵本」講座（全2回）を実施した。	4月11日～ 11月21日	5	57
あおばカレッジ	高齢者を対象に、歴史・文化・健康講座やコンサート、館外学習等を実施した。また、SDGsの取組目標についても学び、食糧や資源等を考える機会とした。	6月16日～ 2月16日	8	246
市民企画実施講座 まちなか散歩「杜の都仙台を知ろう！」	時代が変わった今でも人々の暮らしに根付いている卦体神（干支の守り本尊）について、風習・歴史・文化等を学習し、まち歩きを実施した。	10月26日 11月9日 11月16日	3	19
市民センターまつり	各世代の人々が参加して交流する機会として、ステージ発表、作品展示の他、体験コーナーや健康相談ブース等を設け、運営ボランティアも加わり実施した。	9月23日 9月24日	2	1,016
一番町みんなのステージ	幅広い年齢の方々に足を運んでもらえるように、吹奏楽、チェロ、パーカッション、ジャズのコンサート、ジャグリングの体験会や音響システムボランティアへの講習会も実施した。	5月27日～ 12月23日	6	470
青葉区中央市民センター地域懇話会	地域の団体や学校・利用者等との情報交換の機会を設け、市民センターの事業への理解を深めて貰いながら地域課題の共有化を図った。	6月14日 11月21日	2	12
市民企画会議まちなか散歩「杜の都仙台」を知ろう	企画会議の話し合いのなかで、まち歩きと仙台ならではの歴史・文化等を知る機会にしたいとの意見から、「市民企画実施講座 まちなか散歩『杜の都仙台を知ろう！』」を企画実施した。	6月21日～ 11月28日	7	5

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

学校と地域団体等とのコーディネート

仙台白百合女子大学より「NP0・NGO・社会教育インターンシップ」の受け入れ依頼があり、主催事業「市民センターまつり」における子ども向けの遊びのコーナーの企画や、当日の運営サポートとして協力いただいた。学生が企画し、担当した「お菓子作り」のコーナーは子ども達から人気で、賑わいづくりにつながった。また、当日の運営にはインターンシップの学生その他、地域の高校生ボランティアも参加し、異なる学校や年齢の若者同士が交流しながら、地域イベントに参加する機会をつくることができた。

柏木市民センター

〔沿革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台高等学校(後に仙台女子高等学校)の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●仙台伝統ものづくり塾実行委員会共催事業 「仙台簞笥の魅力に触れよう！フォトフレーム金具付け体験」、 「堤焼の歴史を知る - 佐大商店登り窯を訪ねて」、「柳生和紙作り体験」		
参加者	成人	延参加者	49 人
開催日	全 4 回 令和 5 年 8 月 23 日（水）～令和 5 年 11 月 17 日（金）		
協力者・協力団体	仙台伝統ものづくり塾実行委員会（いきいき青葉区推進協議会）		
ねらい	藩政時代からの伝統文化が根付く仙台において、地域の特色ある歴史資源や職人技などについて、市民が学び親しむ機会を提供する。古くから多くの職人が暮らしていた柏木界限を起点として、地域資源の再発見と活性化に寄与することを目指す。		
概要・成果	平成 27 年度から継続している仙台伝統ものづくり塾実行委員会との共催で、仙台簞笥の金具付け体験、佐大窯の見学と型抜き体験、柳生和紙作り体験講座を実施した。深く触れる機会が少ない仙台伝統のものづくりの歴史を学び、職人技を見てその奥深さを味わい、実際に体験したことで、地域の歴史資源等への愛着を深めた。 なお、令和 5 年度は、初めて市民企画員による企画講座「堤焼の歴史を知る」を実施した。企画員たちが、訪問先の佐大窯の実地調査や堤人形の型抜き体験の試作等を自ら行い、当日は運営側として尽力した。長く続いている事業だが、有志市民の積極的な参加により新たな展開が生まれた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
柏木ワンダーランド	小学生を対象に、仙台簞笥の金具打ち体験、八幡地域のまち歩き、移動天文車による星空観察、科学実験を行い、家庭や学校では体験できないプログラムを提供した。	8 月 17 日 10 月 28 日 1 月 12 日 3 月 9 日	4	74
インリーダー研修会	子ども会の次期リーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義やレクリエーションゲームの実践方法等を学んだ。	1 月 20 日	1	39
みんなでチャレンジ in 柏木	地域に興味関心を持つきっかけづくりを目指し、小学生と保護者を対象に「八幡・通町の地域団体との企画会」で企画した LED ランタンづくりとスポーツチャンバラ体験を実施した。	8 月 26 日 11 月 18 日	2	61

我がまち再発見～語り継ぎたいまちの記憶～	通町、八幡町地域の人たちに、昔の資料や撮影した写真を用い、古くから住んでいる地域住民の記憶を掘り起こすとともに、新たに転入してきた住民にまちの歴史を伝えた。	4月22日～ 2月10日	6	35
柏梁学院	高齢者を対象に、講話や館外見学、体験型学習など多様な学びと自主運営のサークル活動を通して、学習意欲を喚起し、受講生相互の交流を深めた。	4月12日～ 3月6日	11	505
地域防災講座	通町地区の住人を対象に、小学生と地域住民が防災について共に学ぶ機会を設けた。また、自助・共助に関する講座を実施し、今後の災害に対する意識の向上を図った。	6月17日 6月30日 10月14日	3	519
交流広場「ギャラリー☆かしわへようこそ」	地域住民を対象に、ロビーを活用した地域団体の作品展示や折り紙ワークショップ、コンサートを開催し、気軽に集い、交流できる場を提供した。	7月7日～ 3月2日	5	348
地域の魅力発信講座	地域住民を対象に、地域の歴史や自然をテーマに講話やまち歩きを行うことでその魅力を発信し、愛着や関心を深めることができた。	10月19日～ 12月19日	7	177
てらまちフェスタ 2023 —あそびでつながるまちづくり—	通町地区の地域団体が実行委員会を組織し、秋休み中の小学校を会場とした遊びを通して交流できる場を提供した。	10月11日	1	402
第20回柏木ふれあいまつり	地域のつながりづくりを目的に、町内会、市民センター利用サークル、地域団体と実行委員会を組織し、まつりを開催した。作品展示、ステージ発表、体験コーナー、出店などを行った。	10月1日	1	502
柏木地域懇話会	連合町内会をはじめ地域諸団体との新型コロナウイルス感染症収束後の連携について、情報収集に努めるとともに、得た情報を事業に生かした。	5月23日 1月24日	2	15
八幡・通町の地域団体との企画会	八幡・通町小学校のおやじの会と学校支援地域本部のメンバーが企画員となり、小学生親子を対象とした講座を企画・運営した。また、企画員のつながりづくりと地域人材の発掘を図った。	5月12日～ 12月15日	6	21

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体会議の事務局運営と関係団体のコーディネート

市民センターでは地域の15団体で構成する「ご近所会議」の事務局と、会議参加団体を中心となって開催する地域イベント「てらまちフェスタ」の事務局を担っており、関係団体である通町小学校、通町児童館、通町地区町内会連合会、近隣保育園等との連絡調整や実行委員会運営を行っている。コロナ禍で開催を見送っていた「てらまちフェスタ」は、令和4年度に規模を縮小して実施、令和5年度は、コロナ禍前の賑わいを取り返すべく協議を重ね、オープニングイベントや飲食コーナーを復活させた。参加・協力団体は前年の15団体から22団体に増え、地域が一体となって開催するイベントとして定着してきている。

北山市民センター

〔沿革〕

北山市民センターは、昭和49年7月に北山福祉会館として設置され(所管は仙台市社会福祉協議会)、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成2年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成23年1月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡宮、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	わたしのまちの歴史探検		
参加者	仙台市立通町小学校 5 年生	延参加者	64 人
開催日	全 1 回 令和 5 年 11 月 21 日 (火)		
協力者・協力団体	仙台市立通町小学校、北山ガイドボランティア		
ねらい	北山地域には由緒ある神社・仏閣が多数あるが、地域の子どもたちがその歴史に触れる機会は多くない。北山地域に住む子どもたちが、地域学習の一環として周辺の歴史的資源とその魅力・価値を学ぶことにより、地域に対する関心を高め、理解を深めることを目指す。		
概要・成果	北山五山（輪王寺・資福寺・覚範寺・東昌寺・光明寺）の歴史や寺院にある偉人の墓石・史跡・記念樹木などの地域資源についての現地学習を中心に、学校の授業として事前の見学ポイントの整理や事後の振り返り学習を行った。 実際に現場で体験することで、児童は歴史的資源をより深く理解することができたと同時に、改めて地域に対する関心を持つきっかけとなった。また、北山ガイドボランティアが講師として参画し、地域で活動する団体と児童との交流の機会にもなった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン 2023	未就学児親子を対象に、音楽に合わせて体を動かすリトミックやビーズを使った楽器づくり、絵本の読み聞かせを行った。	8 月 26 日 11 月 25 日 12 月 9 日	3	37
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の次年度リーダーとなる児童と世話人を対象に研修を行った。子ども会活動の充実と活性化を図るための知識を、講話やゲームを通して主体的に学習した。	1 月 20 日	1	39
きたやまキッズクラブ	小学生向けに学校生活では体験できない内容を取り入れ、おもちゃ病院メンバーが講師の「クリップモーター作り」、JL と一緒に「ニュースポーツ体験」、移動天文車ベガ号での「天体観測」を行った。	7 月 29 日 9 月 30 日 12 月 1 日	3	63
地域の魅力発信講座	地域への理解を深める機会を提供するため、柏木市民センターと共催で、まち歩きや知事公館の見学、慶長遣欧使節の講話を通して地域資源について学ぶ講座を実施した。	11 月 2 日 11 月 9 日 11 月 30 日 12 月 7 日	4	74

心もからだも健やかに	ニュースポーツを中心に、ストレッチや軽い筋力トレーニングを交えて体を動かした。運動を通してストレスを軽減する方法を学ぶとともに、地域住民同士が交流する場となった。	11月15日 11月29日 12月13日	3	26
北山市民医学講座	健康な地域作りに寄与するため、頸部・腹部超音波検査、骨・関節ケア、感染症、食道疾患と手術治療、災害医療をテーマに、病院医師や大学准教授による医学講座を実施した。	5月24日～ 3月27日	5	181
北山さんぽみちー過去から未来へ	1・2回目はまち歩き講座を行い、その参加者から企画員を募った。企画員自身の地域学習と企画会を行い、地域への理解を深めた。その学びの成果を地域住民に広めるため、3月に公開講座を企画・実施した。	6月15日～ 3月7日	11	80
北山シルバースクール2023	高齢者の交流の場を作るため、音楽、文学、健康運動、北山交流まつりへ展示する「もんきりがた」の作品を制作した。また睦美会運営委員会を中心に文集「睦美の華」を作成した。	5月26日～ 2月16日	9	225
北山地域防災講座	令和6年度の三条中学校避難訓練につながる基礎講座と位置付けて、町内会や近隣の大学を中心とする関係団体とともに、次の大地震を引き起こすと言われる断層のメカニズムや想定被害を学んだ。	8月12日～ 1月11日	6	47
第16回 北山交流まつり	地域住民の交流の場作りを目的に、ステージ発表・展示発表・体験コーナーの3部門で実施した。町内会や地域活動団体・サークル、保育園や児童館、小中学校が参加した。	10月14日 10月15日	2	504
地域懇話会	町内会や地域諸団体との相互理解を深め、協力関係を築くことを目的に実施した。センター事業の概要や進捗の共有と各団体の意見・要望を把握し、センター事業の企画・遂行の改善に役立てた。	7月5日 1月26日	2	25

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「北山ガイドボランティア」の活動支援

「北山ガイドボランティア」は、北山五山からスタートし、新坂町・柏木・子平町と範囲を拡げてガイド活動を行ってきた。しかし最近ではコロナ禍を経てガイド依頼が減り、さらに夏の暑さもあってガイド活動の幅を拡げる必要がでてきた。そこで、新しい活動の試みとして現地へ行かなくてもできるバーチャルガイドを企画した。市民センターでは、その活動を支えるためパワーポイント資料作りへの助言や、市民企画員を受講生にしたトライアル講習などをコーディネートした。

福沢市民センター

〔沿革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設して開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を含め、歴史を感じる雰囲気をも今にとどめており、下町情緒に溢れている。現在では仙台市中心部から近いこともあり、マンションが建ち並ぶ新旧住民が混在した地域である。ここ数年地域の総人口は増加に転じているが高齢化が著しく進む地域でもあり、災害等に備えた地域コミュニティの形成がより重要となりつつある。

当センターでは、地域コミュニティ形成のために様々な方法で取り組みを工夫し実施している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	福沢こども遊ばせ隊		
参加者	地域内の小学生親子	延参加者	219 人
開催日	全 7 回 令和 5 年 5 月 20 日（土）～令和 6 年 3 月 24 日（日）		
協力者・協力団体	東北福祉大学ボランティアサークル「ふぁみりあ」、常盤木学園高等学校ボランティア		
ねらい	子ども達の健全な育成を地域全体で見守る活動を行ってきたボランティア団体の高齢化に伴い、新たな人材を確保し、継続的に地域の子どもの達と関わるボランティアの育成を行う。		
概要・成果	地域の子どもの達に昔遊びを教え、楽しませてくれたボランティア団体の高齢化が進み、今後の継続が困難になったことから、地域で活躍する親世代に呼びかけ、企画員として小学生児童や親子に向けた催し「遊ぶ会」の企画・運営を行った。 会議では、企画員が毎回アイデアを出し合い、管内 3 小学校の児童を対象に、リアル脱出ゲーム、昔遊び、ダンボールハウスづくり等を企画し、長期休み（夏季、秋季、冬季、春季）に実施した。 さらに、事業運営を補助してもらった学生ボランティアも活用し、福沢遊ばせ隊ボランティア拡充についても話し合った。実施した内容は、各回参加者も多く、大学生、高校生ボランティアも多数関わるなど地域に必要なとれられている事業であることを実感した。また、多くの小学生児童親子が関わりあうことで、地域コミュニティが構築していくことも予想されるなど、地域全体で子ども達を見守る体制づくりにつなげることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママのためのリフレッシュタイム♪	未就学児親子を対象に、七夕飾りづくり、親子での運動、紙粘土工作、おやつ作りを行い、参加者同士の交流を楽しんだ。	7 月 5 日 11 月 29 日 1 月 24 日 2 月 28 日	4	34
エンジョイ！こどもひろば	小学生親子を対象に、近隣の児童館と連携して、紙ヒコーキ作り、体育館での運動遊び、ジュニアリーダーによるレクリエーションゲーム、ニュースポーツを行った。	8 月 2 日～ 3 月 28 日	6	330
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の次年度リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション、ゲーム等を学習した。	1 月 20 日	1	23

《青葉区》

先人の知恵に学ぶ	地域への意識を深めることを目的に、地域住民を対象としたまち歩きによる地域の歴史学習と、小学生親子が対象のミシンを使ったエコバッグ作りを行い、参加者同士の交流を図った。	4月8日～ 3月16日	6	86
福沢シニア大学	地域の高齢者を対象に、コンサートやマジックの鑑賞、ボッチャの実技、館外学習、軽運動、土人形の絵付け体験、医療及び仙台の文化と地域の歴史にかかる講話を行った。	5月18日～ 2月15日	9	340
福沢レディース交流サロン	地域にお住まいの女性を対象に、健康に過ごすための活力となることを目的として、美容、カラーコーディネート、健康づくり関連の講話、及びブローチ作り、軽運動の実技を行った。	9月13日～ 2月21日	7	102
災害にそなえよう！	防災意識を高めることを目的に、救命救急・AED講習、バーチャルリアリティによる防災学習、震災時の体験を伝える防災講話を行った。	7月26日 10月4日 2月24日	3	29
福沢市民センターまつり 2023	展示発表、ステージ発表、出店、本のリサイクルコーナー、ジュニアリーダー等による遊びのコーナー、健康チェックなど各種催しを開催した。	1月12日	1	950
福沢音楽会	ジャズ、クラシック、弦楽合奏、常盤木学園高校音楽科の生徒によるコンサートを通して、演奏者を含め参加者が交流した。	9月30日 10月14日 11月18日 12月2日	4	240
福沢懇話会	地域の住民との懇談会と、管内にある3児童館との懇談会を通して、諸団体の相互理解を深め、地域の課題を共有するための意見交換を行った。	7月1日 1月26日	2	16

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

図書ボランティア「カンナの会」と「ちっちゃなおはなし会」の活動支援

福沢市民センターには市民センター図書室が併設されており、「カンナの会」は貸出し・本の整理・選書を、「ちっちゃなおはなし会」は乳幼児向けのおはなし会を担当している。

市民センターでは、「カンナの会」の会員募集チラシや、新刊が入ったときのお知らせ「のほほんだより」を作成し、「カンナの会」の活動が地域住民に届くよう支援している。また、センターまつりで「カンナの会」が開催するリサイクル本の受け渡し、バザーについてセンターだよりで広報している。

「ちっちゃなおはなし会」は、センターだよりでの広報、ポスター・チラシの作成配布を担当し、集客に向けて支援している。令和5年度は、初めてセンターまつりのステージ部門に参加し、まつりの盛り上げに一役買った。

旭ヶ丘市民センター

〔沿革〕

旭ヶ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、スリーエム仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、旭ヶ丘ターミナルビルにある立地を生かし、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域資源・人材を活用した事業展開を推進しながら、地域コミュニティ活性化支援の役割も担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「台原森林公園をまるごと楽しもう」		
参加者	成人	延参加者	65 人
開催日	全 9 回 令和 5 年 5 月 19 日（金）～令和 6 年 2 月 16 日（金）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	受講生が季節に応じて変化する台原森林公園について学び、その成果を資料としてまとめ、台原森林公園に興味のある方々に活用してもらうことで、地域への愛着を育むことを目的とする。また、一人一人が身近な自然である台原森林公園へ目を向けることで SDG s の取組みと環境保護へ関心を高める。		
概要・成果	仙台市の緑の名所 100 選にも選ばれ、旭ヶ丘地区の地域資源の一つである台原森林公園を舞台に四季折々の自然観察や、自然素材を使った工作、SDG s に関する講座を開催した。季節の散策では公園内の植物を撮影し、グループで撮影場所や感じたことを用紙に記入した。まとめる作業を通し、台原森林公園の地図を作成し、学びを還元したいという意欲が高まった。また、講座で出会った植物を書きとめ、帰宅後自分で調べ、内容をまとめる受講生がいる等、主体的な学びに繋がった。工作講座、SDGs に関する講座では自然への興味関心と自然環境の変化について考え、地域資源への更なる愛着に繋がった。加えて、講座への参加を通し、友達付き合いをしている方がいる等、交流の一助にもなった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
あつまれ！旭ヶ丘キッズ	体験学習により、健やかな成長を支援することを目的とし、小学生を対象に「カラーフェルトポーチ作り」「虫の声鑑賞」「JL と遊ぼう」「自然素材を使ったリース作り」を開催した。	7 月 26 日 9 月 30 日 10 月 22 日 11 月 25 日	4	110
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとなる児童と世話人に対し、活動に必要な知識や技能を習得する機会を提供した。	1 月 27 日	1	39
本は素敵などもだち	成人を対象に、読書を通じた交流機会をつくるため、本の楽しみ方の講話と読書会（4 回）を行った。最終回は、朗読鑑賞会と地域の読み聞かせボランティアの活動紹介を行った。	9 月 27 日～ 2 月 28 日	6	85

旭ヶ丘老壮大学	地域のシニア世代が、生きがいを持ち仲間といきいきと過ごせるように、講話、軽体操、ものづくり、コンサート等の様々な学習機会を提供した。	5月12日～ 1月12日	8	448
旭ヶ丘みんなのコンサート	センターに来館するきっかけづくりと地域人材の演奏で音楽を通した地域活性化を目指し、当館利用オーケストラによるコンサート、地域の音楽家を中心に子どものためのコンサートと和楽器コンサートを開催した。	6月11日 12月9日 2月10日	3	179
ホテル調査隊	小学生親子を対象にカワニナのえさやりと放流体験、地域の方を対象に折り紙工作とホテル観賞会を同じ内容で3回開催した。東北学院中学校・高等学校科学部のホテルの保護活動について知る講座を開催した。	6月3日～ 9月16日	5	43
災害につよいまちづくり	防災会議を4月・2月に2回開催。避難所運営訓練とその反省会、普通救命講習会を開催し、災害に対する日頃からの備えについて学び、地域防災の意識を高めた。	4月5日～ 2月8日	5	135
旭ヶ丘市民センターまつり	地域住民を対象にコミュニティ活動の活性化を目的に開催した。利用団体や町内会、地域住民、学校等がステージ・作品展示で活動成果を発表した。また、社会福祉協議会によるフードドライブのコーナーを設けた。	10月21日 10月22日	2	1,400
旭ヶ丘地域懇話会	町内会長等の地域関係者による懇話会を開催し、町内会等の活動の様子や子ども会活動への関わり等について意見交換と地域情報の共有を図った。	5月25日 11月9日	2	29

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

学校と地域団体活動とのコーディネート

市民センターまつりの作品展示をきっかけに、旭丘小学校社会学級や町内会がおりがみサークルに興味を持ち、活動見学をしたいとの話があったことから日程調整を行った。そこから講師紹介や依頼に繋がり、地域団体同士の交流を支援することができた。今後活動が更に活性化するように支援していきたい。

また、昨年度に引き続き「東北学院中学校・高等学校科学部」と地域の自然を保全する活動を行っている「仙台旭ヶ丘ホテルとメダカの会」、「旭ヶ丘のホテルを育む会」を繋ぎ、講座講師として活用する等活動を支援した。三者による会議が開催される等、連携がより強固なものとなり、次世代にホテルを残すため、世代を超えた共同活動が根付きつつある。

三本松市民センター

〔沿革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は登り窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(35 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 9 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。平成 27 年度に大規模修繕を実施し、平成 28 年 4 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	落ち葉を活用して堆肥作りをしよう！		
参加者	地域住民	延参加者	78 人
開催日	全 5 回 令和 5 年 10 月 28 日（土）～令和 5 年 12 月 23 日（土）		
協力者・協力団体	三本松町内会、三本松緑地公園愛護協力会、三本松べじたぶる		
ねらい	当館周辺は豊かな緑地に囲まれており、地域住民は紅葉の時期を迎えると、毎年大量の落葉に悩まされている。そこで、三本松町内会や三本松緑地愛護協力会等の地域団体と連携して落ち葉を集めて堆肥作りをする事により、地域住民の課題を解決するとともに自然を循環させる事からも SDGs に繋げていく。		
概要・成果	当講座は、令和 4 年度に市民企画講座として始まり、令和 5 年度からは複数年事業として、地域課題である大量の落ち葉を堆肥作りに活用し、課題解決に向けて地域住民・市民センターが一同となり取り組んでいる事業である。2 年目となった令和 5 年度は、老壮大学などの各講座でも参加を呼びかけ、新たな参加者とともに令和 4 年度に作った堆肥を使用し花壇づくりを行うなど、センター周辺の緑化活動につなげた。落ち葉に水や砂、肥料を混ぜて踏み固める作業には、幼児や小学生の参加もあり、様々な年代の交流の機会となった。地域住民同士協力して作業し、成果として作った堆肥は令和 4 年度の 2 山（1 山：約 1m×1m×1m）から 3 倍の 6 山と増やすことができた。今後も地域団体との連携を取りつつ、出来た堆肥を活用し、地域活性化などに繋げていきたい。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やゲーム等を学習する機会を提供した。	1 月 27 日	1	39
三本松寺子屋	小学生を対象に、学校や家庭では体験できない学びの場を提供することで、小学生の健全育成に寄与することを目的とし、お琴やヒップホップ、モルック体験を実施した。	7 月 21 日～ 11 月 11 日	8	214
堤町彩発見	地域の方を対象に、堤町の歴史や背景・地域資源を学ぶことを目的とし、「堤人形」の絵付け体験や、地域を散策するまち歩きを実施した。	4 月 6 日 10 月 12 日 10 月 19 日 11 月 23 日	4	35

防災講座	地域住民を対象に、災害時の対応力を身につけるための講座を開催した。地震発生後の行動に関する講話、防災倉庫の見学、VR を活用した大雨災害への対処法を学んだ。	9 月 23 日 3 月 11 日	2	27
市民企画講座「女性のためのリフレッシュタイム」	地域の女性を対象に、同じ地域の女性である市民企画員が企画した講座を通して、女性同士の交流の場となることを目的とし、ヨガやフラダンスなどの講座を実施した。	9 月 12 日 10 月 17 日 11 月 14 日 12 月 5 日	4	26
三本松老壮大学	老壮大学生を対象に、高齢者の生きがいづくりを目的として、歴史、美術、館外学習、音楽、食、伝統芸能など多彩なテーマで学びの機会を提供した。	5 月 10 日～ 3 月 13 日	10	306
三本松市民センターがやってくる！	市民センターを身近に感じてもらいながら、様々な学びを提供するために、地域内の集会所や小学校に出向き、健康講話・軽体操・ニュースポーツ体験講座を行った。	9 月 16 日 10 月 4 日 10 月 25 日 3 月 9 日	4	77
「よむ」楽しみをみつけよう！	『川柳を詠む』『本を読む』などを通して、日々の生活を充実させることを目的とし、川柳作品の募集等を行った。また、図書ボランティアを対象に本の修理体験講座、近隣中学校の図書委員を対象に図書館の活用法を学ぶ講座を実施した。	7 月 5 日～ 12 月 19 日	3	57
三本松市民センターまつり	市民センターで活動しているサークルや個人が市民センターで日頃の学習成果を発表し、交流を深めた。	10 月 8 日～ 11 月 4 日	2	462
三本松から音楽の風を！	様々な年代の市民を対象に、癒しや元気・活力を提供するために、ゲーム音楽吹奏楽、朗読とピアノ演奏、尺八&フルート&ピアノ演奏を行った。	7 月 8 日 11 月 9 日 2 月 24 日	3	230
三本松地域懇話会	地域団体やセンター利用者を対象に、意見交換の場を設け、センター事業について意見を収集し、得られた学習ニーズや地域課題をセンター事業に反映させる等、より良い運営に繋げた。	5 月 21 日 8 月 26 日	2	41
市民企画会議「女性が輝く講座を企画しよう！」	地域で活躍する場の提供を目的として、女性を対象に企画員を募集した。会議では女性同士の交流の場となる講座の企画に向けて話し合い、市民企画講座「女性のためのリフレッシュタイム」を企画・運営した。	5 月 25 日～ 12 月 5 日	7	26

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア“ぽけっと”の活動支援

コロナ禍で、センターの図書室利用も伸び悩むなか、図書室の活性化や図書ボランティアサークル“ぽけっと”の活動支援のため、市民センターでは様々な働きかけを行った。

特に、令和 5 年度事業『「よむ」楽しみをみつけよう！』の中で実施した「本の修理体験講座」は、令和 4 年度に実施した同講座の復習の他、さらに難しい修理の習得に挑戦する等、ボランティアメンバーのスキルアップと活動の幅を広げることに繋がり、図書ボランティアの活躍の場をいっそう増やすことができた。

今後は、パソコンで蔵書検索が出来るようにする等の作業を進めており、図書室の運営をさらに充実させていく予定である。

片平市民センター

〔沿革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市民的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「かたひら再発見クイズラリー」		
参加者	小学生	延参加者	15 人
開催日	全 1 回 令和 5 年 11 月 23 日（木）		
協力者・協力団体	東北福祉大学おいまわしセツルメント		
ねらい	片平地域には藩政時代から残る由緒ある史跡や神社があり、市民企画会「かたひら探検隊」にて、地域の歴史を子どもたちに伝えていきたいという意見が上がった。そこで、仙台市内 88 ヶ所のうち 11 ヶ所が片平地域にあり、歴史を知るヒントがたくさんある「辻標」をメインにしたクイズラリーを開催することで、地域の歴史に興味を持ち、探求心を育むきっかけづくりとする。		
概要・成果	次世代に地域の魅力を伝えるために、市民企画会「かたひら探検隊」で企画し、実施した。グループごとに片平丁小学校区内にある辻標や神社を探索するクイズラリー形式とすることで、子どもたちに楽しみながら参加してもらうことができた。普段は目立たない辻標を仲間と協力しながら探し、そこに書かれている聞きなれない旧地名などから地域の歴史について考えを深めることができた。また、付き添いの保護者からも「普段は車でしか通らないので、歩くことで発見がたくさんあり楽しかった」などの声もあり好評であった。学生ボランティアは、片平地区まちづくり会や市民センターまつりなどで関わりのある東北福祉大学おいまわしセツルメントにご協力いただき、小学生・保護者・企画員・学生ボランティアの異世代間交流にもつながった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	次年度の子ども会を引き継ぐ小学生と世話人を対象に、講話とレクリエーションを通して子ども会の知識や企画の進め方を学ぶことで、子ども会活動の活性化を図った。	1 月 27 日	1	37
かたひらきっずらんど	小学生を対象として、地域への愛着や社会性、協調性を育むきっかけとするために、地域資源を活かした動植物との触れ合いやものづくりなどの多様な体験の機会を設けた。	6 月 10 日 10 月 28 日 2 月 3 日	3	38

広瀬川界限ぶらり散歩	ガイドボランティア「広瀬川をゆっくり歩く会」の案内で、「都市緑化フェア」に合わせたコースを含め広瀬川を中心に地域を巡った。また、ボランティアのスキルアップも兼ねて公開講座を開催した。	4月15日～ 1月21日	12	222
片平シニア隣経大学	高齢者を対象に、生きがいを持った生活と学習を通じた交流を図った。聴講型では防犯や歴史、健康、心理学の観点からの防災の講話やコンサートやレクリエーションなどを実施した。	5月11日～ 2月8日	9	455
かたひら元気クラブ	主に地域の高齢者を対象として、心身の健康維持とつながりづくりを図るために、3回連続でフラダンス講座を実施した。	9月28日 10月5日 10月26日	3	13
地域の宝 みんなの 片平公園	片平公園における地域住民の美化活動への関心を高める一助とするため、花壇づくりや藍染め、腐葉土学習、リースづくりを行い、片平公園の魅力を感じてもらう機会とした。	5月20日 9月9日 11月11日 11月25日	4	36
楽しく学ぼう 地域 防災	地域住民の防災知識向上と交流促進のため、片平丁小学校5年生児童を対象に防災減災ゲーム BOTA 双六、小学生親子を対象に科学実験とサバイバルめしづくりを行った。	6月24日 9月2日	2	87
かたひら waiwai 広場	地域住民の交流や親睦を深めるため、地域の各団体や小中学校と連携して開催した。ステージ発表、展示発表、グラウンドゴルフ、遊びのコーナー、盲導犬 PR パフォーマンスなどを行った。	10月21日	1	855
Tanabata Night 手作り 灯籠ワークショップ	灯籠作りのワークショップとライトアップを行い、外国人を含めた地域住民が日本文化に触れながら七夕を楽しみ、気軽に交流できる場を作ること、地域交流促進の一助とした。	7月22日 8月4日	2	91
片平市民センター懇 話会	市民センターの活動報告、活動計画や進捗状況について理解を図った。また、よりよい地域づくりの促進のため、地域課題を共有するとともに意見や要望を事業に反映し、連携を強化した。	6月23日 2月17日	2	21
片平のひびき～臥竜 梅コンサート	音楽の力で地域を盛り上げるため、市民センター利用サークルや近隣の小中学校のお琴クラブ、吹奏楽部などが出演し、地域に密着したコンサートを開催した。	11月18日	1	140
市民企画会「かたひら 探検隊」	様々な魅力がある片平地域を多くの人に知ってもらい、地域活性化の一助とするとともに、新たな人材発掘につなげるため、企画会を開催した。	7月8日～ 11月23日	5	23
折り紙ボランティア 養成講座「折り紙の 和・地域の環」	地域の交流の場等で活動できるボランティアを育成するため、折り紙を楽しみながら学ぶ機会を提供した。ロビーに飾る七夕飾りや季節ごとに決めたテーマで作品作りを行った。	6月1日～ 3月7日	7	69

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「広瀬川をゆっくり歩く会」の活動支援

市民センターでの養成講座を経て、平成26年度に発足した団体である。以降、仙台市百年の杜推進課、片平地区まちづくり会と協力をして開催している市民センター主催まち歩き講座の講師として、年間通して活躍の場を提供している。また、令和5年度は片平丁小学校総合学習での講師の依頼があり、連絡調整・打合せ等の支援を行った。さらに、新しく開館した「仙臺緑彩館」にて行われたイベントで活動についての発表依頼があり、発表内容についての検討や当日のサポートを含めた支援を行い、会の良いPRに繋げることができた。他地域で活動しているまち歩き団体との交流にも繋がり、会としての活動の幅が広がるきっかけづくりとなった。

水の森市民センター

〔沿革〕

水の森市民センターは、市民の憩いの場として広く親しまれている自然豊かな水の森公園の南側入口に立地している。管内は昭和 30 年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ヶ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成 2 年 9 月に開館。令和 2 年 11 月から大規模改修を行い、令和 3 年 11 月に再開した。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2 階の広いロビーは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	集まれマザーズ		
参加者	未就学児と保護者	延参加者	36 人
開催日	全 6 回 令和 5 年 5 月 26 日(金)～令和 5 年 10 月 13 日(金)		
協力者・協力団体	水の森児童館		
ねらい	「核家族」や「ひとり親と子供」世帯が増加している近年、依然として子育てを主に担うのは母親であることが多い。また、小さい子供の育児中は世間から孤立しやすいこともあり、育児不安や孤独感を感じている。そこで、母親が自分のための時間を過ごしながらいフレッシュでき、育児について相談・共感し合える仲間づくりができる場の提供を目的とした託児付き講座を開催する。		
概要・成果	「集まれマザーズ」では、母親向けの多様な講座を託児付きで実施しており、毎年継続して開催してきたことで母親の居場所づくりや交流の場として定着している。令和 5 年度も、経験豊富な託児ボランティアによる安心・安全な託児室運営のもと、母親たちは安心して子供を預け、充実した学びの時間を過ごした。自分の時間を楽しむ機会を提供することで、母親の心身の健康を保ち、ゆとりを持って育児に向き合う環境づくりの一助となった。また、児童館との連携により、効果的な広報活動が可能となり、必要な情報をより多くの人に届けることができた。さらに、オンラインを活用した講座アンケートのフォーム化、対面と配信のハイブリッド型講座の実施、講座のオンデマンド配信を行い、乳幼児を持つ母親たちが受講しやすい環境を整えた。これにより、受講者からも高い評価を得ることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を図るため、次年度に子ども会の中心となる児童と世話人を対象に、子ども会に関する知識を学び、行事プログラム作成演習などを実施した。	2 月 17 日	1	35
市民企画講座 スポーツ鬼ごっこで Run♪ラン♪らん みんなで「鬼ゴッター」 になろう！	コロナ禍で外遊びの場所や機会が減った子ども達に、体を動かしながら異年齢の子どもや大人と交流を図る場を提供するため、「スポーツ鬼ごっこ」を行った。	10 月 21 日	1	34

市民企画会議「子どもの育ちを支えよう！」	地域の小中学区に在住の子ども育成支援に関わるメンバーが、子どもの現状や課題について意見交換を行い、地域の子どもと大人が交流する講座の企画・運営を行った。	5月10日～ 11月15日	5	23
仙台市博物館巡回講座「いま、紐解く伊達な歴史」	博物館との共催で、博物館所蔵の文化財の紹介や、仙台の歴史や文化、美術などをテーマにした講話、昔遊びなどの体験講座を行い、仙台の魅力を再発見する機会を提供した。	6月17日 9月2日 12月9日 2月3日	4	77
水の森シニア学園	地域の高齢者が、健康で生きがいのある生活を送ることを目的に、歴史や音楽、健康講話やニュースポーツ体験など様々なことを共に学び交流する機会を提供した。	5月18日～ 2月15日	9	435
荒巻地区・桜ヶ丘地区出前講座	より多くの方が生涯学習に触れる機会の提供を目的とし、荒巻地区と桜ヶ丘地区に出向いて出前講座を開催した。	12月6日 1月31日	2	54
みんなのつながりがチカラになる防災講座	地域団体や学校等との連携強化ならびに顔の見える関係づくりを促進するため、地域の防災組織と連携し、地形から防災を考える講話や小学校への出前講座を実施した。	6月25日 9月26日 11月21日	3	291
学び・守り・未来につなぐ みんなのたから「水の森公園」	自然豊かな環境を次世代へ繋げるため、地域資源を活かした取り組みや学習会を行うことを目的に、地域の諸団体と連携し水の森公園散策マップを作成した。	5月18日～ 3月14日	11	56
水の森地域まつり	地域団体や市民センター利用サークルの活動成果発表の場として、ステージ発表や作品展示・体験、産直販売、抽選会等を行い、地域住民の交流の機会を提供した。	11月11日 11月12日	2	1,000
水の森懇話会	7月は地域団体との懇話会、9月は児童館・子育てに関する懇話会、2月は「荒巻・北仙台子育てネット」情報交換会及び学校と地域団体の令和6年度行事予定のすりあわせを行った。	7月6日 9月5日 2月20日 2月22日	4	32

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体の学習支援事業におけるコーディネート

管轄地域内の桜丘小学校から、3年生の総合学習と社会科授業の地域講師について相談を受けた。総合学習では、福祉を学ぶことを目的とした「ボッチャ体験」を希望しており、当市民センターで定期的に活動している「ボッチャ・水の森」サークルを紹介し、サークル団体と学校との仲介・調整や運営面での支援を行いながら体験学習を行った。また、社会科の授業では、仙台市の移り変わり「桜ヶ丘の歴史」について、地域住民を講師に学校との連絡調整や資料の編集作業などをサポートし、学習支援を行うことが出来た。市民センターが学校と地域のコーディネートを担い地域連携に努めたことで、相互交流を深める活動支援につながった。

貝ケ森市民センター

〔沿革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ケ森市民センターは、貝ケ森地区に平成 5 年 4 月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中にあつて、その瀟洒な建物は、隣接する貝ケ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ケ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★●防災リーダー養成講座		
参加者	小学生、中学生、高校生、成人	延参加者	513 人
開催日	全 5 回 令和 5 年 6 月 2 日（金）～令和 5 年 12 月 8 日（金）		
協力者・協力団体	貝ケ森市民センター補助避難所運営委員会、国見小学校、第一中学校、仙台高校、青葉区保健福祉センター保護第一課		
ねらい	地震や集中豪雨等さまざまな災害が全国各地で発生し、新型コロナウイルスの感染が重なる複合災害も懸念される昨今、被災時に地域住民が小中高生のマンパワーに期待するものは大きい。そこで、災害時に自らリーダーとして活動できるように、国見小学校、第一中学校、仙台高校の児童生徒が、ゲーム・講話を通して地域の防災を考え、災害時の活動を学ぶ場を提供する。また、貝ケ森市民センター補助避難所運営委員会と連携し避難所運営訓練を行い、災害時のリーダーを養成する。		
概要・成果	国見小学校では 5 年生を対象に「クロスロードゲーム」、第一中学校では 1 年生を対象に「ぼうさい駅伝」、仙台高校では防災委員を対象に東北福祉大学講師の講話「地形を知ることが命を守ること」を行った。また、貝ケ森市民センター補助避難所運営委員会の運営委員を対象に防災備蓄品の研修、地域住民を対象に避難所運営訓練を行った。 出前講座による「小中高校生のための防災リーダー養成講座」については、児童・生徒の反応は良く、学校からも高い評価を得た。小中高校生自ら地域の防災を考える機会となり、若年層が安心安全なまち創りを「考え」「参加できる」環境づくりに一石を投じられた。「大人の部」である補助避難所運営委員会の研修も「避難所運営訓練に大いに役立つ」と好評を得、4 年ぶりの避難所運営訓練での地域のリーダー養成に活かすことができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ちびっこひろば	地域の乳幼児親子を対象に、子育てに関わる 11 の地域団体と連携し、参加型のステージ鑑賞や水ヨーヨー、おめん、工作などのコーナー遊びを行い、楽しく交流する場を提供した。	10 月 6 日	1	49
やってみよう！親子でペタンク！！	地域の小学生親子を対象に、遊びを通して交流する機会を提供するため、ペタンク体験会を実施した。地域の指導者からペタンクのルール、投げ方などの基本を学び、参加者同士で試合を行った。	7 月 8 日 9 月 30 日	2	21

中学生のハローワーク	中学1年生を対象に、様々な社会経験を積んだ社会人講師から、実際の仕事に関する話を聞き、質問する時間も設けることで、職業や将来について広く考える機会を提供した。	11月17日	1	203
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションゲームなどを講話と実技で学ぶ研修会を開催した。	2月10日	1	32
市民企画会議 中年期の現代的課題 を考える	これからの地域活動の担い手として期待される50代の企画員が、中年期に直面しやすい課題を学ぶため、企画会議で話し合い、喪失をテーマにした講座を企画した。	4月6日～ 3月21日	5	33
貝ヶ森シニア学園	シニア世代を対象に、学習する楽しみや、共に学ぶ仲間との交流の時間を生活の張り合いにつなげてもらうため、運動、歴史、ものづくり、演芸鑑賞等を講話や実技で学ぶ連続講座を行った。	5月24日 6月28日 7月26日 9月13日	4	98
貝ヶ森交流サロン	地域住民を対象に、交流の場の提供や高齢者の外出のきっかけづくりのため、貝ヶ森地区社会福祉協議会と共催し、軽体操、コンサート、まち歩き、書道、健康測定といった気軽に参加できる講座を開催した。	5月25日～ 2月21日	6	96
豆まき会	幼児から高齢者まで地域の幅広い世代を対象に、伝統行事の体験を通して世代間交流の場を提供するため、和太鼓と獅子舞のステージや輪投げ・こまなどの昔遊び、ダンス「鬼のパンツ」、豆まき・福まきを行った。	1月27日	1	101
貝ヶ森地区文化祭	地域住民を対象に、生涯学習の活性化と住民の交流を目的として、住民や学校、サークルがステージ発表、展示発表、お茶席、科学体験、出店等により学習成果を発表する場を提供した。	10月28日 10月29日	2	1,166
地域懇話会	連合町内会や小学校から大学までの各学校、地域諸団体、児童館の支援団体を対象に、市民センター事業の運営に役立てることを目的として、事業報告と情報交換を行い、地域課題を共有した。	9月8日 1月16日	2	27

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「貝ヶ森太極拳サークル」の支援

「貝ヶ森太極拳サークル」は、令和4年度主催事業「貝ヶ森交流サロン⑤～初めての太極拳～」から立ち上がったサークルである。受講生から「講座終了後も太極拳を続けたい」との相談を受け、市民センターが他の受講生に声掛けをして希望者を募り、自主グループとして活動していくための話し合いを経て、令和5年4月に結成された。市民センターは、サークルの立ち上げに伴う話し合いのファシリテートや講師依頼、必要な手続きのサポートを行った。また、サークルが立ち上がった後も、継続して、会員募集やサークルPRなどの支援や助言を行っており、令和5年度は、サークル結成半年余りではあったが、貝ヶ森地区文化祭のステージ部門に出演し、演武を発表することができた。

中山市民センター

〔沿革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成7年4月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑豊かな自然にあふれている。地域では、街道市や七夕祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「工房しらかば」、「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業 青陵プロジェクト in 中山キッズ		
参加者	仙台青陵中等教育学校生徒、小学生	延参加者	161人
開催日	全12回 令和5年5月31日（水）～令和6年1月21日（日）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部青葉区中央市民センター 仙台市仙台青陵中等教育学校		
ねらい	中山市民センター管轄内の仙台青陵中等教育学校には、地域で活躍したいという思いのある生徒が多く、また、そのような生徒達に憧れを持つ地域の小学生たちも多い。そこで、仙台青陵中等教育学校や青葉区中央市民センターと協働し、青陵中等教育学校の生徒が小学生に向けた講座の企画運営を行い、学校では体験できない場の提供と子どもたちの豊かな知識と健やかな育ちを支える一助とする。また、青陵中等教育学校の生徒が地域で活躍できる場を提供することで、自己有用感を育み、地域人材の育成を図る。		
概要・成果	仙台青陵中等教育学校の生徒がプロジェクトメンバーとなり、毎月1回の定例会で「中山キッズ」で行う内容決めや準備を進め、「中山キッズ～謎解きハロウィンパーティー～」を企画・実施した。参加の小学生をグループに分けて、中山市民センターの館内にちりばめられた謎を解きながら、地域の子どもたちと交流を図った。仙台青陵中等教育学校の生徒たちは企画の他にも当日の導入劇やグループリーダーとして参加児童と関わることで、実践的な力を身につけ、学校外や地域での活動においても、存分に力を発揮し、プロジェクトメンバーとしての自信へとつながった。企画講座に参加した小学生にとっても、他校の児童や、地域で活躍する青陵中等教育学校の生徒との関わりは貴重な体験となった。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子で遊ぼう	乳幼児や小学校低学年の親子を対象に、親子で活動する場の提供と地域への愛着の醸成を目的として、ジュニアリーダーを講師に工作やゲーム、バルーンアートを実施した。	3月2日	1	12
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる小学5年生及び、世話人を対象に、子ども会活動の活性化を目的として、子ども会の役割についての講話やゲーム、世話人の情報交換などの研修を実施した。	2月10日	1	32
小正月を祝おう	小学生を対象に、世代間の交流と伝統行事を体験することによる豊かな心の醸成を目的として、地域の高齢者が講師となり、餅花飾り体験等を実施した。	1月13日	1	15

せんだいアラカルト	成人を対象に、地域の知られざる魅力を知ること、わがまちに愛着を持ってもらうことを目的とし、仙台のお茶文化や中山の歴史の講話、松川だるまの絵付け体験などを実施した。	6月23日 7月29日 10月4日 11月18日	4	71
中山銀鈴倶楽部	高齢者に学習の機会を提供することを目的として、コンサートや施設見学、体操、新聞ちぎり絵や異文化交流など、幅広い講座を実施した。	5月12日～ 1月19日	14	256
落ち葉堆肥でエコタウン	地域住民を対象に、自然環境やSDGsについての関心を高めることを目的として、七北田公園の散策と地域清掃で集まる落ち葉を活用した堆肥作りを実践した。	11月10日 11月25日 12月16日	3	26
防災講座	地域住民を対象に、火災予防の啓蒙や命を守る救命法に関する知識を深めることを目的として、火災などを防ぐための講話を行った。	1月11日	1	14
中山市民センター・児童館まつり	地域住民を対象に、サークル、学校などの諸団体の活動成果の発表と地域住民との交流を目的として、展示やステージ・児童館の遊びのコーナー等を実施した。	9月9日 9月10日	2	630
中山のへそと〇〇を歩こう	成人を対象に地域の魅力を見つめ直し、関心を高めることを目的として、鳥瀧不動尊を中心とした景観の変化を辿るまち歩きを実施した。	11月14日	1	13
懇話会	地域住民、地域団体、利用団体、学校関係者を対象に地域課題や地域ニーズを把握することを目的として、懇話会を実施した。	7月11日 2月9日	2	32
中山ぶらり再発見 まち歩き講座企画会	地域住民を対象に地域への関心を高め、発信することで、地域活性化を目指し、まち歩き講座の企画会を行った。「中山のへそと〇〇を歩こう」を企画・運営した。	6月13日～ 12月19日	6	18

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「仙台市中山小学校まち探検」への支援

中山小学校から、まち探検の案内をしてくれる人を紹介してほしいとの相談を受けた。令和4年度に中山市民センターで行ったまち歩き講座の資料をもとに案内できる人材を紹介し、1クラス1日ずつ案内し、3日間の支援を行った。

折立市民センター

〔沿革〕

折立市民センターは、平成 7 年 5 月 30 日に市内 50 番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約 5 km の地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた 49 畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「おりたて Z 世代プロジェクト」		
参加者	折立中学校生徒	延参加者	714 人
開催日	全 20 回 令和 5 年 6 月 27 日（火）～令和 6 年 3 月 16 日（土）		
協力者・協力団体	折立中学校、折立ふれあいまつり実行委員会、ライトアート in 折立運営委員会		
ねらい	折立中学校の生徒を対象に企画員を募り、新たな視点から地域を活性化させるためのアイデアを出してもらい、「折立ふれあいまつり」、「ライトアート in 折立」内でのコーナー運営や、市民センターでの子ども向け講座の企画運営を行う。これらの活動を通して、企画員が地域活動に関心を持ち、地域に愛着を持つきっかけ作りの場とする。		
概要・成果	企画会議には、受験等による人員の入れ替えもありながら、延べ 32 名という多くの中学生が参加し、学年に関係なく仲間と協力しながら活動する様子が見られた。 また、折立中学校協力のもと、全校集会などで企画員が事業紹介を行うことにより、新たな人材発掘へと繋がった。 地域団体との共催事業である「折立ふれあいまつり」、「ライトアート in 折立」、「折立地域交流会」においては、ワークショップやレクリエーションの企画運営のほか、イベント全体のボランティアスタッフとしても活躍し、地域住民からも企画員の活動が折立地域の活性化に繋がっていくことを期待されている。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子たいけん隊	小学生親子を対象に、座禅・天体観察・登山・紋切りがたあそびを行った。学校や家庭では体験できないことを親子で体験することで、喜びや感動を共有する機会を提供した。	7 月 29 日 9 月 15 日 11 月 5 日 1 月 20 日	4	56
わらすこたいむ	小学生を対象に、地域で活動する昔遊びボランティアグループを講師にこま回し、けん玉、あやとりや凧揚げなどの昔遊びを行った。また、近隣の小学校への出前授業も行った。	6 月 28 日 1 月 13 日 1 月 31 日 3 月 2 日	4	102
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の活性化と理解を深めるため、児童と世話人を対象に研修会を行い、子ども会活動での役割やレクリエーションゲームを学習した。	2 月 17 日	1	13
小学生の防災教室	折立小学校 5 年生を対象に、東北大学国際防災科学研究所より講師を迎え、災害のメカニズム等の講話、スタンプラリー形式による災害時の行動傾向の確認等、防災時の対応についての出前授業を行った。	11 月 15 日	1	52

中学生の防災教室 ～僕たち私たちの 力～	折立中学校 2 年生を対象に、折立地区防災対策連絡会と共催で、片平消防署員を講師に迎え、避難所立ち上げ訓練や救急救命等の実践的な研修を実施した。	5 月 30 日	1	90
市民企画講座「おり たて Z 世代プロジェ クト」	小学生を対象に、市民企画会議にて企画した夏祭りとミニ運動会を実施した。また、「折立ふれあいまつり」「ライトアート in 折立」「折立地域交流会」において、子ども向けのワークショップやレクリエーションを行った。	7 月 26 日～ 3 月 16 日	5	715
折立老壮大学	高齢者を対象に健康、防災、音楽、絵付け体験など様々な内容について学ぶ機会を提供し、受講生同士の交流の場となるよう図った。	5 月 18 日～ 2 月 15 日	8	161
ライトアート in 折 立	折立地域の活性化を目的として、折立公園を会場にピカボード展示やペットボトルランタン、イルミネーション装飾などの光のイベントを開催した。Z 世代プロジェクトの企画コーナーやダンス等のステージ発表も行った。	7 月 1 日～ 12 月 16 日	9	1,912
折立地域交流会	地域住民を対象に高校吹奏楽部のコンサートやお正月アレンジメント講座、豆まき会を行った。豆まき会は二部構成とし、第一部は大人向けの邦楽演奏会、子ども向けの Z 世代プロジェクト企画講座を同時開催した。	6 月 3 日～ 2 月 3 日	5	402
折立ふれあいまつ り	地域住民を対象にステージ発表、展示発表、出店コーナーでは産直野菜販売や飲食の提供、Z 世代プロジェクト企画コーナーや子どもあそびコーナーでは異年齢の交流も図られ、地域交流の場となった。	10 月 26 日	1	1,726
折立市民センター 懇話会	1 回目は地域内にある教育機関と地域の諸団体を対象に、2 回目は各町内会を対象に実施し、センターの目標の設定や地域情報の提供及び成果と評価について説明した。	6 月 8 日 1 月 27 日	2	29

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「蕃山登山道整備実行委員会」の活動支援

「蕃山登山道整備実行委員会」は、地震や松枯れによる倒木等の影響により荒れてしまった蕃山の折立側登山道を、子どもから大人まで誰でも安全に歩くことができるよう整備を進めることを目的として、令和元年度に折立地域の住民を中心に発足した。

市民センターでは、発足当初から事務局的作用を担い、作業日程の調整や連絡、まちづくり活動助成金申請のサポートなど、様々な支援を行ってきた。

令和 5 年度は、主催事業「親子たいけん隊～親子で蕃山を歩こう！」の講師を依頼し、小学生親子と実行委員と一緒にきれいに整備された登山道を歩きながら、蕃山の自然に触れ、交流を図る機会を提供した。また、折立ふれあいまつりでは、市民センターの提案により整備作業の様子や蕃山で見られる植物等の写真をパネル展示し、実行委員の活動を広く知っていただく良い機会となった。

木町通市民センター

〔沿革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成 16 年 4 月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6 階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の遊び場として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅は減少している。近年、市民センター斜め向かいに大型マンションが 2 棟完成し、市の平均を上回る人口増、世帯増が見られる。

当市民センターはこうした環境の下、複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら学びの場を提供することを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業 木まちたんけん隊		
参加者	地域の小学生	延参加者	36 人
開催日	全 9 回 令和 5 年 7 月 15 日(土)～令和 6 年 2 月 7 日(水)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部青葉区中央市民センター(共催)、木町通児童館、こよなく北三番丁公園を愛する会		
ねらい	小学生の企画員が、まち歩きや体験・インタビューなどを行い、地域の魅力について再発見するとともに地域の方々と交流する場とする。地域の防犯マップをもとにまち歩きを行うことで、子どもたちの防犯意識を高める。また、この地域について学んだことをセンターまつりや小学校で発表することを目指す。		
概要・成果	企画員の小学生が、自分たちでまち歩きを計画して進めたことでモチベーションの継続に繋がった。訪問先の店では、突然の訪問にも関わらず、親切に接してもらったことで地域への愛着が高まった。店の歴史やどのような思いで働いているのかなどをインタビューし、あまり緊張することもなく地域の方と交流することができた。また、普段顔を合わせることがない方たちと話をすることで、自分たちが生活する地域の見方にも変化が出てきたように見受けられた。 市民センターまつりでは、まち歩きや体験を模造紙に地図を描いてまとめ、展示することができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子育て ENJOY 広場	育児休業中の保護者等を対象に、子育て中のストレス軽減と仲間づくりを目的として、育児についての講話、ダンス、コンサートを行った。	9 月 15 日 9 月 22 日 9 月 29 日	3	87
わくわくキッズ	小学生と小学生親子を対象に、学校や家庭では経験できない体験や学びを提供した。また、異年齢の子ども同士や地域の方との交流から、協調性やコミュニケーション力向上の一助となった。	5 月 13 日～ 1 月 20 日	6	130
仙台市子ども会インリーダー研修会	地域の子ども会活動の活性化を図り、リーダー育成を行うため、主にレクリエーションを通してよいリーダーになるための心構えについて学んだ。また、世話人の役割を再認識するための講話や情報交換を行った。	1 月 27 日	1	39

★災害時にも活用できる アウトドアにチャレンジ！	木町通小学校おやじの会と連携し「缶詰を使い、ろ過した水でポリ袋クッキング」や「魚をおろす体験」で、災害時にも役立つアウトドアの効用も学びながら、参加者の交流を通した仲間づくりの場とした。	5月7日 8月19日 8月26日	3	53
みんなで学ぼう！オンラインのノウハウ	オンラインを活用し、会議や遠方にいる家族との新たなコミュニケーションツールを学ぶ場とした。特に、スマートフォンを持ったばかりの高齢者に向けて LINE の使い方や通話について理解を深めた。	12月7日 12月8日 12月14日 12月15日	4	44
木町通老壮大学	地域の高齢者が、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るために、年間を通した様々な学びの場を提供した。受講生同士の交流が生まれ、新たな仲間づくりのきっかけとなった。	5月10日～ 2月14日	16	761
木町通学区の防災講座	救命講習会(人工呼吸法・AED 使用法)と地震発生時及び身の安全を守った後の行動、内水氾濫とその対処法についての講座を実施した。	8月31日 11月22日	2	17
木町通社会学級連携市民企画会	地域内で若い世代が集う木町通小学校社会学級と連携し、この地域の伝統文化や歴史に触れる講座を企画・実施した。当日は宮城県産の大豆を使った醤油を作り、新旧住民の交流の一助となった。	6月22日～ 12月13日	6	41
北三番丁公園フォトコンテスト北三公園の四季	地域資源である北三番丁公園の四季をテーマにした写真撮影会とフォトコンテストを実施し、北三番丁公園の素晴らしさを再認識する機会となった。	6月10日～ 2月17日	5	97
木町通市民センターまつり	市民センターで活動している団体や地域の団体のステージ発表や展示等で、活動の発表の場を提供し、地域住民などに活動を知ってもらう機会とした。発表以外に、出店やおたのしみクジなども行った。	10月21日	1	719
木町通市民センター運営懇話会	地域関係諸団体の代表の方に、事業・施設運営についての広報や地域の課題・特性等についての意見交換、各団体の紹介と情報交換を行った。	5月25日 2月22日	2	24

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「こよなく北三番丁公園を愛する会」への活動支援

「こよなく北三番丁公園を愛する会」は、「地域コミュニティが希薄になっている地域の中で、近くの公園で住民が集まれる機会がつかれないか」という地域課題を解決することを目的に立ち上がったボランティア団体である。年間を通した活動内容は、通算 2,500 回を超えた毎朝の「ラジオ体操」とその後に行う「公園の美化」、また、「季節ごとの花植え」を年 4 回行い、児童クラブの児童も一度花植えに参加させてもらった。団体の活動は、仙台市天文台ベガ号による北三番丁公園での「星空観望会」や木町通小学校 3 年生の総合学習の支援として「北三番丁公園学習(歴史と木や花の名前)」、北三番丁公園内の約 90 本の樹木に年間取り付ける「樹名板の作成」、市民センターとの連携事業の「北三番丁公園フォトコンテスト」の実施など、多岐にわたっている。

市民センターでは、団体が行う各行事の広報や学校との連絡調整、活動内での見守りなど、活動が円滑に進められるよう支援した。特に「北三番丁公園フォトコンテスト」では、市民センターまつりにおいて地域の方々から応募いただいた「北三公園～わたしのお気に入り～」をテーマとした写真を展示し、団体の活動を広く市民に知ってもらう機会とすることができた。

広瀬市民センター

〔沿革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域で、平成 31 年 4 月には、錦ヶ丘中学校が開校した。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ひろせのまち～手づくりサロン～		
参加者	成人	延参加者	63 人
開催日	全 6 回 令和 5 年 6 月 21 日(水)～令和 5 年 12 月 13 日(水)		
協力者・協力団体	—		
ねらい	広瀬市民センター管内は、転入者の多い地域であるため、気軽に集い、地域住民同士の関わりを深める場所を求める声が多いことから、市民センターには人と人をつなぐ拠点としての役割が求められている。そこで、参加者同士の交流を促進することを目的として、地域人材を活かしながら、資源の再利用など「持続可能な社会に向けた学び」につながる体験講座を開催する。		
概要・成果	体験学習を通して気軽に集える講座を設け、住民同士の交流の場を提供した。第 1・2 回は「羊毛フェルトで手づくり体験」、第 3 回は「ハーブ栽培のお話とモイストボブリづくり」、第 4 回は「ドライフラワーのお話とガーランドづくり」、第 5・6 回は「手染めした羊毛でアームづくりと古布を用いた小物づくり」を実施した。 参加者同士の会話もはずみ、従来の住民と新たに転居してきた住民の交流を深めることができた。また、今まで市民センターの講座に参加したことがなかった若い世代の住民が参加し、新たな利用者層の獲得につながった。さらに、家庭でも継続可能なハーブ栽培や着物生地をリメイクしたものづくりの体験により、参加者が環境や資源の再利用について興味関心を持ち、これからの暮らしを豊かにする知識を得る機会となった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
地域で伝える「平和学習」	広瀬文化センター・戦災復興記念館と共催し、小学 6 年生を対象に仙台空襲の説明と集団疎開をテーマにした紙芝居上演会や戦災復興記念館収蔵パネル展を開催した。	1 月 10 日～ 1 月 28 日	3	199
インリーダー研修会	管内子ども会の世話人と小学 5 年生を対象に、子ども会の運営方法や意義についての講話とジュニアリーダーとのゲームなどの実技研修を行った。	2 月 17 日	1	30
広瀬子ども体験講座	子どもたちが様々な分野に興味を持ち、学習意欲を高めるきっかけとするため、小学生を対象に、フラワーアレンジメント・クリスマス工作・お雛様作り・人形劇観賞など、学校では体験できない活動を提供した。	6 月 10 日～ 2 月 10 日	5	498

笑顔で免疫力アップ！	地域にお住まいの方の「免疫力アップ」を目標に「笑顔」「映画鑑賞」「ストレッチ」「音楽療法」と毎回異なるテーマで講座を実施した。	6月9日 6月23日 7月7日 7月21日	4	73
広瀬老壮大学	60歳以上の高齢者を対象に、コンサートや国際交流講話、お楽しみ演芸会、シルバー川柳、文学館学芸員の講話、落語会を開催した。	5月25日～ 2月17日	10	302
ひろせ地域防災講座	異常気象による土砂災害・水害などに備える講話やVR体験を通して身近な地域の防災対策を学んだ。また、仙台市消防音楽隊コンサートを行い、住民同士の交流につなげた。	7月15日 12月23日	2	277
ひろせサマーナイトコンサート 2023&民俗芸能フェスティバル	民俗芸能団体や地域団体のステージ発表を行ったほか、町内会と連携した子ども向けブースを出店し、地域全体のイベントとして各世代の住民が集い、交流する機会となった。	8月6日	1	3,000
ひろせ懇話会	町内会や教育機関、地域団体の代表者、サークル等が地域課題や情報を共有し意見交換をする場として懇話会を開催した。協力体制を確認し事業運営に活かした。	6月29日 11月30日	2	36
第33回 広瀬市民センターまつり	市民センター利用団体やサークル、地域団体10団体が学習成果の発表として展示発表を行った。2日目は宮城地区まつりと合同で開催した。	10月28日 10月29日	2	600
令和5年度生涯学習活動発表会 みやぎ学習フェア	宮城地区で活動する団体が広瀬文化センターホールで伝統芸能や舞踊、楽器演奏、合唱などの活動成果を発表し、団体の技術向上と地域の交流につなげた。	11月12日	1	800
市民企画講座「なかまと楽しむほっこりサロン」	近隣の町内会等と連携し、新旧の住民同士が気軽に交流し、生活を豊かにするきっかけとなるイベントやサロンを開催した。	6月14日 7月25日 12月3日	3	112
市民企画会議「なかまと楽しもう！このまちで」	新旧住民の交流を深めることを目的に、住民が企画委員となり、気軽に楽しめる交流サロンとして、陶芸体験教室やコンサートを企画・運営した。	5月9日～ 12月3日	8	16

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ジュニアリーダー「くまっこ」の活動支援

ジュニアリーダー「くまっこ」は、歴史あるサークルで現在33人が登録している。市民センターは、ジュニアリーダーの自主性や考えを尊重しながら活動をサポートしている。ジュニアリーダー自身が企画運営する講座「ジュニアリーダー『くまっこ』と遊ぼう！（くまっこまつり）」は約300名の大勢の親子が参加し好評を得た。このようなイベントを通して、ジュニアリーダー各自が活動への意欲を高めることができた。また、定例会の中でシニアリーダーを講師とした技術研修も実施し、ジュニアリーダーのスキルアップにつなげた。

その他の行事として、自主企画「クリスマス会」「三年生を送る会」などを通して、楽しみながらメンバー同士の交流を図ることができた。

宮城西市民センター

〔沿革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●大倉ダムの魅力発信事業 ～鯉のぼり×大倉ダム～		
参加者	地域住民	延参加者	2,177 人
開催日	全 12 回 令和 5 年 4 月 9 日（日）～令和 6 年 2 月 25 日（日）		
協力者・協力団体	大倉地域連合町内会、上愛子学区連合町内会、作並地域連合町内会、上愛子小学校 広陵中学校、大倉ダム管理事務所、大倉ふるさとセンター、宮城総合支所まちづくり推進課、宮城総合支所地域活性化推進室、大倉ダムの魅力発信実行委員会		
ねらい	国内唯一のダブルアーチ式ダムであり、土木遺産として認定された大倉ダムの地域資源としての魅力を周辺の景観の素晴らしさとともに広く発信し、少子高齢化によって人口減少の続く本地域への交流人口の拡大を目指す。		
概要・成果	地域の小中学生が描いた鯉のぼりと地域から寄せられた鯉のぼりを大倉ダムに吊るし、大倉ダムとその周辺の景観の魅力を広く発信した。事業の趣旨に賛同している地域住民と事業の準備・運営・後片付けを協力して行うことで、住民同士の交流を促進することができた。また、イベント時には、県外ナンバーの来場者が多くみられ、交流人口の拡大につながった。さらに、市民まつりに合わせて土木遺産認定書授与式を挙行し、土木遺産に認定された大倉ダムの魅力を、地域内外に大いに発信することができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい教室	自然散策や調理実習、伝統文化体験などの体験活動を通して、子ども達が地域の人々や家族、友達とふれあいながら学ぶ機会を提供した。	4 月 22 日 6 月 17 日 12 月 9 日 1 月 13 日	4	72
インリーダー研修会	子ども会リーダーの児童及び世話人を対象に、子ども会活動の充実と活性化を図るため必要な知識や技術を講話や実技等で学ぶ研修会を実施した。	2 月 17 日	1	30
中学生のハローワーク	広陵中学校 1 学年・3 学年の生徒を対象に、社会人 2 名（漫画家・気象予報士）による職業講話を実施した。中学生の職業観や勤労観を育み、進路選択に向けた学びを支援した。	8 月 22 日	1	17
ゆうゆうの森プロジェクト	上愛子小学校の児童を対象に、小学校に隣接する“ゆうゆうの森”での様々な活動を通して、先人たちが実践してきた里山の利用と再生の仕組みを学ぶ機会を創出するとともに地域間交流を促進した。	6 月 6 日 10 月 26 日	2	24

里山の四季探訪	「鎌倉山」「蕃山」「白沢五山」と全3回の登山を実施し、参加者が四季折々の山歩きを楽しみながら、健康増進と参加者同士の交流を深める機会を提供した。	4月22日 5月20日 9月30日	3	27
暮らしいきいき！なでしこクラブ	主に地域女性を対象に、心身共に健康で豊かに暮らすため、学び合う集いの場を提供した。暮らしの講座やスポーツ体験、料理講座等、意欲的な学びを支援した。	6月7日～ 2月21日	6	85
出前講座	各地区の集会所などで全7回の出前講座を実施し、高齢化や交通手段の減少等により市民センターに来館できない方々に学びの機会を提供した。	6月22日～ 2月20日	7	106
宮城西のしらべ～ハンドパンと馬頭琴～	地域在住の馬頭琴とハンドパン奏者を招いて音楽に親しむコンサートを開催し、地域住民に地元の音楽家を紹介した。	3月3日	1	121
老壮学級	交通安全や健康作り、臨床美術、お楽しみ交流会、音楽鑑賞等の講話や実技など、心豊かに暮らすために様々な学習内容を提供し、生きがい作りの一助とした。楽しみながら共に学び交流を深めた。	6月15日～ 1月18日	8	273
自主防災活動を推進するための「防災・減災学び塾」	地域住民の防災意識を高めるために、水害のVR体験を行ったほか、指定避難所である広陵中学校を会場にして、地域住民と広陵中学校生徒全員が避難所運営訓練を行った。	5月23日 9月24日 10月21日	3	117
宮城西市民まつり	演芸発表・作品展示・野菜即売会・フリーマーケット・キッチンカー販売などを行った。コロナ禍のような制限は設けずに開催し大盛況であった。	11月22日 11月23日	2	1,605
宮城西地域懇話会	市民まつり反省会や地域懇話会において、各町内会、小中学校、保育所と情報交換を行った。地域課題を共有し、それを解決するために連携することの重要性を共有した。	12月3日 2月9日	2	39
令和5年度生涯学習活動発表会みやぎ学習フェア	宮城地区で活動する団体が、日頃の活動成果を広瀬文化センターで発表した。宮城地区内の市民センターの連携により、学習フェア全体の活性化とともに地区の絆の強化を図った。	11月12日	1	800
●市民企画会議 みやぎ西「まち活」推進事業	市民企画員を募集し、市民参画による企画会議、フィールドワーク、ワークショップを実施した。宮城西市民まつりでは、eスポーツ各種ゲーム体験を実施するとともにアンケートを通じて地域課題やニーズを把握した。	8月26日～ 3月2日	5	30

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

学区内小中学校との連携と幼保活動支援

令和5年度はコロナ禍が明け、学区内にある上愛子小学校、広陵中学校は地域との連携強化を図ることが必要であったことから、市民センターでは地域と学校との橋渡し役を担った。中学校と地域の防災訓練では、中学生と地域住民が一緒になって避難所運営訓練を展開することで、中学生の地域の担い手としての意識を高めるとともに地域住民と中学生との交流の場をつくることができた。

また、地域にある友愛幼稚園が地域連携を模索していたことから、幼稚園の実態や要望を聞きながら町内会との連携を進め、令和5年度は幼稚園にある畑作業を、地域住民と園児が一緒になって行った。さらに、熊ヶ根保育所と友愛幼稚園との顔合わせの場を設定するなど、新たな連携の取組も進んでいる。少子化が進む地域であるが、子どもを核とした地域の賑わいを創出する役割を果たしていきたいと考える。

大沢市民センター

〔沿革〕

大沢市民センターは、平成2年5月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成30年度には大規模修繕を実施し、平成31年4月に再開した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	スポーツで地域交流「大沢・川前グラウンドゴルフ交流会」		
参加者	地域住民	延参加者	39人
開催日	全1回 令和5年9月3日（日）		
協力者・協力団体	大沢・川前学区民体育振興会 大沢小学区・川前地区連合町内会		
ねらい	大沢地域と川前地域は地理的に遠く離れており、日頃の交流が少ないことから、当該事業はグラウンドゴルフを通じて両地域住民が「交流と親睦」を図る貴重な機会の1つとなっている。市民センターは両地域の交流拠点として、大沢・川前両学区民体育振興会とともに円滑な運営を図り、当該事業をどなたでも気軽に参加できる、地域に根差した行事とすることを目指す。		
概要・成果	大沢・川前両学区民体育振興会と共催で、大沢小学校校庭を会場に開催した。35人が参加し、8組に分かれてプレーした。地域間の交流を促すため、各組には大沢地域と川前地域の両住民が含まれるようにグループ編成に配慮した。プレーをしながら参加者同士が会話をするなど、交流が図られた。当該地域で人気の高いグラウンドゴルフをきっかけに、団体間の垣根を超えた地域間交流を促進することができた。今後はこの取り組みを、世代を超えて広めていきたい。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもお楽しみ体験講座	子どもを対象に体験講座を実施した。9月にじどうかんまつり内でモンゴルの馬頭琴コンサート・馬頭琴体験コーナーを実施した。10月に「えいご de らくご（英語による落語の講演、ゲーム、パラバルーン）」を実施した。	9月16日 10月28日	2	144
インリーダー研修会	小学5年生を対象に、インリーダーの役割や行事プログラムの進め方などの学習の場を提供した。世話人の部では、子ども会活動の現状や、子ども会と世話人の役割などについての情報交換を行った。	2月3日	1	8
大沢農学校	専門家を講師に招き、年間を通して講話と実技で播種や畑の管理、土づくりを学んだ。収穫物を調理したり班ごとに管理作業をしたりして受講生同士の交流を深めた。	4月21日～ 3月8日	15	173
大沢朗々学園	地域の高齢者を対象に、歴史や文学、健康、音楽、館外学習など様々なテーマで講座を実施した。また、受講生の中から運営委員を選任し、積極的に受講できるような環境整備に努めた。	5月18日～ 3月7日	9	341

大沢市民まつり	大沢市民まつり実行委員会を中心に運営し、ステージ発表・作品展示・出店・子ども遊びコーナー等を実施した。幅広い地域住民の交流と、サークル団体の日頃の活動成果発表の場となった。	10月14日 10月15日	2	699
大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗	「大沢するめ天旗愛好会」と共に、凧作製キットの配付及びYouTubeで作り方動画の配信を行った。また、大人向け、子ども・親子向けに凧づくり講座を実施した。凧あげも予定していたが、雨天のため中止となった。	5月31日～ 1月13日	5	151
大沢地域出前講座	地域の方のニーズを聞き取った上で講座を企画し、地域の集会所等に出向いて、DVD上映会や歌に親しむ講座、小物作り、音楽コンサート、凧作り等を実施した。	5月25日～ 2月29日	6	163
大沢地域防災講座	第1回は芋沢婦人防火クラブメンバーを対象に「我が家の防災レスキューノート作り」を実施した。第2回は「地震発生時の自助・共助」というテーマで講話や防災資機材倉庫見学等を実施した。	12月3日 2月10日	2	25
大沢地域懇話会	地域内の町内会や地域活動諸団体、学校等と各団体の取組状況や地域課題などの情報交換と、市民センター事業運営についての要望・意見などを聞いて、今後の運営に生かした。	5月25日 2月17日 3月12日	3	39
令和5年度生涯学習活動発表会みやぎ学習フェア	宮城地区内の4市民センターと広瀬文化センターで共催し、広瀬文化センターを会場に伝統芸能や舞踊、太鼓、ダンスなど宮城地区で活動している団体の生涯学習活動発表会を行った。	11月12日	1	800
市民企画講座 地域の宝さがし！～石碑から学ぶ大沢の歴史	地域に点在する石碑を巡り、石碑に刻まれた文字を探りながら、昔の人々の生活や知恵、風土について学習した。	10月27日 11月17日 12月1日	3	35
大沢・川前合同発表会	大沢中学校・大沢小学校・川前小学校・大沢幼稚園の生徒・児童・園児が制作した絵画・工作・書道などの作品展示及び学校紹介などの動画上映を行った。	1月27日 1月28日	2	238
大沢市民企画会議	大沢地域在住の企画員が、地元の歴史や自然などの情報交換をしながら、地域の魅力について話し合った。石碑の散策講座を企画、実施した。	6月14日～ 3月5日	12	64

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「活動支援・コーディネート」

・「小さな発表会」によるサークル支援

当該センターで活動している音楽サークルや、読み聞かせボランティアの成果発表の場として、学習発表会を開催した。これをきっかけに、新規メンバーが加入するなどサークル活動が活性化した。

・大沢小学校活動支援

総合的な学習の授業で昔遊びの講師として地域のボランティアの方々を紹介し、活動のサポートを行った。小学校と地域との橋渡しができた。また、世代間交流の一助となった。

落合市民センター

〔沿革〕

平成6年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道48号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設があり、国道沿いには大規模な商業施設も多い。地区外からの転居により人口も増加した比較的若い世代が居住している地域である。一方薄れつつではあるが、西館跡をはじめとした遺跡や神社など地域の歴史や風習など伝統も残っている地域である。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	親子でつながるぴよぴよフェスタ		
参加者	乳幼児とその保護者	延参加者	94人
開催日	全5回 令和5年6月3日（土）～令和5年12月6日（水）		
協力者・協力団体	仙台市栗生児童館、仙台市広瀬マイスクール児童館、落合保育所地域子育て支援センター、仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台		
ねらい	市民センターが核となり地域の子育て支援団体との情報交換の場を提供し、地域で子育てを支援する協力体制を構築する。そして、児童館や保育所等と連携し講座やイベントを通して、保護者が求める情報を直に伝えることを目的とする。加えて、親同士、子ども同士の仲間づくりを支援する。		
概要・成果	第1回は近隣児童館や保育所、子育て支援団体が一堂に会し、ふれあい遊びなどを交えながら施設紹介等を実施し、子育て世代が求める情報を直に伝えることができた。また、支援施設同士の横のつながりも得た。第2回は、「落合夏フェス」イベントを行い、各団体が「てがたコーナー」や「魚釣りあそび」などブースを担当し、親子や参加者同士で楽しむことができた。また、地域ボランティアとして男女7名が参加し、世代間交流にもつながった。そのほか、親子で楽しむコンサートやクリスマスイベントなど様々な内容の講座を行った結果、参加者同士の交流にもつながり、事業実施以前に比べ、地域の各施設に親子が多く訪れるようになった。落合市民センター親子室の利用率も昨年比1.4倍となった。このように各団体が協力した結果、子育て支援施設とのつながりと親同士・子同士のつながりができ、地域で安心して子育てができるための支援の一歩となった。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子であ・そ・ぼ！	近隣の児童館と共催し、親子でクラフトバンド作りや夏野菜収穫体験、身体作りエクササイズなど、親子でコミュニケーションを取る機会を提供した。	7月8日 8月1日 10月28日	3	46
インリーダー研修会	子ども会のリーダー、世話人として活動するための手法や運営方法を学んだ。講話やゲームの進め方の実践など、スキルアップに必要な体験を実施した。	1月27日	1	6
おしえて高校生！	小学生を対象に、兄姉世代の高校生を講師とし、卓球・バドミントン・ニュースポーツ・LED クリスマスカード作りを行った。学校や家庭から離れた場所での学びを体験した。	7月25日 12月17日 1月20日 2月3日	4	45

来たれ！男のまなび舎	地域活動の役員やリーダーを担う人材を育成することを目的に、地域社会についての学習や体験学習を通して男性の仲間づくりを進めた。	7月29日～ 1月13日	6	70
めざせ健康！ 元気あっぷチャレンジ	コミュニケーションを図りながら、ヨガ・ダンス・ニュースポーツ・ウォーキング・健康講話を行った。地域団体を講師に招き、地域活性化のきっかけづくりとした。	8月8日～ 12月12日	5	78
春夏秋冬 四季を感じるものづくり	四季や伝統をテーマにした小物作り講座を開催し、レジンコースター・布のリース・こぎん刺し・水引細工などを体験した。作品づくりを通して受講生の交流の場を提供した。	6月21日～ 12月14日	5	35
落合栗生実年学級	地域の高齢者が健康で生きがいのある生活が送れるよう、音楽や歴史、健康など多岐にわたるテーマを取り上げ、講話やものづくりなどを実施した。交流タイムも設けた結果、受講生同士の関わりも増え、講座以外での交流も図られるようになった。	5月18日～ 2月15日	9	316
地域防災講座	宮城県消防署と共催で「親子で挑戦！夏休み消防士体験」、地域の町内会と共催で「自主防災訓練」を実施した。2 講座を通し地域の防災への意識を高めた。	7月27日 9月18日	2	164
落合・栗生 地区まつり	4年ぶりの飲食を伴う開催となったことで、近隣より多くの方が来場し、にぎやかで活気あふれるまつりとなった。サークル団体の日頃の成果が披露され、スポーツ広場等も賑わい、家族や友人と交流する姿が見られた。	10月15日	1	200
令和5年度生涯学習 活動発表会 みやぎ 学習フェア	宮城地区の各館合同による地域市民交流の場として4年ぶりに開催し、宮城地区内を活動拠点とするサークルや団体の成果発表を行った。	11月12日	1	800
地域懇話会	地域の各団体及び行政・教育機関等の代表から、市民センター運営にかかる指導助言を受けた。充実した事業運営ならびに安全への配慮等における助言が中心となった。	12月14日 1月14日	2	24
複数年事業「おらがまちのいいところ発見！」	地域の魅力を発見し、その魅力を発信していくため、地域住民が企画会議を通して話し合った。市民センター敷地内の桜に樹名板をつけるために桜についての学びを深めたほか、地域の魅力を紹介するマップ「おらがまちのいいところ散歩道」の作成に向け、写真の撮り方等を学習した。	4月7日～ 3月9日	9	69

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「落合栗生歴史愛好会」への活動支援

「落合栗生歴史愛好会」は、落合栗生の史跡や関わりの深い「五郎八姫」に関する調査や、天麟院の史跡見学など、積極的に歴史探訪を継続している。また、令和4年度に作成した総合リーフレットを活用した歴史案内ボランティア活動も併せて行い、地域の歴史的資産・魅力の伝承や発信に大いに貢献している。市民センターでは、老壮大学の講話依頼や地域の小学校や児童館などからの校外学習ボランティア等、地域からの多くの要請依頼を愛好会に繋ぎ、調整を図ることで、積極的な活動を後押ししている。

吉成市民センター

〔沿革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成 8 年 4 月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の 2 連合町内会を対象地域としている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	もっと知って もっと好きになるわたしのまち		
参加者	地域にお住まいの方ならどなたでも	延参加者	124 人
開催日	全 5 回 令和 5 年 7 月 29 日（土）～令和 6 年 2 月 24 日（金）		
協力者・協力団体	くよみ郷土研究会、仙台市博物館、みやぎ生協国見ヶ丘店		
ねらい	自分が住んでいるまちであっても、歴史や成り立ち、地形や建造物、施設や商店のことなど、普段の生活の中で詳しく知る機会は少ない。改めて自分が住むまちについて多角的に学ぶことで、まちへの興味を引き出し、住民自らが「より良いまちづくり」のため、考え、動く足がかりとする。		
概要・成果	地域内のお寺での座禅体験や大型店舗の店長の講話、地域在住の染織家に教わる織物体験を開催した。2 月には地域で活動している自主ボランティア団体と共催の郷土学講座や仙台市博物館と共催の市史講座を開催した。多方面から自分の住むまちを知る機会を提供することができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
がんばれ子育て！みんなでリフレッシュ！	子育て世代に向けて同じ世代の親子が集いリフレッシュできるような、タイ式ヨガとリトミックの講座を開催した。	5 月 13 日 12 月 9 日	2	27
吉成チャイルドスクール	小学生親子向けに仙台市博物館共催の工作講座や広瀬文化センター共催のダンス・プロジェクトマップ体験、近所の公園での自然観察会、高校生が講師となるダンス教室、ロボットプログラミング教室を行った。	8 月 5 日～ 12 月 2 日	5	90
インリーダー研修会	子ども会の次期リーダーとなる児童および世話人を対象に、行事のプログラムの作成の仕方や、子ども会についての知識を学ぶ機会を提供した。	2 月 3 日	1	21
吉成減災対策講座	吉成地域婦人防火防災クラブと企画会議を行い、親子で災害時に包丁を使わずポリ袋を使ってカセットコンロで調理する「サバイバルメシ」の講座を開催した。	4 月 13 日 4 月 26 日 7 月 8 日	3	24
きらめきスクール	健康講話やクラシックコンサート、軽運動、防犯、歴史など様々な講座を開催し、受講生の学習意欲に応えた。また、受講生同士の交流会も行った。	5 月 12 日～ 1 月 12 日	8	468

《青葉区》

吉成出前講座	地域住民を対象に、地域の社会福祉協議会や老人会と共催し、和楽器や沖縄音楽、箏曲のコンサートを開催した。	11月19日 11月26日 1月12日 1月16日	4	225
みんなのコンサート	吉成小学校・吉成中学校・南吉成中学校・仙台青陵中等教育学校・東北福祉大学の吹奏楽部が地域住民に演奏を披露した。出演者全員での交流会も行った。	1月21日	2	403
吉成市民センターまつり	市民センターで活動しているサークルや地域団体が実行委員となり、ステージや展示で日ごろの活動の成果を発表した。地域の方も多く訪れ、地域活性化の一助となった。	10月13日 10月14日	2	829
ニューススポーツ交流会	吉成・南吉成両学区民体育振興会と共催し、年代を越えて誰でも参加できるニューススポーツの交流会を開催し、世代間交流を図った。	4月11日 6月17日 9月13日 11月5日	4	79
地域懇話会	管内の町内会や小中学校、市民センター利用団体等の代表者にお集まりいただき、市民センターの活動紹介や情報交換等を行い、センター運営に役立てた。	6月21日 2月14日	2	23
よしなり音楽祭	市民企画会議を経て、地域住民自らが企画・運営・出演者となって沖縄音楽の演奏会を開催した。	3月3日	1	246
市民企画会議 よしなり活性化プロジェクト	いざという時に助け合い支え合うコミュニティづくりのために、地域住民による企画委員が話し合いを重ね、様々な年代の地域住民が集うことのできる「よしなり音楽祭」を企画した。	7月13日～ 3月3日	6	18

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「くよみ郷土研究会」の活動支援

「くよみ郷土研究会」は、当市民センターの講座から立ち上がったサークルである。

自主活動に移行してからも、仙台青陵中等教育学校の学校林「青陵の森」の整備や観察、地域の歴史資源の調査・発表など意欲的に活動している。

令和5年度は、地域の生きものについてまとめたリーフレット「くよみ地区の生きものたち」を作成し、配布した。地元紙に取材を受け、夕刊・朝刊に連続掲載されるなど注目を集めた。

これらの活動への支援として、他市民センター主催の講座や小学校での地域の歴史の講師としてコーディネートを行い、サークルの活躍の場を広げ、学びを地域に還元することができた。今後も、サークルとしてさらに学びを地域に還元していけるよう情報交換につとめ、支援を続けていく。

宮城野区中央市民センター

〔沿革〕

宮城野区中央市民センターは、平成 24 年 8 月、宮城野区役所や J R 陸前原ノ町駅に隣接する複合施設内に、市内 60 番目の市民センターとして開館した。同施設には、文化センター、図書館、児童館、情報センターが併設されており、交通の利便性も良く多くの市民に利用されている。

当センターの周辺は、古くから歌枕の地と知られる歴史をきざみ、近隣には原町商店街や陸上自衛隊仙台駐屯地などを擁しており、旧来の地元住民に加え転出入者も多い地域である。市民センターとしての歴史は浅いが充実した施設を活用して、様々な学びの機会を提供するとともに、地域情報の収集・提供に努め、地域の活動を担う人材の育成や交流拠点としての事業展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業「キッズもりあげ隊」		
参加者	原町・宮城野小学校 3 年生～6 年生	延参加者	149 人
開催日	全 10 回 令和 5 年 6 月 4 日（日）～令和 6 年 3 月 10 日（日）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部宮城野区中央市民センター		
ねらい	当センター管内は、地元の商店が年々減少し、転出入者も多いことから、地域の活気やつながりが弱くなりつつある。そこで、どうしたら自分の住んでいる街が楽しく活気あふれるようになるか、地域を盛り上げるためには何ができるかを子どもたち自身で考え、活動を行う。 これまで中心的に活動が続けてきた 6 年生児童が、今後を見据え下級生メンバーに自主的に引継ぎをしてきた。世代交代をしながら、令和 5 年度も地域の協力のもと活動地域を広げ、主体的に取り組みができるように進めていく。		
概要・成果	地域の小学生が企画員となり、6 月の第 1 回企画会議からアイデアを練り、準備を進めた。8 月の全国オンライン交流会では、地域を全国に紹介するためのクイズを考え、準備やリハーサルを行い、本番では全国 7 カ所の小学生と交流を持つことができた。12 月には、地域の小学生のためにクリスマス・フェスティバルを開催し、工作やなぞとき、ゲーム「ミッション・インポッシブル」を実施した。その他にも地域の商店街に飾る七夕飾りを作ったり、「宮城野カルタ」で地域について学んだりした。高学年がリーダーとして下級生を巻き込みながら活動する中で、どの学年の児童も積極的に発言し、主体的に活動することができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ウェルカムひろば	乳幼児親子を対象に、地域の子育て支援団体と共催で生活や育児に関する情報提供や育児相談、遊びの提供を行い、地域全体で子育て支援を図る場を提供した。	7 月 6 日 11 月 16 日	2	182
みやちゅうジュニアスクール	地域の小学生に向けて、高校生やジュニアリーダーを講師に活用し、ものづくりやプログラミングなどを体験する講座、遊びを体験する学習を行い、異年齢交流の場を提供した。	7 月 8 日～ 12 月 23 日	5	209
インリーダー研修会	東部市民センターと合同で開催。地域の小学 5・6 年生とその保護者を対象に、児童はレクリエーションゲームの進め方やゲーム実践、世話人は子ども会の意義について話し合った。	8 月 18 日	1	53

●はらのまち・みやぎの Funtime	土曜や夜間、オンラインでの講座など参加機会の拡充を図り、多様な内容の講座を実施した。また、出前講座を通して地域のニーズに応える学習機会の提供を行った。	7月21日～ 1月26日	8	435
みやぎの大学	火曜・金曜クラスとも同じテーマと講師で音楽、防犯、健康、歴史、環境、館外学習など多様な学習を行った。運営委員自主企画の防災ゲームでは受講生同士の交流が図られた。	5月19日～ 2月6日	16	719
アクティブシニアのせ んだい見聞講座	活発で行動的なアクティブシニアの知的好奇心に応えるため、仙台の文化資源（建造物、景観、食文化、工芸等）について現地で実際の文化資源に触れながら学んだ。	6月7日 7月25日 11月9日	3	60
原町本通りに七夕を飾 ろう	原町東部商工会と連携し、原町本通りに飾る七夕飾りを作成した。また、宮城野区文化センター、JR 陸前原ノ町駅、陸上競技場へも展示した。	5月25日～ 7月6日	7	97
●Miyachu ギャラリー	地域団体や学校と連携し、館内の展示スペースを活用して各団体の学習成果の展示と、地域住民が気軽に学習に参加できるワークショップを開催した。	6月1日～ 3月17日	10	2,731
●みやぎの防災・減災ひ ろば	災害への備えや対応を身に付けるため、VR 体験、防災ゲームなど、防災に関心を持ってもらえるような講座を実施。小学校と高等学校への授業ではクロスロードを体験した。	5月27日～ 11月15日	5	223
市民センターでだれで もだんす	障害者や高齢者、子供などが孤立しない安心できる地域のつながりの構築を目的に、障害のある方向けの身体を動かして楽しめるダンスワークショップを開催した。	8月26日	1	20
フラットシアターフェ スティバル	障害や年齢の違いを問わずあらゆる子どもを対象として、音楽や演劇、ダンボールでの創作体験等、様々な表現を楽しめるフェスティバルを地域の関連団体等との共催で開催した。	9月16日 9月17日	2	561
宮城野区中央市民セン ターまつり M フェス	利用団体やサークル、管内の学校に日頃の学習成果発表の機会を提供し、地域の交流と親睦、活性化の推進を目的に、ステージ発表・出店・ジュニアリーダーコーナー等を行った。	10月21日	1	1,600
宮城野区中央市民セン ター地域懇話会	対象を第1回は管内小中高および教育機関、連合町内会および地域団体代表者とし、第2回は単位町内会を中心に、市民センター事業紹介と報告、情報交換等を行った。	6月16日 2月9日	2	30

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「宮城野原案内人の会」への活動支援

「宮城野原案内人の会」は、センターの講座から立ち上がった地域ガイドボランティアであり、センターでは、地域で活躍するための支援を通年で行っている。

会員不足が課題となっているため、会が定例的に開催している「まち歩き会」の広報記事を市民センターだよりに掲載するとともに、令和5年度は活動の成果を紹介するパネル展を開催し、さらなる活動の周知を図った。

また、宮城野小学校より依頼のあった、3年生対象の地元を学ぶための授業では、学校との日程調整等のコーディネートをセンターが行い、会が講師として出前授業を行った。その他、岩手県一関市巖美市民センターより、講座受講生の現地学習での案内を依頼された際にも、センターが連絡調整や当日同行等の支援を行い、会が地元の名所（乳銀杏）のガイドを行った。会の活動に寄り添った支援を継続することで、地域人材としての経験を積み重ね、活躍の場を広げてきている。

生涯学習支援センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたことが始まりで、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成 26 年 4 月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成 26 年度より近接する榴岡市民センターの出前講座として実施していたが、令和 5 年度より徐々に再開している。

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
生涯学習支援センター 地域懇話会	町内会や各地域団体、利用団体を対象に実施。情報交換やご意見を伺い、市民センター運営に活かした。	10 月 18 日 2 月 21 日	2	13
じぶんプランニング	小学生が専門分野について見たり聞いたりすることで、自分の興味や才能を見つけ、可能性を広げていくきっかけづくりのため、「水族館・アクアリスト編」と「動物園・動物飼育編」の体験講座を行った。	11 月 18 日 11 月 22 日	2	18

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

展示スペースの提供・お茶っこサロンの開催

1 階の展示スペースを、サークル・個人の活動成果発表の場として提供している。令和 5 年度は、当センター利用サークルをはじめ、多くの団体や個人が利用し、手芸や俳句、写真などの作品の制作意欲や日頃の活動への意欲の向上に繋がった。また、開催したお茶っこサロンでは、管内の中学校の先生と生徒を対象に当センターの利用や学校との連携について意見交換を行った。その中では、生徒が活躍の場を求めているといった貴重な意見を聞くことができ、市民センター運営に役立てた。

〔沿革〕

高砂市民センターは昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。

この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また、東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んできたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で甚大な被害を受け、中野地区は仙台市災害危険区域条例に基づき災害危険区域に指定され移転対象地区となった。地区内の 4 町内会は解散し、多くは田子、上岡田、南福室に移転した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★仙台蒲生日和山山開き登山プロジェクト		
参加者	地域住民、高砂中生・OB を含む一般登山者	延参加者	289 人
開催日	全 5 回 令和 5 年 4 月 21 日（金）～令和 5 年 7 月 14 日（金）		
協力者・協力団体	連携：高砂中学校・PTA・同校卒業生、なかの伝承の丘保存会、中野ふるさと YAMA 学校		
ねらい	仙台蒲生日和山は、「日本一低い山」として、広く知られ「登頂証明書」を求め地域住民のみならず全国から登山者が多数訪れている。平成 26 年から地域団体や住民により山開き登山が企画・開催され、震災で失われた地域の文化と被災体験を広く伝え防災・減災に役立てるとともに、移転を余儀なくされた地域住民の再開・交流の場、新たに日和山に興味を持った人たちとの交流の場として笑顔が行き交うまちになるようお願いを込め、山開き登山を開催して新たな海辺のふるさとづくりを目指す。		
概要・成果	令和 5 年度はコロナ禍明けの通常開催となり、昨年度の約 2 倍となる 259 名が中野伝承の丘に集まった。山開き登山のオープニングでは、旧中野小学校の卒業生（現在成人）と高砂中学校の生徒の混合チームによる中野小太鼓の演奏が行われ、会場は活気に溢れた。日和山に向かう道中、震災前の蒲生の風景や歴史に思いを馳せ、改めて防災、減災の大切さを実感することができた。今年度は山開き登山を再開して 10 年目の節目となり、企画員から提案があった蒲生干潟に自生しているヨシで作ったしおりを参加者全員に配布し、大変喜ばれた。山開き登山の実施後、登山に訪れた方々が SNS 上に紹介記事・写真を掲載したことなどから、全国（海外）から登山者が訪れ、令和 5 年度は 2,046 名の登山者に登頂証明書を発行することとなり、海辺のふるさとづくりに貢献できた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
たかさご Kids スクエア	児童館や地域のサークル団体と連携し、小学生を対象に学校教育では学べない体験学習（フラワーアレンジメント、フラダンス、玩具づくり、パンケーキアート）の機会を提供した。	8 月 9 日 8 月 23 日 9 月 30 日 2 月 17 日	4	44
★●ふるさとの自然を学ぶ ～蒲生干潟の植物と生き物～	鶴巻小学校と共催し、蒲生干潟についての学習会と観察会を行った。令和 5 年度は開催時期を 6 月に設定したことでより多くの生き物や植物の観察ができた。	6 月 16 日 6 月 21 日	2	87
宮城野区インリーダー研修会	子ども会のリーダーの児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や知識を学ぶ機会を提供した。インリーダーの役割、世話人の役割、ゲームの進め方を学んだ。	8 月 18 日	1	32

高砂オープンカレッジ	誰もが気軽に参加できる講座を企画し学習と交流の機会を提供した。館内編（合唱・読み聞かせ）と市民センターに足を運ぶことが難しい地域の住民を対象に出前講座を実施した。	9月21日～ 3月5日	11	186
高砂老壮大学	学習を通じて、高齢者の生きがいづくりや交流の促進を目指して、「音楽」、「外交」、「食」、「歴史」、「美容健康」、「軽運動」、「演芸」、「介護」、をテーマにした講演会を実施した。	5月17日～ 2月21日	9	455
地域で考える「みんなのBOSAI」	高砂市民センター指定避難所の防災訓練を開催し防災意識の高揚を図った。またリアルなVR（内水氾濫）を体験し災害発生時の身の備えの重要性を学んだ。	4月23日～ 2月29日	7	338
高砂市民センター懇話会	町内会等と利用サークル対象の懇話会を2回実施した。事業への取組状況と予定を説明し理解を図るとともに、市民センターへの意見や要望の把握に努めた。	5月20日 2月29日	2	29
第44回高砂市民センターまつり	地域交流の活性化を目標に、地域諸団体やサークル団体で実行委員会を組織し、開催に向けて会議を重ねた。当日は多数の来場者があり、住民同士の交流を図ることができた。	10月22日	1	1,050
高砂地域交流事業～たかさご音楽会～	「新たな高砂の魅力づくり」をテーマに、ケアブレンド音楽交流会、胡弓コンサート、ウィンターフェス・ファイナル、Bright☆Kids Winter Liveを開催した。	5月5日～ 1月27日	7	380
★高砂・蒲生の新遊歩道めぐり	旧中野小学校区周辺の遊歩道を活用し、クイズラリーやノルディックウォーキングを通して、震災前から現在までの変遷を学び、新しい地域資源に触れる場を提供した。	11月4日 11月23日	2	17
「高砂地域の神社のお話」「高砂ぐるり散歩」「吹奏楽コンサート」	「高砂地域に何があるのか」をテーマに歴史講座「神社のお話」、まち歩き「高砂ぐるり散歩」、地域の人材を発掘する「高砂中吹奏楽コンサート」を開催した。	12月9日 1月13日 3月17日	3	62
市民企画会議「高砂の魅力再発見プロジェクト」	企画会を開催し、高砂の魅力を発見、発信していくための講座を企画した。令和5年度は高砂地域に何があるのか知ること目標に掲げ、講座を運営した。	6月17日～ 3月17日	7	35

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

高砂市民センター指定避難所運営委員会（以下避難所運営委員会）の活動支援

令和5年度指定避難所防火・防災訓練を、3回の避難所運営委員会を経て11月に実施した。高砂小学校児童が授業として参加するとともに地域住民も100名近く参加し、災害時の避難経路や指定避難所までの徒歩による移動時間の目安を確認することができた。また、5町内会が濃煙テント訓練、トイレ組立訓練、α米炊き出し訓練、給水訓練、水消火器による消火訓練、DVDによる防災学習などを担当し体験訓練を行い、参加者の防災意識の高揚、知識・技能の向上を図った。

中野ふるさとYAMA学校の活動支援及び民間ボランティア団体とのコーディネート

YAMA学校主催講座の実現に向け助言や提案を行った。震災の語り部活動や活動資金の獲得のため、関係NPO団体とコーディネートを行い、自主活動を展開できるように支援した。また、マスコミ等による震災や日和山など地域に関する取材や問い合わせに応じて、地域人材の紹介や仲介を行った。

岩切市民センター

〔沿革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。平成 18 年 6 月から 12 月まで大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩の家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	すずむしリンリン講座		
参加者	出前授業：岩切小学校 4 年生 配布会：どなたでも 実験放虫：実行委員	延参加者	392 人
開催日	全 3 回 令和 5 年 6 月 20 日～令和 5 年 10 月 29 日		
協力者・協力団体	すずむしの里づくり実行委員会、岩切小学校、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター、岩切地区町内会連合会		
ねらい	都市化が進むことで失われつつある自然環境の中、仙台市の虫・スズムシを飼育し、自生させる活動を通して、多くの市民が自然に興味を持ち、人とスズムシが共存できる潤いのあるまちづくりを目指す。		
概要・成果	令和 5 年度は岩切小学校 4 年生（5 クラス 174 名）に対して、実行委員が講師となりスズムシの生態や飼育方法などについての出前講座を行った。子ども達はスズムシが仙台市の虫であることやスズムシの体のつくり、音の出し方などに興味関心を持ち、学習を深める契機となった。また、岩切市民センターを会場に行った配布交換会には 118 名の来場者があった。さらに、仙台の虫「スズムシ」の広報活動のため岩切市民まつりに参加し、すずむしの里づくり実行委員会の活動内容を紹介した。実行委員会では、仙台市野草園、仙台市農業園芸センター、県民の森で実験放虫にも取り組み、スズムシの生息に適した環境を模索している。多くの市民が、仙台市の虫「スズムシ」を理解するとともに、環境への関心を高めることに大きく寄与した。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●家庭教育地域交流会	地域の教育に係る諸団体が情報交換をしながら話し合い、2 つの講座を企画実施した。日本の伝統音楽の箏と尺八の演奏会「和楽器のしらべ」と「わくわく防災キャンプ」で寒い時期の避難所体験、サバ飯調理などを学んだ。	6 月 6 日～ 2 月 28 日	8	165
●岩切子育て応援事業	いわきり子育てネットワークと協働で、いわきり親子でわいわい広場や子育て講座・作品展示・ママ企画講座等の子育て支援事業を行い、子育て世帯に集いや、ゆとりのある安心した子育てを提供した。	4 月 18 日～ 2 月 24 日	20	1,189
インリーダー研修会	地域の子供会活動の活性化を図るため、子供会のリーダーと世話人を対象に、知識習得や情報交換の場を提供した。また、ジュニアリーダーを活用し、活動の活性化と育成に寄与した。	8 月 17 日	1	15

岩切子どもふれあい事業	「子どもの広場であそぼう!」や「移動天文車音楽と星空天体観望会」等を開催し、子どもの居場所作りや地域で子ども達を見守る環境作り、また、世代間交流や家族の絆を深める場を提供した。	6月24日～ 11月25日	6	253
岩切小学校地元学連携講座	岩切小学校4年生を対象に、古くから岩切に自生している伝統ある資源「カラムシ」を地域講師から直接学ぶ機会として、7月に畑の観察、11月にストラップづくりを実施した。また、地域講師育成に向けて5月にカラムシストラップづくり体験会を実施した。	5月27日 7月5日 11月7日 11月10日	4	363
岩切老壮大学	地域の高齢者を対象に、歴史、異常気象、健康、心理学実験、大相撲などの講話や、館外学習、音楽・演芸鑑賞といった様々な内容の講座を実施し、定期的に集まり仲間と学ぶ場を提供した。	5月17日～ 2月21日	10	478
学びの広場岩切アカデミー	「グラウンドゴルフ体験会」「ストレッチ・筋トレ学習」「読書グッツ制作」「岩切おもしろ寄席」「岩切元気わくわく塾体験講座」を地域の各団体と共催し、地域住民に新たな学びの提供や交流、地域の活性化を行った。	5月23日～ 3月7日	5	300
岩切市民まつり	「市民センターまつり」と「コミュニティまつり」が統合して2回目の開催。利用サークルや地域団体の展示と舞台発表、野菜販売、模擬店、動物ふれあいコーナー、小学生の絵画展示、中学生の吹奏楽発表などを行い、地域の活性化につなげた。	10月28日 10月29日	2	2,200
岩切市民センター懇談会	岩切市民センターの事業運営や施設管理についての意見を取得し改善につなげた。また、岩切地区の地域課題と関係公所・団体等の令和6年度事業予定の情報共有を行った。	6月23日 2月27日	2	17
考えよう! 岩切の安心安全	詐欺被害防止と大雨災害VR体験・マイタイムライン作りを通してさまざまなリスクへの備えを学習。心肺蘇生など救命法の実技訓練、補助避難所開設運営訓練により地域防災力を高めた。	7月23日 12月9日 2月17日	3	97
岩切いろいろ見てみ隊	「歴史編」では足軽屋敷の雰囲気を残している「今市街道」を散策しながらこれまでに伝えられてきた郷土の歴史にふれて学んだ。「自然観察編」では、「春の野鳥編」で県民の森で散策と野鳥観察、「冬の野鳥編」は、加瀬沼で冬鳥などの観察を実施した。	5月7日～ 1月13日	5	85
広がれ! スズムシの輪(リーン)	9/10「スズムシのあれこれ」ですずむしの里づくり実行委員会の活動内容等を、11/17「日本の鳴く虫」でスズムシの生態等を、2/3「つどい・つながる交流会」でオンライン活用の情報交換を企画し参加者とともに学んだほか、企画員会議でボランティア募集のリーフレット原稿を作成した。	6月14日～ 2月9日	7	79

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「図書ボランティアしおりの会」への活動支援

岩切市民センター図書室を拠点に活動する図書ボランティア「しおりの会」は、図書の貸出ボランティアの他に、図書室環境整備や図書選定などの活動を行ってきた。図書ボランティアへの活動支援として、月に一度定例会を開催し、情報交換や図書室運営上の課題等を全体で共有している。令和5年度は「本の修理」について学びたいという図書ボランティアからの要望があり、榴岡図書館から2名の司書さんを講師としてお招きし、講座を開いた。図書ボランティアのスキル向上と活動の活性化につなげることができた。

鶴ヶ谷市民センター

〔沿革〕

鶴ヶ谷地区は、仙台市が大型モデル団地として開発し、昭和 43 年から入居を開始した住宅団地である。鶴ヶ谷市民センターは昭和 47 年 5 月 22 日、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として開館した。その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を得て、各種の講座を開始したが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年に市民センター・公民館として発足してからのことである。平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により鶴ヶ谷市民センターが被災し使用不能となったことから、平成 24 年 3 月から近傍に仮事務所を設け生涯学習事業を行ってきた。平成 28 年 4 月 2 日からは、第一市営住宅団地再整備地内に市民センター（単独館）を移転・新築して開館し、地域の生涯学習・交流・コミュニティづくりの拠点として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業 チーム「ニコ鶴」プロジェクト		
参加者	鶴谷中学校・地域団体・一般市民	延参加者	455 人
開催日	全 17 回 令和 5 年 4 月 21 日（金）～令和 5 年 12 月 9 日（土）		
協力団体	鶴谷中学校・鶴谷中学校支援地域本部・地元学「まるっとつるがや」・いろどりの会・鶴ヶ谷地域包括支援センター・鶴谷小学校・仙台第三高等学校・鶴ヶ谷東マイスクール児童館		
ねらい	地域の中学校の有志生徒を起点に、地域交流を図るイベントの企画・運営を行うことで、有志の生徒たちが、地域の活動団体や小学校・高校と世代を越えて連携・協働し、地域との関わりを深め地域貢献に意欲的に活動していくためのきっかけとする。		
概要・成果	企画員が共催団体とともに試行錯誤しながら準備を重ね、企画イベント「あつまれ!! 杜のフェスティバル in 鶴ヶ谷」を実施した。反省会では前向きな感想が出される等、チームコンセプトである「鶴ヶ谷地域の皆様に笑顔になってもらいたい」という思いが通じた達成感を得たことで、社会の一員として地域との関わりを深め、地域貢献に意欲的に活動していくためのきっかけとなった。 また、地域で活動する団体や鶴谷小学校、仙台三高との連携を継続しながら、中学生を起点に地域の魅力を幅広い年代層へ発信するとともに、地域における交流のきっかけづくりが実施できた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●鶴・燕・西子育て支援ネットワーク事業	未就園児親子を対象に「遊び・絵本の紹介と読み聞かせ・健康相談」の 3 本立てでイベントを企画運営。諸団体と連携し、子育て世帯の孤立化を防ぎ安心して子育てが出来るよう支援を行った。	11 月 29 日	1	43
インリーダー研修会	子ども会活性化を図るべく研修会を実施した。児童はリーダーの役割を学んだ後、ジュニアリーダーからレクリエーションの実技指導を受けた。世話人は講話や情報交換を通じて役割や運営方法を学んだ。	8 月 17 日	1	35

鶴ケ谷キッズステーション	小学生が様々な体験を通し、世代間交流や社会性を育むことを目的として「科学のわくわく体験」「ベガ号での天体観察」「ニュースポーツ体験」「ドローン教室」「フラワーアレンジメント」の5講座を実施した。	8月5日 11月17日 12月23日 1月13日 2月17日	5	116
君もプチレスキュー	鶴谷中学校の生徒を対象に、学年ごとに防災スキルを学ぶ出前講座を実施した。1年生は応急手当、2年生は心肺蘇生法、3年生は避難所開設訓練を地域のSBL協議会とともにに行った。	9月5日 9月25日 10月9日	3	257
サークル体験会 「鶴ケ谷いきいき倶楽部」	地域住民を対象に、鶴ケ谷市民センターで活動するサークル情報を広く紹介し、気軽に体験できる機会を提供することで、地域での生涯学習活動の活発化を図った。	5月4日～ 5月28日	11	29
おとなの講座 ～つるがやを描く～	鶴ケ谷の歴史や自然資産を題材に、地域団体と交流を図りながら散策し、水彩画を制作した。講座終了後は自主グループとして発足し、講座ボランティアや展示物提供などで活躍している。	5月11日～ 7月27日	8	113
鶴ケ谷ことぶき大学	地域の高齢者が、地元学、美術、健康などをテーマに月1回集い、学び合う場を提供し、高齢者の孤立防止や仲間づくり、自主的な学びを促した。	5月17日～ 1月17日	8	302
つながれ すずむしの里	「すずむしの里づくり実行委員会」と連携し、スズムシ普及活動・地域活性化に繋げるため、スズムシ配布会・交換会と環境学習として小学校出前授業を実施した。	7月11日 7月29日 8月31日	3	311
鶴ケ谷市民センターまつり	来場者や飲食の制限を設けずコロナ前の規模で、ワークショップや子ども向けコーナーの充実を図り、若手ファミリー層の来場を促した。結果、1,400名の来場者で大盛況だった。	10月28日	1	1,400
鶴ケ谷市民センター懇話会	第1回は地域で活動する代表、第2回は管轄の3連合町内会会長と学校関係者を招いて情報交換の機会を設け、市民センターをハブとした新たな交流関係を構築した。	6月22日 2月15日	2	18

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

新規サークル支援

令和5年度の講座「おとなの講座～つるがやを描く～」で水彩画を学んだ受講生への支援を実施した。講座の受講に留まらず、他講座「チームニコ鶴プロジェクト」で水彩画のアシスタントとして中学生をサポートする機会を設けたことで、自主活動への機運が高まり、サークル立ち上げにつなげることができた。その後は水彩画のサークル活動を継続的に支援するとともに、12月の地域イベントでもボランティアとして参加する後押しをしたことで、活躍の場が広がり、精力的な活動につながっている。

令和6年度も自主活動に加え、地域行事へのボランティア参加等を通じて、サークルや地域の活性化を推進できるように引き続き支援していきたい。

榴ケ岡市民センター

〔沿革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地である宮城球場などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	榴ケ岡寺子屋		
参加者	地域住民	延参加者	190 人
開催日	全 11 回 令和 5 年 5 月 19 日（金） ～ 令和 6 年 3 月 15 日（金）		
協力者・協力団体	榴岡地区エキサイティング事業実行委員会		
ねらい	榴岡地区は、土地区画整理事業の後、マンション建設などにより人口流入が続いており、新旧住民の交流や融和を推し進めることが課題となっている。そこで、学校関連団体や地域団体、地域の公共施設など、地域に根差した幅広い分野の人材が一堂に会する場を提供し、地域課題の把握と共有を図る。また、防災、歴史、福祉の 3 つのテーマを柱とした公開講座を通して、地域課題の解決の糸口を探るとともに、学びを通じた交流の場を提供する。		
概要・成果	町内会や社会福祉協議会、学校関連などの地域団体や、地域の公共施設からなる「榴岡地区エキサイティング事業実行委員会」を経て、公開講座「榴ケ岡寺子屋」の内容を企画、検討し実施した。防災編では、防災マップを作成し、完成したマップを活用した「災害図上訓練」を行ったほか、地域を通る 2 つの断層と、それに起因する災害の特徴を学ぶ講座を開催した。また、歴史編では、地域の史跡にゆかりのある「伊達騒動」の講話を行い、地域の魅力を再発見する契機となった。福祉編では認知症を環境で支える取り組みを知る講座を実施し、家族や隣人として認知症と向き合う視点を学ぶ機会を提供した。実行委員会を経ることにより、新旧住民に共通する地域における防災などの課題に取り組むことができたほか、学びを通して交流する機会をつくることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	榴岡小学校の児童が属する子ども会の充実化や活性化を目的とし、子ども会やインリーダー、世話人の役割についての講話やレクリエーションの実践、情報交換を行った。	8 月 2 日	1	49
東口ゆうえんち	異なる学年の子どもたち同士やボランティアスタッフとの異世代間交流を図りながら、小学校低学年を対象に食×宝探し、段ボール迷路、お化け屋敷を開催した。	7 月 8 日 11 月 26 日 2 月 18 日	3	82

《宮城野区》

東口ますます元気教室	高齢者が心身の健康を維持しつつ社会からの孤立を防ぐためにストレッチ、筋肉トレーニング、レクリエーション運動、栄養や認知症に関する講話を行った。	6月21日～ 12月20日	5	91
榴ケ岡老壮大学	歴史、栄養、運動、工作、文学、音楽など幅広い分野の学習テーマで講座を実施し、高齢化社会において、高齢者が安心して集い学習・交流できる場を提供した。	5月18日～ 3月7日	10	410
榴ケ岡市民センターまつり	センターを拠点として活動しているサークルが、日頃の学習成果や活動の成果を発表した。また、地域の小学校、保育園の子供達の作品展示、地域の専門学校や授産施設による出店、動物ふれあいコーナーなど多彩なイベントを行った。	10月7日	1	341
榴ケ岡市民センター懇談会	地域課題や地域づくりについて、町内会をはじめ地域の諸団体の方々と情報交換を行うとともに、市民センターの事業運営について意見をいただいた。	8月30日 12月15日	2	23
つなげよう つつじのめぐみ ～HarvestPark Project～	榴岡明寿会や榴岡小学校社会学級と協力し、地域資源である榴岡公園の桜の花、ユウカリ、椿の実、木の実の利活用について学ぶ講座を実施した。	4月15日～ 12月23日	7	148
私にもできる SDGs	第1回は講話「スウェーデンのSDGsな暮らし」第2・3回は廃棄するチラシを使ってロビーに飾る七夕飾りを作り、最終回は「南極ってどんなところ」と題して南極観測隊員の生活、仕事、SDGsについて学んだ。	6月29日 7月1日 7月22日 7月29日	4	45
工業デザイン発祥の地をのぞいてみよう	1回目は国立工芸指導所がどんなところで何をしてたのか、そして現在にどのように繋がっているのかを学び、2回目は「日本の近代デザイン発祥の地」と言われるゆえん。3回目は玉虫塗の講話と体験をした。	10月28日 11月11日 11月18日	3	40
東口ガイドボランティア養成講座・公開講座	ガイドボランティアのスキルアップと新たな人材発掘を図り、映画ロケ地についてや地域の歴史についての学習機会を提供した。ロケ地を巡るまち歩きも予定していたが、天候不良により当日館内学習に変更した。	2月10日 3月2日 3月9日	3	64
東口ゆうえんち企画会	学生や社会人スタッフが企画会を通して、協力しながら主体性を持って活動した。新企画の発案やビブスの作成、段ボールの自主運搬などを行い企画や準備がよりブラッシュアップした。	5月13日～ 3月10日	12	64

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援

当センターを拠点に活動する東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援として、月例のまちあるきイベントの広報や、ガイドを希望する方からの問い合わせ対応などの支援を行った。また、「東口ガイドボランティア養成講座・公開講座」を「宮城野さんぽみち」と共催し、ボランティアのスキルアップと新たなボランティアメンバーとなる人材の発掘を図った。ガイド内容に映画のロケ地という新たな視点と知識を加えるきっかけをつくることができ、さらに、受講生のなかから2名が新たにガイドボランティアに参加することとなり、人材発掘につながった。

東部市民センター

〔沿革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄である。

周辺には、JR 苦竹駅・陸前原ノ町駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、仙石線、東北本線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

さらに、当センターは宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊仙台駐屯地など、それぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「こんなところに〇〇が？見つけてみよう東部のステキ」		
参加者	成人	延参加者	33 人
開催日	全 5 回 令和 5 年 7 月 13 日（木）～令和 6 年 2 月 27 日（火）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	東部市民センター管轄の東仙台・新田地域には新しい住民が増えていることに伴い、大型スーパーやチェーン店が近くに出来ている。一方、昔ながらの飲食店や商店が閉店するなど、地域はめまぐるしく変化している。自分たちが住む地域を知らずに生活している住民も少なくはない。そこで、地域住民から企画員を募り、東仙台・新田地域の様々な魅力を見つけ、地域に広め活用する講座を企画・実施することで、地域住民同士の交流と地域の活性化をめざす。		
概要・成果	4 回の企画会議では東仙台地域の飲食店情報を一覧表にまとめ、まち歩きを実施した。企画会議を経て行った市民企画講座では地域講師を招いて「まちの豆腐屋さん一熊沢豆腐店」を開催した。企画員は市民企画講座の講師依頼や講座当日の司会や受付など講座運営に積極的に関わっていた。講座には 25 名の参加があり、「分かりやすい資料と丁寧な説明で楽しく学べた」と好評であった。地域の商店主の話を聞く機会を設けたことで、参加者が改めて地域の魅力を再発見する講座となった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●親子おうえん！子育てひろば	孤立しがちな受講生が参加しやすい講座を簡単な工作と組みあわせて開催した。離乳食講座、ワンオペ時の誤飲とケガの対処法、0 歳児から参加できるコンサート、わらべうた遊びを実施した。	7 月 28 日 11 月 29 日 12 月 8 日 1 月 31 日	4	111
東部キッズクラブ	「ジュニアリーダーとあそぼう」「秋をさがそう」「人形劇鑑賞」「配食サービスに添えるカード作り」など、地域の小学生がジュニアリーダーや地域住民、ボランティア団体と交流しながら、様々な体験ができる講座を実施した。	8 月 10 日～ 11 月 16 日	5	192
地域に発信！わたしたちの未来へ向けて	8 月に東仙台中学校のボランティアが主導となり、小学生向け防災講座を実施した。また、地域住民との「ふれあいの場」となるよう、9 月～2 月にかけて近隣小中学校の児童及び生徒の作品展示会を 3 回開催した。	8 月 8 日～ 2 月 5 日	4	323

《宮城野区》

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の5・6年生児童と世話人を対象に、子ども会活動についての講話・実技を実施した。また、ジュニアリーダーを紹介し、活動の周知を行った。	8月18日	1	58
出前講座 市民センターくつろぎサロン	SDGsに取り組む地域の企業による講話と物づくり講座を2回連続で実施した。また、新田地区民生委員児童委員協議会と連携して地域の方を対象とした3B体操を行った。	11月30日 12月7日 2月9日	3	36
東部学びカフェ	普段センターに足を運んでももらえない方々にも参加してもらえる講座を開催した。食育（塩麴）講座、星空観望会、コンサート、足つぼ健康体操、脳トレ（ダーツ）を実施した。	6月29日～ 1月26日	5	133
東部いきいきスクール	高齢者が心身ともに健康で生きがいのある社会生活を送るために様々な学習を実施するとともに受講生の交流を図った。運動、食育、コンサートなどを実施した。	5月17日～ 2月21日	9	251
日常に考える非常時の備え ～いつもの生活をもしもの時も～	災害の備えとして、日常で使用している食料や衛生用品の利用方法と避難の時期や場所について学ぶ講座を実施した。防災の心構えを歌った体操は受講生の希望で実施した。	6月15日 12月6日 1月24日 2月8日	4	28
第27回東部ふれあいまつり	町内会や市民センター利用団体、地域団体等が日頃の学習や活動の発表の場として「舞台」「展示」「出店」の3部門による東部ふれあいまつりを実施した。	10月8日	1	311
東部市民センター地域懇話会	地域住民が主体的に活動できるよう苦竹地区の家庭環境の現状と課題、町内会や教育機関との情報交換の場として実施した。また、児童館や市民センターの活動について紹介し周知を図った。	7月14日 2月14日	2	22

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域在住の方の作品展示

市民センター1階ロビー掲示板や階段踊り場掲示板にて、模造紙大の大きさの折り紙作品など、地域住民の方の作品を展示する支援を継続して行ったことで、その場所が市民センター内における「憩いの場」となり、また製作者に対しては「発表の場」の提供となった。さらに、市民センターだよりもに掲載するなど広報支援を行った。年間を通じて、季節に応じた作品を提供していただき、来館者の目を楽しませることができた。今後は作品の提供者を増やし、地域の高齢者の生きがいに繋げたい。

幸町市民センター

〔沿革〕

幸町市民センターは、平成 5 年 4 月 20 日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大槻地区と、与兵衛沼、柁江の森などの緑豊かな自然に恵まれた柁江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害者福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設と共に、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成 26 年度には災害公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「(仮) 日本全国幸町プロジェクト～“#幸町”でつながろう」		
参加者	地域住民	延参加者	94 人
開催日	全 13 回 令和 5 年 7 月 15 日～令和 6 年 3 月 16 日		
協力者・協力団体	—		
ねらい	全国には幸町という地名が複数ある。他地域の幸町について知り、つながることを目標に、地域への関心を高める講座や地域間交流を促す講座を企画・実施することで、現住する地域のアイデンティティを確立し、愛着心を深められるようにする。		
概要・成果	幸せな町になってほしいという町名の由来のもと「笑顔の輪を広げる幸せな町」を合言葉、「地域の活性化」をプロジェクトの目標とし、他の幸町とつながるにはどうしたらよいかを話し合った。そのためにまず自分たちの幸町を知ろうと調べたり、地域の人の話を聞いたりして、幸町の魅力を再発見した。その成果を活かして「幸町を知ろう！歩こう！」と題した講座を企画運営した。「幸町を知る」と「幸町を歩く」の 2 回の講座では市民企画員が調べたことを発表し、散策する際は案内役を務めるなどした。地域の方にもその魅力を知ってもらうことができ、新たな仲間も増えるなど、今後の活動にもつながる成果が得られた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
さいわいどんぐりクラブ	小学生を対象に、虫の声を楽しむ会、福興しダルマ絵付け、ジュニアリーダーと遊ぼうを行った。また、地域の 3 小学校 5 年生がしめ縄作りに取り組んだ。	9 月 2 日～ 12 月 21 日	6	218
仙台市子ども会インリーダー研修会	子供会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、より充実した子ども会活動になるように、その役割や心構え、レクリエーション等を学んだ。	8 月 8 日	1	33
地域がもっと好きになる 地元学ー幸町の今昔	昭和に撮影された航空写真のパネル展示やその解説などを行い、地域の変化を世代を問わず再発見した。また、保全地域の柁江の森の散策会を行い、地域を知る機会となった。	8 月 25 日～ 3 月 16 日	5	1,058
聴きたい！知りたい！仙台の歴史と文化 仙台市博物館巡回講座 in 幸町	仙台市博物館との共催で、江戸時代の仙台藩の歴史や文化を学び、昔遊びを体験する講座を実施した。地元二の森にあった伊達家子女の墓所など地域の歴史にも触れる機会となった。	5 月 13 日 7 月 8 日 9 月 9 日 11 月 4 日	4	74

幸町生涯大学	60 歳以上の方が交流を図る中で、邦楽コンサート、スローエアロビクス、仙台の野草、新聞ちぎり絵、腹話術、仙台の歴史、フレイル予防、館外学習など積極的に学んだ。	5 月 18 日～ 2 月 15 日	9	321
幸せ奏でるコンサート	幅広い世代が楽しめるよう、地域在住歌手の歌謡ショー、常盤木学園高等学校音楽科によるクラシック、ジャズオーケストラによるジャズ、親子向けファミリーコンサートを実施した。	9 月 30 日 12 月 2 日 1 月 21 日 2 月 10 日	4	208
幸町でつなぐ和の伝統～季節を彩る風物詩～	七夕飾り作り、仙台の正月と七夕（講話）、ひなまつりクラフトワークショップを開催した。12 月に行ったしめ縄作りはどんぐりクラブ「しめ縄作り」でのサポーター養成講座とした。	6 月 23 日～ 2 月 10 日	9	81
市民企画（仮）日本全国幸町プロジェクト～＃幸町でつながろう～「幸町を知ろう！歩こう！」	全国の幸町とつながるために、自分たちの住む幸町について、知る講座と歩く講座を開催した。講座は市民企画員がこれまでの学習成果を生かして、プレゼンやガイドを行った。	2 月 25 日 3 月 10 日	2	50
さいわい多文化お茶会～生活文化から知る多文化理解～	ベトナム・中国・モンゴル・日本それぞれのお茶を通してその国の暮らしや文化を知り、実際にお茶を味わうことで体感した。	10 月 4 日 10 月 11 日 10 月 18 日 10 月 25 日	4	50
みんなで考える減災－安心して暮らせる街へ	ライフステージに合わせ、成人対象には洪水や土砂災害について、小学生には地震についてバーチャルリアリティでリアルな疑似体験をした。いざという時の初期行動や備えについて学んだ。	9 月 14 日 12 月 27 日	2	35
市民センターでだれでもダンス	障害のある方を対象として、様々な人と一緒に身体を動かす楽しさをコミュニティダンスで体験した。	8 月 19 日	1	17
第 25 回 幸町市民センターふれあいまつり	センター利用者や地域住民等の学習発表・交流の場として、作品展示・ステージ発表・体験コーナー・出店などを行った。	11 月 19 日	1	628
幸町市民センター地域懇談会	地域団体や小中学校などに参加いただき、市民センターの事業・運営や地域の課題や情報を共有した。その情報共有から、新たな事業につながるなど企画や運営に生かすことができた。	6 月 22 日 2 月 22 日	2	35

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センター事業から立ち上がったグループへの活動支援

令和 4 年度まで実施してきた「柊江の森魅力発信プロジェクト」のメンバー 6 人全員が自主グループとして「いこうかい 柊江の森」を立ち上げた。活動が軌道に乗るまでの半年間、月 1 回の定例会に市民センター職員も参加し、助言や支援を行った。地域の夏まつりや市民センターまつりに参加し、これまでの事業で知り得た「柊江の森」がどんな森であるかを紹介したり、柊江の森を地域の宝として大切に守っていききたいという思いやその活動紹介をしたりするなど主体的な活動を行った。また、市民センター事業として柊江の森を散策する講座を行った際は、「いこうかい 柊江の森」が散策のガイドを担当するなどこれまでの学びを還元し、活躍する場となった。継続的に「いこうかい 柊江の森」に情報提供・情報交換を行い、活動の幅が広がるように支援している。

田子市民センター

〔沿革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線（最寄駅：福田町駅）や国道 45 号線等に近い交通の利便性のよさから開発が進み、人口が増加している。半面、平成 27 年頃から 65 歳以上の高齢化率が緩やかに上昇してきている。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、地域防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地条件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度以降、田子西地区にできた復興公営住宅への入居および集団移転用地への移住が進み、新たに 4 つの町内会が設立された。田子市民センターの管轄エリアは田子小学区 10 町内会、高砂小学区 4 町内会となった。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画社会創造性支援事業 田子中生「福田町駅未来構想」		
参加者	田子中学校第一学年生徒	延参加者	135 人
開催日	全 10 回 令和 5 年 9 月 8 日（金）～令和 6 年 1 月 21 日（日）		
協力者・協力団体	共催：まちづくり推進部宮城野区中央市民センター 連携：仙台市立田子中学校 協力：高砂地区町内会連合会・福田町駅整備促進協議会・仙台市都市整備局		
ねらい	JR 仙石線福田町駅は、現在の駅舎の老朽化とバリアフリーの観点から、移設・駅周辺整備計画が決定した。どのような駅舎ができるかを中学生が考え、新しい福田町駅建設計画に提案し参画をすることで、地域と地域課題を共有し、自分たちの地域の課題に気づき、社会・地域の一員として行動する視点を持てる機会とする。令和 4 年度から田子中学校と連携し、『新しくできる駅舎が「福田町・田子地域の情報発信の場やシンボルとなるように」中学生の皆さんの意見を聞かせてください。』の呼びかけに集まった田子中 1 年生の有志 20 人が、田子の地域のことを考え、新しくなる福田町駅を通して、未来に向かって希望を発信する。		
概要・成果	ワークショップを通して、地域の将来を見据えた中学生らしい意見がたくさん出された。中学校のタブレット学習の形態を生かしたワークショップを行い、地域についてたくさんの方のことを考える機会となった。また、福田町駅整備促進協議会会長に意見書を届けたり、仙台市の関係各所から自分たちの構想に対して意見を頂いたりする機会を得た。仙台市の「子ども参画社会創造性支援事業成果報告会」での発表を通し、自分たちの想いが取り上げられたという達成感と、中学生自身が社会の構成員であるとの認識を持つことができた。発表を通して情報が精査され、自分たちの住む地域を考え、さらに地域の未来に興味関心を持つきっかけになった。また、田子市民センターホームページへの掲載やポスター、講座レポートの掲示などで、地域の方々に活動を知ってもらう機会となった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなニコニコ♪子育て広場	子育て中の方が楽しみながら子育てについて学んだり共有したりできるよう、幼児期の運動や散髪、幼児食についての講座や、子育てサロンを実施した。	6 月 7 日 8 月 25 日 10 月 5 日 11 月 9 日	4	76
チャレンジ！キッズタイム	地域に住む子どもたちの健全育成を目的に、小学生が地元への興味や関心を深めることができるよう、もんきりあそびや星空観察などを実施した。	8 月 19 日 9 月 16 日 10 月 6 日	3	86

田子小・田子中学校連携事業 「田子のお宝を発見しよう」	小中学校と連携し、地域についての講話やまち歩き等を実施。学校や地域との結びつきを大切にするとともに、子ども達の地域への興味関心を引出し、愛着心を育てる機会とした。	7月5日～ 2月29日	7	471
仙台市子ども会インリーダー研修会	充実した子ども会活動が出来るよう、児童・世話人を対象に、講話やゲームを交えて子ども会についての学習の場を提供した。	8月3日	1	19
いきいき健康づくり	地域住民が毎日の暮らしを明るく元気に過ごし、心身共に豊かに生きていけるよう、歌や脳トレ、椅子ヨガ、エクササイズを実施し、「健康づくり」について学ぶ機会とした。	7月7日 7月14日 7月28日	3	33
田子老壮大学	高齢者を対象に、健康や防犯など、多様な学びのニーズに応じた学習機会と学習を通じた受講生同士の交流の場を提供した。高齢者の生きがいと、仲間づくりを支援した。	5月10日～ 12月13日	7	158
田子の歴史 田子西の成り立ちを記憶する	令和4年度から田子西地区3町内会連携で実施。企画会・意見交換会を経て、寄稿をセンターだよりやホームページに掲載した。「たごっ子まつり」で令和5年度分追加し、冊子にして配布した。	4月15日～ 2月17日	10	16
みんなで学ぶ地域防災	防災に関する講話「マイ・タイムラインをつくろう」や、地域の児童生徒も参加して各町内会が一斉に行う地域合同防災訓練等を実施した。	8月23日～ 12月1日	5	2,219
たごの音楽会	地域住民が気軽に参加できるコンサートを開催し住民同士の交流の場とした。また、住民同士が余暇を楽しむ機会を設けることができた。	6月18日 7月9日 10月22日 1月21日	4	166
たごっ子まつり	地域活性化を目的として、実行委員や参加者が協力し合い、ステージ発表、作品展示、催事、模擬店、田子小・田子中ジョイントコンサート等を実施した。	2月17日	1	1,000
田子市民センター懇話会	地域団体や利用者、近隣の小・中・高校との懇談を通して、地域課題の把握や地域情報の共有を図った。	6月30日 12月14日	2	23
田子まちあるき「七北田川自然観察会」	市民センターで作成した「田子今昔物語」を活用し、地域住民が自然観察や地域散策をとおして交流することで、地域の自然に触れる機会と地域理解を図った。	6月15日 11月16日	2	14
田子の魅力発信広報部	「講座企画会」、「まち歩き」、「自然観察会」を企画し実施した。また、随時、地域資料の分類整理と作成を行っている。地域小中学生対象に地域学習の協力も行った。	4月20日～ 3月14日	11	59
市民企画講座 田子の地域学習を支える人材育成講座	昨今の中学校の学習形態(端末タブレットを活用)と、それに対応した電子データの作り方を学び、児童・生徒に提供する資料を作成することのできる人材を育成した。	5月18日～ 9月21日	7	21

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域内の福祉施設と地域で活躍するボランティア団体のコーディネート

行事への出演ボランティアを探している地域内の福祉施設職員からの相談に応じて、該当するサークルを紹介した。市民センターを利用している地域音楽サークルの出演が決まり、施設からの感謝とともに、サークルからも「発表の場をいただき活動のモチベーションにつながった。」という良い反応が得られた。

福室市民センター

〔沿革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「福室おたから探訪」野鳥観察会		
参加者	地域住民	延参加者	26 名
開催日	全 2 回 令和 5 年 11 月 25 日、令和 5 年 12 月 2 日		
協力者・協力団体	仙台市八木山動物公園 仙台育英学園高等学校多賀城校舎生徒（外国語コース）		
ねらい	七北田川流域周辺ではどのような野鳥がいるのか、資料や先行研究から調べる。また、七北田川を散策して冬の渡り鳥などを観察することで、その自然の豊かさに触れて、環境について考えるきっかけとする。		
概要・成果	市民企画会の中で事前学習に取り組んだ。市民企画員の声をもとに、絶滅危惧種であるシジュウカラガンの羽数回復事業に成功した八木山動物公園を取材した。また、同様に取り組む仙台育英学園高等学校多賀城校舎の外国語コースの生徒たちを取材し、七北田低地に 1970 年代まで飛来していたシジュウカラガンの復活プロジェクトに取り組む活動を知り、企画員と交流を深めた。また、地域の農家の取組を知り環境保全の大切さを知ることができた。 そのような事前取材をもとに、地域資源である七北田川周辺にいる野鳥観察会を実施した。実際に初冬の七北田川にどのような野鳥が飛来するか、観察することができた。参加者からは「七北田低地のことを知ることができて良かった」「鳥の解説をしてもらって理解を深められた」などの感想を得た。地域住民に七北田川を取り巻く環境保全の大切さについて学ぶ機会を提供することができた。 今後、シジュウカラガンの生態や分布等を、令和 6 年度の市民センターまつりで仙台育英学園の生徒たちが、地域住民に紹介する方向性を得ることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会の児童や世話人を対象として、児童主体の子ども会活動推進のために、今後の活動に生かせる知識やレクリエーション等を学んだ。	8 月 2 日	1	34
地域で育む学びの芽	福室小と中野栄小の児童を対象に「福室歴史ウォーク」「中野栄ウォーク」を実施して、地域の歴史を学ぶ機会とした。また、「エンジョイスポート」を開催し、両校の児童の交流を図る場を設けた。	11 月 14 日 11 月 25 日 11 月 28 日	3	170

ふくむろ健康長寿倶楽部	高齢者が地域で安心して暮らすために継続的な運動や学習の機会を図り、中高年の生きがいをづくりと健康長寿を目指し、「健康体操」「ハーブ体験」「椅子ヨガ」「ニュースポーツ」を実施した。	10月18日 11月22日 12月6日 12月20日	4	61
市民企画講座「スマートフォン入門体験講座」	市民企画員のスキルアップのために行った研修会で、スマホの便利な使い方等を学んだことから、地域の情報弱者の方の支援を目的として、体験講座を実施した。	11月8日 11月15日	2	18
福室老壮大学	地域の高齢者が心身共に健康で充実した生活を送れるように、自然、歴史、健康、防犯、交通安全、コンサートなど様々な学習の機会を提供した。コロナ感染対策として9月まで2班に分けて実施した。	5月24日～ 2月28日	14	527
福室音楽サロン	1回目は、中国楽器の二胡コンサート。2回目は、たかさご子ども食堂と連携してピアノとヴァイオリンのクリスマスコンサートを実施した。3回目は、「アイリッシュ音楽の世界へ」でアイルランドの民族音楽を演奏した。	7月15日 12月10日 3月3日	3	88
だれでもサロン”まざらいん”	地域住民同士の交流促進と地域活性化を目指し、「ダーツ大会」「ヨガ体験」「ヨーグルトの秘密」、福室児童館との連携事業「福室縁芸場」を開催した。	9月22日 10月6日 12月8日 1月20日	4	102
第17回福室市民センターまつり	市民センター利用団体やサークル及び地域の方々、近隣の小・中・高校等に日頃の学習成果を発表する機会を提供した。また、地域住民や団体との交流を図る場を設けた。	11月4日	1	500
地域懇談会	福室地区、栄地区(中野栄児童館の懇談会へ参加)の町内会長や民協代表、学校関係者を対象に、市民センター・児童館の事業計画説明・実施報告を情報交換を通して地域の関係を強化した。	5月16日 2月22日 2月27日	3	28
ふくむろ防災塾 2023	防災に取り組む地域人材の育成、地域づくりの推進を目指し、地区内の防災スタッフの確認、SBLの「自然災害に備えて」の講話、福室学区総合防災訓練を実施した。	6月10日 7月1日 10月28日	3	127
市民企画会～地域の魅力発見～	定例の企画会議やスキルアップのための研修会を開催した。また、企画講座として「スマートフォン入門体験講座」と「福室おたから探訪」の2つを企画・実施した。	5月11日～ 3月7日	15	112

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「災強のすけっと」との連携活動支援

地域に住む医療系大学に在籍する大学生が、仙台市地域防災リーダーの研修を受けた。その学生を中心に様々な医療系大学の学生がチームを作った。チーム名は「災強のすけっと」。目的としては平時から市民サイドで継続的な災害対応支援活動を行うことで、災害時に苦しむ市民を一人でも減らすことである。その第一歩として小学生を対象とした体験型防災ワークショップを開催しようとした。

一つの町内会と連携を深めようとしたが、学生たち同士のチームを構成する打ち合わせや町内会との連携の拠点が無く、活動が停滞してしまった。そこで福室市民センターがその起点となり、チームの支援にあたった。具体的には話し合い会場の提供やメール等による連絡調整。町内会との連携支援等である。

この活動支援は、令和6年度の地域小学生向け活動＜防災アドベンチャー＞につながる予定である。

若林区中央市民センター

〔沿革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日、若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。また平成 29 年には、若林区中央市民センター別棟が、南小泉児童館、社会福祉協議会、子育てふれあいプラザとの複合施設として移転・新築された。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

令和 5 年 4 月から大規模改修中であり、令和 7 年 7 月に再開の予定である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	市民企画講座「ワイワイ 子どもまつり」		
参加者	小学生以下（小学校 3 年生以下は保護者同伴）	延参加者	180 人
開催日	全 1 回 令和 5 年 10 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	連携：南小泉パパネット・南小泉老人クラブ泉寿会・ワケあり雑紙部		
ねらい	触れ合いや体験を主軸とした誰もが気軽に参加しやすい「子どもの遊び場」を創出し、世代間交流を図ると共に、子ども同士や地域住民同士の交流を促進し、地域活性化につなげる。		
概要・成果	市民企画員の方が企画した子ども向けイベントとして開催し、幼児から小学生までが自由に遊べる「折り紙で作るこまコーナー」「雑がみ紙飛行機コーナー」「ニュースポーツコーナー」「紙コップ&割り箸ダーツコーナー」「ジュニアリーダーコーナー」を行った。 90 分の短い開催時間ではあったが、「事前申し込み不要で出入り自由」という自由度の高さが 180 人も多くの方々に楽しく参加してもらったことにつながった。また、今回の参加者の 70%が市民センターの講座に初めて参加した方であったため、市民センターを知ってもらえるきっかけとすることができた。 イベントでは、企画員がそれぞれ得意分野を活かしたブースを企画・運営しながら子どもたちをリードしたことにより、地域の大人と子どもの世代間交流が図られ、地域交流の場となった。また、連携団体においても、団体同士の関係強化につながり、地域活性化の一助となった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子で楽しむワクワク講座	親子を対象にコケボトル作り、環境施設の見学、e スポーツ体験、乳幼児親子を対象に防災・減災の講座を実施し、子育て世代の交流を図った。	7 月 29 日 8 月 4 日 10 月 5 日 10 月 28 日	4	63
ジュニアリーダーとあそぼう	3 回実施のうち、2 回は管内の小学校を会場としての出前形式で行い、ジュニアリーダーと一緒にゲームや工作を通し、地域の小学生の異年齢交流を図った。	8 月 2 日 9 月 3 日 11 月 26 日	3	37
仙台市子ども会インリーダー研修会	令和 6 年度に子ども会のリーダーとなる児童や世話人を対象に、子ども会活動に役立つ知識や情報を提供した。	2 月 17 日	1	45

《若林区》

南小泉老壮大学 教養コース	地域の高齢者が、心身ともに健康で実りある豊かな生活を送ることができるよう、気象、歴史、SDGs など様々なテーマについて学び、交流する場を提供した。	5月10日～ 2月7日	9	223
南小泉老壮大学 健康コース	地域の高齢者が、心身ともに健康で充実した生活を送ることができるよう、コンサートや軽体操、落語など様々なテーマを設定し、交流する場を提供した。	5月24日～ 2月28日	9	188
★若中防災・減災講座	地域内の3つの児童館と4つの小学校で出前講座を行った。児童館では、小学1年生を対象に「防災教育用カードゲーム」を活用して災害から自分の身を守るための方法についての学習を提供した。小学校では、それぞれの学習状況等に応じて防災学習の内容を設定して実施した。	6月14日～ 2月29日	7	391
こんにちは！ 市民センターです。	市民センターから遠い地域の住民に対し、VRゴーグルを用いた内水氾濫の仮想体験、ギター演奏会の出前講座を実施することで交流を図り、地域活性化の一助とした。	1月20日 2月3日	2	53
若中交流会	6月には、地域のボランティアサークルから講師を招き、折り紙による七夕飾り製作を行った。12月には、正月行事や伝統についての講話、和楽器による演奏会を行い、地域に対する関心を高め、参加者同士の交流を図ることができた。	6月23日 6月30日 12月8日 12月15日	4	45
わかちゅうコンサート	アットホームな会場で、誰もが気軽に参加できるコンサートを開催した。地域の交流の機会となり、市民センターを身近に感じてもらうきっかけとすることができた。	7月17日 1月20日	2	75
若林区中央市民センター学習発表フェスタ	サークルや地域団体の活動における作品展示及びステージ発表を行い、地域住民同士の交流や新たな関係づくりの場とし、地域活性化を図った。	9月29日 9月30日	2	645
若林区中央市民センター事業懇話会	連合町内会、管内各小中学校、児童館、地域包括支援センターなど多方面の諸団体に事業計画や事業報告とともに情報交換を行い、関係を強化した。	6月16日 2月2日	2	34
市民企画会議「子どもイベントを考えよう」	管轄エリア全体を対象に、子ども達の健全育成と小学校区を越えた交流の場を提供できるよう企画会議を開催し、地域に根差したイベントの市民企画講座「ワイワイ 子どもまつり」を企画・運営した。	5月13日～ 10月26日	7	19

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ボランティアサークル「ポッチャまざらいん」

「ポッチャまざらいん」は、平成29年度から複数年事業として実施した「ボランティア養成講座」をきっかけに、令和5年度に自主活動を始めたボランティアサークルである。

令和5年度は、市民センターがコーディネートをし、「南小泉児童館」「遠見塚児童館子育て支援クラブ」「遠見塚小学校社会学級」「沖野市民センター」でポッチャゲームの審判員として活動をした。

活躍の場を提供することでさまざまな経験を積み、打ち合わせ・運営・実施までを自ら行い、全て自主的に活動をするまでになった。

今後も引き続き活動の場を提供し、安定した活動につながるよう支援していく。

七郷市民センター

〔沿革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年には「七郷市民センター」と改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、七郷証明発行センターも併設された。

近年、七郷地区は、復興公営住宅や防災集団移転を含め土地区画整理事業が進展し、地下鉄東西線開業も相まって新しいまち並みが形成されており、今後のまちづくりに向けた市民センターが果たす役割は大きくなっている。区役所はじめ諸機関、地域団体との連携を深め、新旧住民がつながりを築き共に支え合うまちづくり、文化づくりを推進できるよう、組織的に事業を推進している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「なないろ NewSchool」		
参加者	若林区内の小学校高学年～高校生	延参加者	42 人
開催日	全 6 回 令和 5 年 7 月 29 日（土）～令和 5 年 10 月 14 日（土）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	小学校高学年から中高生を対象に、自己表現力や創造性の向上を目的とした体験活動を実施し、参加者が自分のあるべき姿や未来像を叶えるための活力を得るとともに、参加者間の交流を通してコミュニケーション力を養い他者理解を深める機会とする。		
概要・成果	市民センターでは、高齢者や子育て世代に比べ、中高生を対象とした講座の開催は少ない。K-POP ダンス、ボイストレーニング、イラストといった小学校高学年から中高生が憧れる体験活動にすることで、「好きなこと」を共有することができる熱意のある受講生が集まり、真摯に取り組む姿が見られた。また、少人数だからこそ講師の指導が行き届き、受講生との信頼関係の構築へと繋がったことや、他校の異年齢の生徒と交流することで、コミュニケーション力を磨く良い機会にもなった。自分の将来の夢の話が出るなど大変好評で、より多くの生徒に学びの場を提供するため、令和 6 年度は、継続で K-POP ダンス、イラストの講座を開催するとともに、新規で e スポーツの講座を開催する予定である。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子育てはっぴいタイム	未就園児と保護者を対象に、子育て世代が孤立することなく地域や仲間と交流することで悩みや不安を解消することや保護者が気持ちをリフレッシュする機会を提供することを目的として、リトミック、工作、相談会、託児付講座等を行った。	6 月 29 日～ 12 月 15 日	5	134
七郷こどもクラブ	小学生または小学生親子を対象に、好奇心を育み視野を広げることを目的として、ジュニアリーダーと遊ぼう、サークル体験、ものづくり、館外学習等を行った。	7 月 25 日～ 9 月 2 日	7	133

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と子ども会の世話人を対象に、子ども会活動に必要な知識、技能を身につけることを目的として、グループワーク、情報交換、レクリエーションゲーム等を行った。	2月17日	1	30
七郷防災講座	成人を対象に、災害時の自助力と共助力を高めることを目的として、七郷地域の防災情報の共有と乾物を使った乾物防災食作りを行った。	5月31日	1	11
市民企画講座「七郷の魅力発進！」	地域住民を対象に、幅広い世代が地域の魅力に触れ、その良さを確認し、交流を通して繋がることを目的に開催した。スマートフォンを使って七郷地域や地域の魅力を撮影し発信するために、動画を制作した。	10月15日 10月28日 11月26日	3	15
七郷老壮大学	地域の高齢者を対象に、社会的孤立や心身の機能低下を防ぎ他者との繋がりや交流を目的に開催した。コンサート、健康講話、朗読会、落語の他、自主運営委員会企画の歴史講話、健康体操、移動学習、懇親会を行った。	5月10日～ 3月13日	10	764
七郷市民まつり	地域諸団体が協力して、顔の見える関係づくりや交流を目的として開催した。利用サークルや地域団体による舞台発表・作品展示、農産物の販売、ふれあいバザー等を行った。	11月19日	1	12,556
七郷地域懇話会	七郷地区町内会連合会をはじめ、地域で活動している団体を対象に、幅広く地域の学習ニーズや課題・情報等を把握し共有することで、地域団体の相互理解を深め地域活性化を目的に児童館と共催で開催した。	10月13日	2	18
みんなのまち七郷	地域住民を対象に、地域団体と連携し、地域懇話会で出た課題等の解決の糸口となることを目指して開催した。防犯講座、上映会、嚙下障害防止のためのボイストレーニングを行った。	5月26日 6月30日 12月5日 12月19日	4	95
市民企画会議「学びの応援隊」	地域住民を対象に企画委員を募り、変容する地域において新旧住民の顔の見える関係づくりを目的とした講座を企画・運営するための会議を実施し、10月に市民企画講座「七郷の魅力発信！」を開催した。	5月13日～ 11月26日	9	36

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜（さとほま）」の活動支援

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」は、平成25年度から3年に渡り実施した事業「未来への伝言ー七郷を語り継ぐ」の参加者により平成27年12月に結成された。活動は9年目を迎え、七郷の歴史や伝統・風土、東日本大震災の記憶を後世に語り継ぐボランティアとして、全国各地から荒浜を訪れる方々に震災のことを伝えたり、七郷の見どころを案内したりする活動を行っている。

令和5年度は、7月には蔵王町の中学2年生を対象に、8月には熊本県公立高等学校PTA連合会を対象にボランティアとしての要請がある等、宮城県内外の方を問わず、荒浜地域等で語り継ぎ活動を行った。市民センターでは、語り継ぎボランティアと要請先を仲介し、ボランティア活動がスムーズに行えるよう支援した。なお、令和5年7月には、長年にわたる震災伝承活動の功績に対し、復興庁より団体の代表者へ大臣感謝状が贈呈された。

荒町市民センター

〔沿革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの商店街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	仙台荒町子まもりプロジェクト「地域で力を合わせて防犯！」		
参加者	どなたでも・小学生	延参加者	614 人
開催日	全 4 回 令和 5 年 10 月 1 日（日）～令和 5 年 10 月 31 日（火）		
協力者・協力団体	荒町商店街振興組合、荒町児童館、若林警察署他		
ねらい	令和 3 年度から、荒町商店街振興組合、荒町児童館等と連携し、地域全体で子どもたちを犯罪から守るために立ち上げた子ども防犯への取り組み「仙台荒町子まもりプロジェクト」を継続して開催している。今年度も引き続き、防犯について学び、防犯意識の高い地域をつくることをめざす。		
概要・成果	「仙台荒町子まもりプロジェクト」と連携して、地域向け防犯講座やポスターコンクール、館内・町内ポスター展、防犯ハロウィン駆け込み訓練を行った。小中学生の描いたポスターは、地域に防犯をアピールすることができた。防犯講座では、地域の方を対象に「犯罪の現状と対策」について学習した。110 番のお店への駆け込み訓練として実施した子まもりハロウィンを含めて、地域の各団体や学校、企業など多くの方と協力して、防犯意識の高い地域を目指して取り組むことができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	荒町小、連坊小路小学区の子供会の 5 年生と世話人を対象に、講話や実技を通して、子供会の意義やレクリエーションゲームを学んだ。	2 月 3 日	1	47
集合！こどもクラブ	荒町小、連坊小路小の児童を対象に、フラワーアレンジメント、ジュニアリーダーと遊ぼう、カンフー体操を体験し、学校学年を越えて交流しながら学んだ。	7 月 29 日 12 月 9 日 12 月 23 日	3	40
普段着の街あるき	春と秋に街あるきをし、地域の姿を実際に見ることで街の魅力を再発見した。また、街歩きをしたコースを動画紹介する場を設け誰もが参加しやすい環境づくりに努力した。	5 月 21 日 9 月 30 日 11 月 11 日 2 月 17 日	4	53
夜の読書会	センターでは図書の貸出が増えている。そこで、読書会を開催することによって若年層の孤独という現代的解決の助けとし、受講生同士の交流を図った。	6 月 2 日 6 月 9 日	2	15

あらまち町民大學シ ルバーセミナー	1年間を通して、健康に関する講話やコンサート、運営委員企画の交流会等を開催し、高齢者の心身の健康に繋がった。	5月17日～ 3月1日	10	505
伝統の仙台七夕飾り をつくろう	伝統の荒町商店街七夕まつりを盛り上げながら、見る側から参加する側になり七夕飾りを制作した。講師から仙台七夕の歴史を学び、新旧住民同士の交流を図ることができた。	6月29日～ 8月6日	6	85
あおぞら体操教室	地域の資源である公園や広場を使ってストレッチ、太極拳をして地域資源の再確認をしながら運動不足解消へのきっかけ作りをした。	10月7日 10月22日	2	23
荒町四季暦	キッズフェスタや荒町公園の清掃などを通して、地域団体と高校生・大学生の交流を促すことで地域に愛着を持つことができ、また次世代へ地域活動を繋げるきっかけとなった。	6月23日～ 12月27日	5	184
防災講座「つながる 力」防災・減災を学 ぶ・体験する	開催内容を地域の方と話し合い、災害VR体験活動を実施し日頃からの備えについて学習した。子ども向けには、天気の話やあっぱくん体験など楽しく防災減災を学んだ。	7月15日 7月22日 10月28日 12月3日	4	25
荒町市民センター・児 童館フェスティバル	地域住民及び荒町市民センター・児童館を拠点に活動しているサークル団体や学校が、学習成果の発表の場として開催した。地域住民、異世代の交流とコミュニティづくりを促進した。	9月30日	1	800
荒町市民センター地 域懇談会	地域の清掃活動や子まもりプロジェクトの集まりの際に、地域住民や近隣事業所の勤労者に対して市民センターの役割や事業内容について説明し、関心を喚起するとともに、事業や広報についての要望等を聞いた。	11月9日 1月26日	2	64
市民企画講座音楽会 「over the music from 荒町」～一人じゃでき ないから～	市民企画員と交流会付き音楽会を企画し、学生や荒町小学校の児童、地域のサークルに演奏してもらった。交流時間には回文団扇の紙芝居や地域のクイズをしながら会場全体で交流した。	1月27日	1	14
荒町市民企画会議	学生や若者、地域の方が企画員となり、交流会付きの音楽会を企画した。交流時間の内容や日程、出演者などを決め、開催に向けて会議を重ねながら準備した。	9月15日～ 1月27日	9	45
動画制作講座 「荒町エリアを知っ てもらい隊」	荒町地域や商店街の魅力を伝える動画制作講座を開催。ファシリテーターを各回代えてスキルアップに繋げ、受講生は動画制作の基礎を学んだ。	9月23日 11月26日 2月24日	3	14

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

荒町公園愛護協力会の活動支援

荒町公園愛護協力会は長年、公園の整備等を行ってきたが、メンバーの高齢化により活動が困難になってきている。そこで、市民センターが地域団体の現状を東北学院大学に説明して理解を得、大学を通じて公園整備等に協力してくれる学生を募る呼びかけをしてもらった。

コロナ禍もあり、子供会の協力が得られない除草作業が難しい状況だったため、大学側とも話し合い、5月から12月まで公園の除草作業を中心に、呼びかけに応じて参加してくれた学生ボランティアとともにいった（参加ボランティアのべ70人以上）。愛護協力会のメンバーもいっしょに作業したり、これまでの活動や想いを話したりすることで、地域活動についての学生の理解も深まり、地域と学生との連携も生まれている。

六郷市民センター

〔沿革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産等に恵まれていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。また平成 29 年 3 月末には東六郷小学校が六郷小学校と統合し閉校となった。

現在、六郷地区の再スタートということで、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しながら、地域を支えられる人材育成の推進と新たな地域の活性化に努めている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★市民企画会議「わたしのふるさとプロジェクト」		
参加者	地域住民	延参加者	82 人
開催日	全 11 回 令和 5 年 4 月 12 日（水）～令和 6 年 3 月 13 日（水）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	震災による被災やそれに伴う集団移転のため、東六郷小学校は閉校し、六郷小学校と統合した。地域活動の中心を担っていた団体が消滅したため、かつてのような地域のつながりは薄れている。そこで、六郷東部を会場にして、人々が集うイベントを企画・開催し、六郷東部の新旧住民支援と、ゆかりのある方々の交流の機会を提供する。また、企画員の一人ひとりが、地域の諸団体や施設と連携してイベントを開催することで活動の視野を広げ、地域活動の中心的存在となることを目指す。		
概要・成果	「わたしのふるさとプロジェクト」企画員は地域を担う若い世代が集まり、地域活性化のために高い意識を持って活動に臨んでいる。地域全体の現状や課題についても共有し、話し合いを行っている。 令和 5 年度は企画会議で検討を重ね、東六郷小学校跡地を会場に「来てけさいん♪六郷東部夏祭り」と、「ふるさとにつどう鎮魂の花火」を開催した。イベントには、幅広い年代の方々が訪れ、震災前の東六郷小と地域の歴史を伝え、交流の場を提供するという目的を達成することができた。これらの企画講座は、地域住民の交流イベントとして心待ちにしている人も多く、「わたしのふるさとプロジェクト」の活動は広く住民に認知されている。また、今後の地域活性化の中心を担う存在として一目置かれており、その活動を地域全体で支えていこうとする協力体制もできつつある。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
楽しく体験六郷クラブ	六郷地域の人材や中学生の部活動部員などを講師として迎え、学校外における学び・遊びの場などの提供を通じ、子どもたちと異年齢間とのコミュニケーション能力を養いながら健全な成長を促した。	7 月 15 日 8 月 4 日 10 月 7 日 12 月 16 日	4	44
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割を学び、レクリエーションゲーム等の技術を習得する機会を提供することで、子ども会活動の円滑な運営と活動の充実を図った。	2 月 4 日	1	27

六郷あすなろ大学	高齢者が気軽に参加できる学習の場（歴史や健康、芸術鑑賞など）を提供し、受講生同士の交流を深めた。毎月1回の通年型で定期的に受講生が集える機会を設けることで、張り合いが生まれ、いきがい作りに繋げることができた。	5月18日～ 3月7日	10	536
まるっと六郷！ 六郷の魅力みつけた！	コロナ禍により、地域のイベントが縮小される中、地元の良さを再認識するきっかけ作り、そして住民同士の交流の場を設けることで、地元愛を育みながら、多様性を認め、尊重する意識を養う一助とした。	9月9日 12月9日	2	39
六郷お月見会	自然豊かな六郷地域において日本の伝統文化の一つである「お月見」を体験することで、日本の文化・風習に興味と関心を持ってもらうことができ、幅広い世代が集まり伝統行事を共に作り楽しんだ。	6月8日 8月10日 8月26日 9月26日	4	40
●六郷地域防災事業	地域の安全は地域で守ることができるよう住民主体の委員会を中心に学校、団体、行政等と連携して、防災事業（総合訓練・研修）に取り組んだ。地域住民や諸団体が主体となって活動できるよう、地域防災力の一層の向上に資するよう努めた。	5月17日～ 12月15日	6	309
●令和5年度六郷市民まつり	実行委員会が主体となってまつりを開催することで、地域の連携をより強固なものとし、また、次世代を担う若い世代のリーダー育成へと繋げた。更に、多世代の交流により、顔の見える地域づくり、まちづくりへの一助とした。	11月12日	1	3,000
●市民センター懇談会	当センターの運営方針や事業内容を地域住民や諸団体等、利用者の方々に周知するとともに意見・要望を伺うことで、利用者の「笑顔あふれる学び・活動」の具現化に資した。	5月26日 10月11日	2	50
★市民企画講座 「来てけさいん♪六郷東部夏祭り」 「第9回ふるさとにつどう 鎮魂の花火」	東日本大震災の被災地である六郷東部に関わる人々の交流や、地域のにぎわい再生につながる事業を企画し、縁のある方々の交流を通じてふるさとへの想いを振り返り、未来への希望をつなぐイベントを開催した。	7月22日 3月2日	2	550
「六郷くろしお太鼓応援隊」 ブラッシュアップ講座	太鼓伝承スキルアップのための勉強会や小学校児童への太鼓伝承活動等を通して、異世代間交流と、より地域に根ざした活動を目指して実施した。更に自主活動サークルとして自立できる組織づくりを行った。	4月23日～ 3月3日	11	182

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーの活動支援

六郷市民センターでは、しばらくジュニアリーダーの登録がなく、サークルの休止状態が続いていた。そこで令和5年度は、中学校への働きかけを強化し、まずは地域で気軽にできるボランティアとして「夏休み中学生ボランティア」の募集を行った。市民センターや児童館事業でのボランティアスタッフとして、数名の中学生が参加し、ボランティア活動の楽しさや地域貢献の喜びに触れ、ジュニアリーダーへの登録につながった。登録後は、要請や研修などに積極的に参加し、地域内外の様々な場で活躍が見られた。また、ジュニアリーダーの輝く姿が伝播したことにより、メンバーは6名にまで増えた。更に、ジュニアリーダー自身が自主的にサークル名の改名を提案し、令和6年度より新サークル名「RUN」と決めた。サークル名には、六郷地域の歴史を受け継ぎ、次世代へ繋いでいくという思いが込められている。令和6年度は、引き続きジュニアリーダーの活動支援を続けると共に、地域で活躍する子どもたちの発掘と育成、支援を行っていく。

若林市民センター

〔沿革〕

若林市民センターは、平成 3 年 4 月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	知って安心！認知症講座		
参加者	地域住民どなたでも	延参加者	30 人
開催日	全 4 回 6 月 14 日（水）、7 月 14 日（金）、10 月 18 日（水）、11 月 15 日（水）		
協力者・協力団体	河原町地域包括支援センター		
ねらい	令和 4 年度開催の「認知症講座」の中で、グループワークやアンケートから、認知症に対する不安を抱えている人が多かったため、令和 5 年度は、認知症に関心を持つ人を募り、認知症に関する企画を話し合い、より受講者目線での内容について学び、気軽に参加できる場を提供することをねらいとする。		
概要・成果	認知症に関心のある方々を企画員として、認知症についての疑問や不安などを仲間と共有しながら認知症について学びたい内容等を話し合う「おしゃべり広場」を 2 回開催した。この「おしゃべり広場」を経て、「認知症の専門家から認知症の基礎知識と認知症患者との接し方を学ぶ講話」と「認知症予防の軽体操」を内容とする「知って安心！認知症講座」の企画に至った。 10 月に実施した「知って安心！認知症講座」では、講師の方から認知症についての基本的な知識や予防について資料に基づいて教えてもらったほか、ディサービスやグループホームについても、写真を見せてもらいながら説明いただき、施設に関する役割も学ぶことができた。 11 月には、河原町地域包括支援センターの職員の方より、10 月に実施した講座アンケートに基づき、受講生が知りたいテーマに沿った話などをしてもらった。また、グループ討議では参加者同士の介護経験談なども聞くことができ、様々な情報交換をすることができた。今後の取組として「地域で支え合える関係作り」を目指すことが確認され有意義な交流会となった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●親子のすっきりタイム	感染症止対策に配慮し、家庭健康課や児童館との連携を深めながら乳幼児の歯の健康についての情報を提供、また家族写真のフォトカード作りや親子ストレッチで一緒に楽しい時間を過ごしストレス解消と子育てに前向きになるような機会を提供した。	6 月 20 日 9 月 21 日 12 月 21 日	3	39
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を図るため、主に 5 年生の児童及び世話人を対象に研修を実施した。ジュニアリーダーにもサポートしてもらいながら、ゲームの実践や講話、情報交換等を行った。	2 月 3 日	1	66
わかばやしチャレンジクラブ	小学生向けに体験学習を提供して興味関心の幅を広げ、学校学年を超えて集い、体験することで社会性を育むため、工作、ジュニアリーダーと交流、e スポーツ体験、体幹トレーニングを行った。	5 月 13 日～ 2 月 17 日	7	93

若林小学校連携事業 「わかばやし歴史探検」	若林小学校5年生を対象に、文化財課講師による講話や校外学習、ブックトークの会「コスモス」による本の紹介を行い、若林地域の歴史について学び郷土愛を育む機会を提供した。	11月14日 11月29日 12月7日	3	118
古城小学校連携事業 「仙台まち再発見」	古城小の5年生を対象に、地域の歴史について学ぶ機会を設けた。講話やブックトーク、町歩きを通し、地域の歴史を肌で感じられる取り組みを行った。実際に街中を歩き現地などを見ることで、地域の愛着や歴史への関心を高める為のきっかけを作った。	10月20日 10月27日 11月30日	3	184
若林老壮大学	老壮大学を開講し、講話や健康体操、芸術鑑賞等の実施により年間を通して定期的に集う場所を提供することで、人との交流や、学習意欲の向上につなげることで、生きがいのある健康的な生活を送る一助とした。	4月14日～ 3月1日	11	776
もっと若林を知ろう！伝えよう！若林区の魅力・再発見	市民企画会議と同様に自発的な活動を通して学ぶ形式とし、地域住民にとって魅力ある街、誇れる街若林地域を調べたり発信したりした。また、新たな人材の育成、ネットワークの拡大につなげる契機となった。	5月25日～ 3月22日	5	24
みんなでウェルネス	参加者とウェルビーイングを目指して主体的に学べるよう講座を企画した。リース作り、お地藏さんと文字を描く、お正月飾り作り、染物体験など、交流を図りながら楽しく学べる講座を提供した。	10月7日～ 2月10日	5	41
防災講座「みんなで守ろう！若林」	直下型地震や洪水、内水浸水等の災害が懸念される区域である。小学校と連携し、小学生、成人等各年代を対象に、防災ゲームを通して、防災・減災意識の高揚、自助・共助の必要性や地域の災害対応力の向上を図った。	6月30日	2	72
若林ふれあいまつり	地域住民の交流の場としてサークル活動発表や、作品展示、交通安全や防災についての展示、軽食出店、児童館あそび広場を行った。	9月3日	1	904
わかばやし気軽にコンサート	様々な音楽が楽しめるコンサートを開催して癒しの場を提供すると共に、地域住民にとって身近で気軽に集うことができる場所として市民センターを知っていただく機会とした。	6月17日 12月10日 2月24日	3	89
地域懇話会	令和5年度の施設利用状況や事業内容を紹介するとともに、様々な意見や要望等を伺い、講座の企画をはじめ市民センターの施設運営等に生かした。	3月8日 3月18日	2	6

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「おはなしサークルひつじの会」の活動支援

当市民センターで活動している「おはなしサークルひつじの会」は、定期的に地域の小学校・児童館へ赴き、読み聞かせ活動を行っているボランティアサークルです。令和5年度は、更にスキルアップを図るため、若林図書館より、読み聞かせの基本などを学び、自己研鑽に努めている。更に自主企画の「読み聞かせボランティア養成研修会」では、選本や絵本のめくり方、紙芝居の手順など、講師として日頃の成果の還元もできた。また、研修会に参加の受講生からも、サークルメンバーの増員が図られ、サークル全体の活性化につなげることができた。

沖野市民センター

〔沿革〕

沖野市民センターは、平成3年4月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした（デイサービスセンターは令和4年3月に閉鎖）。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。令和4年秋に大規模修繕を完了し、同年11月から再開している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～		
参加者	沖野親児の会、沖父ちゃん会、地域の親子	延参加者	142人
開催日	全9回 令和5年6月24日（土）～令和6年3月15日（金）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	地域の2つのおやじの会の連携・協力により、地域の小学生親子の交流活発化を図るとともに、おやじの会のメンバー増を目指し、事業を行う。		
概要・成果	沖野小「親児の会」、沖野東小「沖父ちゃん会」とともに、児童向けにいろいろな内容の講座を企画・実施をした。 6月に実施した「スポーツ鬼ごっこ」は、沖野小学校を会場に開催し、沖野市民センターからは離れている沖野小学区の親子に参加しやすい環境を提供することができた。10月に実施した「ボッチャ体験会」では、様々な年代の方の参加があり、幅広い世代の交流を図ることができた。12月には、コロナ禍で中断していた「ソフトドッジボール大会」を再び実施したが、以前ほどの参加者数にはまだ遠い状況であった。しかしながら、参加した子どもたちは、大人が本気で相手をしてくれることを喜び、達成感も得たことが見て取れた。地域の大人と子どもの交流活発化には大いに成果があったと言える。 おやじの会のメンバー増には至っていないが、コロナ禍を経て2つのおやじの会が活動を再開したことを地域に十分認識してもらえる取組みとなった。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ママとパパのリフレッシュ講座	子育て世代を対象に、親子ビクス体験、子育て相談会、親子レクリエーション「運動遊び」、親子コンサートを通して、地域の子育て情報や親世代の交流の場を提供し、楽しみながら子育てし、心身の健康を促進する一助とした。	9月28日 10月12日 11月18日 11月25日	4	22
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人が、子ども会運営の知識やレクリエーションゲームの進め方などを学び、子ども会運営の充実を図る。	2月4日	1	23

ジュニアリーダーと遊ぼう in おきの	ジュニアリーダーの企画・運営によるレクリエーションゲームや工作、沖野地区市民まつりでのゲームコーナーを開催した。ジュニアリーダーが自らのスキルを発揮して、子どもたちがより楽しく異年齢交流できる場を提供した。	6月24日 9月9日 11月4日 12月9日	4	156
お仕事探検隊 ～未来の自分を見つけよう～	小・中学生を対象に、多様な職種に触れる機会を提供し、アニメのアフレコや舞台劇のセリフ読み等の「声優・俳優体験」、講話と動物とのふれあいを通じての「獣医師の仕事体験」を行った。	7月22日 10月12日	2	47
沖野耕友大学	高齢者を対象に、健康講座、芸術講座、防災講座、教養(歴史・文学・科学など)講座、自主企画講座、耕友大学学園祭などを実施し、高齢者が生きがいを持って楽しく過ごせるよう、多彩な学びの場を提供した。	5月12日～ 3月8日	10	502
★みんなの力で地域を守る ーコロナ禍での避難所設置・運営ー	補助避難所として設置・運営する方法を学び、体験する機会を設け、コロナ禍における災害発生時の防災・減災体制の整備と防災意識の向上を図った。また、年配の世代と中学生と一緒に学び、災害時に共助に結び付く地域交流の機会を設けた。	6月11日 10月28日 11月4日	3	144
沖野の歴史を学びゆくり歩こう！	沖野の歴史を地域の方々と歩きながら、地域の2つの小学校の社会学級と連携し、地域の名所や歴史遺構などを地域住民に伝えるツールとして「沖野れきしたんけんマップ」を作成した。	5月16日～ 3月22日	14	109
沖野地区市民まつり	地域で活動する団体に発表の場と団体相互の交流を深める場を提供し、ステージ発表、展示コーナー、防災VR体験の他、児童館コーナーや消防車両の展示等、幅広い世代の地域交流が実現した。	11月3日 11月4日	2	2,844
沖野地区懇話会	地域関係機関との情報交換・意見交換会を目的に実施し、地域課題を発掘、課題解決へとつながるよう情報収集をした。また、市民センターや児童館の事業を紹介し、今後の地域の理解と協力を求めた。	6月27日 2月21日	2	32

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「おやじの会」活動支援

当市民センター管轄地域には、沖野小「親兄の会」、沖野東小「沖父ちゃん会」の2つのおやじの会があり、発足当初からのメンバーが活発に活動しているが、すでにOBとなり、後継者不足の状況である。このため、2つの「おやじの会」はOBも含め一緒に地域に貢献するボランティアグループとして活動していくこととなった。市民センターでは、おやじの会と一緒に市民センター講座を企画運営することで、おやじの会のメンバーのアイデアやノウハウを生かしながらメンバーがやりたいことを実現できるようサポート的役割も努めている。

折り紙ボランティアサークル活動

ボランティア養成講座を経て、令和5年度より立ち上がった「沖野おりづるの会」は、地域施設へ作品を提供したり、地域の福祉施設や幼稚園、団地集会所で折り紙教室を開催したりと積極的にボランティア活動を行っている。

市民センターは、コロナ禍でとぎれていた地域と学校や施設との交流を再開することに努め、日程や打合せ等の調整を図る等、活動を支援している。特に、沖野東小1年生が七夕について学ぶ授業では、当日の行事運営がスムーズにできるよう、担当の先生との打合せや会場準備などの支援を行った。折り紙を通して七夕のいわれや七夕飾りの意味などを子どもたちに伝え、子どもと交流しながら学校行事を支援することが「おりづるの会」のメンバーのやりがいにつながっている。

太白区中央市民センター

〔沿革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、長町児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れた立地のため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、加えて JR 長町駅東口の「杜の広場」の完成や長町商店街の将来を描く「長町・歩いて楽しい街並みの将来像(ビジョン)」による街づくりが始動するなど、これまでも増して多くの滞在人口がのぞめる地域となってきた。当市民センターではこうした長町地区の特性を踏まえながら、講座事業をはじめ、様々なサービスが提供できるよう積極的に取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★わがまち防災・減災実践講座		
参加者	第 1 回 地域住民 第 2 回 関心のある方	延参加者	32 人
開催日	全 2 回 令和 5 年 7 月 27 日 (木)、11 月 22 日 (水)		
協力者・協力団体	太白区文化センター		
ねらい	長町地域は大規模な高層マンションなどの建築が進み、子育て世代を中心に新たな地域住民が増えている。 地震や豪雨などさまざまな災害リスクが高まる中、地域住民がそれぞれ自分の身を守る術を学び、防災意識を高め、地域全体で連携・協力体制が構築できる講座を開催する。		
概要・成果	地域柄マンションが多いことから、第 1 回ではマンション防災という具体的テーマを設定し、実際の安全確保の方法等の講話、VR 体験、補助散水栓や水消火器を用いた模擬訓練などの体験を通して、住民同士で協力し備える必要性を学んだ。第 2 回の講座では幅広く地域全体を俯瞰し、過去の災害から地域の特性を知り、長周期地震動や災害時の心理的な部分まで学ぶことで、将来の防災・減災の方法を考察し、防災を意識する場を提供した。 この講座を通して、様々な視点から地域住民が防災を考え、行動するきっかけに繋がることができた。		

〔令和 5 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
「子育て MY STYLE」	1 回目は親子でハンドベル体験、2 回目は託児付きで親子で UV 対策について話を聞き、3 回目は親子で手作り太鼓を叩く等の体験型の講座を開催した。	7 月 7 日 8 月 4 日 9 月 6 日	3	38
ながまちキッズくらぶ	子どもたちが集い学べる場を 3 回にわたり提供し、第 1 回は地下鉄長町駅のバックヤードツアー、第 2 回は仙台市地下鉄の仕組みを学ぶ講座、第 3 回はフルートの魅力を知る講座を実施した。	8 月 23 日 12 月 9 日 1 月 13 日	3	58
インリーダー研修会	地域の 3 小学校の子ども会を対象に研修会を開催し、児童を対象とする講話、世話人を対象とする講話、ジュニアリーダーによるゲームの実技を実施した。	2 月 3 日	1	60

みんなの元気講座	超高齢化社会に向けて、地域住民が健康寿命を延ばし、元気に生活するため、運動やメンタルヘルスについて学び、運動を通して、参加者同士の交流を図った。	9月20日～ 10月18日	5	158
市民企画講座「ヨガで残暑に負けない身体をつくろ～！」	市民企画員の地域の学生が企画した講座で、ヨガをすることで残暑に負けない身体づくりを目指し、開催した。	9月30日	1	19
ながまち老壮大学健康教養コース	地域の高齢者を対象に、「発酵ってなんだろう？」「大人のためのリトミック」「日ごろの生活から学ぶSDGs」等健康や教養について学んだり、体を動かしたりした。	5月12日～ 2月16日	9	430
ながまち老壮大学文化教養コース	地域の高齢者を対象として、人文系の教養を中心に、地域の方言、気象、陸奥国分寺の歴史などをテーマに講座を実施した。	5月18日～ 2月15日	9	460
太中ふれあいサロン	地元の講師による珈琲講座や初心者向けのスマホ講座など、だれもが気軽に参加できる講座を実施し、参加者同士の情報交換等を通して、地域住民が交流することができた。	6月20日～ 2月7日	5	130
ながまち交流フェスタ2023	市民センターを拠点に活動するサークル・団体が作品展示や舞台発表、出店等で交流する機会として開催した。地域の子どもから高齢者まで世代を超えて賑わい地域活性化に繋がった。	10月28日	1	738
太白区中央市民センター 地域懇話会	市民センター利用のサークルや地域団体、商店街・学校関係の方々に参加し、主催事業等について報告した。事業企画に繋がる貴重なご意見をいただき、地域に関する情報共有の機会となった。	7月27日 2月1日	2	24
市民企画会議「きらりん長町」	地域活性化の為、長町地域に大学のある学生に企画員となってもらい、計5回企画会議を行い、9月30日に「ヨガで残暑に負けない身体をつくろ～」を開催した。	5月30日～ 10月11日	6	20

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

仙台青葉学院体育大学との協力・連携について

地域にある仙台青葉学院短期大学には理学療法士を目指す学生が多く通学しており、学生たちが修得した知識を生かした地域貢献活動等にも取り組んでいる。

令和5年度は、市民企画会議「きらりん長町」に学生4名が企画員として関わり、理学療法について学んでいる学生の目線で、気軽に参加しやすく健康に繋がる講座を企画した。地域のニーズに合致した魅力ある内容に多くの申込があり、講座当日は進行や受講生と積極的に関わる様子が見られるなど主体的に運営を進め、社会参画の機会に繋がった。また、学生による地域貢献活動の推進を目的として、大学側の主催により、初めて開催された「地域連携情報交換会」へ参画することで、これまでの事例紹介や意見交換を行う良い機会となった。講座での関りや情報共有の機会を重ねるなかで、大学とのより良い関係を築くことが出来た。

令和6年度「みんなの元気講座」の実施に向けては、事前に老壮大学2コースの受講生にアンケートを取り、アンケートを反映した講座内容を大学の授業の中で学生が企画していく取り組みも進行中であり、学びを地域で実践し世代間交流の機会を広げていく予定である。

生出市民センター

〔沿革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行ってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。

その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	みんなで守ろうホタルの里		
参加者	地域住民	延参加者	456 人
開催日	全 10 回 令和 5 年 4 月 28 日（金）～令和 6 年 3 月 10 日（日）		
協力者・協力団体	ふる里坪沼実行委員会		
ねらい	坪沼地区には蛍の飛翔地があり、かつては蛍が乱舞していたが、近年その数が激減している。その地域課題に取り組むため、ふる里坪沼実行委員会とともに、蛍の生息地の環境保護活動を実施している講座である。 地域資源である蛍を守る活動を通して、蛍が自生する環境を守る大切さを伝え、地域の自然環境への興味・関心を高めるとともに、地域活動の担い手となる人材を支援・育成していく。		
概要・成果	蛍の生息環境の整備・保護の取組みに関心をもってもらうため、令和 4 年度に蛍の餌になるカワニナの飼育に協力した小学生親子を対象に蛍生息地での生き物観察会や、学びの多様化学校の児童とともに、6 月下旬に開催された蛍観察会の観察路を照らす竹あかりづくりを行った。蛍観察会には地域内外から多くの方々が訪れ、たくさんの蛍が飛び交う様子に感激していた様子が見られたことから、幅広い世代の住民が一体となって取り組んできた蛍の生育環境整備の成果が得られた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おいでわんぱく広場	近隣の小中学生を対象に、押し花アート&草花観察、バドミントン&卓球体験、仙台風作り&風揚げ、パンケーキ作りを実施した。	5 月 13 日～ 3 月 3 日	5	63
仙台市インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション等を学習する機会を提供した。	1 月 27 日	1	10
市民企画講座「夏のひんやり・ドキドキフェスタ」	地域の小学生を対象に、小中学生企画員が企画したイベント（流しそうめん、サバイバルゲーム、ゲーム・ビンゴ大会、かき氷作り、ドッキリハウス、花火鑑賞）を実施した。	8 月 5 日	1	62
おいで地域学のスズメ	成人を対象に、北赤石地区のまち歩き、すいとん作り、秋保石の講話とフォトフレーム制作を実施した。	5 月 24 日 11 月 22 日 1 月 24 日	3	30

《太白区》

ワクワク！おいでライフ	各回ごとに成人または親子と対象を変え、おから味噌作り、苔の箱庭作り、スパイス料理、男の料理教室、移動天文台の見学を実施した。	6月8日～ 3月8日	5	79
生出朗壮大学	高齢者に必要な課題の学習を始め、音楽鑑賞会やものづくり体験のような、受講生同士が交流を図りながら楽しく学ぶことができる講座や、受講生の要望を反映した内容の講座を実施した。	5月19日～ 2月16日	9	197
生出地区防災講座	町内会長や避難所担当課を対象に、熊本地震の被災地支援を経験した小学校教師を講師に迎えて『大地震の被災地復興支援に学ぶ』と題した講話を実施、大規模地震に対する備えの大切さや、防災・減災意識の向上を図った。	11月8日	1	21
第19回 生出かかしまつり	『交通安全』をテーマに、地域の小中学生が制作したポスター・標語の展示や、地域団体等が制作したかかし作品の展示、パトカー展示や地場産野菜の販売等のイベントを実施した。	9月16日 9月17日	2	410
第33回「蛸と平家琵琶の夕べ」	100名定員で事前申し込み制にし、平家琵琶の演奏、蛸観察会、地域団体による伝統芸能の発表や地場産野菜販売等の模擬店を実施した。	6月24日	1	300
第42回 生出コミュニティまつり	地域の小中学生や地域団体、サークルによるステージ発表、サークルや個人の作品展示、焼きそば等の模擬店の他、地域団体の活動紹介やものづくり体験を実施した。	10月29日	1	1,900
生出市民センター運営懇話会	地域団体や各小中学校の代表者、各町内会会長と意見交換を行い、地域課題の共有を図るとともに市民センターの地域での役割や事業を知っていただき、支援と協力を求めた。	8月9日 2月28日	2	39
市民企画会議「おいでわいわいサミット」	地域内の小中学生から企画員を募り、地域の小学生を対象にしたイベントの企画や、開催までの計画・準備のための会議を実施した。また、小中学生企画員のアイデアを安心安全に実現できるよう、小中学生企画員会議後にはサポート役の大人の企画員も会議を実施した。	4月20日～ 3月22日	9	73

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「ジュニアリーダーおいでもん」の活動支援

4月時点では、令和4年度から引き続き登録した高校2年生3名に加え、新たに中学1年生1名が加わり、4名で活動を始めた。中学1年生の生徒は、イベントを企画・運営する小学生企画員を務めた経験があるため活発で行動力があり、他サークルの定例会や研修、仙台市からの要請等に積極的に参加する意思が見られたため、こまめに連絡・調整の支援を行った。

市民センターでは、8月に開催した小中学生企画員が中心になって企画・運営したイベント『夏のひんやり・ドキドキフェスタ』での企画員に対するサポートや、10月に開催した生出コミュニティまつりでの子ども向けブース『さかなつりゲーム』の運営など、幅広く経験が積めるようジュニアリーダー活動支援を行った。また、地域内に「ジュニアリーダーおいでもん」の活動をPRした結果、中学2年生が1名追加登録し、5名体制となった。

中田市民センター

〔沿革〕

中田市民センターは、昭和 44 年 10 月、仙台市で 5 番目の公民館「中田公民館」として、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して開館した。昭和 56 年 3 月に本館を鉄筋コンクリート 2 階建てとして新築し、平成 2 年 4 月には「中田市民センター」と改称。平成 19 年 7 月からの大規模改修工事を経て、平成 20 年 1 月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成 11 年 6 月まで、太白区内市民センター13 館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は、主として中田中学校区を担当する地区館として事業を展開している。

また、町内会連合会と地域関係団体とで「中田公民館運営協力委員会」が組織されており、「中田まつり」や「中田ふれあいコンサート」など、市民センター事業や地域行事に大きな支援を行っている。近年、宅地開発が進み、戸建てやマンション、アパート建設などにより若い世代の転入者が増加している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域で作ろう！伝えよう！中田の七夕		
参加者	どなたでも	延参加者	712 人
開催日	全 10 回 令和 5 年 6 月 14 日（水）～令和 5 年 7 月 26 日（水）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	中田地域は、かつて旧 4 号線沿いに多くの七夕飾りが飾られ、商店街が賑わっていたが、高齢化などで年々商店が閉鎖し、令和 3 年度からは中田振興商工会が休会となり、盛大に開催されていた七夕行事も中止している現状である。 そこで、地域住民が協力して七夕制作や展示を行い、伝統やその思いを共有しながら、七夕の彩りある魅力的な地域づくりに寄与し、地域人材育成にもつなげていくこととする。新しい住民や子どもたちに七夕の伝統を伝えていく意義も大きいと考える。		
概要・成果	地域の方対象、小学生対象、中学生対象、それぞれの講座の初めに、仙台七夕まつりの歴史や中田地域の七夕まつりの振り返り等を行ったうえで、七夕飾りの制作を行った。商店街や公所から場所の提供や設営に協力をいただき、それぞれが力を合わせて制作した七夕飾りで地域を彩ることができた。地域の皆さんも楽しみにしていることが伝わってきた。また、この事業を通して商店街との繋がりを維持でき、地域や商店街に彩りを添え、伝統も繋げることができた。 学校との連携では、授業の一環で活用されており、子どもたちに伝統の中田の七夕まつりを伝えていく役割を担った。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子でわくわく体験クラブ	地域の小学生と保護者を対象に、工作・調理・天体観望を実施した。親子が体験を共有することで、絆を深め、さまざまなことに挑戦する機会を提供した。	9 月 30 日 12 月 8 日 12 月 23 日	3	69
インリーダー研修会	子ども会についての講話や実技研修。世話人同士の情報共有や、子ども会リーダーとなる児童が主体となり、レクリエーションなどを行った。	1 月 27 日	1	26
ジュニアリーダーとあそぼう 2023	児童館との共催で子どもたちと工作やバルーンアート、「中田まつり」で「こどもあそびコーナー」を実施した。	8 月 19 日 11 月 12 日	2	116

中学生企画 「中田地域を考える 絆」講座	中田中学校ボランティアのメンバーを中心に、地域に飾る七夕飾りを制作したほか、交番等の近隣公所とともに清掃活動を行った。	6月29日～ 10月25日	5	179
中田老壮大学	60歳以上対象に、日舞や箏曲鑑賞、仙台市博物館による講話、健康セミナーのほか、学生会企画「中田の歴史について」など、多彩な学びの場を提供した。	5月18日～ 2月15日	9	645
なかだ わいわいサロン	地域住民を対象に、館長が手品などを行い、市民センターを紹介する「市民センターへようこそ！」や「じぞうもじを書いてみよう」などの実技講座を開催した。	7月6日 12月14日	2	24
認知症を学ぶカフェ 「なかだにここ カフェ」	主に高齢者対象として、参加自由の交流の場である①「よりどころにここ広場」を概ね月1回、認知症を学び、理解を広げるための②「にここカフェ」を年1回開催した。	① 4月28日 ～2月23日 ②11月25日	11	236
地域で取り組む中田 の防災	中田地区町内会連合会と連携した防災訓練、太白消防署中田出張所職員を講師に招き、近隣の各施設、町内会等を対象に救急救命講習を実施した。	10月1日 11月29日	2	95
なかだふれあい コンサート	中田公民館運営協力委員会との共催で、「中田篝火コンサート」から名称を変更し、モンゴルの伝統楽器「馬頭琴コンサート」を開催した。	9月2日	1	125
中田まつり	地域のまつりとして定着しており、ステージ発表・作品展示・模擬店・抽選会などを地域団体が協力して運営し、地域活性化の一助となった。	11月12日	1	1,500
中田市民センター「懇 話会」	地域団体や学校・保育関係の代表者を集め、市民センターの事業運営や施設管理等について、また各団体・学校等の活動・事業等について情報交換を行った。	6月1日 1月24日	2	38
【複数年事業】 できることからやっ てみよう ～中田 SDGs へのチャ レンジ～	地域在住の企画員が、SDGsの行動目標の一つ「住み続けられるまちづくり」をテーマに、会議やまち歩きなどを通して、地域の歴史や伝統について調査し発表した。	6月24日～ 2月3日	6	38

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「広報なかだ」編集委員会活動支援

中田公民館運営協力委員会が、年3回発行する地域情報誌「広報なかだ」について、市民センターでは編集会議の調整・紙面作成等の支援を行っている。

最近、中田地域の歴史を発信する地域活動「中田の魅力伝え隊」を連載しており、子どもから大人まで誰にでも分かりやすく中田の魅力を伝える活動を、地域に広く紹介する良好な機会となっている。

市民センターでも「中田の魅力伝え隊」に講座講師を積極的にお願いし、研究の成果を披露できる機会を提供している。SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」にも関連し、地域愛の深まりや、暮らしの質の向上を受講者と共に目指していることは、メンバーの活動意欲の向上にもつながっている。

「広報なかだ」は、地域住民による手作り感にあふれており、今後も様々な地域情報を発信するための継続的な支援と情報提供に努めたい。

西多賀市民センター

〔沿革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年、仙台市として 5 番目の福祉会館として本施設が開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年、政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館機能が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。

平成 3 年に児童館が併設され、平成 30 年 11 月には新館が開館した。現在は、子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	手をつないで考えよう防災・減災		
参加者	地域住民、西多賀児童館児童	延参加者	161 人
開催日	全 4 回 令和 5 年 7 月 8 日（土）、7 月 25 日（火）、12 月 9 日（土）、1 月 24 日（水）		
協力者・協力団体	西多賀連合 SBL 会、西多賀地区町内会連合会、西多賀児童館		
ねらい	西多賀連合 SBL 会と協働し、子どもから大人までそれぞれの年代や立場でできる「備え」について考え、災害時における地域の防災活動へとつなげることを目的とする。		
概要・成果	令和 4 年度に実施した自然災害から命を守るために地形を知る重要性について学ぶ講座の参加者から、「実際に歩いて地形を調べてみたい」という声をいただいたため、令和 5 年度は成人を対象に、地形図を見ながら地域を歩く「西多賀防災まち歩き」を開催した。自分たちの住む地域の地形の成り立ちを知り、地域への関心を高めることで、災害時にどう行動すべきかを考えるきっかけとすることができた。 小学生対象の講座では、防災紙芝居「リオン」の読み聞かせ、災害時に役立つランタン作り、「防災〇×クイズ」を実施し、いざという時のための備えの大切さや防災に関しての必要な知識を学んだ。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て講座「子どもと共に」	西多賀児童館・西多賀中学校 PTA 研修部との共催で、幼児期から思春期の性教育・SNS 関連・教育資金等の現代的課題を取り上げ、課題解決に取り組んだ。	7 月 1 日 9 月 16 日 11 月 18 日 12 月 6 日	4	95
インリーダー研修会	次のリーダーとして活動する児童と世話人を対象に、子ども会活動の目的や意義を学んだ。またジュニアリーダーと一緒にレクリエーションゲームを行い実践的な研修も行った。	2 月 24 日	1	72
西多賀今昔かるた大会	「西多賀今昔かるた」を題材に、西多賀検定委員が講師となり、西多賀小学校で、絵札の解説、かるた大会を行った。また、児童館でもかるた大会を行った。	7 月 5 日 1 月 5 日 1 月 17 日	3	214

ジュニアリーダーとあそぼう！	西多賀児童館と共催し、小学生を対象に、ジュニアリーダーが講座を企画・運営した。夏休みは工作とゲームを午前・午後 1 回ずつ、10 月は児童館まつり、冬休みはゲームなどを行った。	8 月 1 日～ 12 月 26 日	6	284
にしたがキッズ情報局 2023	地域の小学 5・6 年生が「秋保電鉄」をテーマにラジオ番組を制作した。軌道跡を訪れ詳しい方に取材し、また小学校の先生へインタビューを行い、スタジオ収録を体験した。	7 月 29 日～ 10 月 11 日	6	14
大人の健康講座	中高年を対象に、体力測定、筋力トレーニング、椅子バランスコーディネーション、スローエアロビックなどの運動を通して、地域での仲間づくりと健康づくりを行った。	11 月 17 日 12 月 5 日 1 月 12 日 1 月 26 日	4	34
プランターから始める花のあるまちづくり	講話と実践でガーデニングの基礎を学んだ。また、西多賀地域で「花ボランティア」として活動している団体を紹介し、一緒に作業をする機会を設けて交流した。	9 月 12 日 10 月 3 日 11 月 14 日	3	44
西多賀寿大学	地域の高齢者を対象に健康・防災・歴史等の講話や、コンサート、軽体操他幅広い分野の講座を開いた。また、運営委員の意見から地域包括支援センターの講話等の自主企画講座も行った。	5 月 17 日～ 2 月 21 日	9	421
再発見！西多賀の歴史と自然	地域住民が大人から子どもまで、西多賀の歴史や自然に触れ学ぶ場を設けた。地域資源の価値を再発見するための講話・史跡巡りと自然観察会を行った。	6 月 4 日 6 月 11 日 9 月 23 日 11 月 23 日	4	44
西多賀ふれあいまつり	ステージ発表、作品展示、地域団体活動紹介、小学校児童作品展示、出店等を行った。参加団体も来館者も増え、活動成果の発表や世代間交流ができ、地域コミュニティづくりに役立った。	10 月 22 日	1	1,089
西多賀地域懇談会	町内会、各学校、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会等の参加により、生涯学習事業の企画に反映すべく地域の学習・地域課題について意見・情報交換ができた。	6 月 15 日 2 月 29 日	2	44
広げよう福祉の輪	地域の方々を対象に「認知症」と「障がい者への理解」をテーマに「ボランティア講座」を行った。また、福祉をテーマにした地域交流会「福祉のつどい in 西多賀」を開催した。	7 月 15 日 11 月 11 日 2 月 3 日	3	335

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「西多賀検定委員会」の活動支援

西多賀市民センターでの講座をきっかけに発足された「西多賀検定委員会」は、西多賀の歴史・自然・文化を広く伝えたいと作成された「西多賀今昔かるた」を使い、毎年、児童館で大判かるた大会や絵札の解説を行っており、子供たちが地域を知るきっかけとなっている。さらに、たくさんの子供たちに知ってもらえるように地域の小学校にも呼びかけ、西多賀小学校 3 年生の総合的な学習「西多賀探検隊」で、西多賀検定委員の方々に歴史や自然を解説いただく出前講座を実施し、活動の場を広げることに繋がった。また、この活動の功績は市政だよりでも紹介され、団体の活動を広く市民に知ってもらえる機会とすることができた。

八本松市民センター

〔沿革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座 Danner's キッチン		
参加者	地域住民（60 歳以上の男性）	延参加者	11 人
開催日	全 2 回 令和 5 年 10 月 28 日（土）、令和 6 年 2 月 3 日（土）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	地域活動における担い手不足を解決するため、地域交流に苦手意識を持つ定年後の男性を対象に、同世代の企画委員が興味のあることややってみたいことを話し合い、その中から出てきた男性が気軽に参加できる基本から学べる料理講座を開催することで、地域に積極的に目を向けるきっかけをつくり、交流する場を提供する。		
概要・成果	八本松、郡山、東郡山それぞれの地域に住む 60～70 代の 4 人の男性企画委員が集まって話し合いを重ねたところ、料理を基礎から学びたいという意見から料理講座を開催することになった。基本的な炊飯器の水加減から学びながら、第 1 回は豚肉生姜焼きとポテトサラダ、第 2 回は油淋鶏と杏仁豆腐に挑戦した。 参加者全員で協力しあい、和気あいあいとした雰囲気の中で会話もはずみ、全員からぜひ来年も参加したいとの声が挙がるほど、料理をきっかけとして交流を深めることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
八本松子育てサロン	0 歳から 3 歳児の親子を対象に、おはなし会、親子ピクス、クリスマス会の親子で楽しむ内容と託児付でヨガ、アロマクラフト、防災調理の自分の時間を楽しむ内容を 3 回ずつ実施した。	5 月 12 日～ 12 月 15 日	6	80
親子のわくわく ぼうけんタイム	小学生とその保護者を対象に、親子の絆を深める一助とするために、日本の伝統文化茶道、植物を使ったリースや科学実験などの内容で家庭や学校では体験できない講座を開催した。	6 月 17 日 9 月 16 日 11 月 18 日	3	63
仙台市子ども会イン リーダー 研修会	子ども会活動の充実のため、児童・世話人が、子ども会の意義や世話人の役割を学び、ジュニアリーダーと一緒にレクリエーションゲームを体験した。	2 月 10 日	1	53

うぶすなスクールコ ネクト	地域について学ぶ機会の少ない新中学 1 年生を 対象に、地域を知り地域に愛着が持てるように育 むため、地域の歴史を研究し活動しているサーク ルに講師を依頼し、特別授業「八本松・郡山歴史 再発見」を実施した。	11 月 10 日 11 月 29 日	2	226
作って食べよう伝統 料理！	この地域に住み始めてまだ日が浅い人や、まだ伝 統料理を作って食べたことがない人を対象に、1 回目はおくずかけ、2 回目は仙台芋煮、併せて旬 の野菜を使った副菜も作った。	6 月 9 日 11 月 10 日	2	18
八本松寿大学	地域の高齢者を対象に、モルック体験、民謡鑑賞、 音楽療法、本・チョコレート・テレビの歴史・シ ルバー川柳・笑いをテーマにした講話を行った。	5 月 25 日～ 1 月 25 日	8	354
八本松市民センター 出前講座	市民センターと離れている郡山地域の住民を対 象に、コミュニティセンターで蓄音器によるレコ ード鑑賞会、VR による体験型防災講座、オカリ ナコンサート、ギターアンサンブルコンサートを 開催した。	7 月 15 日 7 月 29 日 9 月 30 日 11 月 25 日	4	92
八本松スマイルコン サート	1 回目は近隣の児童施設と共催で行い、マリンピ アによる 0 歳から参加できるコンサート、2 回目 は GetHighArt s Jazz Orchestra によるコンサ ートを実施した。	7 月 8 日 12 月 2 日	2	139
令和 5 年度 八本松市民センター まつり 第 27 回うぶすなフェ スティバル	地域住民・市民センター利用団体・地域諸団体・ 教育機関等が、市民センターの周知と交流および 地域活性の場となることを目的として舞台発 表・作品展示・縁日コーナーを開催した。	11 月 3 日	1	1,130
八本松市民センター 懇話会	市民センターの事業運営に反映させていくため、 利用団体や町内会等と情報交換を行い、地域ごと の特色による地域課題や地域ニーズを把握した。	6 月 28 日 9 月 22 日	2	23
八本松・郡山地域防災 講座	地域住民を対象に、VR での防災学習、隣接する 児童館との共催事業「あそぼうさい」、地域 SBL による北海道・三陸沖後発地震注意情報のお話を 実施した。	7 月 1 日 9 月 2 日 11 月 11 日	3	140
複数年事業 地域を学ぶ ー八本松・郡山の歴史 的魅力ー	地域住民らを対象に、基調講演「地域（まち）の あゆみをふり返る」、地域の歴史研究会による講 話「郡山遺跡・北目城」「長町貨物操車場とあす と長町の誕生」、郡山遺跡マップでのまち歩き、 郡山中学校での歴史授業見学を実施した。	5 月 20 日～ 1 月 27 日	6	64
市民企画会議 八本 松 Danner' s	地域の男性企画委員が、定年後の男性が地域に目 を向け交流することを目的として会議を重ね、料 理を基本から学び地域交流する講座「Danner' s キッチン」を企画運営した。	6 月 20 日～ 2 月 29 日	6	21

【令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「八本松・郡山地域研究会」への活動支援

「八本松・郡山地域研究会」は、毎年地元の中学校で歴史授業の講師を務めるほか、郡山遺跡紹介マ
ップを作成し、その解説をする講座を行っている。令和 5 年 12 月に仙台市から郡山遺跡の整備活用計
画が出され、今後さらに郡山遺跡に関する講話要請や地域の歴史についての取材が多くなると予想され
るが、中心となり活動するメンバーの高齢化が課題となっている。そこで、令和 5 年度から複数年事業
「地域を学ぶ」をスタートさせ、「八本松・郡山地域研究会」と一緒に地域の歴史を次世代に伝える担
い手づくりを行い、時間をかけながら新しい人材育成を進めている。

八木山市民センター

〔沿革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年 12 月に開業した地下鉄東西線の西の起点駅（八木山動物公園駅）となり、交通利便性向上となったことから、新たに住民も増加し地域全体でも人口増となり、新しい街づくりが進んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	八木山おや G7 チャレンジ企画		
参加者	八木山地域の小学生	延参加者	23 人
開催日	全 1 回 令和 5 年 9 月 2 日（土）		
協力者・協力団体	八木山おやじの会、八木山南おやじの会、向山おとうさんの会、芦口小おやじの会、金剛沢親兄の会、まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	八木山地域の小学校（八木山・八木山南）、近隣の小学校（芦口・金剛沢・向山）にはおやじの会があり、それぞれ積極的に活動している。また、人数に差はあるが、八木山小学校や八木山南・芦口小学校の一部の児童は八木山中学校へ進学する。そこで、将来地域の核となる人材の交流の場となる事を目的とし講座を開催する。さらに、3 校に加えて金剛沢・向山小学校のおやじの会も巻き込み、太白区中央市民センターと連携することで、より幅広い地域の情報共有と活動の活性化を目指す。		
概要・成果	5 つの小学校のおやじの会が、新しいネットワークを構築、親睦を深め、更にはノウハウを共有しながら地域活性化へ繋げることを目的に企画会を重ねた。その中で、各地域の子供たちがいずれ中学校に進学した際に戸惑うことのないようにという思いから、八木山中学校を会場にしたイベントの開催を目指した。おやじの会々員のみならず、参加児童が親睦を深めることを目的とし、学校混合でチームを結成、参加者が協力し合い、各おやじの会が担当するブースで点数を競い合う企画を行った。おやじの会同士も企画を行うために集まる中で、お互いが顔の見える関係となり、親睦が深まった。また、参加した児童も学校の枠を超えた交流を行うことにつながり、親世代と子ども世代、両方が広く交流する関係が生まれるきっかけとすることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	八木山・八木山南・向山小学校に通う、子ども会の核となる学年の児童と世話人を対象に、レクリエーションゲームや子ども会の運営方法を学び交流をした。	2 月 24 日	1	57
★広げよう八木山防災の輪	仙台八木山防災連絡会に加入する消防関係団体、東北工業大学と連携し八木山中学校 1 年生を対象に胸部圧迫、AED の使い方、地域で活動する防災団体の紹介など防災授業を開催した。	6 月 23 日	1	164
地域の絆プロジェクトでっかい夢を八木山に描こう	八木山・向山地域の 5 小中学校を中心に、市民センター、東北工業大学等が連携し、企画員とともに描画テーマを考えるなど複数企画会を開催した。小学生から大人までが一緒になり八木山ベニーランド内に描画を行った。	6 月 17 日～ 1 月 13 日	6	29

八木山の豊かな自然を散策しよう	八木山を起点として、地域の歴史、成立ち、地形等を学びながら散策を行った。講師を地域の方に依頼することで、地域人財と受講生の交流に繋がり、地域人財を地域に還元する場となった。更に八木山の魅力を発信する機会ともなった。	6月10日	1	15
在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	日本語ティールームボランティア、(公財)仙台観光国際協会、市民センターの3者で協力し、在仙外国人への学びの場を提供し、日本語指導のみならず日本文化の紹介の機会を設けた。	4月7日～3月13日	12	103
やぎやまシニア大学	地域の高齢者を対象に化学・歴史・脳トレ・コンサートなどを行った。講師に地域人財を活用し、受講生・講師相互に地域への理解が深まった。	5月11日～2月8日	9	154
フレイル予防講座 これからも自分らしく	シニアの活力を継続させるため地域で学び、語り合い、交流する機会を作った。必須となりつつあるスマートフォンの使い方や身体能力を高めるため日常でもできる健康体操を行った。	6月30日～10月6日	5	83
★地域防災シンポジウム in 八木山	八木山地域のジオラマを段ボールで作製し、地形からわかるリスクや過去にあった被害を各世代交えて話しあった。また地域の学校の防災に関する研究成果発表を聞き、知識を深めた。	11月25日	1	62
金剛沢緑地を楽しもう	八木山地域に住む児童とその保護者を対象に、金剛沢緑地を体感し交流を促進するため、おにごっこ、ウォークラリー、葉っぱ採集を行った。	12月2日	1	28
第35回八木山市民ふれあいまつり	「あらゆる世代が楽しく参加できるまつり」を目指し、実行委員会一丸となって開催方法を検討した。ステージ・展示発表などのほか、こども企画会の意見を取り入れてまつりを開催した。	6月3日～1月27日	10	3,000
秋の八木山フェスタ	八木山ベニーランド、八木山動物公園、東北工業大学、東北放送、市民センター5者を中心に開催。センターは実行委員会の取りまとめ、ポスターコンクールを実施しフェスタ認知及び開催を周知。	11月3日	2	560
気軽に懇話会	センター利用サークルと団体、学校関係者と地域団体を対象に開催した。八木山地域の現状把握とセンター取り組みの紹介、各団体との意見交換を行い、よりよいセンター利用へ繋げていく。	2月29日 3月5日	2	20
おやじ達の企画会(市民企画)	近隣の5つの小学校の「おやじの会」が連携して、子ども達が楽しめる企画を立案した。おやじの会が5個のブースを設け、子ども達が学校混在の班を編成してチーム毎に点数を競う内容となった。	5月23日～11月28日	5	40

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

仙台八木山防災連絡会の活動支援

仙台八木山防災連絡会は2005年に設立した、八木山地域の町内会、地域団体、学校、企業、病院、公共施設などの45団体からなる組織で、八木山地域の住民が地震などの災害に対して安心して生活できるよう、住民の幸せな日常生活を支援することを目的とする活動をしている。

令和5年度も八木山中学校生徒に対する防災授業や、特に若者に向けた「世代を超えた防災」をキーワードにしたシンポジウムの開催などを精力的に行い、その地域全体を巻き込んだ活動が福島県いわき市勿来地区防災担当者の目に留まり、令和5年度の勿来支所区長会研修視察を受け入れることになった。

市民センターでは、仙台八木山防災連絡会事務局として幅広く活動を支援しており、今後も引き続き、仙台八木山防災連絡会の役員会、定例会や事業展開に対する支援等を継続して行っていく。

山田市民センター

〔沿革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手、太白山自然観察の森などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鉤取郵便局、鉤取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	山田音楽祭		
参加者	地域住民	延参加者	447 人
開催日	全 5 回 令和 5 年 8 月 22 日（火）～1 月 28 日（日）		
協力者・協力団体	太白小・人来田小・山田中・人来田中・仙台西高・地域の音楽サークル		
ねらい	音楽を通して山田、人来田、太白地域が交流を深める機会を作る。管内の小中高等学校を含め音楽に関わる人々自身が企画委員となり音楽を通じた地域づくりに関われるよう皆で学びながら作り上げていく。		
概要・成果	8 月～12 月に、音楽祭の企画・運営について話し合う実行委員会を開催し、午前の部は「スクール音楽祭」として、管内全ての小中高等学校の吹奏楽や合唱の演奏と全学校による合同演奏、午後の部は「音楽サロン山田」として、市民センターで活動する音楽サークルによる発表を行うことを決定し、そのための準備を進めた。 1 月 28 日（日）の音楽祭当日、午前には仙台西高、山田中、人来田中の生徒の皆さんから、司会進行や受付、会場準備等、ボランティアでの協力をいただいた。午後の「音楽サロン」では、お茶やコーヒーを飲みながらそれぞれ音楽を楽しむ形式としたため、お茶やコーヒーの準備を上野山小の保護者と児童が手伝ってくださる場面もあった。 音楽祭を通して、学校同士のみならず、保護者同士や地域の人々同士の交流のきっかけを作ることができ、子どもたちの交流や意欲付けにも繋がった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
サマースクール山田	夏休み中、地域の小学生を対象に、高齢者や共催団体、他地域の小学生と関わりながら様々な活動に取り組み、異世代間交流や子育てを支える環境づくりの機会を提供した。縄文時代の体験やジュニアリーダーとの遊び、消防業務体験、藍染体験を開催した。	7 月 26 日 7 月 28 日 8 月 2 日 8 月 4 日	4	54
インリーダー研修会	次年度子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、講話や情報交換、JL とレクリエーションゲームの体験を通して子ども会活動について学習機会を提供した。	2 月 10 日	1	52
山田豊齢大学	地域の高齢者が年間を通して市民センターに足を運び、学び、交流する機会を提供した。健康・文化・歴史・食育などの講話や軽体操、音楽鑑賞などを実施した。	5 月 11 日～ 2 月 8 日	9	437

山田・鉤取まち巡り	山田・鉤取まち物語管理運営委員会とともにまち巡り講座の開催や動画の製作をしながら情報の発信学習機会の提供を行うことで地域に詳しい人材の育成・発掘に繋がった。	4月25日～ 2月14日	15	184
山田かがやき隊	地域の団体や児童館と連携し、高齢世代と子育て世代、小学生の異世代交流を図る機会を提供した。クラフトのミニ七夕作り、ポッチャ体験と交流会、クラフトの干支飾り作りを開催した。	4月13日～ 12月16日	7	124
山田市民センター出前講座	山田市民センター管内の山田・人来田・太白の3つの連合町内会との交流を深め、積極的に地域に出向くことで市民センターを身近に感じてもらうとともに、地域のニーズに合った講座を開催して学びながら地域住民同士の交流を生み出せるよう、ネイチャートレイルとコンサートを開催した。	8月11日 12月23日 2月17日	3	180
地域総合防災訓練講座	講座として防災訓練の意義を学び実践から学ぶため、防災学習や事前打ち合わせ会等を実施した。各団体間、また市民センターと関係機関との連携を深め、今後の展望や意思統一の場を作った。	5月24日～ 12月1日	5	2,397
第25回山田ふれあいまつり	地域住民や団体・学校・サークルに交流の機会と活動成果発表の場を提供することで、コミュニティづくりの活性化と推進や生涯学習の振興を図った。	10月28日 10月29日	2	1,820
地域懇話会	地域の団体や教育関係者等と意見交換をし、地域課題やニーズの共有化を図るとともに、センターへの要望等についてうかがった。	4月26日 2月28日	2	82
楽元の森プロジェクト	地域住民に「楽元の森」の活動や利用を知ってもらう機会を提供し、地域の団体と共催や連携をすることで地域の活性化を図った。	6月17日～ 3月2日	6	309
市民参画型事業 「楽元の森プロジェクト」企画委員会	地域資源である「楽元の森」を活用した講座の企画・運営の話し合いを行い、「楽元の森プロジェクト」として6回の講座を企画・実施した。	4月8日～ 3月9日	10	260

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

近隣小中学校への活動支援

当市民センターの1・2階のロビーは、展示期間を決め、通年で個人や団体の作品展示に活用しているが、令和5年度は新たに山田中学校・人来田中学校・上野山小学校の生徒・児童の作品展示の機会を設けることができた。これにより、利用者の方々から子どもたちの作品についての感想などをいただく等、学校と地域をつなげる支援になっているほか、地域の方々の交流にも一役買っている。

『ふれあいの花プロジェクト』の活動支援

当センターでは『ふれあいの花プロジェクト』として、市民センター近隣の花壇整備ボランティア活動の支援を行っているが、活動メンバーの高齢化が徐々に進んでいる現状がある。そこで、山田中学校に協力を依頼し、学校を通じて、中学生ボランティアの募集を呼び掛けてもらった結果、水やり等の協力してくれる中学生ボランティアが年間を通してきてくれるようになった。このことは、「ふれあいの花プロジェクト」の活動支援になっているだけでなく、中学生ボランティアにとっても、中学生と地域がつながりを持てる良い機会とすることができた。

茂庭台市民センター

〔沿革〕

茂庭台地区は仙台市西部に位置し、市内中心部から車で約 20 分の距離にあり、古くからの梨野地区と住宅が多く建ち並ぶ茂庭台地区からなっており、豊かな自然環境に恵まれている。

茂庭台市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始した。平成 2 年には児童館が併設された。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年 4 月に再開した。

近隣には市営住宅や多くの福祉施設があり、高齢者、子ども、福祉施設の方々や外国人居住者の利用も多く、当市民センターは地域コミュニティの交流の場となっている。また、コミュニティ活性化に向けて連合町内会による地域活動が積極的に進められている。地域ニーズ、課題解決を図るため「市民本位の生涯学習拠点」「市民が主役の交流拠点」「市民参画による地域づくりの拠点」として、より多くの利用者に気軽に足を運んでもらえる様な事業を実施するとともに、地域課題解決のもとに集まれるネットワーク拠点としての機能が持てるようなセンター運営を行っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業・複数年事業「みんなの広場」プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	58 人
開催日	全 13 回 令和 5 年 5 月 20 日（土）～令和 6 年 2 月 17 日（土）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	広場を活用した地域コミュニティ活性化に向け、地域人材の発掘・育成、地域情報の共有、地域資源の有効活用、事業の企画・実施、地域活性化の理念共有を基に複数年事業として企画する。加えて、地域住民同士の「顔の見える関係づくり」強化を目指す。		
概要・成果	茂庭台地区の活性化を目指して、地区の中央に位置する市民センターや広場を活用した講座を市民企画員が中心になって企画し、令和 5 年度は「盆踊り練習会」「ゆかたの着付け練習会」「音楽と灯りのもにわだいフェス」「天空の広場凧あげ大会」を実施した。 令和 5 年度はイベントの広報に注力したことで、例年と比較して多くの参加者を集めることができ、地域住民同士の交流を一層深めることができた。また、複数年にわたりこのプロジェクトを継続してきた結果、地域住民による交流の活性化に加え、人材発掘・人材活用に繋がっている。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
もにママサロン	ヨガ、人形劇鑑賞、お雛さま作り講座を開催し、若い世代や子育て世代が楽しく交流できる場を提供した。	7 月 7 日 12 月 8 日 2 月 2 日	3	29
もに輪っ子体験クラブ	勾玉づくり、コンサート、スポーツチャンバラ、茶道体験を実施し、普段の授業ではなかなか体験することの多くない学びの機会を作ることができた。	8 月 2 日 8 月 26 日 10 月 11 日 3 月 27 日	4	77
インリーダー研修会	生出市民センターを会場とし、共催で研修会を実施した。令和 4 年度に引き続き、対面での研修を開催し、世話人同士での意見交換の場ともなった。	1 月 27 日	1	23
茂庭台をもっと元気にし隊	小中学生の隊員 3 名が地域活性化を目指し企画した「ホラーハウス」「お楽しみ縁日」を実施。	5 月 13 日～ 3 月 16 日	15	98

ジュニアリーダーとあそぼう	ジュニアリーダー企画「工作であそぼう」「体育館であそぼう」「茂庭台地区市民文化祭出店」で、地域の小学生と交流を深めることができた。	8月19日 10月1日 1月13日	3	79
剪定を学ぼう	剪定の基礎知識を学ぶ座学を2回と、剪定の基本技術を学ぶ実践講座として「剪定基礎編」と「剪定応用編」の2回を開催した。	6月10日 7月8日 9月9日 10月14日	4	33
茂庭台健康講座	「認知症」「体年齢」「ウォーキング」の3つテーマで、健康づくりに関する講座を実施した。参加者同士が交流する機会となった。	8月8日 9月8日 10月27日	3	38
茂庭台大学	朗読劇、ノルディックウォーキング、コンサート、モルック体験、映画会、講話（仙台フィルについて、仙台の歴史、健康、災害）を行った。	5月19日～ 2月16日	9	285
地域懇談会	町内会・学校・施設などの関係者対象に、運営方針等について説明や取組報告等を行い、意見を伺った。また、利用団体の代表者対象にも運営方針等について説明を行い、意見等を伺った。	6月22日 6月23日 2月15日	3	54
地域防災講座	第1回は、夏休み小学生向け講座として実施した。第2回は、令和6年度の地域防災訓練における補助避難所運営の在り方について町内会連合会と情報交換を行った。	8月4日 1月6日	2	42
もにわだいを知って楽しく歩こう	茂庭台地域の自然・歴史・文化について地域講師の説明を聞きながら、町歩き講座を開催した。春は古道を周り、秋は茂庭台の中心部を歩いた。	4月11日～ 10月21日	5	33
茂庭台地区市民文化祭	市民センター利用団体、地域団体、地域の小中学校、幼稚園、専門学校等で活動している方々の学習成果発表の場として、ステージ発表と展示発表、出店を行った。児童館まつりも同時開催し好評だった。	10月1日	1	872
茂庭台レコードカフェ	第1回に「ビートルズ」、第2回に「ニューフォーク・ニューミュージック・シティポップ」、第3回に「歌謡曲」、第4回に「映画音楽（洋画）」をテーマに、レコード観賞会を実施した。	6月17日 7月22日 10月28日 12月23日	4	48
天空の広場 盛り上げ隊	7月に「盆踊り練習会」、「ゆかたの着付け練習会」、12月に「音楽と灯りのもにわだいフェス」、2月に「天空の広場風あげ大会」を実施した。地域の中心に位置する広場に集い交流するという目的が達成された。	7月15日～ 2月17日	5	217

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

水道山整備ボランティアの活動支援

団地内にある茂庭台緑地（通称：水道山）は、以前は草木が生い茂り、倒木が多い危険な場所とされていた。植生が豊かだった頃の姿に戻したいとの声が市民センターに寄せられ、整備に取り組むために集まった企画員6名が中心となり、水道山整備ボランティアを結成。平成29年度太白区まちづくり活動賞受賞。令和5年度には15周年を迎え、現在まで活動を続けている。

令和5年度、団体の活動としては主に、遊歩道の整備、枯損木の伐採の他、休憩スペースの整備を行った。市民センターでは、整備活動に必要な各種手続きや、ボランティアからの相談受付、情報提供等、新たなボランティア募集などのサポートを行った。

〔沿革〕

東中田市民センターは、平成元年４月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。令和２年１２月から大規模修繕工事を実施し、令和４年２月に再開した。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、すばらしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	まちのトレジャー・レポーター		
参加者	小中学生・地域住民	延参加者	122人
開催日	全10回 令和５年７月15日（土）～令和６年２月24日（土）		
協力者・協力団体	袋原中学校・四郎丸小学校・東四郎丸小学校・袋原小学校・東中田町内会連合会・中田中部町内会連合会・東中田児童館・まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	動画作品を制作することによって伝承が難しくなっている名所・人物などを伝えていく。３年かけて地域学習の教材を充実させ、「自分の地域を知る」ツールを通して地域団体や住民同士がつながる意識を育んでいく。		
概要・成果	小中学生12名と大人スタッフ3名が集まり、「九ヶ村堀」「袋原中学校の校木」「東中田の地名の由来」「落合の渡し」「地域の二つの松」について調べ、DVDを制作した。このDVDは地域の学校や諸団体に配付したほか、YouTubeでも公開した。地域の小学校では教材として活用されており、気軽に東中田地域を知ることのできるツールとなっている。 小中学生と大人が地域のトレジャー（＝お宝）を動画で紹介するという目的に向かって積極的に交流する姿が見られたほか、東中田地域への郷土愛を育むことができた。		

〔令和５年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てスマイルタイム	子育て中の方及び未就園児を対象に保護者がリフレッシュすることを目的として、子育て講話、ヨガ、親子で楽しむレクリエーションを実施した。	6月29日 7月13日 8月17日	3	17
東中田キッズ広場	小学生を対象に、学校では得られない体験学習の場を設け、トマトの栽培体験、工作体験、ニュースポーツ体験、ジュニアリーダーと遊ぼう、将棋大会と練習会を開催した。	6月7日～ 1月20日	10	184
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に、子ども会活動の充実と活性化を図ることを目的として、子ども会活動に必要な知識やスキルについて学んだ。	2月17日	1	28
東中田いきいきタイム	成人を対象に、多様な生涯学習の機会の提供と地域住民の交流を目的に、スワッグづくり、香り袋制作、ウォーキング教室、健康教室、押絵づくりを実施した。	7月27日～ 12月21日	6	71

東中田老壮大学	60 歳以上の高齢者を対象に、月 1 回防災や運動を始めとする多種多様な学びを得る機会を提供した。健康づくりを目的として秋からは有志によるラジオ体操も始めた。	5 月 17 日～ 2 月 21 日	9	321
東中田まちめぐり	垂直避難体験・雨水用ポンプ場見学を実施し、地域の防災への取り組みに理解を深めた。また VR による災害学習・マイタイムライン作成等防災への関心を深める一助となった。	6 月 11 日 11 月 2 日 1 月 25 日	3	42
名取川の自然観察会	東中田地域を流れる名取川河川敷に生息する動植物観察学習を地域の魅力を知り、愛着を持つ目的で、植物観察と野鳥観察学習の 2 回実施した。	10 月 29 日 12 月 2 日	2	14
防災・減災学びの学校	名取川水系の浸水被害想定について具体的に学ぶなど、地域住民の防災・減災教育への関心・意欲を高めるとともに、防災・減災への知見を深めた。	11 月 25 日	1	36
東中田市民まつり	地域住民の交流の場を目的として、展示発表、ステージ発表、出店、フリーマーケット、児童館コーナー、東中田健康ひろばを実施した。多くの人が参加し、地域活性化の一助となった。	10 月 1 日	1	1,900
みんなのコンサート	夏にジャズ、冬にはクラシックコンサートを開催。幼児から高齢者までが一緒に音楽を楽しむ交流を深める場を設けることができた。	7 月 2 日 12 月 9 日	2	118
東中田地域コミュニティ懇話会	地域内の小中学校・幼稚園・保育園、管内の町内会会長や地域組織・団体等との意見交換の場とするとともに市民センターへの理解を深める機会とすることができた。	6 月 7 日 2 月 14 日	2	28
ほっこりサロンボランティア養成講座	地域住民が運営する「ほっこりサロン」のボランティア養成のため、トーンチャイムやハンドマッサージ等を学び地域で活躍する人材を育成した。	8 月 22 日～ 12 月 19 日	5	7

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「かにっこ語りの会」の活動支援

「かにっこ語りの会」は平成 25 年、市民センターの講座から立ち上がったサークルで地域に伝わる物語等の伝承に力を入れている。

令和 5 年度は、町内会のイベントで地域の歴史を知りたいという要望が市民センターにあった際、「かにっこ語りの会」を紹介したほか、まちのお宝動画を作成する「まちのトレジャー・レポーター」講座において、動画制作の前段階として地域の歴史を勉強する際「かにっこ語りの会」に声をかけ、5 つの身近な歴史の話題について話していただいた。講座に参加した小中学生はこの時説明されたこと等をベースに動画を制作し、「かにっこ語りの会」が講座に与えた力は大きなものとなった。メンバーの減少や活動の機会の減少など課題もあるが、市民センターは今後も密に支援を行っていきたい。

柳生市民センター

〔沿革〕

柳生市民センターは、平成9年4月に、市内52番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市最南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

このような地域特性と地域資源を活かし、多様化する住民の要望等に対応しながら生涯学習の拠点として各種事業を展開し、地域コミュニティの形成・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	柳生キッズあそび隊		
参加者	地域の小学生	延参加者	51人
開催日	全4回 令和5年8月9日（水）～令和6年2月10日（土）		
協力者・協力団体	仙台市博物館・柳生中学校・柳生小学校・西中田小学校・柳生児童館		
ねらい	当センター周辺地域は仙台市中心部への通勤・通学に便利な地域であり、世帯数の増加が続いているものの、その多くは「核家族世帯」である。そのため地域に居住する子どもが、他の学年の子どもや、家族以外の大人との異世代交流が生まれにくい環境となっている。 そこで市民センターが、子どもたち対象の様々な体験を行う機会を作り出すことで、地域の子どもたち同士が集い、交流する場となる。また地域内の小中学校や地域団体と共催することにより、地域で子どもを見守る環境づくりの一助とする。		
概要・成果	1回目は、伝統工芸品である蒔絵の歴史の学習と製作体験をした。2回目は、モザイクタイルを使ったコースターとミニトレイの製作体験を実施した。工作体験の講座を通して、作品のデザインを相談し見せ合うなど、先に作り終えた上級生が下級生の手伝いに入る姿がみられた。3回目は、ニュースポーツの「モルック」体験を実施した。木の棒を投げてピンを倒し得点を競うスポーツで、参加者たちは初対面ながらもチームで作戦を練り、声を掛け合い応援する様子がみられた。4回目は地元の中学校のバドミントン部と卓球部の生徒に講師を依頼し、中学生が小学生に教えるという形のスポーツ体験を実施した。講座開始時小学生は緊張していたものの、中学生がプレーをほめたりコツを教えたりするなど積極的にコミュニケーションをとっていた。 これらの様々な体験学習を通して、互いに認めながら協力するなど世代間の交流が図られた。特に4回目の講座では中学生と小学生という普段顔を合わせる機会が少ない世代が教え合うなど、楽しく学び合い交流する機会を設けることができた。地域への愛着を育むことにつなげた。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●柳生子育てサロン	乳幼児親子を対象に子育て支援を目的として、ママの防災講座、親子体操、整理整頓講座、読み聞かせ会&情報交換会を通し、親子の触れ合いや参加者同士の交流の場を提供した。	10月6日 10月27日 11月17日 12月15日	4	44
見つけよう！わたしの夢	地域の子どもたちが様々な人物から講話や体験を受ける場を提供することで、「働くこと」や「夢をもつこと」について考える機会とするため、eスポーツ体験、ピアニストによる講話を実施した。	12月23日 2月17日	2	26

仙台市子ども会イン リーダー研修会	各小学校の子ども会の代表児童と世話人を対象に、子ども会活動に必要な知識や技術を修得し、活動の活性化と充実を図ることを目的として実施した。	2月3日	1	24
柳生シニアスクール	高齢者を対象に、生涯学習と相互交流の場の提供として、健康・防災・運動・音楽（コンサート）等についての学び、体験を実施した。	5月24日～ 2月28日	10	634
フレイル予防講座	高齢者を対象にフレイルやサルコペニアを予防するために、身体組成計測や体力測定をし、その結果に基づいてフレイルチェックを行いフレイル予防のストレッチ等を学んだ。	8月4日 9月1日	2	30
●柳生地域防災講座	講師を招いての救急応急手当、AEDの取扱い訓練を実施した。2回目は子育て支援クラブと共催で、子育て中の親子を対象として子どもを連れての避難について学んだ。	9月12日 10月6日	2	26
柳生季節のコンサート	コンサートを通し気軽に生涯学習にふれ、自ら学びに向かう機会を提供した。また西中田小学校を会場として、アルパ・バンドネオン、ゲーム音楽、ケルト音楽のコンサートを実施した。	10月25日 11月4日 1月27日	3	200
第18回柳生市民セン ター・児童館まつり	市民センター利用サークル・管内小中学校の学習成果発表、地域団体の活動報告等を通じて地域住民の生きがいづくりや交流の促進を目的に開催した。ステージ発表、展示作品、出店等を4年ぶりに通常の規模で実施した。	9月23日	1	1,205
柳生・西中田地域懇話 会	市民センターの役割や主事業について説明して要望や意見を収集した。地域の課題等についても意見交換を行い、共通理解を図った。	6月1日 11月16日	2	20
みんなでボッチャ	「ボッチャ」を通して、地域住民の健康増進、交流の促進、主体的な活動の側隠を図ることを目的に、6回の体験会、2回の大会を実施した。	4月14日～ 1月13日	8	106
おやじのイベント！	「おやじの作戦会議」で企画し、夏に花火大会、冬におばけやしきを実施した。	8月19日 2月24日	2	670
おやじの作戦会議	小学校のおやじの会と連携し企画会議を行うことで、小学生保護者の意見やニーズを踏まえた講座企画につなげる。企画会議を5回、事業を2回実施した。	6月3日～ 2月24日	7	20

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」への支援

町内会や学校支援地域本部、商工振興会など地域の諸団体で構成される「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」（「柳生・西中田キャンドルナイト2023」）は、将来の柳生・西中田地域を担う子ども達の健やかな育ちを支えるため、また、多世代の交流により魅力ある地域コミュニティの構築を目指している事業であり、地域の恒例行事として定着してきた。

6年目となった「柳生・西中田キャンドルナイト2023」は、恒例のキャンドルアート、空撮、参加団体による演奏会に加え、学校の先生方がバンドを結成し、ステージライブで非常に盛り上がった。

当市民センターでは、運営助言や区役所との事務手続き、活動の場の提供、広報、団体間の連絡調整等の支援を行い、その成果として、諸団体の円滑な連携が図られ、地域の活性化にもつながった。

富沢市民センター

〔沿革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄南北線富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、名取川・JR 東北本線・国道 286 号に囲まれており、中央部は荒川が流れ、富沢・大野田遺跡が点在している。かつては田園地帯であったが、地下鉄南北線開業以降、2 つの大きな区画整理事業により広範囲に宅地化が進められ、集合住宅と戸建住宅が混在する地域に変容した。当地区は、人口増が続き、転入者や子育て世代が多く、子どもも多い地域である。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、生涯学習及び交流の拠点として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●つながる地域の子育て応援隊		
参加者	①地域の子育て支援団体 ②乳幼児親子	延参加者	333 人
開催日	全 9 回 令和 5 年 4 月 20 日（木）～令和 6 年 1 月 23 日（火）		
協力者・協力団体	・太白区役所家庭健康課・富沢地区民生委員児童委員協議会・富沢地区社会福祉協議会 ・富沢児童館・大野田児童館・児童発達支援センター「仙台市大野田たんぽぽホーム」 ・太白区育児サークル応援隊「たい子さん」・子育てふれあいプラザ長町南「のびすく長町南」		
ねらい	富沢地区は、子育て世帯の転入が多く、子育てに関する情報や交流する場の提供を望む声がよく聞かれる。そこで、地域で子育て支援に携わる施設・団体及びボランティアからなる「地域の子育て応援隊」を組織し、応援隊内の情報共有と連携強化を図るとともに、乳幼児親子を対象に啓発活動や交流支援、情報発信を行う。		
概要・成果	「地域の子育て応援隊」としては、年 2 回の乳幼児親子向けのイベントを企画・運営し、協働した取組を通して、団体間の相互理解や情報共有の推進を図ることができた。 7 月に開催した「ママのしゃべりタイム」では、母親と応援隊スタッフがグループをつくり、互いに子育ての悩みなどを話し合った。栄養士や歯科衛生士への相談や支援団体への質問などをしながら、子育てに必要な情報を得たり、交流を深めたりすることができた。 12 月に開催した「つながる子育て ホッと in とみざわ」では、各支援団体が手型スタンプや身長体重測定、遊びのコーナーなどを分担し、90 組の乳幼児親子を迎え入れた。親子が触れ合う様子や親子同士が交流の様子など思い思いに楽しむ姿が見られ、笑顔があふれるイベントになった。また、活動を通して情報発信も行うことができた。 令和 5 年度は「つながる地域の子育て応援隊ポケットブック」の内容を更新し、当市民センターをはじめ支援団体窓口でも配布した。より多くの乳幼児親子に対し地域の子育て支援の情報を提供するとともに活用につなげることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おはなしの部屋	乳幼児の情操を育むことや子育て世代同士の交流・仲間づくりの支援を目的に親子で楽しめる読み聞かせ・紙芝居・ふれあい遊びなどを行った。	5 月 10 日～ 3 月 13 日	11	285
富沢こども未来キャンパス	小学生とその保護者を対象に、自然や音楽に親しんだり、工作をしたりすることを通して、本物に触れる体験活動の場を提供した。	6 月 3 日～ 3 月 2 日	5	205
富沢小学校連携事業	富沢小学校 3 年生を対象に、自分たちの地域への理解と愛着を深めることができるよう、地域の自然や歴史、生活、まちづくり等を学ぶ講座を開催した。	6 月 6 日～ 12 月 20 日	5	720

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と子ども会の世話人を対象に、子ども会活動に必要な知識、技能を身に付けることを目的として、グループワーク、情報交換、レクリエーションゲーム等を行った。	2月17日	1	31
★わがまち防災・減災	1回目は外出時に地震が起きた時の身の守り方について、2回目は地域の実情を踏まえ、大雨・洪水時の対応や備えについて、講話やVR体験を通して学ぶ講座を開催した。	8月19日 2月3日	2	50
教育シンポジウム 「ストップ・ザ・不登校」	学校の不登校対策について地域住民に周知を図るとともに、社会総がかりで子どもたちを守り、育てていく気運を醸成することを目的に開催した。	1月20日	1	136
富沢シニアクラブ	シニア世代が学びを通して交流を深め、心身ともに健康で豊かに生活を送ることができるように、歴史や健康講話、ニュースポーツ体験、工作、演芸等の講座を開催した。	5月18日～ 12月21日	7	247
泉崎エリア連携推進事業 講座お届けプロジェクト	泉崎地区町内会や諸団体と市民センターとの相互理解を深め、顔の見える関係づくりを目指して、泉崎集会所で出前講座を開催した。	11月18日～ 3月14日	5	66
パワフルとみざわネットワーク	異年齢交流や団体間の交流及び相互理解の推進、また、地域活動への意識・関心の向上や地域の担い手となる人材の育成を目指して、町内会とミドル世代が協働して地域資源である筑川にちなんだイベントを開催した。	5月13日～ 2月17日	7	2,141
富沢ふれあいまつり 2023	まつり実行委員会を中心に、新旧住民の交流とコミュニティづくり推進を目的に開催した。利用サークルや地域団体に日頃の学習成果の発表の場を提供し、生涯学習への意欲向上を目指した。	10月1日	1	2,000
富沢市民センター懇話会	町内会長や利用団体関係者を招き、市民センターの事業・運営や地域の課題や情報を共有し、新たな交流関係を構築した。	7月15日 3月1日	2	23
図書ボランティアスキルアップ研修	富沢市民センター図書ボランティアを対象に、「小中学生が魅力的に感じる図書室」をテーマとして、図書室運営に関する講話と、折り紙で掲示物を作成する研修会を行った。	2月9日	1	9

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「富沢市民センター折り紙ボランティア」の活動支援

当市民センターでは、平成30年度から5年間、複数年事業として折り紙ボランティア養成講座を開催してきた。事業の最終年度となった令和4年度からは、養成してきた折り紙ボランティアが地域の中でサークルとして自立した活動ができるよう支援を始めた。

内容としては、七夕飾りをはじめ季節ごとの作品を館内に展示したり、主催事業の折り紙講座で講師のサポートをしたりするなど、活動の場を増やしながらメンバーのスキル向上に取り組んだ。

令和5年度、正式にサークルとして、折り紙ボランティア「和の折り富沢」が発足したのを機に、当市民センターでは高齢者対象の「富沢シニアクラブ」や図書ボランティア研修などの主催事業の講師を依頼した。また、年度後半からは、地域住民を対象とした自由参加の「折り紙サロン」を開設し、定期的な活動の場を確保した。いずれの活動も参加者からは大変好評を博している。

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置され、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称された。平成 25 年 5 月には移転改築の上、現在の施設がオープンした。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称された。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	秋保の手仕事を体験しよう		
参加者	地域住民	延参加者	73 人
開催日	全 7 回 令和 5 年 7 月 13 日（木）～12 月 16 日（土）		
協力者・協力団体	（一財）秋保教育文化振興会		
ねらい	秋保地域では年中行事とともにたくさんの手仕事が発達しているが、伝統的な行事や手仕事が発達しつつある。そこで、（一財）秋保教育文化振興会と共催し企画員とともに伝承したい手仕事について検討する。さらに、地域の高齢者などから秋保の年中行事や手仕事について学ぶ場を提供する。		
概要・成果	市民企画会議では、地域の伝統的な行事や手仕事について検討し、現状を共有することができた。話し合いの中で既に地域で引き継がれなくなり途絶えてしまった行事や手仕事の技などがあった。 12 月 9 日に開催した企画講座では、市民企画員が講師となって地域に伝わるお正月行事の説明をし、藁から「しめ縄飾り」を作った。以前は家ごとに伝承されていた手仕事であったことを再認識することができた。 グループワークでは企画員がそれぞれ指導や作業補助を担い、地域人材の活躍の場とすることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
あきう子育て広場	乳幼児親子を対象に、「親子で楽しむチェアパレト」を実施し、子育てについての分かち合いも行った。参加者にとってリフレッシュと交流の機会になった。	10 月 26 日	1	7
「おやこでいっしょに！」体験活動プログラム	あきう幼稚園と連携し、「うたっておどってボンクラーズショー」を実施した。歌やダンス、手遊びを通して親子で一緒に楽しむことができる時間を提供した。	6 月 30 日	1	41
あきうサマースクール	秋保地域の 3 小学校児童を対象に、実験を通じた防災学習、マジック鑑賞、海洋生物の観察など通常の授業とは一味違う内容の授業を実施し、学ぶことの楽しさを知る機会を提供した。	8 月 25 日 8 月 30 日 9 月 1 日	5	145

秋保自然紀行 里山 トレッキング	参加者のレベルに合わせて、入門編と中級編でそれぞれ春と秋に実施した。季節ごとに特徴のある秋保の里山を歩き、草花や里山について学ぶ機会を提供した。	5月9日 5月23日 11月7日 11月14日	4	38
秋保手づくり倶楽部	7月に「癒しの苔玉」、9月に「ネイチャークラフトカゴ編み」、12月に「自然の素材でしめ縄飾り」を実施した。完成したカゴは「秋保ふるさと文化祭」と「秋保ふるさと展示会」で作品展示をした。	7月7日 9月8日 12月8日	3	43
あきう熟年のひろば	健康や文化、音楽、美術など様々な内容について学ぶ機会を提供した。講座への参加を通して、高齢者が社会や人との関りを持ち、心身ともに健康的な生活を送ることができるよう促した。	5月18日～ 2月15日	9	188
秋保郷土かるた大会	秋保地域の小学1～3年生を対象に、大判の秋保郷土かるたを使用した大会を実施した。かるたに記された秋保の歴史・文化・自然について学ぶ機会にもなった。	12月3日	1	8
秋保地域出前講座	交通機関が著しく不便な地域高齢者に向け、各町内会や各種団体と連携して地域の集会所などに出向いて、健康講話やニュースポーツ、コンサートなどの出前講座を実施した。	7月11日～ 3月17日	8	146
●秋保くらしの保健室	地域住民を対象に、健康に関する意識を醸成するため、3団体が共催して保健や医療、食などに関する相談や軽体操などができる機会を設け、フレイル予防、介護予防の場とした。	11月9日 1月18日	2	31
地域防災力の向上	市民センター利用団体や、地域住民が災害発生時や緊急時に役立つよう、救急救命講習やVRによる防災講話を行い防災意識の向上を図った。	7月14日 12月2日	2	36
秋保ふるさと文化祭	秋保地域を中心に活動している団体、個人で組織した文化祭実行委員会が主体となって企画・運営した。日頃の学習成果を発表し、地域住民の交流を促し、地域活性化につなげた。	9月30日 10月1日	2	505
ニュースポーツで遊んでみよう！	「楽しい！みんなでモルック」を実施した。フィンランドクイズやチームに分かれてのゲームに子どもから大人、高齢者まで様々な年代の方々が参加した。	11月19日	1	27
地域懇話会	連合町内会長や各学校等、地域団体の方を対象に市民センターの役割や事業内容についての理解を深めていただき、事業や地域課題について意見交換をした。	6月28日 2月21日	2	27
いってみっぺ秋保スペシャルツアー	秋保地域資源活用委員会と共催し、パレット「いってみっぺ秋保」を活用した市民企画講座を行った。地域資源についての学びを通し、人々の交流を促進し、地域活性化を図った。	5月20日～ 12月16日	9	46

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

秋保ふるさと展示会の活動支援

秋保地域を活動拠点とするサークルや秋保市民センター主催講座受講者が制作した作品の展示会を、秋保市民センターではなく観光客が数多く訪れる秋保・里センターにて開催することで、普段市民センターを利用しないような方など、より多くの方に日々の活動の成果を発表する機会とした。

各サークルは、来館者が多く訪れる秋保・里センターで展示会を開催することで、より多くの方々に制作した作品を見ていただくことができ、制作意欲につながった。また、来場者に作品の解説や説明をし、自分たちの活動を振り返るきっかけになった。

来館された方は作品を通して、生涯学習へ興味を持つ一助となった。

泉区中央市民センター

〔沿革〕

泉区中央市民センターは、昭和 22 年 9 月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和 43 年 7 月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成 16 年 1 月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と市名坂地区、急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	まちを知る 七北田を歩く ―地域いきいきプロジェクト―		
参加者	小学生と保護者、成人	延参加者	32 人
開催日	全 3 回 令和 5 年 6 月 17 日（土）～令和 5 年 10 月 28 日（土）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	泉区中央市民センター管内には、奥州街道の宿場町として 1623 年に開かれた七北田宿があり、2023 年に開宿 400 年を迎える。泉区市名坂には、その節目の年を記念した案内板が設置されている。そこで、地域を歩きながら七北田宿の歴史、史跡など古きを知ることで、自分たちの未来のまちを考える機会とする。さらに、令和 2～4 年度に開催した「いずみ探訪―地域案内人養成講座」から発足したガイドボランティアサークル「七北田探訪会」がガイドを担当することで、これまでの学びの成果を地域に発信する場を提供する。		
概要・成果	1 回目は成人を対象とした七北田周辺のまち歩き、2 回目と 3 回目は小学生と保護者を対象に、七北田周辺と市名坂周辺に分けてまち歩きを実施した。「七北田探訪会」の案内人が自ら作成したガイドマップを基に、七北田地域の史跡を案内しながら、一人一か所ずつ史跡の説明を行った。ガイドを務めるにあたり、「七北田探訪会」の定例会を毎月開催し、まち歩きのルートの検討や説明の準備、回が終わる毎に振り返り等を行い、実践と改善を繰り返した。その結果、参加者に地域の歴史資源を知る機会を提供し、愛着を深めてもらうことができた。また、小学生にも分かりやすいガイドをするため、言葉の選び方や問いかけ方、実物を使った視覚的な説明等の工夫を凝らして実践したことで、案内人のスキルアップにもつながった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
泉中央ルンルン子育て	乳幼児親子を対象に、第 1 回「ふれあい遊びとベビーマッサージ」、第 2 回「親子ヨガ」、第 3 回「おはなし会」を実施し、親子で交流する場を提供した。	7 月 20 日 9 月 7 日 12 月 21 日	3	34
元気な泉中央キッズ	子どもたちの新たな体験の場として、第 1 回「ヒップホップダンス」、第 2 回「スポーツ鬼ごっこ」、第 3 回「親子でわくわく職人体験（からくり丁番づくり）」、第 4 回「ジュニアリーダーとあそぼう」を実施した。	8 月 4 日 10 月 7 日 12 月 2 日 3 月 23 日	4	44

老壮大学「泉シニア塾」Aコース・Bコース	高齢者が心身ともに豊かな生活を送れるよう「詐欺被害防止講座」「歴史講座」「健康講座」「仙台市博物館出前講座（土人形絵付け）」「館外学習（仙台文学館）」「コンサート」等、多様な内容で学習機会を提供した。	5月10日～ 2月14日	14	519
泉中央減災講座	第1回「泉区在住の防災リーダーを対象とした講話とグループ討議」、第2回「地域住民を対象として、地震のバーチャル体験と防災に関する気象や家庭での備えについての講話」を実施した。	9月9日 12月16日	2	60
いずちゅうコンサート	地域住民を対象に第1回「尺八の世界へようこそ」、第2回イズミティ21との共催で「イズミノオトドケコンサート 音の旅路」、第3回「アコースティックの調べ」を実施し、参加者同士の交流を図った。	9月24日 10月22日 11月12日	3	106
まつりだよ！泉区中央！	換気等の感染防止対策を講じながら、ステージ発表、作品展示、地域の歴史案内・解説コーナー、ジュニアリーダーの工作ブース、出店販売等を行った。	10月15日	1	500
泉区中央市民センター地域懇話会	第1回「管轄内の小中高及び町内会の代表者による懇話会」、第2回「サークル代表者による懇話会」を実施した。事業計画等を説明し意見をいただいた。	6月22日 11月17日	2	38
いずちゅう出前サロン	市民センターから遠い地域の方を対象に、生涯学習への関心や利用を促すきっかけづくりとして、第1・2回目は沖縄文化の紹介と三線の演奏会、第3回目は津軽三味線の演奏会を開催した。	5月28日 9月17日 12月6日	3	135
地域に学ぶモノづくり	地域にお住いの経験豊富な方を講師に、第1回は「いちじくの甘露煮」、第2回は「がんづき」、第3回は「おくずかけ」、第4回は「おみ漬け」などの郷土料理の作り方を教わった。	9月30日 11月11日 12月9日 1月20日	4	39
市民企画講座「身近なところから始めませんか？SDGs」	第1回「親子でポーチづくり～匠が教えるSDGsモノづくり体験～」、第2回「身近なところから始めませんか？SDGs」というタイトルで、一般対象にSDGs基礎講話を開催した。	3月2日 3月6日	2	43
市民企画会議「みんなで交流広場」を考えよう	企画員からの提案で、「SDGs」を取り上げた。まずは身近にできることから考え、実践することを目標に講座の企画に取り組み、2つの企画講座に結実した。	12月13日 ～3月13日	6	18

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「泉中央子育て支援ネットワーク」の活動支援

このネットワークは、地域で子育て支援にかかわっている諸団体が連携して、幼児虐待等の子どもに関わる諸課題の早期発見や解決のために参加団体や地域住民を繋ぐ役割を担っている。当センターでは、令和元年の発足から事務局として毎年2回の研修会を実施し、関係団体の話題提供、参加者全員でのグループ協議、情報交換をコーディネートしている。そこでは、子育て支援に関する様々な問題点をあぶり出し、ネットワークの強みを生かした解決に向けた意見交換が熱心に行われている。

令和5年度は、管轄区域内での「仙台市子育て支援センター」と「いずみワクワク食堂(子ども食堂)」の話題提供から、それぞれの活動が悩める親や居場所がない子供たちを救っていることを学ぶ機会になった。加えて、子育てに苦悩している母親の孤立が、新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで以上に進み、深刻な問題であることを全員で共有した。参加者からは、「2つの発表を聴き、孤立しそうな親子をどのように救うことができるか考えていきたい」、「子どもの居場所づくりや各団体の活動に対して積極的に協力していきたい」との声が多かった。また、今回は各団体の連携による地域支援の具現化を協議する場になった。今後も、必要な支援のために顔の見える関係づくりを更に進め、ネットワークを広めるようコーディネート面で支えていきたい。

根白石市民センター

〔沿革〕

根白石市民センターは、昭和 21 年 11 月、根白石小学校内に設置され、昭和 23 年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和 28 年に公民館新築促進が決議されてから 10 年の経過を経て、昭和 38 年 7 月、待望の公民館が移転新築された。以来 20 年余、根白石唯一の社会教育施設として活動を続けてきたが、老朽化により昭和 63 年 4 月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299 席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

平成 28 年度に大規模修繕工事を行い、建物の耐久性の向上とともに内外装の一新、各部屋の照明 LED 化や空調機の更新による省エネ化、トイレの洋式化や外靴のままで入館できるようになった等、利便性が向上した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「かむりの里・子育てプレイス～地域いきいきプロジェクト～」		
参加者	小学生または小学生親子	延参加者	121 人
開催日	全 3 回 令和 5 年 6 月 11 日（日）、10 月 29 日（日）、12 月 23 日（土）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター 仙台市泉地区交通指導隊根白石分隊 根白石小学校区子ども会育成会		
ねらい	子育て世代と同世代の企画員が集い、話し合う会議を経て、地域に住む子どもたちや保護者同士の交流機会の創出に資する事業を実施する。実施にあたっては、地域団体や人材を活用することで、新旧子育て世代の交流を促すとともに、助け合って子育てができる環境づくりにつなげる。		
概要・成果	自らも子育て世代である企画員が、保護者同士の交流機会や子どもたちが自由に遊べる場所が少ないという地域課題の解決を目指し、3 つの事業を企画・実施した。 6 月に実施した「走れ！走れ！遊んで学ぼう自転車教室」では、交通指導隊や地域の商店の方の協力のもと、基本的な交通ルールの学習やコースでのフリー走行、標識当てクイズを行い、子どもたちが楽しみながら自転車の安全走行を学ぶ機会を提供した。 10 月に実施した「この町探検隊！化石発掘体験」では、化石が採れる河原という地域資源を活かした事業を実施し、若い世代に地域の魅力を知ってもらうことができた。また、事前の草刈り作業や当日の見守りボランティアとして、地域の方の協力を得ることができた。 12 月に実施した「クリスマス縁日&ジュニアリーダーとあそぼう！」では、企画員とともに根白石小学校区子ども会育成会がクラフトや遊びのコーナー等の準備・運営に携わり、地域を超えて子どもたちが交流できる場を創出した。また、ジュニアリーダーを活用することにより、地域住民にジュニアリーダーの活動を周知する好機ともなった。 企画員が当事者意識を持って企画・運営にあたっていることが本事業の大きな強みであり、各回とも定員を上回る申込みがあったことから、子育て世代や子どもたちのニーズを適切に反映できていることがうかがえた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
4 館連携事業「子育て講座」	乳幼児親子を対象に、楽しみながら充実した子育て時期を過ごせるように、わらべ歌あそびやコンサート等を実施し、親子間・参加者間の交流を促進した。	5 月 25 日～ 2 月 15 日	5	115

元気キッズ～かむりっこ広場～	主に小学生を対象に、身近なテーマから学習への関心や興味を喚起するために、からくりおもちゃ作成、屋外で生き物観察、サイエンスショーを実施した。	7月9日 7月22日 12月9日	3	25
ジュニアリーダーとあそぼう	主に未就学児や小学生を対象に、ジュニアリーダーのスキル向上と子育て環境の充実を図るため、地域のおまつり「かむりまつり」や市民企画事業「クリスマス縁日」でゲームを実施した。	7月23日 12月23日	2	250
2校区合同インリーダー研修会	小学5、6年生を対象に、リーダー的な役割を担ってもらうため、グループに分かれてレクリエーションゲームの企画・運営を行った。併せて、保護者向けに子ども会の充実を図る勉強会を実施した。	10月14日	1	16
おとなの工作クラブ	主に地域の成人を対象として、地域の魅力を再発見し、地域活動の足掛かりになるように、間伐材などを利用し竹灯籠やベンチ等様々な工作物を作成した。	6月24日～ 11月25日	5	15
さわやか大学	高齢者を対象に、生涯学習の機会を提供し、生きがいづくり・居場所づくりを支援することを目的に、歴史、民話、音楽、介護予防などを中心に学習をサポートした。	5月18日～ 1月18日	8	317
出前講座	主に、市民センターから距離が離れており来館が困難な高齢者を対象に、学習機会の提供や交流の拠点づくりを目的として、演芸ショーやストレッチ講座、マジックショーなどを実施した。	9月3日～ 1月16日	6	104
継承しよう！根白石の伝統行事	主に、地域にお住まいの方を対象に、地域で継承されてきた伝統行事の魅力に触れ、それを伝えていくために、この地域特有の「七夕飾り」・「だんごさし」を体験した。	7月27日～ 1月12日	4	44
根白石市民センターまつり	主に地域の方を対象に、市民センターを利用している団体や個人の学習成果発表の場として、各種展示・舞台出演を実施した。軽トラック市の産直物品販売も同時開催した。	9月16日	1	400
根白石地域防災講座	主に地域住民を対象に、災害に対する備えや必要な情報を知ること、いざというとき対処できるようVRによる災害体験や救急救命講習を実施した。	9月30日 2月21日	2	40
地域懇話会	主に地域の施設長や学校関係者等を対象として、地域内の課題や市民センターに対する要望などをヒアリングし、今後の市民センター運営に役立てる目的で市民センター事業説明・情報共有の場を設けた。	5月18日 11月3日	2	21
市民企画会議「かむりの里・子育てプレイス～地域いきいきプロジェクト～」	主に地域内で子育て支援に関心のある方を企画員として、子育て環境の充実を図るため、事業や催事開催について話し合う場を設け、市民企画講座「かむりの里・子育てプレイス」を企画・運営した。	5月18日～ 2月7日	5	11

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「根白石ガイドボランティア」の活動支援

根白石ガイドボランティアは、テーマに沿った歴史の勉強会や実地調査等の学習会を定期的に月2回継続して実施している。令和5年度も前年度に引き続き、学習成果をまとめた小冊子「歴史の宝庫根白石6」を刊行した。

また、地域内外からの様々な依頼に応じて、地域の魅力発信や紹介・説明のために泉区西部地区のガイドを行った。市民センターではガイドボランティアの活動を記録し、活動に関する様々な情報の提供や相談に応じるなど、積極的にその活動を支援している。

昨今は、高齢化による会員数の減少という問題が顕在化してきている。市民センターでは、そうした課題の解決を図り、活動を次世代につないでいくため、ボランティア養成講座の実施に関する相談や助言をはじめとする支援を行った。

南光台市民センター

〔沿革〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が全壊したが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが新築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開館した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「南光台地域こども・大人ネットワーク」		
参加者	地域住民	延参加者	175 名
開催日	全 15 回 令和 5 年 4 月 15 日（土）～令和 6 年 3 月 16 日（土）		
協力者・協力団体	南光台小学校、南光台おやじの会		
ねらい	地域を盛り上げる目的で設立したおやじの会や、コミュニティ・スクールを推進する小学校と連携し、親子行事の実施や授業での協働により、子育て世代の親子が地域と関わりを持つきっかけを作る。		
概要・成果	講座から立ち上がった南光台おやじ（親児）の会と、毎月第 3 土曜日の地域清掃の後に定例会議を行い、地域の子どもや親子等を対象にした 4 つの講座を企画・運営した。 8 月は「夏休みの大冒険 in 泉ヶ岳」を開催し、小学生親子が泉ヶ岳の大自然の中で沢登りやポイントオリエンテーリングなどの普段出来ない体験活動を行うとともに、参加者同士の交流の場を提供することが出来た。また、1 月に開催した「ちゃれんじ！むかしあそび」では、小学生が地域の方と一緒に伝統的な遊びを体験し、世代間交流の場となった。他にも、地域の教会でゴスペルコンサートや小学校の校庭でフットゴルフ大会を開催し、小学生とその保護者世代の参加が多く、地域内の交流を促進することが出来た。 また、商店街振興会と子ども会育成会が主催する夏まつりやご縁日まつり、小学校の PTA フェスティバルや市民センターまつり等への参加や小学校生活科授業等への協力など、地域や学校と協働し、連携をさらに深めることが出来た。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい広場	南光台児童館、南光台児童館子育て支援クラブたんぽぽと共催し、乳幼児親子が一緒に参加して楽しめるイベントとして、童謡コンサートを開催した。	9 月 28 日	1	39
こどもチャレンジクラブ	異なる年齢や学校の子どもたちやジュニアリーダー、大人と一緒に学校ではできないような体験型講座や、児童館、児童センターと連携し、より参加しやすい講座を開催した。	6 月 10 日～ 2 月 4 日	7	133
子どもまちづくり企画室「元気なまちづくり応援Ⅲ」	小中学生企画員による地域が元気になるイベント等の実施が困難となり、多世代が楽しめる「ニュースポーツに挑戦！」を行い、地域活性化を図った。	11 月 11 日	1	15
みんなの学びカフェ	地域の方が気軽に集まり生涯学習に親しめる機会として、「中華点心 花巻に挑戦！」「かわいい苔玉作り」「南光台寄席」「クリスマスのフラワーアレンジ」「フォトスタンドを作ろう」を開催した。	6 月 23 日～ 1 月 27 日	5	125

南光台学院	地域の高齢者に学ぶ機会を提供し、豊かで充実した生活を送る一助とするため、歴史、健康、心理学、運動、映画、コンサート、落語、シルバー川柳の講座を実施した。	5月19日～ 2月16日	9	688
市民センターの出前サロン	センターから離れた地域の住民が講座に参加しやすいように、フラダンスの講座や、スモールバタによるギターコンサート、サックスとピアノのクリスマスコンサートを各地区の集会所等で開催した。	9月23日 11月19日 12月10日	3	70
令和5年度南光台市民センターまつり	2日間にわたり、市民センター利用サークルや地域の方々によるステージ発表、展示作品発表、出店販売を実施した。	10月14日 10月15日	2	1,000
南光台地域防災講座	震災時の状況を体験する「VRで防災学習」やAEDの使用法等を学ぶ「救命救急講習」を実施し、防災意識を高めた。	11月29日 2月6日	2	21
南光台市民センター地域懇談会	町内会、学校等の地域関係団体を対象とした懇談会と、市民センター利用サークル対象の懇談会を実施し、意見や要望をいただく機会とするとともに地域の情報交換の場とした。	6月27日 7月5日	2	39

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

南光台市民センターだよりでは、地域の学校や地域で活動をしている団体、市民センターを利用しているサークルの代表へ「リレーコラム」欄の原稿を依頼し、毎月掲載している。地域住民からも、掲載される団体やサークルからも大変好評をいただいております、団体の活動紹介が掲載されたことによりメンバーの加入につながった例もある。

また、令和4年度に引き続き、市民センターで活動しているサークルに講座（出前講座）の講師を積極的に依頼することで活躍の場を提供するとともに、講座終了後に参加者がサークルへ入会するなど、サークル活動の活性化にもつながった。

高齢化により会員の減少に悩むサークルは多いが、センターとして常に寄り添い、それぞれが活動を続けていけるよう支援していきたい。

〔沿革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄南北線黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	AKD ミックス交流戦 2023		
参加者	小学生	延参加者	30 人
開催日	全 1 回 令和 5 年 11 月 18 日（土）		
協力者・協力団体	共催：旭ヶ丘児童館、黒松児童館、台原児童館		
ねらい	近隣の旭ヶ丘児童館、黒松児童館、台原児童館はいずれも単独館であり、情報交換や複数館が連携をとる機会が少ないというのが現状である。そこで、黒松市民センターと近隣児童館が仙台市地下鉄沿線上に位置しているというアクセス面での利点を縁に、学校や学年、地域を超えた小学生児童の交流を図るための事業を開催する。また、児童たちが楽しい経験を共有する機会を設けることで、児童の健全育成を支援する。		
概要・成果	旭ヶ丘児童館、黒松児童館、台原児童館の 3 つの児童館の児童を混ぜてグループを組み、「玉入れ」「綱引き」「布ドッジボール」を行った。通う学校や住む地域が違う小学生たちが 1 つのグループとなって、それぞれの競技を協力しながら楽しむ姿が見られた。 この講座を通して、協力する楽しさや、初めて会う児童同士が会話する良い機会となった。また、当日は子どもたちの応援に来館した保護者が多く、普段訪れる機会の少ない黒松市民センターに足を運んでいただく良い機会になった。 それぞれの共催団体が話し合いを重ね、各館の担った役割を果たすことで、単独館開催では得られない子どもたちの交流が生まれた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわく子どもの時間	地域の子どもの対象に体験型学習の場を提供した。他学校や異年齢の子どもたちとの交流を通じて、協調性やコミュニケーション能力を養うとともに、子どもたちの探求心や好奇心を育んだ。	6 月 10 日～ 2 月 24 日	5	82
黒松寿大学	地域の高齢者が健康でいきいきと暮らすための生涯学習の場を提供した。様々なジャンルの学習から、生きがいを見つけるきっかけとした。また、共に学びあうことで仲間づくりへとつなげた。	5 月 18 日～ 2 月 15 日	9	387
元気アップ生活！～健康で元気に暮らすために～	地域の社会福祉協議会（2 団体）・地域包括支援センターと共催した。高齢化が進む地域の介護予防を目的とした健康講話や運動を通して、地域の高齢者の健康維持を図り、地域団体と顔の見える関係づくりとよりよい地域づくりにつなげた。	7 月 13 日 10 月 12 日 10 月 26 日 11 月 9 日	4	80
地域防災講座	地域住民の防災への意識・関心を高めるため、市民センターと防災専門機関および地域との連携で防災に関する学びの場を提供した。住家の地震対策に関する講話と救命救急講習を実施した。	6 月 24 日 11 月 11 日	2	48

真美沢公園元気プロジェクト	「真美沢公園」を活用し地域の活性化を図るとともに地域人材の育成を図り、より良い関係づくりにつなげた。公園のPRイベントや環境整備活動等を通して住民の公園の利用促進を図った。	4月16日～ 3月16日	19	469
市民企画会議 「MOTTAINAI(もったいない)」を広めて～暮らしの中のSDGs～	いま世界に広がっている『MOTTAINAI』を入口に、SDGsとの関連について学び、地域で日頃の行動から始められるSDGsを探る企画会を開催し、講座を企画・運営した。	4月25日～ 3月15日	11	37
黒松市民センター・黒松児童館まつり	幅広い年齢層の交流や地域住民の親睦をはかるため、黒松児童館との共催で開催した。黒松市民センターと黒松児童館を主な活動場所に行っている団体が日頃の学習成果を発表した。また、市民センター事業で作った作品を展示し、生涯学習への理解を深めた。	9月23日	1	603
サロン de(ド)クロマツ	地域住民にとって市民センターが身近な存在となるよう、誰でも気軽に参加できる内容(運動、コンサート)で開催した。地域人材を講師として活躍の場をつくり人材育成を図れた。	6月27日 7月12日 10月3日 11月22日	4	75
地域懇話会	市民センター事業に関して、子育て支援団体代表者や各町内会代表者、および利用サークル団体の代表者からの評価や要望を集約し、よりよいセンターを構築できた。	6月6日 6月9日 10月7日 2月7日	4	49
市民企画講座 「MOTTAINAI(もったいない)」を広めて～暮らしの中のSDGs～本の譲渡会	日頃のMOTTAINAIが、意識を変えて行動することでSDGs行動になっていることを知ってもらふ機会として、子育て中の保護者を主な対象に本の寄贈の会・本の譲渡会を実施した。	5月14日	1	107
サークル体験会	黒松で活動しているサークルに気軽に見学・体験できる機会を提供し、参加者が生涯学習に取り組むきっかけ作りとした。	7月5日 7月8日 7月14日 7月26日	4	6

〔令和5年度(地区館)活動支援・コーディネート等の成果例〕

施設利用団体の活動支援

コロナ禍で活動を自粛していたサークルの中には、再開したものの以前ほど会員が集まらず規模が縮小し、活動を停滞させている団体も多かった。そこで、令和4年度に引き続きサークル体験会を開催し、サークル活動に興味をもつ地域住民とサークル団体をつなぐ機会を提供した。

開催にあたり、サークル団体にヒアリングを行ったことで、黒松地域を拠点に活動するサークルの活動内容や現状について情報を集めることができ、充実した学習情報の提供に繋がった。

また、体験会への参加をきっかけに、生涯学習活動への関心を深めた参加者も多く「もっと多くのサークルの活動を教えてほしい」等の要望が寄せられ、市民センターの紹介で後日、別のサークルに入った方もいた。体験会後も「サークルに入りたい」「活動を始めたい」という日常の問合せにもスムーズに対応できるようになり、市民センターによるコーディネートの質が深まり、黒松のサークル活動全体を活性化させる一助になった。

将監市民センター

〔沿革〕

将監市民センターは、昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月には「将監市民センター」と改称された。平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月に再開し令和 4 年 3 月まで業務を行った。

令和 4 年 3 月に複合施設（市民センター・児童センター・老人憩の家）として竣工し、同年 5 月から業務を再開した。当市民センターは、公共施設内に地域住民が運営するサロンを包含しており、サロンを含め地域内外の方々に様々な形で利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	将監ふるさとづくりプロジェクト ～50 年を未来へ～		
参加者	地域住民（どなたでも）	延参加者	50 人
開催日	全 15 回 令和 5 年 4 月 15 日（土）～令和 6 年 3 月 10 日（日）		
協力者・協力団体	共催：「将監沼の自然」とふれあいを育む会		
ねらい	企画員とともに地域資源を活かした講座を企画し、地域住民と地域団体等とが交流できる場を設け、参加者の地域愛「ふるさと将監」の気持ちを育むきっかけづくりと、若い世代が地域活動に目を向ける一助となることを目指す。		
概要・成果	10 月 4 日～10 月 15 日の期間、将監沼を会場にしたクイズラリー「さくるんるん♡と将監沼のふしぎ発見！」を前半（10 月 4 日～8 日）と後半（10 月 9 日～15 日）でクイズを変えて開催した。クイズは、事前に地域住民から将監地域に関するものを募集し、その中から各期間 8 問ずつ計 16 問を掲示した。クイズラリー参加者からは、「知らないことも多く、勉強になった」等の声があり、地域を知っていただく一助となった。また、クイズラリー終了後には、将監小学校からクイズの貸出の希望もあり、活用してもらうことができた。 10 月 7 日には、「わくわく将監沼ツアー～一緒に将監沼を回ろう！～」と題して、「将監沼の自然」とふれあいを育む会の方から将監風致公園での活動や植生の話を伺いながらクイズラリーをするイベントを開催した。参加した親子の中には、育林ボランティアの活動に興味を示した方もおり、クイズラリーを楽しみながら地域で活動する団体を知ってもらい良いきっかけとすることができた。 また、2 月 1 日～2 月 29 日には、令和 5 年度の主催事業等で配布した 38 種の「さくるんるん♡缶バッジ」を市民センター館内に掲示し、人気投票を実施した。地域の小学校と市民センター館内に設置した投票箱には、合わせて 1,113 票の投票をいただいた。投票結果は令和 6 年 4 月 14 日の「将監さくら祭り」で発表をし、将監市民センターのシンボルキャラクター「さくるんるん♡」を地域の方により知っていただく機会となった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもチャレンジ	小学生とその保護者を対象に、ダンス、からくり玩具の工作、アイシングクッキー、気象に関する実験と工作等、家庭や学校では経験できない学びや体験の場を提供した。	6 月 17 日～ 2 月 17 日	5	89
将監遊びの広場	子どもたちの居場所づくりを目的として、小中学生対象にパルクール体験、スポーツ鬼ごっこ、スポーツチャンバラの講座を開催した。	7 月 8 日 10 月 9 日 1 月 20 日	3	65

みんなで七夕飾りをつくろう！	地域の折り紙サークルの指導の下、小学生を対象に七夕飾り制作を行った。	6月2日～ 7月7日	5	42
将監寿大学	地域の高齢者に学習の機会と交流の場を提供するため、音楽鑑賞や講話、椅子ヨガ等を実施した。また、運営委員会による企画講座として、落語会と茶話会を行った。	5月12日～ 1月12日	8	515
今からできるスマホ講座	日常生活の利便性向上の一助となることを目的として、高齢者を対象に体験型スマートフォン講座（LINEの使い方）を開催した。	7月13日 10月25日 2月7日	3	42
将監地域防災講座	住民の防災力向上や災害時の自助・共助に対する意識を高めるため、将監SBL会との共催で、地域住民を対象とした防災講座と小学生を対象とした救急救命講習入門編を実施した。	12月16日 2月14日	2	52
出前講座「なごみサロン」	社会福祉協議会や町内会と連携し、気軽に参加して交流ができる場として、コーヒー、日本茶、紅茶を楽しむ講座を開催した。	11月8日 11月15日 11月25日	3	61
将監ふれあい♪ふれ・ミーコンサート	地域団体と連携し、地域住民が気軽に参加できる年7回のロビーコンサートと年1回の大型コンサートを開催した。	5月27日～ 2月24日	8	513
将監市民センターまつり	市民センター利用団体、サークル及び地域の諸団体等（個人を含む）の日頃の学習成果を発表する場として作品展示・舞台発表・体験コーナー・ふれ・ミーカフェによる出店等を行った。	9月30日 10月1日	2	720
将監地域懇談会	地域団体や教育機関に対して、市民センター事業の概要説明及び地域・諸団体との情報交換を行った。	8月2日 2月29日	2	17
市民企画講座～みんなの居場所をつくろう～	地域で活動するきっかけづくりや住民同士の交流の場として、ミニ夏まつり、料理講座、ひなまつり茶会を実施した。	7月27日 2月10日 3月2日	3	115
居場所サポーターズ市民企画会議	将監市民センターで活動する居場所サポーターズと連携し、地域と若い世代のニーズを反映させた講座を企画・実施した。	5月18日～ 3月14日	9	101

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「将監みんなのサロンふれ・ミー運営委員会」の活動支援

地域全体の連携や親睦を深めることを目的として将監市民センター市民交流スペース「みんなのサロンふれ・ミー」が設立された。「みんなのサロンふれ・ミー」を円滑に運用し、地域全体の連帯や親睦に寄与できる活動を推進・将監地域の発展に繋げることを目的とし令和4年度より「将監みんなのサロンふれ・ミー運営委員会」が活動をしている。

運営委員会の活動の一つとして「ふれ・ミー朝市」が7月17日に行われた。市民センターは一部備品の貸出、市民センターだよりで開催情報を地域へ広報する等の支援を行った。

また、ふれ・ミーを使用して展示や活動をしたいという相談を受けた際は、「将監みんなのサロンふれ・ミー運営委員会」へ繋ぎ、6月に「野山の花の写真の会」展示、11月に地域の方による写真展、3月には「書道用具展」を実施した。期間中は、備品の貸出やホームページでの紹介を行い、「将監みんなのサロン ふれ・ミー」を知っていただくきっかけとなった。

〔沿革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ヶ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ヶ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「寄り合いアップデートラボ」		
参加者	地域住民	延参加者	44 人
開催日	全 12 回 令和 5 年 6 月 8 日（木）～令和 6 年 2 月 24 日（土）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター、kamonet		
ねらい	地域の世代間交流を図り、より地域に愛着を持つことができるような働き掛けをしたいという強い気持ちを持つ若い住民が集い合い、事業を企画運営していく場の設定を行い、地域活性化の一助とする。		
概要・成果	加茂地域では、地域の団体がそれぞれに交流を図りながら活発に活動を行っている。しかし、活動を牽引してきた人々の高齢化が顕著であり、若い世代への継承、世代交代が課題となっている。この事業では、子供たちのために何かをしたい若い世代の親たちが楽しく集い、子供たちのために講座の企画運営をし、地域の活性化に繋げていくことを目指しており、今回会議から企画された市民企画講座「加茂フリーマーケット in 加茂市民センター」には、23 店の出店と 3 つのステージ出演など 60 名以上が参加し、300 名を超える来場者があった。当日は、参加団体同士が交流する場面も多く見られ、地域に新たなコミュニケーションの場を提供することができた。また、けん玉の体験会やステージ発表などを通して、世代を超えた来場者同士が交流することで、地域のネットワーク作りにもつながった。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●みんなすくすく子育てひろば	乳幼児親子が交流し情報共有できる場として、家庭健康課と共催で「子育て相談」、虹の丘児童センターと共催で「3B 体操」、託児付き講座として「ハンドクリーム作り」を行った。	9 月 13 日 10 月 24 日 11 月 8 日	3	13
まるごとチャレンジキッズ	児童センターや小学校などと一緒に「ジュニアリーダーとあそぼう!」、「キラキラジェルインテリアをつくろう」、「みんな集まれ!遊びのひろば」、「ブックトークを楽しもう」、「野鳥のコースター絵付ワークショップ」を開催した。	7 月 27 日～ 11 月 23 日	5	127
すこやか UP 塾	独居や二人暮らし世帯を対象に、健康寿命の延伸を目的に、前半は「筋トレ・脳トレでレッツ!健康」、後半は「ロコトレで骨と筋肉を鍛えましょう!」で元気に暮らす為の健康づくりを学ぶ講座を各 3 回コースで実施した。	6 月 23 日～ 11 月 22 日	6	27

市民企画講座 「地域いきいき 加茂フリーマーケット in 加茂市民センター」	市民企画会議「寄り合いアップデート」を経て、若い世代の親たちが集い、地域の活性化に繋がっていくことを目的に、まず出店者や出演者に対する事前説明会を開催し、その後「加茂フリーマーケット in 加茂市民センター」を開催した。	11月26日 12月17日	2	393
ワイワイ若がえり塾	5月は開講式と交流会、6月はロコモ体操、7月は警察署の出前講座、9月は気象の講話、10月はコンサート、11月は文学館館外学習、12月は情報誌創刊の話と交流会、1月は伊達政宗の講話と閉講式を実施した。	5月18日～ 1月18日	8	481
元気アップ学び舎	高齢者の新たな学びの場を提供することを目的に「陶芸にチャレンジ①②」、「地域の食文化再発見～みやぎのお豆でみそづくり」、「自分を癒そう～音と香りでリフレッシュ」、「食品サンプルづくりを楽しもう」、「土人形の絵付け体験」を実施した。	10月6日～ 12月15日	6	27
出前講座	虹の丘コミュニティ推進協議会と共催して、地域住民の生涯学習ニーズに対応した講座として、第1回は「ときめき JAZZ コンサート」、第2回は「うきうき！わくわく！脳トレと軽体操」を開催した。	6月4日 12月6日	2	75
誰でもリンク！交流ステーション	地域住民の交流の場として、9月は長命館公園サポーターズクラブと共催で万葉集と長命館公園の草花のつながりについての講話、12月は加茂地区社会福祉協議会と共催で弦楽四重奏コンサートを実施した。	9月15日 12月9日	2	68
★災害から身を守るために	地域における災害への対応力の向上と共助の意識醸成を図るために地域団体と協力して実施した。6月はAEDと仙台市消防局アプリ「救命ナビ」の使用法についての講習、7月は泉地区防火クラブ連絡協議会の協力の下、ポリ袋で簡単サバ飯を作り日常の備えを学んだ。	6月18日 7月14日	2	47
地域懇談会	加茂小学校区と虹の丘小学校区とに分けて、地域活動団体、教育機関等の方を対象に、令和6年度市民センターの運営方針の説明と情報交換を目的に懇談会を実施した。	1月20日 2月17日	2	28
加茂市民センターまつり	加茂市民センターで活動するサークルの学習成果や、地域団体の活動を地域住民に紹介する事を目的として、作品展示やステージ発表、体験コーナーなどを行った。	10月15日	1	800

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「加茂地域歴史ガイドボランティア」の活動支援

加茂三丁目には、伊達騒動でただ一人生き残り仙台藩を取り潰しから救ったとされる家臣古内志摩義如の墓がある。加茂地域にお住いの末裔の方が墓の管理をしているが、現在は市民センターの養成講座から立ち上がった「加茂地域歴史ガイドボランティア」が主催して年2回の清掃奉仕活動を行い、毎回多くの地域住民が参加している。

加茂市民センターでは清掃奉仕活動の参加者募集や活動状況を市民センターだより、チラシ、ホームページで広報するなどさまざまな支援を行い、ボランティア活動の活性化を図っている。その成果もあり、少しずつではあるが清掃活動への参加団体や新規の参加者も徐々に増えてきている。ボランティア活動時には、代表者からの話や資料から、古内志摩の功績を改めて学び直し、加茂地域の歴史的財産を再確認する機会となっている。今後も市民センターでは、泉区の歴史的価値のある史跡としての周知活動や地域を超えた歴史サークルの文化交流等、幅広く活動支援を進めたい。

高森市民センター

〔沿革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年4月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。

高森地区は、昭和40年代後期から、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園など豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体を中心となり、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

令和4年11月から大規模改修を行い、令和5年11月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	わくわく親子体験ひろば		
参加者	小学生親子	延参加者	50人
開催日	全3回 令和5年6月3日（土）、8月19日（土）、9月23日（土）		
協力者・協力団体	高森東児童センター		
ねらい	小学生親子を対象に、普段学校や家庭ではできない内容を親子で一緒に体験する場を提供することで、親子のコミュニケーションを深める機会とし、子どもたちの心身ともに健やかな成長を支援する。		
概要・成果	『ゲル』組み立て体験」「夏休み木工教室」「コケ玉作り&七北田公園ガイドウォーク」を実施し、学校や家庭では体験できない内容のプログラムに、親子でコミュニケーションをとりながら、楽しそうに協力して取り組む様子が見受けられた。 受講者を10組にしたことで、講師も余裕をもって1組1組丁寧に対応することができた。また、共催の児童センターを会場に実施した「ゲル組み立て」の際は、広い館庭で実施することができ、モンゴルの生活や自然にも触れたことでSDGsについて親子で考える機会となった。 今回は、市民センターの講座に初めて参加する30代、40代の父親の姿が多く見られ、市民センター事業を知っていただく機会となり、今後の事業への参加につながるものとなった。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
高森きつずチャレンジ	「ジュニアリーダーとあそぼう」を2つの児童センターと共催で開催し、また地域の夏まつりにおいても実施した。改修工事後は「フリスビー体験」と「スポーツ鬼ごっこ」を開催した。	6月24日～1月28日	5	162
インリーダー研修会	高森小学校・高森東小学校の両子ども会育成会と共催し、児童は子ども会プログラム作成、保護者は子ども会運営についての講話、及び全員でジュニアリーダーとのゲーム研修を行った。	1月20日	1	22
プレ高森塾（老壮大学）	令和6年度の通常開催に向けての広報を兼ねて、1月に歴史講話「支倉常長の足跡」を、2月に「世界をリードする日本のヨーグルト」という演題で講座を開催した。	1月26日 2月16日	2	111

みんなで健康体操	高齢者の健康維持とフレイル予防のための体操教室を高森東結いの会と共催で実施した。高森東児童センターと共催した回は、子育て中の親子も対象に実施した。また、特別編として健康料理講座を1回開催した。	4月5日～ 3月27日	25	376
災害サポーター養成講座	多様化する災害に対応するため、災害時に地域で必要とされるサポートの役割を学ぶ講座を実施した。	5月27日 10月7日 2月8日	3	19
高森ハッピースマイルコンサート	地域住民が気軽に音楽を楽しみながら、交流できる場として、ポピュラーやジャズ、クラシックなどのコンサートを実施した。	6月22日～ 3月23日	6	430
再始動！高森市民センター	大規模改修を終え、リニューアルした高森市民センターを多くの方々に知ってもらうため、ステージ発表や調理実習、物作り体験など様々な内容で実施した。	12月2日	1	316
高森地域懇談会	地域の要望を市民センターの運営に反映させるため、地域住民から意見を聞く場を設けた。	6月30日 12月5日	2	12
市民企画会議「高森市民センターリニューアルオープン記念事業を考えよう！」	地域在住の方が企画員となり、大規模改修を終えた市民センターを多くの方に知ってもらうために、どなたでも気軽に参加できるイベント「再始動！高森市民センター」を12月に実施した。	6月6日～ 1月17日	6	20

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

宮城大学への地域の看護師 OB・OG のコーディネート

宮城大学より、災害ボランティアの勉強会を地域の看護師 OB や OG と連携して実施したいとの相談を受け、地区 SBL の打ち合わせの際に、募集等について支援を行った。

高森東小学校への「農園ボランティア」「高森ふるさとづくりの会」のコーディネート

高森東小学校からの要請で、2年生のトマトの植え替えに地域の農園ボランティアを紹介した。また、3年生の巣箱作りに高森ふるさとづくりの会を紹介した。

松陵市民センター

〔沿革〕

松陵市民センターは、平成2年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の6つの町を担当エリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。子どもの減少により、松陵地区では平成25年に2つの小学校が統合されるなど全般的に少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	松陵の丘つながるプロジェクト		
参加者	地域活動団体代表の方々	延参加者	52名
開催日	全3回 令和5年4月19日（水）～令和5年10月25日（水）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	サロン運営担当者の情報交換や研修会の機会を継続して提供することにより、担当者の負担軽減や将来地域を担う人材の育成を目指し、市民センター事業として地域住民とともに協働して取り組んでいく。		
概要・成果	近隣で活動する高齢者対象の「サロン」主催者を対象に、複数年事業として令和3年度から取り組んでいる「松陵の丘つながるプロジェクト」は、令和5年度で3年目を迎えた。 令和4年度から地域に配布を始めたサロン紹介パンフレットとサロンの運営場所を案内する「お出かけマップ」は、これまで地域の医療施設や福祉施設に配架してきたが、令和5年度からは、地域で活動する民生委員児童委員の方を通して、サロンを必要とする高齢者の方に直接配布してもらうスタイルに変更した。これにより、引きこもりがちだった高齢者の方が「サロン」の詳細が具体的にわかり、利用に前向きになったと民生委員児童委員の方から報告頂いた。 また、10月に開催した講演会では、サロン主催の2団体の代表の方にその活動内容や成果を発表して頂いた。講演会には一般の方たちも足を運んでくださっており、この「つながるプロジェクト」による活動が地域で認知されてきていることを感じた。サロンだけでなく老人クラブ等からも連携などの申し出もあることから、今後は他の高齢者対象施設との連携協力等も視野に入れながら事業展開を図っていく。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
家族で学ぼう	児童・幼児が保護者と一緒に体験できる機会とするために、JAL 折り紙ヒコーキ教室と地域の児童館、児童センターと連携して親子コンサートを実施した。	7月15日 9月1日	2	59
子どもゼミナール～教えて高校生～	小中学生を対象に、高校生が講師となり、部活動や普段の生活で得ている経験、知識を教えることで、近未来の高校生活への不安解消の一助とした。弓道部体験、華道部体験、音楽部体験、チアリーダー部体験、ダンス部体験を実施した。	7月29日～ 10月9日	5	29
ゆったり学びカフェ	誰でも気軽に参加できる講座を開催し、地域住民に学びの機会を提供するため、スタンドグラスランプの作製、泉松陵小学校社会学級と共催でサクソフォンとピアノのコンサート、4つの音楽団体によるリレー形式のコンサートを実施した。	5月19日 6月2日 6月17日 11月18日	4	108

身近な「県民の森」新たな発見	県民の森で自然観察会を春、夏、秋に実施した。特定の目的に沿って実際の動植物を観察することにより松陵地区の近隣にある県民の森が有している資源の豊かさを知る機会となった。	5月27日 7月22日 10月14日	3	15
知って！ためして！SDGs！	向陽台児童館と連携でホタル観察会とホタル生息地である洞雲寺の歴史を学ぶスタンプラリー、宮城県産間伐材を使用した椅子作り、松陵児童センターと連携で土の中に生息する生き物を観察し生態系を学ぶ講座、松森地域包括支援センターおよび地域団体と連携し、認知症をテーマとした講座を開催した。	6月24日 7月23日 9月9日 9月15日	4	127
さくっと！まるごと健康生活	松森地域包括支援センターと共催で、健康長寿の3本柱「身体活動」「栄養」「社会参加」をテーマに軽体操・講話を6週連続で開催した。	5月31日～ 7月5日	6	77
松陵シニアカレッジ	高齢者を対象に「松陵シニアカレッジⅠ」（6回）と「松陵シニアカレッジⅡ」（5回）に分けて実施した。Ⅰでは博物館出前講座・軽体操・コンサート・朗読劇、Ⅱでは仙台市出前講座・筋力アップの体操・コンサート、ⅠとⅡ共通テーマで骨粗しょう症予防講話と健活セミナーを開催した。	5月26日～ 11月17日	11	298
出前講座	交通手段等の要因により利用の少ない向陽台中学校校区へ出向き出前講座を実施した。山の寺地区社会福祉協議会と連携で軽体操、向陽台地域包括支援センターと連携で尺八コンサート、スマートフォンを用いてフレイル予防にチャレンジする講座を開催した。	6月8日 9月16日 10月7日 10月28日	4	65
●みんなの力で地域防災・減災	従来の災害に加え、コロナ禍での避難所運営を主とした講座を企画。専門家であるSONAE防災研究所に講師を依頼し、向陽台学区連絡協議会や地区担当課、まちづくり推進課などの行政との連携も進めた。	6月28日 8月26日	2	74
第34回松陵市民センターまつり	町内会を中心とした飲食物の出店、舞台発表や展示発表を行い、地域住民や市民センター利用団体の活動成果を発表する場となった。	11月5日 11月11日 11月12日	3	1,150
地域懇談会	地域の様々な課題等を共有し、町内会等の団体と情報交換を行うとともに、松陵市民センターの事業や施設運営について理解を深めてもらう機会とした。	6月9日 1月14日	2	61

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「みちのく松陵」への活動支援

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に5類へ移行されたことから、従前の定例会を再開し、ジュニアリーダーのスキルアップに繋げた。

松陵夏まつり等地域行事の依頼も徐々に増え、対応したことでスキルを活かすことが出来た。また、市民センターまつりもコロナ禍前の規模で開催したため、ジュニアリーダーの特設コーナーなどを設け、地域のコミュニケーション作りに貢献できた。

「おもちゃ病院松陵」への活動支援

地域のボランティア団体であるおもちゃ病院の活動を支援した。月に一度の頻度で開催される活動について、館内ポスターやセンターだより等で周知した。

寺岡市民センター

〔沿革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山・朝日地区が担当地域である。

寺岡地区は、昭和 53 年より宅地造成され、団地としては成熟しており、高齢化が進んでいる。一方、紫山地区は、平成 6 年より宅地造成され、若い世代を中心とした年齢構成になっている。また、令和 4 年より新たな居住地区（朝日地区）に入居が始まったことから、今後もますます発展と活性化が期待される地域である。

団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ひろがるまち・にぎわい創出プロジェクト！		
参加者	地域住民	延参加者	181 人
開催日	全 8 回 令和 5 年 6 月 10 日(土)～令和 6 年 2 月 10 日(土)		
協力者・協力団体	いずみ郷土史探訪会、寺岡小学校区子ども会育成会		
ねらい	管轄する寺岡・紫山・朝日地区は新興開発団地であり、全国各地から移住した住民が多いため、地域内住民の結びつきは必ずしも強いとは言えない。また各地区の開発時期が異なり住民の年代構成も違うため、相互の地域間交流は盛んと言いきれない。 そこで、地域内の諸団体と連携を図りながら、住民だれもが参加しやすい事業を企画することで、すべての地域・すべての世代を巻き込み、住民が楽しく交流し地域が活性化することを目的とした。		
概要・成果	「泉区最長の水路を歩こう!」、「寺岡・紫山市民文化祭での子どもコーナー」、「寺岡・紫山作品展」、「脳活ゲーム」の各講座を実施した。 水路沿いを歩くハイキングは、郷土の歴史や成り立ちについて理解を深めるとともに、住民同士の交流が深まるよう開催、所期の成果をあげた。市民文化祭での子どもコーナーは子ども会育成会との連携により開設し、大勢の子どもたちの参加により活気が生まれた。作品展には地域内のたくさんの方が見学に訪れ、作品への感想などで会話が弾み、これをきっかけに知縁が広がった。脳活ゲームは、参加者の皆さんがお茶を飲みながらグループ対抗で取り組み、和気あいあいと童心に帰って楽しんだ。 各講座を通じ、住民同士の活発な交流と地域の活性化が十分に図られた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子の広場	寺岡児童センターと共にコロナの影響で交流の機会が少なくなっている子育て世代に交流の場を提供するためリトミック、ベビーマッサージ、人形劇を開催した。	6 月 22 日 9 月 14 日 12 月 19 日	3	69
子ども体験塾	小学生を対象に学校では学ぶことのできない体験学習、UV レジンのアクセサリーづくり、天体観望会、科学実験等を開催した。	8 月 6 日 8 月 19 日 10 月 20 日 12 月 9 日	4	46
和の心とふれあうひととき	成人を対象に、日本の伝統文化について知る機会を提供するため、宮城の伝統料理である油麩井、おくずかけ、雁月の 3 品を作る和食作り講座。雪だるまと寒椿の 2 品を作る和菓子作り講座を開催した。	1 月 20 日 2 月 17 日	2	14

地域の達人から学ぼう！	地域住民を対象に、地域で楽しく生きるために、地域で活躍している方からコンサートなどの活動を披露してもらったり、折紙を教えていただいたりした。	7月14日 11月14日 12月6日 12月13日	4	88
寺岡地域包括支援センター共催事業	地域住民を対象に、地域で孤独にならないように、一緒に歌を歌ったり、思い出の映画について語り合ったりした。また認知症になっても地域で暮らしていける講話を開催した。	11月10日 11月16日 12月14日 1月30日	4	62
老壮大学「多聞塾」	地域の歴史と今後の展望、福祉用具、命を守る水、メイクや身だしなみ、日常生活でできる運動、フレイル予防、クリスマスコンサート、ニュースポーツ、SDGs 講座を開催した。	5月11日～ 2月1日	11	513
めざせ！安心・安全なまちづくり～防災・防犯力を身につけよう！～	地域住民の防災・防犯意識を向上させ、安心・安全に暮らせる街をつくるため、宮城県警察本部庁舎見学、防災訓練における災害用備蓄品の展示説明、VR による災害の疑似体験の各講座を実施した。	7月11日 9月23日 1月27日	3	429
寺岡・紫山市民文化祭	地域活性化に貢献するため開催。作品展示とステージ発表、体験コーナーや子どもコーナー、健康関連や行政相談、授産施設や地域商店の飲食物の出店などがあり大盛況だった。	9月30日 10月1日	2	2,275
寺岡・紫山地域懇談会	地域諸団体・利用サークルとの懇談会を開催し、住民や利用者の意見・要望を収集、市民センターの事業や運営に反映させた。また、地域情報や地域課題について情報交換し、問題意識の共有を図った。	6月4日 9月3日 10月7日	3	63
寺岡小学校社会学級共催事業	社会学級と話し合い地域情報や課題の把握を行い、課題改善の一助となるため地元仙台の歴史関連の講話を企画開催した。	6月13日 7月4日 10月27日	4	70

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーの活動支援

寺岡市民センターに拠点を置く「寺岡流星サークル」のジュニアリーダーメンバーは、令和4年度末をもって全員そろって卒業時期を迎えたため、市民センターではジュニアリーダーを絶やすことのないよう募集活動に力を入れたところ、3人の中学生から応募があった。

しかし、まったく経験のない新規メンバーのみで令和5年度をスタートさせることとなったため、ノウハウを引き継ぐべき先輩ジュニアがおらず、活動を始めるにあたっての課題となった。

このため、近隣の市民センターに協力を求め、月1回の定例会を合同で行うことで、先輩ジュニアと交流しスキルを習得することができた。

このような取り組みが成果をあげ、現在は泉区内広範にわたって各種イベントに参加し、子ども達のリーダーとして活躍するに至っている。

長命ヶ丘市民センター

〔沿革〕

長命ヶ丘市民センターは平成5年4月に泉区10番目の市民センターとして開館し、町内会や地域で活動している団体、地域のサークルを中心に利用していただいている。近年、地域同様、センター利用者やサークルメンバーの高齢化等の影響により、利用団体・サークル活動の縮小・組織の解散が散見される。

長命ヶ丘市民センターでは、少子高齢化という地域課題に対して幅広い年齢層の支持と参加を得ながら、サークル活動はもとより地域の生涯学習活動の拠点としてその役割と機能を大いに発揮できるように講座や事業内容の改善に努めている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画会		
参加者	地域の小学生	延参加者	346人
開催日	全6回 令和5年4月8日（土）～令和5年11月19日（日）		
協力者・協力団体	長命ヶ丘おやじの会、長命ヶ丘小学校、長命ヶ丘中学校、泉館山高校、PTA、子ども会育成会、長命ヶ丘商店会		
ねらい	地域の子供たちの健やかな成長と世代を超えた交流を目的とし、地域や学校を巻き込んだ事業を企画・実施する。さらに地域の一員でもあるジュニアリーダーが活躍できる場としても活用する。		
概要・成果	地域住民による地域の子どもたちのための企画会議を行い、4年ぶりに「学校に泊まろう」を開催し、避難所訓練を兼ねたサバメシづくりや段ボールを使って体育館で一晩過ごすなどの体験を行った。市民センターが事務局として広報や各団体との調整を行ったことで、企画会議や当日の事業を円滑に進めることができた。また、当日のボランティアとしてジュニアリーダーの要請を行い、子どもたちのリーダーとして活躍する場を提供できた。 参加した小学生は経験したことのない様々な体験をすることで、避難所について知ることができ、また中・高校生や大学生、保護者は避難所での役割などについて学ぶことができた。さらに、子どもから大人まで一緒に活動することで、世代を超えた交流にもつながった。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
長命ヶ丘保育所・児童センター・市民センター三館共催「子育て支援講座」	乳幼児親子が楽しい時間を過ごすための講座を各館持ち回りで開催した。保育所子育て支援センター、児童センターと共催することで、地域内の子育て情報の共有をはかった。	6月14日 9月27日 11月15日	3	69
フレンドスクール	小学生や小学生親子を対象に「わりばしでタワーを作ってみよう」「野菜ソムリエから教わるハロウィンメニュー」「ジュニアリーダーとあそぼう」を開催した。コロナ禍によりできなかった調理実習を行った。	8月3日 10月28日 2月17日	3	39
インリーダー研修会	地域の児童センターの所長に講師を依頼し、育成会の研修を行った。児童にはジュニアリーダーがゲーム研修を行い、楽しく学習するとともに、ジュニアリーダーへの理解を深めた。	12月9日	1	22

長命大学	抽選で選ばれた 50 名の受講生を対象に公開講座を含め 8 回開催した。歴史、健康、科学などの様々な分野の講話やコンサートなど、様々な内容の講座を実施した。	5 月 18 日～ 1 月 18 日	8	345
みんなでアップ！健康寿命	50 歳以上の方を対象に、座学と実技を組み合わせながら、年間を通して 7 回の講座を開催した。包括支援センター、仙台リハビリテーション専門学校の協力により、健康に関する知識を学んだ。	6 月 21 日～ 11 月 22 日	7	104
長命ヶ丘コンサート	地域の皆様を対象に、1 回目はクラシック、2 回目は泉館山高校吹奏楽部の演奏によるコンサートを開催した。	6 月 24 日 11 月 3 日	2	125
目指そう！災害に強い長命ヶ丘	長命ヶ丘地区の防災訓練に向けての会議を行い、防災訓練を行った。また、長命ヶ丘小学校 5 年生に向けて防災講座を提供した。	6 月 23 日～ 11 月 17 日	5	801
長命ヶ丘文化活動発表会	日ごろの学習活動の成果を発表する場として、市民センター利用サークルや地域の高等学校、中学校、児童センターがステージ発表や作品展示を行った。また参加団体は実行委員会として文化活動発表会の運営など行った。	10 月 8 日	1	604
長命ヶ丘市民センター懇談会	新型コロナウイルス感染症が 5 類となったことによる行動緩和について、地域内の情報交換を行った。また、2 月には次年度に向けてセンターの事業方針などについての説明を行った。	6 月 7 日 2 月 2 日	2	45
市民企画会議「長命ヶ丘未来プロジェクト」	市民企画員による企画会議を行い、令和 6 年度に向けて地域の世代間交流を目的にした講座などの講座の企画内容を検討した。	6 月 3 日 12 月 16 日 1 月 27 日 2 月 24 日	4	17
サークル体験会	サークルの高齢化による会員数の減少で新たにメンバーを募集している文化系サークルを対象に、地域で気軽に見学ができるサークル体験会を開催し、学びの場を提供した。	7 月 13 日 7 月 28 日 8 月 3 日	3	5

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル AMYY の活動支援

令和 2 年度に立ち上がってから、ボランティア活動を円滑に行えるようスキルアップや要請などに対する支援を行っている。町内会をはじめとし、地域の諸団体に対するサークルの認知度もあがり、要請も増えたことで、活動意欲も向上している。今では地域行事にジュニアリーダーが欠かせない存在となっている。また、それらの行事を通してジュニアリーダーの活躍を見た中高生の新規加入も続いており、サークルの活性化に繋がっている。

松森市民センター

〔沿革〕

松森市民センターは平成 12 年 1 月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション（現在は移転）、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内 11 番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和 40 年代から 50 年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室を有し、市民活動室には印刷機が備えられ地域団体やサークル活動に寄与している。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域の達人に学んでみよう！		
参加者	成人	延参加者	15 人
開催日	全 3 回 令和 5 年 11 月 1 日（水）、11 月 15 日（水）、11 月 22 日（水）		
協力者・協力団体	—		
ねらい	地域の中で「学びたい人」と「教えたい人」それぞれの方たちをつなぐ講座を実施することで、コロナ禍で希薄になりがちな住民同士のつながりをつくる。また、身近な場所で学習意欲に応え、活動の場を増やすことで、地域の活性化につなげる。		
概要・成果	地域住民を講師として、資源の有効活用の観点から、古着を利用した着物のリメイクの講座を実施した。リメイクした成果物として手元に残すことで「使わなくなったモノでも捨てずに活用することができる」資源リサイクルの意識を高めた。さらに地域の「学びたい人」「教えたい人」をつなぎ、地域講師には活躍の場と受講者には新しい学びや住民同士の交流の場を提供することができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン「子どもの杜」	鶴が丘児童センター・鶴が丘保育所地域子育て支援室と共催し、子どもの健全な発育と保護者の交流を目的として「親子ピクス」「運動会ごっこ」「子ども向けの防災講座」を実施した。	6 月 6 日 10 月 31 日 1 月 31 日	3	88
ジュニアちゃれんじ 2023	鶴が丘児童センターと共催し、宮城県職業能力開発協会・技能振興コーナーの協力で、仙台市建設職組合青年部の大工さんを講師にお招きして、「目指せマイスター」プロジェクト親子でわくわく職人体験！大工さんになってみよう！（講話「大工さんのお仕事」、実技「踏み台作り」）を実施した。	1 月 20 日	1	28
命をつなぐ防災講座	防災・減災に取り組んでいる専門家を招き講座を実施することで、災害の記憶の風化を防ぎ、知識・理解を深め、被災時の自分や家族の行動、避難方法などを話し合うきっかけとし、家庭や地域における防災意識を高めるための機会とした。	6 月 20 日 9 月 5 日	2	87
まち歩きをして地図を作ろう！	地域資源を学ぶ鶴が森歴史愛好会、松森しぜんプラザと連携し、地域を学ぶまち歩きを実施した。成果として、地域の理解と愛着が増し、住み続ける人や訪れる人が増え、地域が活性化することを目指し、地域の魅力を発信する地図を作った。	4 月 13 日～ 3 月 14 日	19	168

市民企画 発酵食エキスパート に学ぶ！	市民企画会議にて協議を重ね、健康効果の高い発酵食を題材に、塩こうじ・しょう油こうじづくり、ヨーグルトの講話と飲むヨーグルトづくりを行い、完成品の試食も行った。	7月6日 8月31日	2	35
城前大学	高齢者の生涯学習の意欲を高め、交流を図り、心身ともに健康で生きがいのある社会生活を送ることを目的として、フレイル予防、保険制度、認知症、歴史、防災の講話や、コンサート、軽体操、シルバー川柳など多様な講座を全8回実施した。	5月18日～ 2月15日	8	357
まつもり健康講座	松森地域包括支援センターと共催し、地域住民のフレイル予防を目的としてヨガやリズム体操などを含む多種多様な運動と、座学で栄養や成年後見制度などの講座を全9回で実施した。	6月21日～ 2月21日	9	92
地域におじゃまします！in 鹿島～ワンコインお茶会特別バージョン～	松森地域包括支援センター等と共催・連携し、鹿島地区の高齢者の健康維持・増進と居場所作りを図り、「ヨガ体操」「指ヨガ・目ヨガ」「足つぼ健康体操」「錦秋サクソコンサート」「歩き方チェックと軽体操」を実施した。	5月10日～ 2月14日	5	39
松森市民センターまつり	市民センターで活動するサークルの学習発表の場、交流の場として、舞台発表、展示発表、ワークショップなどを行い、地域の活性化を図った。	10月15日	1	500
松森・鶴が丘地域懇談会	今後の事業企画や館の運営に反映させるため、また、館として交流の場と機会を提供するため、地域課題や市民センター活動に対する意見・要望・評価等を住民から収集し、施設や主催講座の周知を行い、センターへの理解を深めていただいた。	6月22日 11月17日	2	41
令和5年度 松森ハートフルタイム	多彩なジャンルのコンサートや素話、講談など地域住民が気軽に参加できる講座を開催した。本の譲渡会などSDGsに沿った取り組みも行った。多様な講座を通して地域の結びつきを深めた。	5月20日～ 3月9日	6	361
令和5年度 認知症カフェ「ぽっくカフェ」	松森地域包括支援センターと共催し、「認知症カフェ」として、認知症や介護に関する講話、フレイル予防、演奏会など、高齢者の健やかな生活のために学習・懇談する多様な講座を開催した。	4月26日～ 3月27日	12	172
市民企画会議	地域住民を企画員として募り、収集した情報から地域住民の健康維持を目的として、塩こうじ、しょう油こうじ、ヨーグルトを題材に発酵食の講座「発酵食エキスパートに学ぶ！」を企画した。	5月11日 5月25日 6月9日 8月31日	4	24

【令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

図書ボランティアへの支援

松森市民センターでは図書ボランティアの毎月の定例会と活動全般を支援している。令和5年度も子育てサロン「子どもの杜」と城前大学の開講時に図書室の臨時開室を行い、関連する本を通して図書室をPRした。さらに新刊展示用に平台導入、新刊の「貸出中」表示、カテゴリ分けや配架場所の見直しなど図書ボランティアの意見を積極的に取り入れて導入した結果、利用者から「利用しやすくなった」と好評である。また利用登録者数も1000人目を見込むなど認知度も高まっている。

ジュニアリーダー「パズル鶴が丘」への支援

令和5年度でメンバーが卒業したため、地区の社教主事からも協力を得て、学校や子ども会などに新規加入者募集の広報活動を行った。また松陵市民センターと合同定例会を開催時に、新規加入者とのコミュニケーション支援や、知識と技術の向上を図るための研修を行った。

桂市民センター

〔沿革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅とマンションで構成される新興住宅団地であるが、開発から30年以上経過し、徐々に高齢化が進みつつある。また、将監地区は昭和40年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館であり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者までと幅広い。平成13年12月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座 waku・waku! 「大人倶楽部」		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	46人
開催日	全5回 令和5年11月7日(火)～令和5年12月16日(土)		
協力者・協力団体	—		
ねらい	高齢化が進む桂地域の課題の解決を目的に、特に高齢男性の外出の機会・交流の機会を提供するため、市民センターや地域にデビューするきっかけとして、高齢男性の興味・関心を誘い、気軽に参加できる講座を企画する。高齢男性はもとより、市民センターを利用した事のない方に市民センターを知ってもらい、講座を通じて様々な情報や学習の場・交流の場を提供する。		
概要・成果	高齢男性や、まだ市民センターを利用したことのない方を対象として市民企画会議でジャンルの違う3講座を企画した。11月7・14・28日に「切り絵にチャレンジ」、12月6日に「スポーツ吹き矢をやってみよう」、12月16日に「大人の天体観望会」を実施した。ねらいどおり高齢男性や初めて講座に参加するという方の申込みが数多くあった。講座の参加がきっかけとなり、高齢男性の外出の機会、交流の機会がさらに広がり、3講座の内「切り絵」と「スポーツ吹き矢」は、継続して活動したいという要望が多くあり、サークル化して活動をするようになった。		

〔令和5年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
桂の森のキッズランド	桂地域の子育てに関わる4団体が共催し、ミュージカル集団「おむらいす」の妖怪シスターズさんを招き、子供のための「ウキウキミュージカルコンサート」を実施した。	9月13日	1	105
桂ジュニアカレッジ	桂児童センターと共催、中学生ボランティアやおやじの会等の地域団体と協力して、小学生を対象に、自発性や協調性を育むことを目指し、6月にデイキャンプ、7月に水遊び、11月に焼きいも会、2月に工作講座を実施した。	6月17日～ 2月7日	5	183
桂友くらぶ	55歳以上60名を対象に全9回、「馬頭琴の調べとモンゴルのお話」「ポッカポカ!楽しいエクササイズ」「もんきりがたで遊ぼう」など様々なテーマの講座を実施して、学ぶ機会の提供や受講生同士の交流を促すことができた。	5月11日～ 2月8日	9	407

《泉区》

防災・減災を学ぼう	指定避難所及び補助避難所としての市民センターの運営について理解を共有し、訓練を繰り返し継続して行った。さらに識者を招き、自然災害についての地域防災力を高められるよう学びを深める機会を持った。	7月8日 2月3日	2	100
桂小学校区社会学級連携事業	桂小学校区社会学級と連携した企画会を行い、健康をテーマとした「健康寿命は足元から あなたのその歩き方大丈夫？正しい歩き方を学ぼう」を企画し、正しい靴の選び方と足指の体操、正しい歩き方を学ぶ講座を実施した。	6月28日～ 11月16日	6	40
複数年事業 まなびの森 かつら	地域の幅広い年齢の方を対象にフォトフレーム、Xmas リース等の工作、臨床美術、ボッチャ等の体験型の講座と企画員企画のXmas コンサート、大人のためのお話し会を実施した。	6月27日～ 3月5日	10	113
桂音楽会	大人から子どもまで楽しめるように「うちなーを感じて～エイサーを見て聞いて体感しよう!～」 「秋のゲグロコンサート」、児童センターベルクラブと一緒に「春の花便りコンサート」を実施した。	5月13日 11月3日 3月16日	3	168
桂文化祭	市民センターを利用しているサークルや個人、地域団体、地域の小中高校の日頃の学習成果発表の場や交流の場としてステージ発表や作品展示、イベントを実施した。	10月21日	1	800
桂地域懇談会	地域諸団体との懇談会を通して各団体の活動情報や地域課題、住民の状況、地域資源等について意見交換を行い、得られた情報を活用して各団体との連携を深め、市民センターの業務改善に努めた。	6月24日 2月17日	2	26
市民企画会	男性企画員による市民企画会議で高齢男性の興味・関心を誘い、気軽に参加できる講座「切り絵にチャレンジ」・「スポーツ吹き矢をやってみよう!」・「wakuwaku 大人の天体観望会」を企画した。	6月20日～ 1月10日	10	20

〔令和5年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「将監くれよん」の活動支援

ジュニアリーダーサークル「将監くれよん」の登録者が少ないことと、要請への参加経験が少ないことから、近隣のジュニアリーダーとの合同定例会を実施して、ジュニアリーダーの活動を活性化させるようサポートした。そのことにより、ジュニアリーダーとしての技術の向上とジュニア同士の交流が図られた。また、研修や様々な要請にも積極的に参加して経験を積むことが出来た。今後もさらに活性化するように支援して行く。

南中山市民センター

〔沿革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター（サンライフ泉）」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 地域であり 2 連合町内会、17 町内会がある。地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。令和 3 年 11 月から大規模修繕を行い、令和 4 年 12 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域いきいき「いずみ中山ふれあいプロジェクト」		
参加者	地域住民	延参加者	233 人
開催日	全 6 回 令和 5 年 5 月 9 日（火）～10 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	南中山地域包括支援センター・まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	いずみ中山地域は、新型コロナウイルス感染症の影響や、市民センターの大規模改修工事による活動場所の減少により、地域住民の中でも特に高齢者の健康面が心配されてきた。コロナ禍で自宅にこもりがちだった高齢者の心身の健康を維持するとともに、新たな出会いや発見をきっかけとし、交流を通じて地域コミュニティの活性化につなげることを目指す。		
概要・成果	令和 5 年度は、南中山地域包括支援センターと共催し、健康や音楽など、高齢者が関心のあるテーマを取り入れた講座を実施した。「わかばジャズコンサート」は、南中山地域包括支援センターの認知症カフェとコラボしたことで、心身に障がいを抱えている方や支援が必要な方にも楽しんでいただくことができ、高齢者が外に出るきっかけとなった。健康測定や軽体操を行う「健康まつり」では、講師の仙台リハビリテーション専門学校から教員に加え約 20 名の学生がボランティアとして参加し、世代間の交流も生まれ、活気に溢れた場となった。 令和 4 年度に完成した「おさんぽマップ」については、講座での展示と配布を行うとともに、プロジェクトのメンバーが町内会、福祉施設、学校、公共施設などに配布し地域へ広く周知し、様々な世代にいずみ中山地域の魅力を広めることができた。		

〔令和 5 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	南中山・北中山児童センターと共催し、楽しく子育てを学ぶ機会を提供するため、乳幼児親子を対象に、音楽に合わせて体を動かすリトミックと 3B 体操を開催した。	6 月 23 日 9 月 22 日	2	26
こどもワンダークラブ	南中山・北中山小学校の児童が一堂に会し、気象にまつわる科学実験、地域講師を迎えリース作り体験、ジュニアリーダーと遊ぼうを開催した。	7 月 8 日 11 月 25 日 2 月 17 日	3	41
まなびねっと「いずみ中山」交流事業	地域の子どもに関わる諸団体が打合せを重ね、小学生親子向けの川遊び、ボールエクササイズ、門松づくり、雪山遊び等の体験学習を実施した。	5 月 13 日～ 3 月 16 日	10	150

《泉区》

ほがらかシニア塾	地域の高齢者を対象に、連続 9 回で雅楽演奏鑑賞、歴史・防災講話、成年後見人制度解説、軽体操と脳トレ、リズム体操健康講話等を実施した。	5 月 19 日～ 2 月 16 日	9	299
地域防災講座	地域の災害に備える為には防災減災に対する様々な知識が必要となっている。連合町内会や地区社会福祉協議会と連携し、防災減災のための講座を開催した。	8 月 19 日	1	24
いずみ中山フェスタ	地域の諸団体やサークルの活動成果の発表の場として、舞台発表、展示発表、出店、子ども向けイベントなど行った。	10 月 21 日	1	950
いずみ中山市民企画講座 集まろう♪南中山市民センター	サークル活性化と地域交流を目的として、サークル体験会、寄せ植え、フレイル予防軽体操&レクリエーションを実施した。	11 月 3 日～ 11 月 22 日	11	31
地域懇談会	館の運営、生涯学習や講座、地域交流や活性化についての意見交換や情報交換を行った。ご意見や情報は今後の事業企画や実施に反映させていく。	6 月 9 日 2 月 14 日	2	24
いずみ中山市民企画会議	大規模改修を経てオープンした南中山市民センターが、新たに地域の方の交流の場となるような企画について話し合い、準備、振り返りを行った。	5 月 31 日～ 11 月 22 日	5	18

〔令和 5 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「南中山巣子っぶ」への活動支援

ジュニアリーダー活動を支援していくうえで、まず個々のスキルアップにつながる区中央や仙台市のジュニアリーダー定例会にできる限り参加できるよう調整し、個々の状況を把握し具体的に研修内容についてアドバイスを積極的に行った。つぎに、地域における活動を広報することに重点をおき、地域懇談会での PR、掲示板でのスペース拡大、そして「いずみ中山フェスタ」など交流の場で直接アピールできるような機会を設定するなどの支援をした。そのことで、子ども会や児童センターなどから要請機会も増えつつあり、地域交流の場で実地体験を積み重ね、やりがいや充実感、喜びを感じており、日々成長へとつながっている。

IV 資 料

1 市民センターの予算

<歳 出>

〔市民センターにかかる経費〕

単位:千円

		令和2年度(決算)	令和3年度(決算)	令和4年度(決算)	令和5年度(決算)	令和6年度(予算)
地域社会教育事業費(※)		631,927	615,234	628,739	598,680	695,103
市民センター 施設費	運営管理	1,467,930	1,437,487	1,476,628	1,515,411	1,590,999
	施設整備 ・改築等	108,882	1,571,724	867,607	565,262	1,368,394
合 計		2,208,739	3,624,445	2,972,974	2,679,353	3,654,496

※地域社会教育事業費 内訳

単位:千円

		令和2年度(決算)		令和3年度(決算)		令和4年度(決算)		令和5年度(決算)		令和6年度(予算)	
		拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館
各種 講座等	家庭教育推進	55	1,577	72	1,926	84	1,934	55	1,795	55	2,579
	青少年健全育成	556	2,132	666	2,505	739	2,487	754	2,644	949	2,281
	成人学習振興	352	2,528	409	3,027	367	3,191	254	3,472	328	3,118
	高齢者学習振興	326	6,547	369	6,464	353	6,460	540	6,204	549	5,738
	地域社会教育推進	1,258	4,599	1,376	5,168	1,419	6,070	2,329	6,186	2,745	6,292
	民間指導者育成	/	2,473	/	1,138	/	1,311	/	1,350	/	2,301
	学習情報提供	339	0	149	0	74	0	132	41	153	333
	学びを支える人材育成	1,663	/	1,896	/	2,135	/	2,354	/	2,930	/
	若者社会参画型学習推進	1,085	/	1,058	/	1,342	/	1,091	/	1,497	/
	住民参画・問題解決型学習推進	1,582	/	1,720	/	1,903	/	1,854	/	2,259	/
	学びのまち仙台市民カレッジ	307	/	522	/	475	/	589	/	888	/
	子ども参画型社会創造支援	1,448	/	1,324	/	1,464	/	1,449	/	1,711	/
	障害者学習講座開設	116	/	201	/	356	/	287	/	425	/
	市立高等学校開放講座開設	68	/	199	/	195	/	160	/	200	/
	小 計	9,155	19,856	9,961	20,228	10,906	21,453	11,848	21,692	14,689	22,642
学習情報提供 (システム運営管理等)		17,616	/	18,183	/	17,768	/	17,552	/	60,678	/
その他		14,846	570,454	14,622	552,240	14,610	564,002	12,137	535,451	13,753	583,341
合 計		41,617	590,310	42,766	572,468	43,284	585,455	41,537	557,143	89,120	605,983

<歳 入>

単位:千円

	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)	令和4年度(決算)	令和5年度(決算)	令和6年度(予算)
市民センター使用料	125,525	123,634	146,991	161,581	178,663

2 令和5年度 市民センター職員数

(令和5年4月1日現在)

部分は嘱託職員

内部で兼務

外部と兼務

青葉区

		区 役 所 ・ 教 育 委 員 会										(公財)仙台ひと・まち交流財団											
	職名 館名	セン ター 長	セン ター 次 長 兼 係 長	主 幹 兼 係 長	係 長	主 査		総 括 主 任 ・ 主 任	主 事	会 計 年 度 任 用 職 員	合 計	(常勤嘱託) 館長	事業職員			常勤嘱託職員		非常勤嘱託職員	臨時職員	合 計	総 計		
						社 会 教 育 主 事	主 査						係 長	主 任	係 員	主 任	係 員						
1	青葉区中央	1		1		3		5		1	11	1			2	1	2	1	2	9	20		
2	柏 木											1			3		1	2		7	7		
3	北 山											1			3		1	3		8	8		
4	福 沢											1		1	1		1	1	1	6	6		
5	旭ヶ丘											1		1	2		1	2		7	7		
6	三本松											1			3			1	1	6	6		
7	片 平											1		1	2		1		1	6	6		
8	水の森											1		1	2		1	1		6	6		
9	貝ヶ森											1		1	1		1	1	2	7	7		
10	中 山											1			3		1	2		7	7		
11	折 立											1		1	2		1	1		6	6		
12	木町通											1			3		1	2	1	8	8		
13	広 瀬											兼		1	2		1			4	4		
14	宮城西											1		1	3			1		6	6		
15	大 沢											1		1	3			1		6	6		
16	落 合											1		1	2		1	1		6	6		
17	吉 成											1		1	2		1	1		6	6		
	小 計	1	0	1	0	3	0	5	0	1	11	16	0	11	39	1	15	21	8	111	122		

宮城野区

1	生涯学習支援	1	1		1	4		3	2	4	16	1		1	2		2	2		8	24
2	宮城野区中央	1			1	3		1		2	8	兼	1		2		1		1	5	13
3	高 砂											1		1	3		1	1		7	7
4	岩 切											1		1	2		1	1		6	6
5	鶴ヶ谷											1			3		1	1		6	6
6	榴ヶ岡											1		1	2		1	1	1	7	7
7	東 部											1		1	2		1	1		6	6
8	幸 町											1		1	2		1	1		6	6
9	田 子											1			3		1	1		6	6
10	福 室											1			2		2		1	6	6
	小 計	2	1	0	2	7	0	4	2	6	24	9	1	6	23	0	12	9	3	63	87

若林区

1	若林区中央	1			1	2	1	2			7	兼	1		2		2			5	12
2	七 郷											1			3		1	1		6	6
3	荒 町											1		1	2		1	1		6	6
4	六 郷											1		1	3			1		6	6
5	若 林											1		1	2		1	1		6	6
6	沖 野											1		1	2		1	1	1	7	7
	小 計	1	0	0	1	2	1	2	0	0	7	5	1	4	14	0	6	5	1	36	43

太白区

	職名 館名	区 役 所 ・ 教 育 委 員 会									(公財)仙台ひと・まち交流財団									合 計	総 計
		セン ター 長	セン ター 次 長 兼 係 長	主 幹 兼 係 長	係 長	主 査 社 会 教 育 主 事	主 査	総 括 主 任 ・ 主 任	主 事	任 用 会 計 年 度 員	合 計	(館 常 勤 嘱 託 長	事 業 職 員 係 長	主 任	係 員	主 任	係 員	非 常 勤 嘱 託 職 員	臨 時 職 員	合 計	
1	太白区中央	1		1		3		2		1	8	兼1	1		1		2		1	5	13
2	生出											1			3		1	1	1	7	7
3	中田											1			2		2	1		6	6
4	西多賀											1		1	2		1	1		6	6
5	八本松											1			2		2	1		6	6
6	八木山											1		1	2		1	1		6	6
7	山田											1			3		1	1		6	6
8	茂庭台											1		1	2			1	1	6	6
9	東中田											1			3		1	1		6	6
10	柳生											1		1	2			1	1	6	6
11	富沢											1			3	1		1		6	6
12	秋保											1		1	3			1	2	8	8
13	馬場											兼1		兼1	兼3			兼1	兼2	0	0
14	湯元											兼1		兼1	兼3			兼1	兼2	0	0
	小 計	1	0	1	0	3	0	2	0	1	8	11	1	5	28	1	11	11	6	74	82

泉区

1	泉区中央	1			1	3	1	1		1	8	1		1	3		1	2	1	9	17
2	根白石											1		1	2		1	1		6	6
3	南光台											1		1	2		1	1		6	6
4	黒松											1			3		1	2		7	7
5	将監											1			3		1	1		6	6
6	加茂											1		1	1		1		2	6	6
7	高森											1			2		1			4	4
8	松陵											1			3		1	1	1	7	7
9	寺岡											1		1	2		1	1		6	6
10	長命ヶ丘											1		1	3		1		2	8	8
11	松森											1			3		1	1		6	6
12	桂											1		1	2		1	1		6	6
13	南中山											1		1	2		1	1		6	6
	小 計	1	0	0	1	3	1	1	0	1	8	13	0	8	31	0	13	12	6	83	91

総 計

	職名	区 役 所 ・ 教 育 委 員 会									(公財)仙台ひと・まち交流財団									合 計	総 計
		セン ター 長	セン ター 次 長 兼 係 長	主 幹 兼 係 長	係 長	主 査 社 会 教 育 主 事	主 査	総 括 主 任 ・ 主 任	主 事	任 用 会 計 年 度 員	合 計	(館 常 勤 嘱 託 長	事 業 職 員 係 長	主 任	係 員	主 任	係 員	非 常 勤 嘱 託 職 員	臨 時 職 員	合 計	
	計	6	1	2	4	18	2	14	2	9	58	54	3	34	135	2	57	58	24	367	425

3 令和5年度 主催講座の事業別実施状況

区 名		青 葉 区														
事 業 館 名		青葉区 中央	柏木	北山	福沢	旭ヶ丘	三本松	片平	水の森	貝ヶ森	中山	折立	木町通	広瀬	宮城西	大沢
家 庭 教 育 推 進 事 業																
(例) 子育て講座 食育講座 子育てサロン おはなし会	講座数	2	0	1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	0	1	0
	回 数	10	0	3	4	0	0	0	6	3	1	4	3	0	4	0
	参加者数	173	0	37	34	0	0	0	36	70	12	56	87	0	72	0
青 少 年 健 全 育 成 事 業																
(例) ジュニアリーダーと遊ぶ インリーダー研修 体験講座	講座数	8	2	2	1	1	1	2	1	2	2	4	2	2	2	1
	回 数	78	6	4	6	4	8	4	1	6	13	11	15	8	3	2
	参加者数	1,408	135	127	330	110	214	53	34	716	176	959	166	697	41	144
成 人 学 習 振 興 事 業																
(例) 健康講座 市民企画講座	講座数	3	2	4	1	1	3	1	2	1	1	0	2	2	5	1
	回 数	684	10	23	6	6	10	12	9	5	4	0	7	10	29	15
	参加者数	5,504	84	361	86	85	88	222	100	33	71	0	97	136	2,516	173
高 齢 者 学 習 振 興 事 業																
(例) 老壮大学 高齢者の健康講座	講座数	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1
	回 数	8	11	9	9	8	10	12	9	4	14	8	16	10	8	9
	参加者数	246	505	225	340	448	306	468	435	98	256	161	761	302	273	341
地 域 社 会 教 育 推 進 事 業																
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 防犯 防災減災関連事業	講座数	6	6	3	5	6	6	6	5	4	5	4	5	6	3	8
	回 数	33	19	10	17	26	19	12	22	11	9	17	16	11	7	24
	参加者数	1,848	1,963	576	1,337	1,851	945	1,230	1,433	1,390	715	4,069	898	4,825	1,761	1,389
民 間 指 導 者 育 成 事 業																
(例) ジュニアリーダー育成支援 ボランティア養成	講座数	1	1	0	1	0	1	2	0	0	1	1	0	1	1	1
	回 数	7	6	0	7	0	7	12	0	0	6	20	0	8	5	12
	参加者数	5	21	0	219	0	26	92	0	0	18	714	0	16	30	64
合 計		21	12	11	10	9	12	13	10	10	11	11	11	12	13	12
		820	52	49	49	44	54	52	47	29	47	60	57	47	56	62
		9,184	2,708	1,326	2,346	2,494	1,579	2,065	2,038	2,307	1,248	5,959	2,009	5,976	4,693	2,111

2つ以上の市民センター間で共催・連携した事業は、「小計」及び「総計」欄では1事業として計上しています。

			宮 城 野 区											若 林 区							
落合	吉成	小計	生涯学 習支援	宮城野 区中央	高砂	岩切	鶴ヶ谷	榴ヶ岡	東部	幸町	田子	福室	小計	若林区 中央	七郷	荒町	六郷	沖野	若林	小計	
2	1	14	0	1	0	2	1	0	1	0	1	0	6	1	1	0	0	1	1	4	
8	2	48	0	2	0	28	1	0	4	0	4	0	39	4	5	0	0	4	3	16	
140	27	744	0	182	0	1,354	43	0	111	0	76	0	1,766	63	134	0	0	22	39	258	
1	1	35	1	5	2	2	3	1	2	1	3	1	21	8	2	1	1	3	3	18	
4	5	178	2	41	6	10	25	3	9	6	20	3	125	59	13	3	4	15	13	107	
45	90	5,445	18	1,181	131	616	828	82	515	218	692	170	4,451	1,094	175	40	44	345	395	2,093	
3	1	33	11	4	1	0	2	0	2	2	1	2	25	2	2	2	0	0	0	6	
16	3	849	38	32	11	0	19	0	8	9	3	6	126	51	4	6	0	0	0	61	
183	24	9,763	652	892	186	0	142	0	169	1,132	33	79	3,285	935	26	68	0	0	0	1,029	
1	1	18	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	12	2	1	1	1	1	1	7	
9	8	162	24	19	9	10	8	15	9	9	7	14	124	18	10	10	10	10	11	69	
316	468	5,949	11,799	779	455	478	302	501	251	321	158	527	15,571	411	764	505	536	502	776	3,494	
4	6	88	2	10	7	6	3	7	4	8	6	6	59	7	4	8	6	4	7	36	
14	15	282	77	45	27	20	6	31	12	25	24	16	283	20	16	25	17	21	22	121	
457	1,805	28,492	10,595	5,888	2,165	3,091	1,729	851	394	1,104	3,438	871	30,126	1,423	12,705	1,809	3,960	3,129	1,166	24,192	
0	2	13	10	2	1	1	0	1	0	1	2	1	19	2	0	2	2	0	0	6	
0	11	101	33	14	7	7	0	12	0	13	18	15	119	43	0	12	22	0	0	77	
0	142	1,347	629	138	35	79	0	64	0	94	80	112	1,231	379	0	59	264	0	0	702	
11	12	201	25	24	12	12	10	11	10	13	14	11	142	22	10	14	10	9	12	77	
51	44	1,620	174	153	60	75	59	61	42	62	76	54	816	195	48	56	53	50	49	451	
1,141	2,556	51,740	23,693	9,060	2,972	5,618	3,044	1,498	1,440	2,869	4,477	1,759	56,430	4,305	13,804	2,481	4,804	3,998	2,376	31,768	

区 名			太 白 区												
館 名			太白区 中央	生出	中田	西多賀	八本松	八木山	山田	茂庭台	東中田	柳生	富沢	秋保	小計
事 業															
家 庭 教 育 推 進 事 業															
(例) 子育て講座 食育講座 子育てサロン おはなし会	講座数		1	0	0	1	2	0	0	1	1	1	2	2	11
	回 数		3	0	0	4	9	0	0	3	3	4	20	2	48
	参加者数		38	0	0	95	143	0	0	29	17	44	618	48	1,032
青 少 年 健 全 育 成 事 業															
(例) ジュニアリーダーと遊ぼう インリーダー研修 体験講座	講座数		5	2	3	3	1	2	1	3	1	2	2	1	26
	回 数		40	6	10	15	2	7	4	22	10	6	10	5	137
	参加者数		1,362	125	364	512	226	193	54	254	184	77	925	145	4,421
成 人 学 習 振 興 事 業															
(例) 健康講座 市民企画講座	講座数		3	2	0	2	1	2	0	2	1	0	2	2	17
	回 数		11	8	0	7	2	13	0	7	6	0	3	7	64
	参加者数		225	109	0	78	18	118	0	71	71	0	186	81	957
高 齢 者 学 習 振 興 事 業															
(例) 老壮大学 高齢者の健康講座	講座数		2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	15
	回 数		18	9	9	9	8	14	9	9	9	12	7	9	122
	参加者数		890	197	645	421	354	237	437	285	321	664	247	188	4,886
地 域 社 会 教 育 推 進 事 業															
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 防犯 防災減災関連事業	講座数		7	6	7	5	7	7	8	6	7	6	4	9	79
	回 数		26	17	29	14	20	22	45	20	21	18	15	34	281
	参加者数		2,792	3,126	2,730	1,673	1,599	3,733	6,083	1,266	2,260	2,227	4,230	899	32,618
民 間 指 導 者 育 成 事 業															
(例) ジュニアリーダー育成支援 ボランティア養成	講座数		3	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	11
	回 数		12	9	6	0	6	0	10	13	5	7	1	0	69
	参加者数		102	73	38	0	21	0	260	58	7	20	9	0	588
合 計			21	12	12	12	13	13	11	14	12	12	12	15	159
			110	49	54	49	47	56	68	74	54	47	56	57	721
			5,409	3,630	3,777	2,779	2,361	4,281	6,834	1,963	2,860	3,032	6,215	1,361	44,502

2つ以上の市民センター間で共催・連携した事業は、「小計」及び「総計」欄では1事業として計上しています。

泉 区														
泉区 中央	根白石	南光台	黒松	将監	加茂	高森	松陵	寺岡	長命 ヶ丘	松森	桂	南中山	小計	總計
1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	11	46
3	5	1	0	0	3	3	2	3	3	3	1	2	29	180
34	115	39	0	0	13	50	59	69	69	88	105	26	667	4,467
3	2	2	2	3	1	1	1	1	1	2	1	2	22	122
23	5	8	6	13	5	5	5	4	3	3	5	13	98	645
669	275	148	112	196	127	162	29	46	39	115	183	191	2,292	18,702
2	1	1	0	0	2	0	3	3	0	3	0	0	15	96
22	5	5	0	0	8	0	11	10	0	24	0	0	85	1,185
63	15	125	0	0	420	0	250	164	0	218	0	0	1,255	16,289
1	2	1	2	2	2	2	2	1	2	3	2	1	23	75
14	14	9	13	11	14	27	17	11	15	22	14	9	190	667
519	421	688	467	557	508	487	375	513	449	488	453	299	6,224	36,124
13	5	5	8	7	5	4	4	5	6	4	6	5	77	339
75	12	24	46	35	9	12	11	20	19	21	24	21	329	1,296
2,160	626	1,305	1,394	1,528	1,018	777	1,350	3,018	1,926	1,074	1,247	1,262	18,685	134,113
3	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	12	61
23	5	0	0	9	12	6	3	0	4	4	10	5	81	447
254	11	0	0	101	44	20	52	0	17	24	20	18	561	4,429
23	12	10	12	13	12	9	12	11	11	14	11	10	160	739
160	46	47	65	68	51	53	49	48	44	77	54	50	812	4,420
3,699	1,463	2,305	1,973	2,382	2,130	1,496	2,115	3,810	2,500	2,007	2,008	1,796	29,684	214,124

4 主催事業参加者数推移

青 葉 区

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
青 葉 区 中 央	16,663	17,153	6,893	5,854	9,061	9,184	
柏 木	2,768	2,458	682	843	2,249	2,708	
北 山	1,814	1,685	737	1,080	1,519	1,326	
福 沢	3,451	3,628	1,389	1,670	2,951	2,346	
旭 ケ 丘	5,417	4,297	444	1,066	1,439	2,494	
三 本 松	3,022	1,880	916	1,009	1,131	1,579	
片 平	3,477	3,198	867	995	1,628	2,065	
水 の 森	2,660	2,496	371	257	1,755	2,038	令和2年11月1日～令和3年11月27日 大規模修繕工事のため休館
貝 ケ 森	1,809	3,630	1,329	2,327	2,260	2,307	
中 山	1,982	2,180	383	311	883	1,248	
折 立	3,454	3,898	1,341	2,628	5,045	5,959	
木 町 通	2,069	2,415	808	1,211	1,681	2,009	
広 瀬	5,891	6,919	850	950	2,128	5,976	
宮 城 西	5,059	7,183	1,231	948	3,713	4,693	
大 沢	1,349	3,133	995	1,369	1,313	2,111	平成30年7月18日～平成31年4月19日 大規模修繕工事のため休館
落 合	5,603	2,638	530	820	2,200	1,141	
吉 成	3,176	2,919	477	470	1,888	2,556	
計	69,664	71,710	20,243	23,808	42,844	51,740	

宮 城 野 区

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
生涯学習支援	17,028	15,250	4,986	8,017	7,102	23,693	
宮城野区中央	8,072	7,344	5,601	6,084	8,379	9,060	
高 砂	9,840	7,159	1,045	1,604	2,636	2,972	
岩 切	5,323	2,608	1,519	1,670	4,972	5,618	
鶴 ケ 谷	3,769	3,819	1,527	1,453	2,637	3,044	
榴 ケ 岡	2,766	2,249	529	958	1,810	1,498	
東 部	3,744	2,690	426	793	884	1,440	
幸 町	4,380	482	601	925	1,446	2,869	令和元年8月1日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
田 子	7,156	6,254	1,479	561	2,153	4,477	
福 室	5,096	4,290	1,262	1,278	1,720	1,759	
計	67,174	52,145	18,975	23,343	33,739	56,430	

若林区

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
若林区中央	7,252	6,681	1,612	4,295	5,213	4,305	
七郷	15,573	14,670	732	794	1,040	13,804	
荒町	6,064	6,011	837	1,039	936	2,481	
六郷	9,445	12,589	1,110	2,019	3,604	4,804	
沖野	10,289	8,706	1,599	1,763	2,348	3,998	令和3年11月1日～令和4年10月22日 大規模修繕工事のため休館
若林	2,988	1,086	969	1,263	1,608	2,376	令和元年7月9日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
計	51,611	49,743	6,859	11,173	14,749	31,768	

太白区

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
太白区中央	23,404	32,765	3,965	4,590	3,429	5,409	
生出	5,256	4,429	548	772	2,900	3,630	
中田	5,468	16,379	1,587	1,476	3,143	3,777	
西多賀	2,432	3,749	732	861	2,268	2,779	
八本松	3,187	2,768	512	907	1,573	2,361	
八木山	26,246	20,959	1,400	834	13,289	4,281	
山田	6,133	4,510	420	2,597	2,733	6,834	平成29年8月1日～平成30年4月13日 大規模修繕工事のため休館
茂庭台	810	2,288	508	922	1,477	1,963	平成30年7月18日～平成31年4月19日 大規模修繕工事のため休館
東中田	4,984	4,612	414	420	2,968	2,860	令和2年12月14日～令和4年2月19日 大規模修繕工事のため休館
柳生	3,449	2,517	686	1,209	1,863	3,032	
富沢	7,477	7,475	925	2,461	5,932	6,215	
秋保	2,701	2,071	447	493	1,332	1,361	
計	91,547	104,522	12,144	17,542	42,907	44,502	

泉区

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
泉区中央	5,801	4,918	1,182	1,278	2,526	3,699	
根白石	2,794	3,052	773	946	2,176	1,463	平成28年8月1日～平成29年4月14日 大規模修繕工事のため休館
南光台	5,482	3,622	1,716	955	2,100	2,305	
黒松	5,238	2,927	267	746	1,504	1,973	
将監	4,764	4,441	391	1,038	2,156	2,382	
加茂	2,631	2,497	567	742	1,313	2,130	
高森	4,748	4,641	767	955	1,669	1,496	
松陵	3,732	3,650	706	1,347	1,386	2,115	
寺岡	2,610	2,275	682	675	1,811	3,810	
長命ヶ丘	6,420	3,752	546	823	1,259	2,500	
松森	3,073	1,568	643	1,138	1,793	2,007	
桂	2,123	2,167	497	566	1,563	2,008	
南中山	2,104	1,916	405	343	379	1,796	令和3年11月1日～令和4年12月2日 大規模修繕工事のため休館
計	51,520	41,426	9,142	11,552	21,635	29,684	

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
合計	331,516	319,546	67,363	87,418	155,874	214,124	

5 市民センター利用者

青 葉 区

(単位:人)

	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
青 葉 区 中 央	92,239	71,794	40,529	41,843	62,856	67,483
柏 木	30,665	25,360	15,105	13,363	14,928	21,089
北 山	30,297	26,187	11,619	11,302	16,144	17,963
福 沢	48,137	41,638	22,965	25,015	33,762	37,987
旭 ケ 丘	81,099	71,346	36,882	27,419	39,134	52,113
三 本 松	24,281	23,392	14,393	15,079	15,932	17,662
片 平	96,460	90,962	65,253	69,588	86,921	95,646
水 の 森	74,125	69,569	30,527	16,808	77,266	82,555
貝 ケ 森	58,272	49,116	31,842	32,441	40,453	32,930
中 山	62,680	57,393	35,044	39,951	49,713	47,864
折 立	50,766	49,404	28,228	28,112	30,522	31,457
木 町 通	93,409	92,797	62,629	72,816	63,936	75,325
広 瀬	33,657	29,337	12,600	15,752	19,660	24,432
宮 城 西	17,790	16,075	9,670	6,447	8,065	11,747
大 沢	8,107	23,704	21,002	24,733	28,536	31,133
落 合	31,700	29,658	15,814	15,748	19,441	22,650
吉 成	52,157	46,328	26,800	28,619	36,541	42,024
計	885,841	814,060	480,902	485,036	643,810	712,060

宮 城 野 区

(単位:人)

	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
生涯学習支援	103,223	87,652	46,133	47,872	64,675	75,032
宮城野区中央	70,328	70,617	37,009	33,684	49,368	60,328
高 砂	77,067	64,054	35,623	31,838	43,510	50,892
岩 切	31,387	30,166	18,359	16,273	20,683	24,850
鶴 ケ 谷	39,760	38,420	23,522	24,573	30,999	36,482
榴 ケ 岡	32,784	31,301	17,807	17,327	27,598	24,810
東 部	41,012	42,459	29,502	34,821	38,083	37,307
幸 町	58,019	16,420	34,952	36,899	45,085	44,694
田 子	80,837	67,951	53,413	53,424	62,125	63,456
福 室	100,485	99,232	68,990	68,185	64,719	67,433
計	634,902	548,272	365,310	364,896	446,845	485,284

若 林 区

(単位:人)

	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
若林区中央	64,898	56,962	35,555	29,385	42,415	30,969
七 郷	74,708	69,186	45,534	36,506	45,674	48,900
荒 町	53,827	49,743	30,033	31,238	43,624	46,348
六 郷	58,306	58,105	37,625	34,511	42,847	44,865
沖 野	63,044	59,469	38,332	25,456	21,026	61,398
若 林	48,681	15,057	23,682	30,122	44,804	53,881
計	363,464	308,522	210,761	187,218	240,390	286,361

太 白 区

(単位:人)

	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
太 白 区 中 央	80,179	72,957	37,627	28,800	43,343	51,848
生 出	17,763	15,050	10,347	8,394	11,554	13,082
中 田	46,706	41,644	26,748	19,333	24,931	29,027
西 多 賀	37,993	31,555	21,809	24,972	31,425	30,718
八 本 松	41,171	40,708	24,534	25,895	33,714	38,170
八 木 山	57,663	52,834	27,165	23,088	32,911	42,309
山 田	31,937	32,873	18,359	18,745	27,695	28,183
茂 庭 台	16,022	37,765	24,664	26,212	35,317	36,818
東 中 田	59,494	53,059	27,729	4,177	54,756	57,601
柳 生	95,305	67,251	59,116	54,722	60,873	65,236
富 沢	60,543	45,174	22,109	23,878	33,481	39,418
秋 保	12,615	11,418	8,729	10,098	11,674	12,464
馬 場	4,752	5,916	2,958	4,996	5,322	4,564
湯 元	5,191	5,282	2,060	3,344	4,208	4,932
計	567,334	513,486	313,954	276,654	411,204	454,370

泉 区

(単位:人)

	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
泉 区 中 央	44,554	41,016	27,536	24,428	34,399	36,587
根 白 石	23,930	22,339	14,744	15,908	20,165	21,388
南 光 台	40,695	40,777	23,662	23,427	33,696	42,401
黒 松	46,651	42,635	28,332	29,608	37,931	38,364
将 監	35,188	29,466	18,155	18,188	30,556	35,745
加 茂	49,055	45,268	27,334	27,993	35,345	33,520
高 森	33,253	31,591	22,710	17,568	12,278	4,940
松 陵	28,198	24,289	17,299	16,181	22,693	16,000
寺 岡	32,993	31,105	22,434	23,647	30,718	33,101
長 命 ケ 丘	38,381	36,202	23,104	23,394	30,224	29,904
松 森	30,656	27,329	15,483	16,028	23,480	24,677
桂	53,760	49,162	31,610	32,228	42,203	47,401
南 中 山	41,381	34,623	23,598	14,518	7,499	29,129
計	498,695	455,802	296,001	283,116	361,187	393,157

(単位:人)

	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度
合 計	2,950,236	2,640,142	1,666,928	1,596,920	2,103,436	2,331,232

- ◆利用者数には、不特定多数の人が来館する催事の参加者は含まない。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次の期間は全館とも利用自粛を要請した。
令和2年4月11日から5月31日まで、令和3年3月27日から5月11日まで

6 仙台市市民センター条例・施行規則

仙台市市民センター条例

平成二年三月一六日

仙台市条例第八号

(設置)

第一条 市民相互の交流と地域活動の振興に資するとともに、市民の文化の向上及び福祉の増進に寄与するため、社会教育法（昭和二十四年法律第二百七号）第二十四条の規定に基づき、市民センター（以下「センター」という。）を設置する。

2 センターの種類は、次のとおりとする。

一 生涯学習支援センター（本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全てのセンターを統括するセンターをいう。）

二 区中央市民センター（その所在する区の区域内を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援するセンターをいう。）

三 地区市民センター（前二号に掲げるセンター以外のセンターをいう。）

(名称及び位置)

第二条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

一 生涯学習支援センター

名称	位置
仙台市生涯学習支援センター	仙台市宮城野区榴岡四丁目1番8号

二 区中央市民センター

名称	位置
仙台市青葉区中央市民センター	仙台市青葉区一番町二丁目1番4号
仙台市宮城野区中央市民センター	仙台市宮城野区五輪二丁目12番70号
仙台市若林区中央市民センター	仙台市若林区南小泉一丁目1番1号、保春院前丁3番地の1
仙台市太白区中央市民センター	仙台市太白区長町五丁目3番2号
仙台市泉区中央市民センター	仙台市泉区市名坂字東裏53番地の1

三 地区市民センター

名称	位置
仙台市柏木市民センター	仙台市青葉区柏木三丁目3番1号
仙台市北山市民センター	仙台市青葉区新坂町8番4号

仙台市福沢市民センター	仙台市青葉区福沢町9番9号
仙台市旭ヶ丘市民センター	仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目25番15号
仙台市三本松市民センター	仙台市青葉区堤町三丁目23番1号
仙台市片平市民センター	仙台市青葉区米ヶ袋一丁目1番35号
仙台市水の森市民センター	仙台市青葉区水の森四丁目1番1号
仙台市貝ヶ森市民センター	仙台市青葉区貝ヶ森一丁目4番6号
仙台市中山市民センター	仙台市青葉区中山三丁目13番1号
仙台市折立市民センター	仙台市青葉区折立三丁目20番1号
仙台市木町通市民センター	仙台市青葉区木町通一丁目7番36号
仙台市広瀬市民センター	仙台市青葉区下愛子字観音堂5番地
仙台市宮城西市民センター	仙台市青葉区熊ヶ根字石積47番地
仙台市大沢市民センター	仙台市青葉区芋沢字要害65番地
仙台市落合市民センター	仙台市青葉区落合二丁目15番15号
仙台市吉成市民センター	仙台市青葉区国見ヶ丘二丁目2番地の1
仙台市高砂市民センター	仙台市宮城野区高砂一丁目24番地の9
仙台市岩切市民センター	仙台市宮城野区岩切字三所南88番地の2
仙台市鶴ヶ谷市民センター	仙台市宮城野区鶴ヶ谷二丁目1番地の7
仙台市榴ヶ岡市民センター	仙台市宮城野区五輪一丁目3番1号
仙台市東部市民センター	仙台市宮城野区平成一丁目3番27号
仙台市幸町市民センター	仙台市宮城野区幸町三丁目13番13号
仙台市田子市民センター	仙台市宮城野区田子二丁目4番25号
仙台市福室市民センター	仙台市宮城野区福室五丁目9番36号
仙台市七郷市民センター	仙台市若林区荒井三丁目7番地の2
仙台市荒町市民センター	仙台市若林区荒町86番地の2
仙台市六郷市民センター	仙台市若林区今泉一丁目3番19号
仙台市若林市民センター	仙台市若林区若林三丁目15番20号
仙台市沖野市民センター	仙台市若林区沖野七丁目34番43号
仙台市生出市民センター	仙台市太白区茂庭二丁目8番地の1
仙台市中田市民センター	仙台市太白区中田四丁目1番5号
仙台市西多賀市民センター	仙台市太白区西多賀三丁目6番8号
仙台市八本松市民センター	仙台市太白区八本松二丁目4番20号
仙台市八木山市民センター	仙台市太白区八木山本町一丁目43番地
仙台市山田市民センター	仙台市太白区山田北前町13番1号
仙台市茂庭台市民センター	仙台市太白区茂庭台四丁目1番10号
仙台市東中田市民センター	仙台市太白区四郎丸字吹上51番地
仙台市柳生市民センター	仙台市太白区柳生七丁目20番地の7
仙台市富沢市民センター	仙台市太白区富沢南一丁目18番地の10
仙台市秋保市民センター	仙台市太白区秋保町長袋字大原44番地の1
仙台市馬場市民センター	仙台市太白区秋保町馬場字竹林45番地の1
仙台市湯元市民センター	仙台市太白区秋保町湯向2番地の20
仙台市根白石市民センター	仙台市泉区根白石字杉下前24番地
仙台市南光台市民センター	仙台市泉区南光台七丁目1番30号
仙台市黒松市民センター	仙台市泉区黒松一丁目33番40号
仙台市将監市民センター	仙台市泉区将監八丁目1番18号
仙台市加茂市民センター	仙台市泉区加茂四丁目2番地
仙台市高森市民センター	仙台市泉区高森六丁目1番地の2
仙台市松陵市民センター	仙台市泉区松陵五丁目20番地の2
仙台市寺岡市民センター	仙台市泉区寺岡二丁目14番地の4
仙台市長命ヶ丘市民センター	仙台市泉区長命ヶ丘二丁目14番地の15
仙台市松森市民センター	仙台市泉区松森字城前9番地の2
仙台市桂市民センター	仙台市泉区桂三丁目19番地の1
仙台市南中山市民センター	仙台市泉区南中山二丁目24番地の12

(使用の許可)

第三条 センターを使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

2 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしないことができる。

- 一 公の秩序を乱すおそれがあるとき
- 二 センターの管理上支障を及ぼすおそれがあるとき
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が不適当と認めるとき

(使用料)

第四条 センターの使用料は、別表に定めるとおりとする。

2 使用料は、前条第一項の許可の際、納入しなければならない。ただし、市長が必要と認めるときは、使用料を別に定める納期限までに納入させることができる。

(使用料の額の特例)

第四条の二 市長は、前条第二項ただし書の規定により使用料を別に定める納期限までに納入させる場合において、当該納期限の日以前に、第三条第一項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）につき次の各号のいずれかに該当すると認めるとき（使用料が既納の場合を除く。）は、前条第一項の規定にかかわらず、同項に規定する使用料の額の範囲内で使用料の額を定めることができる。

- 一 天災その他自己の責めによらない事由によりセンターを使用できないとき
- 二 市長が別に定める期間内にセンターの使用の取りやめを申し出たとき

(使用料の返還)

第五条 既納の使用料は、返還しない。ただし、使用者につき前条各号のいずれかに該当すると市長が認めるときは、その全部又は一部を返還することができる。

(使用料の減免)

第六条 市長は、特別の事由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(目的外使用の禁止)

第七条 使用者は、許可を受けた目的以外にセンターを使用してはならない。

(使用権の譲渡等の禁止)

第八条 使用者は、使用の権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(使用許可の取消し等)

第九条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、第三条第一項の許可を取り消し、又はセンターの使用を制限し、若しくは停止することができる。

- 一 使用者がこの条例又は使用の許可の際に付された条件に違反したとき
- 二 第三条第二項各号のいずれかに該当することとなったとき

(指定管理者)

第十条 教育委員会は、センターの管理運営上必要と認めるときは、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）にセンターの管理を行わせることができる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第十一条 前条の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合に当該指定管理者が行う業務は、次に掲げる業務とする。

- 一 第三条第一項の許可に関する業務
- 二 センターの事業として教育委員会がセンターごとに定める事業に関する業務
- 三 センターの維持管理に関する業務
- 四 前三号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

2 前項の場合における第三条及び第九条の規定の適用については、これらの規定中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

(指定管理者が行う管理の基準)

第十二条 指定管理者は、この条例及びこの条例に基づく規則

の定めるところに従い、適正にセンターの管理を行わなければならない。

(審議会)

第十三条 社会教育法第二十九条第一項の規定に基づき、本市が設置する全ての市民センターに共通の公民館運営審議会として、仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2 審議会の委員の委嘱の基準は、社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令（平成二十三年文部科学省令第四十二号）第二条に規定する基準とする。

3 審議会の委員の定数は、十七人以内とする。

4 審議会の委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前三項に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(委任)

第十四条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が定める。

附則省略

別表（第四条関係）

一 専用使用する場合

使用区分		金額	
仙台市生涯学習支援センター	会議室	一時間につき	620円
	第1セミナー室(A)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(B)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(C)	一時間につき	620円
	第2セミナー室	一時間につき	930円
	ミーティング室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	790円
	第1音楽室	一時間につき	1,000円
	第2音楽室	一時間につき	1,000円
	創作室(1)	一時間につき	790円
	創作室(2)	一時間につき	790円
	トレーニング室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市青葉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	620円
	第4会議室	一時間につき	790円
	第5会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	小ホール(1)	一時間につき	930円
	小ホール(2)	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市宮城野区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市若林区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	390円
	セミナー室(A)	一時間につき	620円
	セミナー室(B)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	和室(4)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市太白区中央市民センター	大会議室	一時間につき	930円
	中会議室	一時間につき	790円
	第1小会議室	一時間につき	620円
	第2小会議室	一時間につき	620円
	第3小会議室	一時間につき	620円
	和室(大)	一時間につき	930円
	和室(小)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市泉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	創作室	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市柏木市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市北山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	620円
	和室(4)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	730円
仙台市福沢市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	930円
	第3会議室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市旭ヶ丘市民センター	第1会議室	一時間につき	1000円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	790円
	展示ホール(1)	一時間につき	930円
	展示ホール(2)	一時間につき	730円
	小ホール	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市三本松市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
仙台市片平市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市水の森市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

市民センター	仙台市貝ヶ森	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
市民センター	仙台市中山	ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
		会議室	一時間につき	790円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
市民センター	仙台市折立	ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
		会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	390円
市民センター	仙台市木町通	ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
		第1会議室	一時間につき	930円
		第2会議室	一時間につき	390円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	390円
市民センター	仙台市広瀬	創作室	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
		会議室	一時間につき	620円
		セミナー室(A)	一時間につき	620円
		セミナー室(B)	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	620円
市民センター	仙台市宮城西	ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
		第1会議室	一時間につき	620円
		第2会議室	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	620円
		和室(2)	一時間につき	390円
市民センター	仙台市大沢	体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	790円
		和室(2)	一時間につき	390円

市民センター	仙台市落合	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
		和室(1)	一時間につき	620円
		和室(2)	一時間につき	620円
		ホール	午前	2,500円
午後	3,000円			
夜間	3,100円			
市民センター	仙台市吉成	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
		和室	一時間につき	620円
		ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
仙台市高砂市民センター	第1会議室	一時間につき	620円	
	第2会議室	一時間につき	620円	
	和室(1)	一時間につき	790円	
	和室(2)	一時間につき	390円	
	調理実習室	一時間につき	930円	
	ホール	午前	2,500円	
		午後	3,000円	
		夜間	3,100円	
仙台市岩切市民センター	講義室	一時間につき	390円	
	第1研修室	一時間につき	790円	
	第2研修室	一時間につき	790円	
	和室(1)	一時間につき	620円	
	和室(2)	一時間につき	620円	
	視聴覚室	一時間につき	730円	
	調理実習室	一時間につき	930円	
	創作室	一時間につき	390円	
	体育館	午前	2,500円	
		午後	3,000円	
夜間		3,100円		
市民センター	仙台市鶴ヶ谷	第1会議室	一時間につき	930円
		第2会議室	一時間につき	620円
		第3会議室	一時間につき	620円
		和室	一時間につき	620円
		調理実習室	一時間につき	930円
		ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
夜間	3,100円			
仙台市榴ヶ岡市民センター	ミーティングルーム(1)	一時間につき	930円	
	ミーティングルーム(2)	一時間につき	620円	
	和室(1)	一時間につき	390円	
	和室(2)	一時間につき	390円	
	体育館	午前	2,500円	
		午後	3,000円	
		夜間	3,100円	

仙台市東部市民センター	会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市幸町市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市田子市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	1000円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市福室市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市七郷市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	930円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市荒町市民センター	第1会議室	一時間につき	390円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市六郷市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
仙台市若林市民センター	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
仙台市沖野市民センター	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
仙台市生田市民センター	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	第1講義室	一時間につき	620円
	第2講義室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
仙台市中田市民センター	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	講義室	一時間につき	620円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
仙台市西多賀市民センター	和室(2)	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
	第1会議室	一時間につき	390円
仙台市西多賀市民センター	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

市民センター	仙台市八本松	会議室	一時間につき	390円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
		和室(1)	一時間につき	620円
		和室(2)	一時間につき	930円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
	仙台市八木山市民センター	会議室	一時間につき	620円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
		第1研修室	一時間につき	620円
		第2研修室	一時間につき	790円
		第3研修室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市山田	会議室	一時間につき	620円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市茂庭台	会議室	一時間につき	620円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	620円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市東中田	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
		和室(1)	一時間につき	620円
		和室(2)	一時間につき	930円
		体育館	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円
市民センター	仙台市柳生	会議室	一時間につき	930円
		会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
		和室(1)	一時間につき	930円
		和室(2)	一時間につき	390円
		ホール	午前	2,500円
			午後	3,000円
			夜間	3,100円

仙台市富沢市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市秋保市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
午後		3,000円	
夜間		3,100円	
仙台市馬場市民センター	会議室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	480円
	体育館	午前	2000円
		午後	2400円
		夜間	2,500円
仙台市湯元市民センター	会議室	一時間につき	390円
	講義室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	480円
	調理実習室	一時間につき	480円
	集会室	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市根白石市民センター	大会議室	一時間につき	930円
	小会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	930円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
夜間		3,100円	
仙台市南光台市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	620円
	第4会議室	一時間につき	930円
	和室	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
午後		3,000円	
夜間		3,100円	

仙台市黒松市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	790円
	多目的室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市将監市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	第3研修室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市加茂市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	930円
	第2研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市高森市民センター	第1研修室	一時間につき	930円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市松陵市民センター	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市寺岡市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市長命ヶ丘市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市松森市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室(大)	一時間につき	930円
	和室(小)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市桂市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市南中山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	研修室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

備考
一 使用時間は、午前九時から午後九時までとする。
二 「午前」とは午前九時から正午までを、「午後」とは午後一時から午後四時三十分までを、「夜間」とは午後五時三十分から午後九時までをいう。
三 その使用に係る時間に一時間に満たない端数があるときは、これを一時間に切り上げる。
四 一時間ごとの使用料を定めた使用区分において、第一号の使用時間以外の時間に使用する場合における使用料は、この表に定める額とする。
五 前号の使用区分以外使用区分において、次のイからハまでに掲げる使用時間に係る使用料は、それぞれイからハまでに掲げる額とする。
イ 午前九時から午後四時三十分まで 午前の項及び午後の項に定める額の合計額
ロ 午後一時から午後九時まで 午後の項及び夜間の項に定める額の合計額
ハ 午前九時から午後九時まで 午前の項、午後の項及び夜間の項に定める額の合計額

- 六 前号の使用区分において、第一号に定める使用時間以外の時間に使用する場合（前号の場合を除く。）における使用料は、午後の項に定める額を時間割りして計算した額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。
- 七 使用者が対価の支払を受けて展示会その他の催しを行う場合その他これに類する場合の使用料は、この表に定める額の三倍以内において市長が定める。
- 八 会議室兼調理実習室を会議のために区分して使用する場合の使用料は、この表に定める額に〇・七を乗じて得た額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。

二 個人使用する場合

使用区分		金額
体育館・ホール・仙台市生涯学習支援センター及び仙台市北山市民センターのトレーニング室	一般	一回につき 240円
	小学生・	一回につき 120円
	中学生	
仙台市寺岡市民センターのトレーニング室		一回につき 240円

仙台市市民センター条例施行規則

平成二年三月二九日

仙台市教育委員会規則第五号

(趣旨)

第一条 この規則は、仙台市市民センター条例（平成二年仙台市条例第八号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用時間)

第二条 市民センター（以下「センター」という。）の施設の使用時間は、午前九時から午後九時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が必要と認めるときは、同項に規定するセンターの施設の使用時間を変更することができる。

(休館日)

第三条 センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更し、又は休館することができる。

一 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる日を除く。）

二 休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たる日を除く。）

三 十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に掲げる日を除く。）

(使用許可の手続)

第四条 条例第三条第一項の許可（以下「使用許可」という。）を受けようとする者は、使用申込書及び教育委員会が必要と認める書類（次項において「使用申込書等」という。）を教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の規定による使用申込書等の提出は、次に定めるところにより行わなければならない。ただし、教育委員会が特に必要と認める場合は、この限りでない。

一 センターの施設を専用使用しようとする場合には、使用しようとする日（以下「使用日」という。）の属する月

の二月前の月の十日から使用日までの期間内に行うこと

二 センターの施設を個人使用しようとする場合には、使用日に行うこと

3 教育委員会は、使用許可をしたときは、使用承認書を交付するものとする。

4 センターの施設の使用許可に係る手続（センターの施設を個人使用しようとする場合及び次条第二項に規定する場合の使用許可に係る手続を除く。）については、前三項の規定にかかわらず、市民利用施設予約システム（仙台市民利用施設予約システムの運用及び利用者登録等に関する規則（平成十五年仙台市規則第八十七号）第二条第二号に規定するものをいう。）を利用する方法により行うことができる。

第四条の二 条例第三条第二項第三号に規定する教育委員会が不適当と認めるときは、次の各号に掲げる場合とする。

一 センターの施設において物品又は権利の販売又は宣伝（次項において「物品販売等」という。）を行おうとする場合

二 その他センターの設置目的に照らして教育委員会が不適当と認める場合

2 教育委員会は、前項第一号の規定にかかわらず、センターの設置目的に照らして適当と認める場合は、センターの施設において物品販売等を行おうとする者に対し、使用許可をすることができる。この場合において、物品販売等を行おうとする者は、教育委員会が必要と認める書類を教育委員会に提出しなければならない。

(市長が必要と認めるときの使用料の納期限)

第五条 条例第四条第二項ただし書に規定する市長が必要と認めるときは、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書に規定する別に定める納期限は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日とする。

一 使用料を口座振替の方法により納入する場合 使用許可を受けた日の属する月の翌月末日

二 区長が特別な事由があると認める場合 区長が定める日（市長が必要と認めるときの使用料の額の特例）

第六条 使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が条例第四条の二第一号に該当する場合において、同条の規定により市長が定める使用料の額は、零とする。

2 条例第四条の二第二号に規定する市長が別に定める期間は、次の各号に掲げる期間とし、同条の規定により市長が定める使用料の額は、前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる期間の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

一 使用許可を受けた日から使用日の七日前の日までの期間
零

二 使用日の七日前の日の翌日から使用日までの期間 条例第四条第一項の規定による使用料（条例第六条の規定により使用料を減免した場合にあっては、当該減免後の使用料）の額

3 使用者が前条の納期限までに使用料を納入せず、かつ、センターの施設を使用する意思があると認められないときは、当該納期限の日において使用の取りやめの申出がなされたものとみなし、前項の規定を準用する。

（使用料の返還）

第七条 使用者が条例第四条の二第一号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、既納の使用料の全額とする。

2 使用者が条例第四条の二第二号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、前条第二項第一号に掲げる期間においては、既納の使用料の全額とする。

3 使用料の返還を受けようとする者は、還付請求書を区長に提出しなければならない。ただし、区長が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

（指定管理者に管理を行わせる場合における規定の適用）

第八条 条例第十条の規定により指定管理者（地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。）にセンターの管理を

行わせる場合における第四条の規定の適用については、同条中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

（審議会）

第九条 仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）

は、次に掲げる事務を所掌する。

- 一 生涯学習支援センター長から諮問のあったことについて、審議すること
- 二 センターにおける各種の事業について、調査研究すること
- 三 センターにおける各種の事業について、評価すること
- 四 その他審議会が必要と認める事項について、審議等を行うこと

2 審議会に会長及び副会長一人を置く。

3 会長及び副会長は、それぞれ委員が互選する。

4 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

第十条 会長は、審議会の会議を招集し、その議長となる。

2 審議会の会議は、二月ごとに一回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時に開くことができる。

3 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 審議会の会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十一条 審議会の庶務は、生涯学習支援センターにおいて処理する。

第十二条 前三条に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

（実施細目）

第十三条 この規則の実施細目は、教育長が定める。

附則省略

**令和５年度
仙台市市民センター事業概要**

令和６年９月 発行

編集・発行 仙台市教育局生涯学習支援センター
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡四丁目１番８号
(パルシティ仙台ビル内)
電話 022 (292) 4875
FAX 022 (295) 0810

